

現場説明書

- 1 工事（委託）名 御所市消防団第8分団消防車庫改築 工事
- 2 工事（委託）番号 地協安 第 1 号
- 3 工事（委託）場所 御所市 名柄 地内
- 4 現場説明書返却について ダウンロードによる（返却不要）
- 5 現場説明書記載項目
 - 第1章 概要
 - 第2章 入札に関する注意事項
 - 第3章 特記事項
 - ・ 入札条件書
 - ・ 特記仕様書
 - ・ その他
- 6 仕様書
- 7 位置図

御 所 市 役 所

第1章 概 要

1 工事（委託）名	御所市消防団第8分団消防車庫改築	工事
2 工事（委託）番号	地協安 第 1 号	
3 工事（委託）場所	御所市 名柄 地内	
4 工事（委託）概要	建物概要：鉄鋼造2階建 消防団詰所及び車庫 建築面積：64.38㎡ 延床面積：121.36㎡ 工事種目：建築工事（屋外付帯工事含む） 電気設備工事・機械設備工事・浄化槽設備工事 ホース乾燥柱設置工事・モーターサイレン柱設置工事 既設建物解体工事・発生材処分	
5 竣工（履行）期日	令和3年9月30日	
6 発注担当課	地域協働安全課	

第2章 入札に関する注意事項

1 現場説明書等（仕様書、設計図面等）に対する質問の応答

質問が有る場合は、管財課入札係窓口へ質問書を持参により提出してください。
（質問が無い場合は、質問書の提出は必要ありません。）

質問書提出期限 令和 3 年 4 月 9 日 11 : 00 までに提出してください。
提出場所 御所市役所 企画政策部 管財課 （新館2階）

2 入札書に記載する価格は、消費税に係る課税事業者であるか免税事業者であるかを問わず、見積もった契約希望金額の110分の100に相当する合計金額を入札書に記載してください。

（消費税及び地方消費税を含まない価格）

入札手続きに対する問い合わせは、管財課入札係にお問い合わせください。

3 回答方法 （令和 3 年 4 月 13 日 17 : 00 までに送信）

回答文書をFAXにより当該質問者に送信いたします。

但し、公平性に支障を来す場合等、質問内容によっては、入札参加者全員に回答します。

該当する者は受信出来ましたら、回答文書が無事届いたかを確認したいので、早急に市役所管財課へ返信FAXをお願いします。

4 現場説明書等の交付について

御所市ホームページからダウンロードにより提供

5 建設業退職金共済制度の掛け金

落札者は、契約の締結に際しては中小企業退職金共済法の基づく建設業退職金共済制度の掛け金を建設業退職金機構の奈良県支部に納入し、機構発行の掛け金収納書を提出して下さい。
（ 機構奈良県支部 ： 奈良市高天町5－1 奈良県建設会館内 TEL 0742-22-3345 ）

第3章 特記事項

1 総論

本工事の契約書、設計図書（仕様書、図面、現場説明書及び現場説明に対する質問回答書）を十分に理解し、関連法規・条例等を遵守して、安全に着手・竣工してください。

2 適用範囲

施工条件の適用については、以下の3に記載したものを適用します。

3 施工条件

(1) 一般事項

- ※ 本工事の施工は、監督員の指示した書類を作成し、承諾を受けたうえで着手してください。
- ※ 原則として、工事着手前に本工事の全ての下請け業者について、書類により監督員に届け出てください。
- ※ 本工事は特記仕様書記載の適用基準等に基づき施工してください。

- ※ 本工事は奈良県土木部編集「土木部建築工事監督及び検査必携」を適用します。
- ※ 工事関係官公署その他関係機関への必要な届出手続き等は、全て請負者が行ってください。手続きに必要な費用は請負者の負担とします。
- ※ 建設工事公衆災害防止対策要綱（建設省建設経済局）を遵守し、工事を行ってください。
- ※ 本工事に示す内容その他に疑義が生じた場合は、入札前においては第2章「入札注意事項」1「設計図書等に対する質問の応答」によるものとし、契約後においては、監督職員と協議のうえ決定し、施工するものとします。また、現場の納まり、取り合い、明示無き事項及び設計図書と現場の不一致等で生じた変更については、監督職員の指示によるものとします。

(2) 施工日・施工時間帯

- ※ 原則として、土曜日・日曜日・及び祝日の現場における工事は休みとし、施工時間は8時30分から17時30分とします。ただし、現場の状況等による場合、施設管理者等の協議・許可条件等により、変更する場合があります。

(3) 環境対策

- ※ 「奈良県における「建設リサイクル」の実施に関する指針」に基づき、建設資材のリサイクルに努めて下さい。
- ※ 「公共事業に関する環境配慮指針（奈良県）」に基づき、環境負荷低減に努めて下さい。
- ※ 騒音・振動・排水等は、奈良県環境保全関係条例・その他の規程に従って十分な養生及び防止対策を講じてください。万一、第三者に損害等が生じた場合は、請負者にて処理、解決してください。なお、これらに要する費用は、請負者の負担とします。

(4) 特定建設資材の再資源化

- ※ 特定建設資材とは、建設工事に係る資材の再資源化に関する法律（以下「建設リサイクル法」という。）に定める特定建設資材（コンクリート（鉄筋コンクリートを含む）塊、アスファルトコンクリート塊、木材）をいいます。
- ※ 本工事において発生する特定建設資材廃棄物については、建設リサイクル法、廃棄物の処理及び清掃に関する法律等関係法令を遵守し、適正に再資源化を処理をしてください。
- ※ 建設リサイクル法第9条を遵守し、同法施行規則第2条に定める「分別解体等に係る施工方法に関する基準」により適切な施工をしてください。
- ※ 本工事において発生した特定建設資材廃棄物については、県内の再資源化処理施設において処理してください。（請負者の責めに帰さない理由で、これによることが出来ない場

合は監督職員と協議の上、その指示によるものとします。

※ その他

- ① 再資源化施設の選定に当たっては、廃棄物の処理及び清掃に関する法律に基づく許可を受けた処理施設とし、許可内容・有効期限等を確認のうえ事前に監督職員の承諾を受けて下さい。
- ② 自ら搬出する場合は産業廃棄物運搬車の表示板等を掲げ明示して下さい。また、運搬を委託する場合は産業廃棄物収集運搬業の許可を受けた業者とし、事前に監督職員の承諾を受けて下さい。
- ③ 産業廃棄物管理票（マニフェスト）は、廃棄物の処理及び清掃に関する法律遵守し厳正に管理してください。
- ④ 特定建設資材搬出の際は運搬車両の過積載防止の徹底を図ってください。

(5) 県（市）内業者・県（市）内産建設資材の活用

※ 下請契約を締結する場合には、当該契約の相手を「県（市）内に主たる営業所」を有するものの中から選定するよう努めてください。

※ 地場産業の活性化を図るため、建設資材・物品調達については県（市）産品の使用をより一層努めてください。

県（市）産品とは次の①から⑤に示すものとします。

- ① 県（市）内の工場で製造された資材・製品
- ② 奈良県及び県内市町村、産業支援団体等の公的機関の補助を受けて開発された資材・製品
- ③ 県（市）内企業が開発し、県（市）外の工場で製造された資材・製品
- ④ 二次製品において、材料が県（市）外製品であっても、県（市）内の工場等で製造・加工されたもの（材料が県（市）内産品で、県外の工場等で製造・加工されたものは除く）
- ⑤ 奈良県リサイクル認定製品

(6) 安全対策

※ 工事期間中、付近の構築物・道路・地下埋設物等に損傷を与えないよう万全の処置を行ってください。万一破損を生じた場合は、原形に復してください。

※ 工事着手前に、警察、その他関係機関、地元自治会、及び監督職員等と十分打ち合わせのうえ、安全管理を行ってください。

(7) 工事用道路・車両

※ 工事期間中道路面には、一切車両を駐車しないようにすると共に工事関係車両の出入りには必ず誘導員を立てて交通渋滞や市民などへの災害に留意してください。

※ 工事関係車両タイヤ等で場内土を持ち出し、道路等を汚さないでください。また、汚した場合には、速やかに清掃を行ってください。

※ ダンプトラック等、過積載防止対策を行ってください。

(8) 仮設

※ 仕様書に該当項目があれば、適正に処理してください。

(9) 発生材・建設発生土の処理

※ 仕様書に該当項目があれば、適正に処理してください。

(10) その他

- コンクリート工事の施工に当たり、奈良県土木部、技第81号（令和19年8月15日）
「適正なコンクリート工事実施に関わる請負業者の遵守事項」に従って施工してください。

第3章 特記事項

1 総論

本工事の契約書、設計図書（仕様書、図面、現場説明書及び現場説明に対する質問回答書）を十分に理解し、関連法規・条例等を遵守して、安全に着手・竣工してください。

2 適用範囲

施工条件の適用については、以下の3に記載したものを適用します。

3 施工条件

(1) 一般事項

- ※ 本工事の施工は、監督員の指示した書類を作成し、承諾を受けたうえで着手してください。
- ※ 原則として、工事着手前に本工事の全ての下請け業者について、書類により監督員に届け出てください。
- ※ 本工事は特記仕様書記載の適用基準等に基づき施工してください。

- ※ 本工事は奈良県土木部編集「土木部建築工事監督及び検査必携」を適用します。
- ※ 工事関係官公署その他関係機関への必要な届出手続き等は、全て請負者が行ってください。手続きに必要な費用は請負者の負担とします。
- ※ 建設工事公衆災害防止対策要綱（建設省建設経済局）を遵守し、工事を行ってください。
- ※ 本工事に示す内容その他に疑義が生じた場合は、入札前においては第2章「入札注意事項」1「設計図書等に対する質問の応答」によるものとし、契約後においては、監督職員と協議のうえ決定し、施工するものとします。また、現場の納まり、取り合い、明示無き事項及び設計図書と現場の不一致等で生じた変更については、監督職員の指示によるものとします。

(2) 施工日・施工時間帯

- ※ 原則として、土曜日・日曜日・及び祝日の現場における工事は休みとし、施工時間は8時30分から17時30分とします。ただし、現場の状況等による場合、施設管理者等の協議・許可条件等により、変更する場合があります。

(3) 環境対策

- ※ 「奈良県における「建設リサイクル」の実施に関する指針」に基づき、建設資材のリサイクルに努めて下さい。
- ※ 「公共事業に関する環境配慮指針（奈良県）」に基づき、環境負荷低減に努めて下さい。
- ※ 騒音・振動・排水等は、奈良県環境保全関係条例・その他の規程に従って十分な養生及び防止対策を講じてください。万一、第三者に損害等が生じた場合は、請負者にて処理、解決してください。なお、これらに要する費用は、請負者の負担とします。

(4) 特定建設資材の再資源化

- ※ 特定建設資材とは、建設工事に係る資材の再資源化に関する法律（以下「建設リサイクル法」という。）に定める特定建設資材（コンクリート（鉄筋コンクリートを含む）塊、アスファルトコンクリート塊、木材）をいいます。
- ※ 本工事において発生する特定建設資材廃棄物については、建設リサイクル法、廃棄物の処理及び清掃に関する法律等関係法令を遵守し、適正に再資源化を処理をしてください。
- ※ 建設リサイクル法第9条を遵守し、同法施行規則第2条に定める「分別解体等に係る施工方法に関する基準」により適切な施工をしてください。
- ※ 本工事において発生した特定建設資材廃棄物については、県内の再資源化処理施設において処理してください。（請負者の責めに帰さない理由で、これによることが出来ない場

合は監督職員と協議の上、その指示によるものとします。

※ その他

- ① 再資源化施設の選定に当たっては、廃棄物の処理及び清掃に関する法律に基づく許可を受けた処理施設とし、許可内容・有効期限等を確認のうえ事前に監督職員の承諾を受けて下さい。
- ② 自ら搬出する場合は産業廃棄物運搬車の表示板等を掲げ明示して下さい。また、運搬を委託する場合は産業廃棄物収集運搬業の許可を受けた業者とし、事前に監督職員の承諾を受けて下さい。
- ③ 産業廃棄物管理票（マニフェスト）は、廃棄物の処理及び清掃に関する法律遵守し厳正に管理してください。
- ④ 特定建設資材搬出の際は運搬車両の過積載防止の徹底を図ってください。

(5) 県（市）内業者・県（市）内産建設資材の活用

※ 下請契約を締結する場合には、当該契約の相手を「県（市）内に主たる営業所」を有するものの中から選定するよう努めてください。

※ 地場産業の活性化を図るため、建設資材・物品調達については県（市）産品の使用をより一層努めてください。

県（市）産品とは次の①から⑤に示すものとします。

- ① 県（市）内の工場で製造された資材・製品
- ② 奈良県及び県内市町村、産業支援団体等の公的機関の補助を受けて開発された資材・製品
- ③ 県（市）内企業が開発し、県（市）外の工場で製造された資材・製品
- ④ 二次製品において、材料が県（市）外製品であっても、県（市）内の工場等で製造・加工されたもの（材料が県（市）内産品で、県外の工場等で製造・加工されたものは除く）
- ⑤ 奈良県リサイクル認定製品

(6) 安全対策

※ 工事期間中、付近の構築物・道路・地下埋設物等に損傷を与えないよう万全の処置を行ってください。万一破損を生じた場合は、原形に復してください。

※ 工事着手前に、警察、その他関係機関、地元自治会、及び監督職員等と十分打ち合わせのうえ、安全管理を行ってください。

(7) 工事用道路・車両

※ 工事期間中道路面には、一切車両を駐車しないようにすると共に工事関係車両の出入りには必ず誘導員を立てて交通渋滞や市民などへの災害に留意してください。

※ 工事関係車両タイヤ等で場内土を持ち出し、道路等を汚さないでください。また、汚した場合には、速やかに清掃を行ってください。

※ ダンプトラック等、過積載防止対策を行ってください。

(8) 仮設

※ 仕様書に該当項目があれば、適正に処理してください。

(9) 発生材・建設発生土の処理

※ 仕様書に該当項目があれば、適正に処理してください。

(10) その他

- コンクリート工事の施工に当たり、奈良県土木部、技第81号（令和19年8月15日）
「適正なコンクリート工事実施に関わる請負業者の遵守事項」に従って施工してください。

入札条件書

工事番号	地協安 第 1 号
工事名	御所市消防団第8分団消防車庫改築 工事
工事箇所	御所市 名柄 地内
履行期間	契約日翌日（土日、祝日除く）から、 令和3年9月30日
担当課	地域協働安全課

上記の工事（委託）の入札について、下記の条件により実施いたします。

- 1 共通事項 当該入札は、地方自治法（昭和22年法律第67号）、地方自治法施行令（昭和22年政令第16号）、御所市契約規則（昭和39年10月20日規則第18号）その他法令、規則などにに基づき執行いたします。

- 2 当該入札に関する条件

入札方法	郵便	予定価格	62,491,000 円(税込み)
再度入札	なし	入札書比較価格	56,810,000 円(税抜き)
前払金請求	請負額が300万円を上回った場合可	最低制限基準価格	47,009,600 円(税込み)
		最低制限基準比較価格	42,736,000 円(税抜き)
議会の議決	不要	各年度における支払予定額の割合	令和 / 年度 / %
			令和 / 年度 / %
			令和 / 年度 / %

- 3 入札辞退 入札を辞退するときは、事前に辞退届の提出が必要となります。
- 4 入札中止 入札手続執行途中で入札に競争性が無くなった場合は、その段階で入札手続き又は入札を中止します。

契約時必要事項（落札者決定後、記入）

落札者名	
契約額	円（うち消費税相当額 円）
契約日	令和 年 月 日
着工（着手）日	令和 年 月 日
建設業退職金共済掛金証紙	要 ・ 不要 （請負額が100万円を上回った日分 場合必要）
解体工事に要する費用（別紙1）	要 ・ 不要 （請負額が500万円を上回った場合必要）
再生資源利用（促進）計画書、及び実施書	要 ・ 不要 （請負額が100万円を上回った場合必要）（契約後、担当課へ提出）
その他	・ 契約は落札日から8日以内（落札日を含む。土日祝日も含む。）に締結しなければなりません。

御所市役所


特 記 仕 様 書

1. 工期については、契約日の翌日より令和3年9月30日までです。
2. 工事場所は小学校及び学童保育所と隣接しており、また、接道は狭小であるため、児童の登下校時などにおいては、原則、工事車両の進入を禁止することとし、児童、職員及び来訪者の安全確保を最優先すること。
3. 資材搬入時など大型車両が進入する際は、事故や渋滞を起こさないよう交通誘導員などを配置すること。
4. 工事施工にあたり、小学校、学童保育所の行事及び他の工事等のスケジュールを事前に施設管理者及び監督員に確認のうえ工程表を作成し、支障なく施設運営できるよう工程管理を行うこと。
5. 授業等に支障となる施工については、施設管理者と協議のうえ施設の休日に実施することとし、工程調整を行うこと。
6. 騒音、振動、粉塵等の周辺環境に影響しないよう、常にその保全に努め、環境対策を考慮し、施工管理を行うこと。
7. その他の協議事項については、適宜施設管理者及び監督職員と協議すること。

御所市消防団第 8 分団消防車庫改築工事 設計図

設計 株式会社 中和設計

図面番号	図面名称	SCALE	図面番号	図面名称	SCALE	図面番号	図面名称	SCALE
A - 01	図面リスト	—	A - 41	各階伏図【既設解体撤去図】	1/100・1/20	E - 01	電気設備工事 特記仕様書（1）	—
A - 02	建築工事 特記仕様書（1）	—	A - 42	軸組図【既設解体撤去図】	1/100	E - 02	電気設備工事 特記仕様書（2）	—
A - 03	建築工事 特記仕様書（2）	—	A - 43	火の見櫓 平面・立面図【既設解体撤去図】	1/50	E - 03	電気設備 配置図	1/200
A - 04	建築工事 特記仕様書（3）	—	A - 44	外構図【既設解体撤去図】	1/200	E - 04	盤結線図	—
A - 05	建築工事 特記仕様書（4）	—	A - 45	名柄小学校改修図	1/100	E - 05	照明器具姿図	—
A - 06	建築工事 特記仕様書（5）	—				E - 06	幹線・動力・弱電設備 1階平面詳細図	1/50
A - 07	建築工事 特記仕様書（6）	—				E - 07	幹線・動力・弱電設備 2階平面詳細図	1/50
A - 08	建築工事 特記仕様書（7）	—				E - 08	電灯・コンセント設備 1階 平面詳細図	1/50
A - 09	建築工事 特記仕様書（8）	—				E - 09	電灯・コンセント設備 2階 平面詳細図	1/50
A - 10	解体工事 特記仕様書	—				E - 10	雷保護設備 消防ホース乾燥柱 詳細図	1/50
A - 11	付近見取り図	1/2,500				E - 11	電気設備 撤去平面図	1/50
A - 12	共通仮設図（参考図）	1/200						
A - 13	配置図	1/200						
A - 14	敷地求積図	1/200						
A - 15	仕上表	—						
A - 16	各階平面図・屋根伏図	1/100						
A - 17	立面図・断面図	1/100						
A - 18	断面詳細図	1/50						
A - 19	階段室 断面詳細図	1/30						
A - 20	1階 平面詳細図	1/50						
A - 21	2階 平面詳細図	1/50	S - 01	構造特記仕様書	—	M - 01	機械設備 特記仕様書（1）	—
A - 22	展開図（1）	1/50	S - 02	鉄筋コンクリート構造配筋標準図（1）	—	M - 02	機械設備 特記仕様書（2）	—
A - 23	展開図（2）	1/50	S - 03	鉄筋コンクリート構造配筋標準図（2）	—	M - 03	機械設備 特記仕様書（3）	—
A - 24	展開図（3）	1/50	S - 04	鉄骨工作標準図（1）	—	M - 04	機械設備 特記仕様書（4）	—
A - 25	展開図（4）	1/50	S - 05	鉄骨工作標準図（2）	—	M - 05	機械設備 特記仕様書（5）	—
A - 26	展開図（5）	1/50	S - 06	ISベース標準図	—	M - 06	衛生設備 配置図（改修後）	1/100
A - 27	天井伏図	1/100	S - 07	QLデッキ合成スラブ設計・施工標準図	—	M - 07	衛生設備 器具表	—
A - 28	建具キープラン図	1/100	S - 08	深層混合処理工法（ウルトラコラム工法）特記仕様書	—	M - 08	衛生設備 1階平面詳細図	1/50
A - 29	建具表（1）	1/100	S - 09	土質柱状図	—	M - 09	衛生設備 2階平面詳細図	1/50
A - 30	建具表（2）	1/100	S - 10	基礎・1階伏図	1/50	M - 10	衛生設備 配置図（現況・撤去）	1/100
A - 31	部分詳細図	図示	S - 11	2階・R階伏図	1/50	M - 11	空調・換気設備 機器表	—
A - 32	消防ホース乾燥柱 詳細図	1/50	S - 12	軸組図（1）	1/50	M - 12	空調・換気設備 1階平面詳細図	1/50
A - 33	モーターサイレン設置柱 詳細図		S - 13	軸組図（2）	1/50	M - 13	空調・換気設備 2階平面詳細図	1/50
A - 34	外構図	1/200	S - 14	軸組図（3）	1/50	M - 14	合併処理浄化槽 詳細図	1/30
A - 35	外構詳細図	図示	S - 15	基礎・基礎梁・基礎小梁リスト	1/30			
A - 36	配置図【既設解体撤去図】	1/200	S - 16	部材リスト	1/30			
A - 37	仕上表・平面図・立面図【既設解体撤去図】	1/50・1/100	S - 17	継手リスト・雑詳細図	1/30			
A - 38	断面詳細図・天井伏図【既設解体撤去図】	1/30・1/100	S - 18	鉄骨詳細図	1/50			
A - 39	展開図【既設解体撤去図】	1/50						
A - 40	建具表【既設解体撤去図】	1/100・1/50						

				工事名		御所市消防団第8分団消防車庫改築工事				設計図		図面番号		A - 01			
				図名		図面リスト		縮尺		—		作成日		年 月 日		確認印	
												変更日 (最終)		年 月 日			
						総合企画、建築設計、監理		株式会社		中和設計		一級建築士事務所		奈良県知事登録 2020（ハ）第1421号			
														一級建築士№174531号		中谷芳一	

章	項目	特記事項	⑨ 梁の配筋	大梁主筋の継手、定着及び余長 ○各部配筋参考図3.1による ハンチのある場合のハンチ部分の傾斜（ ） ・図示 あばら筋（小梁、片持ち梁、基礎梁含む）の組立の形及び割付け等 ○各部配筋参考図3.2による あばら筋組立の形（ ） ・図示 梁の打増し補強 ○各部配筋参考図3.3による 軸方向の補強筋本数（ ） 打増し幅（ ） ・図示 小梁主筋の継手、定着及び余長 ○各部配筋参考図3.4による 片持ち梁主筋の継手、定着及び余長 ・各部配筋参考図3.5による ・図示	② レディーミックス コンクリートの種類 ③ スランプ	④ セメント	⑤ 骨材	⑥ 混和材料	7 軽量コンクリート	8 寒中コンクリート	9 マスコンクリート	10 無筋コンクリート	11 流動化コンクリート	12 打継ぎの位置、 打継ぎ目地及び ひび割れ誘発目地	⑬ 暑中コンクリート	⑭ 構造体コンクリートの 仕上り	⑮ せき板の材料	
	⑥ 砂利地業及び砂地業	砂利地業に使用する砂利 ※再生クラッシャーラン 砂地業に使用する砂 ・シルト ・有機物等の混入しない綿密めに選した山砂 ○川砂 ・砕砂 砂利及び砂地業の厚さ(mm) ※60	(4.6.2) (4.6.3)															
	⑦ 捨てコンクリート地業	厚さ(mm) ※50	(4.6.4)															
	⑧ 床下防湿層	防湿層の材料及び施工範囲 材 料 ※ポリエチレンフィルム 厚さ 0.15mm×2枚 重ね幅 縦横共250mm以上	(4.6.5)															
	⑨ 地盤改良工事	・セメント系固化材 100kg/m ³ 混入 ○ 図示（図面番号：S-06）																
5 鉄筋工事	① 鉄筋	(5.2.1) (表5.2.1) 規格 ○JIS G 3112 種別 ・SR235 ・SR295 ※SD295A ・SD295B ※SD345 ○D19 ○D22 ・D25 ・D29 ・D32 ・SD390 ・建築基準法第37条規定に基づき認定を受けたせん断補強筋																
	② 溶接金網	網目の形状寸法 150×150 鉄線の径(mm) 6 φ	(5.2.2)															
	③ 鉄筋の継手及び定着	継手 部位 柱、梁の主筋 ○ガス圧接 ・重ね継手 ・機械式 ・溶接 その他 ○重ね継手 主筋及び耐力壁が重ね継手の場合の継手長さ ※標準仕様書5.3.4(3) (7)による 隅り合う継手の位置 ※標準仕様書5.3.4(4)による ・先組み工法等で同一箇所に行ける 定着長さ ※標準仕様書5.3.4(5) (7)による 仕口内に縦に折り曲げて定着する鉄筋の定着長さしが、 表5.3.4のフックありの定着長さを確保できない場合の折曲げ定着の方法 ※標準仕様書 図5.3.3による	(5.3.4) (5.3.4) (5.3.4) (5.3.4) (5.3.4)															
	④ 鉄筋のかぶり厚さ (溶接金網を含む)	※かぶり厚さは目地底から算定する。 最小かぶり厚さ ※標準仕様書 表5.3.6による ・図示による（ ） ・耐久上不利な箇所の鉄筋のかぶり厚さは下記による。 施工箇所等 柱、梁、壁及び庇などの外気 に接する打放し面 標準仕様書表5.3.6の値に加える数字(mm) ・20 ・特殊な鉄筋継手のあき寸法(mm) （ ）	(5.3.5) (表5.3.6)															
	⑤ ｽﾌﾟﾗﾝｸ接完了後の試験	※超音波探傷試験 ○引張試験 試験方法 ※標準仕様書5.4.10(4) (b)①～⑥による	(5.4.10)															
	6 機械式継手及び 溶接継手	※機械式継手種類（ ） 「鉄筋の継手の構造方法を定める件」建設省告示第1463号 継手の工法（ ）、品質の確認方法（ ）、修正方法（ ） 直接基礎の配筋 ○各部配筋参考図1.1による 基礎の底面のdL面からの深さ及び基礎ｽﾗﾌﾞの厚さ(mm)（ ） 鉄筋の間隔(mm)又は本数（ ） 基礎の形状（ ） はかま筋の有無 ・有 ○無 ・図示 基礎接合部の補強配筋 ○各部配筋参考図1.2による 基礎梁主筋の継手、定着及び余長 ○各部配筋参考図1.3による 基礎梁のあばら筋 ○各部配筋参考図1.4による	(5.5.1) (5.6.1) (1.3)×図1.4～1.7 (1.4)×図1.8															
	⑦ 基礎及び 基礎梁の配筋	柱主筋の継手、定着及び余長 ・各部配筋参考図2.1による かぶり厚さ（ ） ・図示 帯筋組立の形及び割付け ・各部配筋参考図2.2による 帯筋組立の形（ ） 帯筋の間隔(mm)（ ） ・図示 柱の打増し補強 ・各部配筋参考図2.3による 軸方向の補強筋本数 打増し幅 ・図示	(2.1)×図2.1 (2.2)×図2.3 (2.3)×図2.4															
	8 柱の配筋	柱主筋の継手、定着及び余長 ・各部配筋参考図2.1による かぶり厚さ（ ） ・図示 帯筋組立の形及び割付け ・各部配筋参考図2.2による 帯筋組立の形（ ） 帯筋の間隔(mm)（ ） ・図示 柱の打増し補強 ・各部配筋参考図2.3による 軸方向の補強筋本数 打増し幅 ・図示	(2.1)×図2.1 (2.2)×図2.3 (2.3)×図2.4															
	9 階段の配筋	片持ちスラブ形階段の基準配筋 ・各部配筋参考図6.1による 配筋種類（ ） スラブ厚さ(mm)（ ） ・図示 二辺固定スラブ形基準配筋 ・各部配筋参考図6.2による 配筋種類（ ） スラブ厚さ(mm)（ ） ・図示 梁貫通孔の配筋 ○各部配筋参考図7.1による ・図示 梁貫通孔の補強形式 ○各部配筋参考図7.2による 配筋種類（ ） ・図示 コンクリートブロック積壁との取合い ・各部配筋参考図7.3による ・図示	(6.1)×表6.1×図6.1 (6.2)×表6.2×図6.2×図6.3 (7.1)×図7.1×図7.2 (7.2)×表7.1～7.3 (7.3)×図7.3×図7.4															
	10 壁及びその他の配筋	壁の基準配筋 ・各部配筋参考図表4.1による 配筋の種類（ ） 壁の厚さ（ ） ・図示 壁の継手及び定着 ・各部配筋参考図4.2による 壁筋の間隔（ ） ・図示 壁の交差部及び端部の配筋 ・各部配筋参考図4.3による 壁の開口部補強 ・各部配筋参考図4.4による ・A形 ・B形 ・図示 壁の打増し補強 ・各部配筋参考図4.5による 縦筋及び横筋の間隔（ ） 打増し幅（ ） ・図示 バラベットの配筋 ・各部配筋参考図4.6による 縦筋及び横筋の間隔（ ） コンクリートの厚さ(mm)（ ） ・図示 スラブの基準配筋 ○各部配筋参考図5.1による 配筋種類（ ） スラブ厚さ(mm)（ ） ・図示 スラブ筋の定着及び受け筋 ○各部配筋参考図5.2による 片持ちスラブの基準配筋 ・各部配筋参考図5.3による 配筋種類（ ） スラブ厚さ(mm)（ ） ・図示 片持ちスラブの先端に壁が付く場合の配筋 ・各部配筋参考図5.4による ・図示 スラブ開口部補強 ○各部配筋参考図5.5による ・図示 出隅部及び入隅部の補強配筋 ○各部配筋参考図5.6による 配筋種類（ ） スラブ厚さ(mm)（ ） 鉄筋の間隔(mm)又は本数（ ） ・図示 スラブの打継ぎ補強配筋等 ○各部配筋参考図5.7による ・図示 段差のあるスラブの補強配筋 ○各部配筋参考図5.8による ・図示 片持ちスラブ形階段の基準配筋 ・各部配筋参考図6.1による 配筋種類（ ） スラブ厚さ(mm)（ ） ・図示 二辺固定スラブ形基準配筋 ・各部配筋参考図6.2による 配筋種類（ ） スラブ厚さ(mm)（ ） ・図示 梁貫通孔の配筋 ○各部配筋参考図7.1による ・図示 梁貫通孔の補強形式 ○各部配筋参考図7.2による 配筋種類（ ） ・図示 コンクリートブロック積壁との取合い ・各部配筋参考図7.3による ・図示	(4.1)×表4.1×表4.2 (4.2)×図4.1 (4.3)×図4.2 (4.4)×表4.3×表4.4×図4.3 (4.5)×図4.4 (4.6)×図4.5 (5.1)×表5.1×図5.1 (5.2)×図5.2×図5.3 (5.3)×表5.2×図5.4×図5.5 (5.4)×図5.6 (5.5)×図5.7 (5.6)×図5.8×図5.9 (5.7)×図5.10×図5.11 (5.8)×図5.12 (6.1)×表6.1×図6.1 (6.2)×表6.2×図6.2×図6.3 (7.1)×図7.1×図7.2 (7.2)×表7.1～7.3 (7.3)×図7.3×図7.4															
11 壁及びその他の配筋	壁の基準配筋 ・各部配筋参考図表4.1による 配筋の種類（ ） 壁の厚さ（ ） ・図示 壁の継手及び定着 ・各部配筋参考図4.2による 壁筋の間隔（ ） ・図示 壁の交差部及び端部の配筋 ・各部配筋参考図4.3による 壁の開口部補強 ・各部配筋参考図4.4による ・A形 ・B形 ・図示 壁の打増し補強 ・各部配筋参考図4.5による 縦筋及び横筋の間隔（ ） 打増し幅（ ） ・図示 バラベットの配筋 ・各部配筋参考図4.6による 縦筋及び横筋の間隔（ ） コンクリートの厚さ(mm)（ ） ・図示 スラブの基準配筋 ○各部配筋参考図5.1による 配筋種類（ ） スラブ厚さ(mm)（ ） ・図示 スラブ筋の定着及び受け筋 ○各部配筋参考図5.2による 片持ちスラブの基準配筋 ・各部配筋参考図5.3による 配筋種類（ ） スラブ厚さ(mm)（ ） ・図示 片持ちスラブの先端に壁が付く場合の配筋 ・各部配筋参考図5.4による ・図示 スラブ開口部補強 ○各部配筋参考図5.5による ・図示 出隅部及び入隅部の補強配筋 ○各部配筋参考図5.6による 配筋種類（ ） スラブ厚さ(mm)（ ） 鉄筋の間隔(mm)又は本数（ ） ・図示 スラブの打継ぎ補強配筋等 ○各部配筋参考図5.7による ・図示 段差のあるスラブの補強配筋 ○各部配筋参考図5.8による ・図示 片持ちスラブ形階段の基準配筋 ・各部配筋参考図6.1による 配筋種類（ ） スラブ厚さ(mm)（ ） ・図示 二辺固定スラブ形基準配筋 ・各部配筋参考図6.2による 配筋種類（ ） スラブ厚さ(mm)（ ） ・図示 梁貫通孔の配筋 ○各部配筋参考図7.1による ・図示 梁貫通孔の補強形式 ○各部配筋参考図7.2による 配筋種類（ ） ・図示 コンクリートブロック積壁との取合い ・各部配筋参考図7.3による ・図示	(4.1)×表4.1×表4.2 (4.2)×図4.1 (4.3)×図4.2 (4.4)×表4.3×表4.4×図4.3 (4.5)×図4.4 (4.6)×図4.5 (5.1)×表5.1×図5.1 (5.2)×図5.2×図5.3 (5.3)×表5.2×図5.4×図5.5 (5.4)×図5.6 (5.5)×図5.7 (5.6)×図5.8×図5.9 (5.7)×図5.10×図5.11 (5.8)×図5.12 (6.1)×表6.1×図6.1 (6.2)×表6.2×図6.2×図6.3 (7.1)×図7.1×図7.2 (7.2)×表7.1～7.3 (7.3)×図7.3×図7.4																
12 階段の配筋	片持ちスラブ形階段の基準配筋 ・各部配筋参考図6.1による 配筋種類（ ） スラブ厚さ(mm)（ ） ・図示 二辺固定スラブ形基準配筋 ・各部配筋参考図6.2による 配筋種類（ ） スラブ厚さ(mm)（ ） ・図示 梁貫通孔の配筋 ○各部配筋参考図7.1による ・図示 梁貫通孔の補強形式 ○各部配筋参考図7.2による 配筋種類（ ） ・図示 コンクリートブロック積壁との取合い ・各部配筋参考図7.3による ・図示	(6.1)×表6.1×図6.1 (6.2)×表6.2×図6.2×図6.3 (7.1)×図7.1×図7.2 (7.2)×表7.1～7.3 (7.3)×図7.3×図7.4																
13 梁貫通孔及び その他の配筋	梁貫通孔の配筋 ○各部配筋参考図7.1による ・図示 梁貫通孔の補強形式 ○各部配筋参考図7.2による 配筋種類（ ） ・図示 コンクリートブロック積壁との取合い ・各部配筋参考図7.3による ・図示	(7.1)×図7.1×図7.2 (7.2)×表7.1～7.3 (7.3)×図7.3×図7.4																
14 コンクリートの種類 及び強度	○普通コンクリート 設計基準強度F _c (N/mm ²) ○ 2.1 ○ 1.8	(6.2.1) (6.2.2)																
15 鉄骨工事	・軽量コンクリート 設計基準強度F _c (N/mm ²) ・ 2.1 ・ 1.8 構造体強度補正值 ※標準仕様書6.3.2による ※Ⅰ類 ・Ⅱ類 荷重し地点におけるスランプ値 打込み箇所 基礎、基礎梁、土間スラブ 柱、梁、スラブ、壁 外構壁工作物 セメントの種類 ※普通ポルトランドセメント又は高炉セメントA種、 シリカセメントA種又はフライアッシュセメントA種 ・高炉セメントB種 適用箇所（ ） ・フライアッシュセメントB種 適用箇所（ ） ・普通エコセメント 種類及び品質 種類 ○砂利及び砂 ・砕石 ・砕砂 ・「ポロニヤ」細骨材 ・鋼スラグ細骨材 ・電気炉酸化スラグ骨材 ・再生骨材H 混和材料の種類 ○混和剤 ※標準仕様書6.3.1(4) (a)による ・混和材 ※標準仕様書6.3.1(4) (b)による ・ 混和材料の使用量 ※標準仕様書6.3.2(4)による 種類 所要気乾単位容積質量(t/m ³) 適用箇所 スランプ 1種 ※1.8～2.1 2種 ※1.4～1.8 適用箇所 図示(図面番号) 寒中コンクリートの適用期間 適用箇所 図示(図面番号) セメントの種類 ・中熱ポルトランドセメント ・低熱ポルトランドセメント ・高炉セメントB種 ・フライアッシュセメントB種 ・普通ポルトランドセメント 混和材料 ・混和剤 混和剤の種類 ※標準仕様書6.13.2(2) (7)による ・混和材 混和材の種類 ※標準仕様書6.13.2(2) (4)による スランプ(cm) ※15 コンクリートの種類 ※普通コンクリート 設計基準強度(N/mm ²) ※18 ・ ・ 適用箇所 図示(図面番号) 打継ぎの位置 ※標準仕様書6.6.4(1)による ・図示による（ ） 打継ぎ目地の寸法 標準仕様書9.7.3(a) (1)による ひび割れ誘発目地 位置 ※図示(図面番号) 形状及び寸法 ・標準仕様書9.7.3(a) (1)による 構造体強度補正值(S) ※6N/mm ² 打放し仕上げの種類 ○A種 ・B種 ・C種 コンクリート仕上りの平たんさ ○A種 ・B種 ・C種 外部に面するコンクリートの打放し仕上げ(仕上塗材、塗装等の仕上げを行う場合を含む)の打増し厚さ(mm) ○20 ※合板せき板 種類 打放し A種 B種、C種 上記以外 ・断熱材を兼用した型枠材 ※使用する 適用箇所（ ）	(6.2.1) (6.2.2) (6.2.1) (表6.2.1) (6.2.4) (表6.2.2) (6.3.1) (表6.3.1) (6.3.1) (6.3.1) (6.3.2) (6.10.1) (6.10.2) (表6.10.1) (6.2.1) (6.11.1) (6.13.1) (6.13.2) (6.13.2) (6.14.1) (6.15.1) (6.6.4) (6.6.4) (6.8.1) (6.12.2) (6.2.5) (表6.2.4) (6.2.5) (6.8.1) (6.8.2) (6.8.2)	7 鉄骨工事	① 鉄骨製作工場 鉄骨製作工場の加工能力 ・指定性能評価機関による認定を受けた工場（・Sグレード ・Hグレード以上 ○Mグレード以上 ・Rグレード以上 ・Jグレード以上） ※適用する ② 施工管理技術者 施工管理技術者の適用 ※適用する ③ 鋼材 鋼材の材質、形状、寸法及び使用箇所 ※図示（図面番号） ④ 高力ボルト 高力ボルトの種類 ○トルシア形高力ボルト(建築基準法に基づき認定を受けたもの)(S10T) ○JIS形高力ボルト(JIS B 1186) (F10T) ○溶融亜鉛めっき高力ボルト(建築基準法に基づき認定を受けたもの)(F8T相当) 高力ボルトの径 ※図示（図面番号：S-17） ⑤ 普通ボルト ボルト及びナットの材料 ※標準仕様書表7.2.3による ・ 普通ボルトの径 ※図示（図面番号） 母屋又は鋼縁の取付けに使用するボルトの孔径 ※ねじの呼び径+1.0mm ・ ⑥ アンカーボルト 構造用アンカーボルトの種類(材質はJIS B 1220) ・ 建方用アンカーボルトの種類(材質はJIS G 3101) ・ アンカーボルト及びナットのねじの種類と規格等 ※標準仕様書表7.2.3による ⑦ 溶接材料 ※標準仕様書7.2.5(a)又は(b)による ・図示(図面番号) ⑧ ターンバックル 鋼の材料 ※割断式 ボルトの種類 ※羽子板ボルト ねじの呼び ※図示（図面番号） ⑨ デッキプレートの 材質、形状及び寸法 ・デッキプレート単独の構法 ※図示(図面番号) ・デッキプレートとコンクリートとの合成スラブとする構法 ※図示(図面番号) ⑩ 柱底均しモルタル モルタルの種類 ○無収縮モルタル 無収縮モルタルの材料、調査等 ○標準仕様書7.2.9(b)1～4による ・標準仕様書7.2.9(a)によるモルタル ⑪ 工作図 高力ボルト、普通ボルト及びアンカーボルトの縁端距離、ボルト間隔、ゲージ等 ※国土交通省大臣官房官庁営繕部監修「建築鉄骨設計基準」による 12 仮組 ※実施する(部位： 13 摩擦面の性能及び 処理 高力ボルト接合における摩擦面のすべり係数試験 ・実施する 試験の実施範囲 ・溶融亜鉛めっき高力ボルト接合の摩擦面 試験の方法 ※監督職員が承諾する方法 14 技量付加試験 ・行う（ ） 15 材料準備 開先の形状等 ・ ⑬ 溶接施工 エンドタブの切断 ・行う 適用箇所 ○見え隠れ部分又は配筋上支障となる部分 ○見え掛り部分 切断範囲 ・ 低応力高サイクル疲労を受ける部位 ※図示(図面番号) 完全溶込み溶接のスカラップの形状 ※国土交通省大臣官房官庁営繕部「建築鉄骨設計基準」による	(6.8.2) (7.1.3) (7.1.3) (7.2.1) (表7.2.1) (7.2.2) (7.2.3) (表7.2.3) (7.2.3) (7.3.8) (7.2.4) (7.2.4) (表7.2.3) (7.2.5) (7.2.6) (7.2.6) (7.2.7) (7.3.2) (7.3.10) (7.4.2) (7.6.3) (7.6.4) (7.6.7) (7.6.7)													

16 建 具 工 事	章	項 目	特 記 事 項	16 建 具 工 事	⑱ ガラス	○フロート板ガラス 品 種 ・ 厚さ (mm) ○ 5 (16.14.2) ○型板ガラス (16.14.2) 厚さ (mm) ・ 2 ○4 ○6 (16.14.2) ○網入板ガラス及び線入板ガラス (16.14.2) 網又は線の形状及び板の表面の状態による種類 厚さ (mm) 網入板ガラス 網入型板 ・ ひし網入型板ガラス ○6.8 ガラス ・ 角網入型板ガラス ・ 6.8 網入磨き ・ ひし網入磨き板ガラス ・ 6.8 ・ 10 ガラス ・ 角網入磨き板ガラス ・ 6.8 線入板ガラス ・ 線入型板ガラス ・ 6.8 ・ 線入磨き板ガラス ・ 6.8 ・ 10 ・ 合わせガラス (16.14.2) 形状 特性による種類 材料板ガラスの種類、厚さ 合計厚 (mm) ・ 平面 ・ I 類 ・ II-2類 <ガラス種類(厚さ)+ガラス種類(厚さ)+…> ・ II-1類 ・ III類 ・ 曲面 ・ I 類 <ガラス種類(厚さ)+ガラス種類(厚さ)+…> ・ 強化ガラス (16.14.2) 形状による種類 材料板ガラスの種類による名称 呼び厚 (mm) 特性による種類 ・ 型板強化ガラス ※4 ・ I 類 ・ 平面強化ガラス ・ フロート強化ガラス ・ ・ 熱線反射強化ガラス ・ ・ 曲面強化ガラス ・ フロート強化ガラス ・ ・ 熱線吸収板ガラス (16.14.2) 板ガラスの種類 厚さ (mm) 性能による種類 ・ 熱線吸収フロート板ガラス ・ ・ 1種 ・ 2種 ・ 熱線吸収磨き板ガラス ・ ・ 熱線吸収網入磨き板ガラス ※6.8 ・ 熱線吸収線入磨き板ガラス ・ ・ 熱線吸収網入型板ガラス ・ 複層ガラス (16.14.2) 日射取得性、日射遮へい性による区分 材料板ガラスの種類、厚さ 厚さ (mm) 気体層の種類 ・ T1 ・ T2 ・ G <ガラス種類(厚さ)+ガラス種類(厚さ)+…> ・ 7k3ン ・ T3 ・ T4 ・ S <ガラス種類(厚さ)+ガラス種類(厚さ)+…> ・ T5 ・ T6 ・ 空気 ・ 熱線反射板ガラス (16.14.2) (16.14.4) 材料板ガラスの種類 日射遮へい性による区分 映像調整 厚さ (mm) ・ フロート板ガラス ・ 1種 ・ 行 う ・ 6 ・ 磨き板ガラス ・ 2種 ・ 行わない ・ 8 ・ 熱線吸収フロート板ガラス ・ 3種 ・ 10 ・ 熱線吸収磨き板ガラス ・ 12 ・ 平面強化ガラス ・ 倍強度ガラス (16.14.2) 材料板ガラスの種類 厚さ (mm) ・ フロート板ガラス ・ 6 ・ 8 ・ 10 ・ 12 ・ 熱線吸収フロート板ガラス ・ 6 ・ 8 ・ 10 ・ 12 ・ 磨き板ガラス ・ 6 ・ 8 ・ 10 ・ 12 ・ 熱線吸収磨き板ガラス ・ 6 ・ 8 ・ 10 ・ 12 ・ 熱線反射ガラス ・ 6 ・ 8 ・ 10 ・ 12 建具の種類 ガラス留め材 (16.14.2) アルミニウム製 ○ガasket ・ <グレイダングチャ>4形 (特見込み70mmの引違い、片引き障子の場合) ・ ○シーリング材 (SR-1) 引違い障子以外の部分に使用 ・ シーリング材 (SR-1) ・ 鋼製 ・ シーリング材 (SR-1) ・ ステンレス製 ・ シーリング材 (SR-1) ・ 板ガラスをはめ込む溝の大きさ (16.14.3) (図16.14.1) ※建具製造所の仕様による ガラスブロック (16.14.5) 表面形状 呼び寸法 (mm) 厚さ (mm) ・ 正方形 ・ 125×125 ・ 160×160 ・ 80 ・ 95 ・ 125 ・ 200×200 ・ 320×320 ・ 長方形 ・ 250×125 ・ 320×160 ・ 80 ・ 95 壁用金属枠及び補強材 ・ 図示 (図面番号) (16.14.5) 力骨 (16.14.5) 材質 寸法 (mm) 形状 ※ステンレス鋼 (SUS304) ※径5.5 ※はしご形状複筋及び単筋 ・ 化粧目地モルタルの色 (16.14.5) ・ シーリング材 (16.14.5) (表9.7.1) ※被着体に応じたものとし、標準仕様書表9.7.1を標準とする。 ・ 図示 (図面番号) 金属製化粧カバーの材質、寸法及び形状 (16.14.5) ・ 図示 (図面番号) 建築基準法に基づき定まる風圧力に対応した工法 (16.14.5) ・ 木下地の場合の壁用金属枠の取付けに用いるアンカー間隔 (16.14.5) 目地 (16.14.5) 目地幅 平積み ※8mm以上、15mm以下 ・ 曲面積み ※標準仕様書16.14.5(b) (2) (イ)②による ・	17 カー テン ウ ォ ール 工 事	1 カーテンウォールの性能 (17.1.3) (表16.2.1) 性能値 耐風圧性 ・ S-4 ・ S-5 耐温度差性 (℃) (17.1.3) (表16.2.1) ・ S-6 耐震性 水平方向 遮音性 ・ T-1 ・ T-2 ・ T-3 鉛直方向 ・ T-4 水密性 ・ W-1 ・ W-2 ・ W-3 断熱性 ・ H-1 ・ H-2 ・ H-3 ・ W-4 ・ W-5 ・ H-4 ・ H-5 気密性 ・ A-1 ・ A-2 ・ ・ A-3 ・ A-4 耐火性 (h) ・ 性能の確認方法及び判定方法 (17.1.3) ※標準仕様書17.1.3 (3) による 金属材料の種類 (17.2.2) ・ アルミニウム製 ・ 鋼製 ・ ステンレス製 見え掛かり部分の仕上げ ((17.2.3) ガラス溝の形状及び寸法等 (17.2.3) ※カーテンウォール製作所の仕様による 製品の寸法許容差 (17.2.3) (表17.2.1) ※標準仕様書表17.2.1による (アルミニウム合金鋳物を除く) ・ 躯体付け金物取付け位置の寸法許容差 (17.2.5) (表17.2.2) ※標準仕様書表17.2.2による ・ カーテンウォール部材の取付け位置の寸法許容差 (17.2.5) (表17.2.3) ※標準仕様書表17.2.3による 3 PCカーテンウォール (17.3.2) (表6.10.1) コンクリート (17.3.2) (表6.10.1) 種類 設計基準 所要スラブ 所要気乾単位 単位水量の 強度 (Fc) 容積質量 最大値 ※標準仕様書表6.10.1の1種 ※30N/mm ² ※12cm以下 ※1.9t/m ³ 以下 ※180kg/m ³ ・ 鉄筋の種類と記号 (17.3.2) ※SD295A 補強鉄線 径 (mm) ・ 3.2 ・ (17.3.2) 細目寸法 ・ ゴンドラ用ガイドレール (17.3.2) ・ 図示 (図面番号) 製品の見え掛かり部の寸法許容差 (17.3.3) (表17.3.1) ※標準仕様書表17.3.1による PCカーテンウォールの仕上げ (17.3.3) ・ タイル ・ 天然石 アンカー溝の寸法及び寸法許容差 (17.3.3) ・ 図示 (図面番号) 鉄筋の配筋 (17.3.4) 配筋 ※標準仕様書17.3.4(2) (7) による 躯体付け金物取付け位置の寸法許容差 (17.3.5) (表17.3.1) ※標準仕様書表17.3.1による カーテンウォール部材の取付け位置の寸法許容差 (17.3.5) (表17.3.2) ※標準仕様書表17.3.2による 4 シーリング材 (17.2.2) (17.3.2) (表9.7.1) ※被着体に応じたものとし、標準仕様書表9.7.1を標準とする ・ 図示 (図面番号) 5 ガラス取付材料 (17.2.2) (17.3.2) (表9.7.1) シーリング材 (17.2.2) (17.3.2) (表9.7.1) 種類 ※被着体に応じたものとし、標準仕様書表9.7.1を標準とする ・ 図示 (図面番号) 構造ガasket (17.2.2) (17.2.6) (17.3.2) (17.3.6) 材質、形状及び寸法 ・ 図示 (図面番号) ガラスの取付方法 ・ 図示 (図面番号) (17.2.2) (17.3.2) 工法 種類 厚さ (mm) 施工場所 ・ 現場発泡工法 ・ ・ 6 断熱材 (17.2.2) (17.3.2) (表9.7.1) ※断熱材に用いる防火設備等の構造方法を定める件」 (昭和48年12月28日建設省告示第2563号) に定める基準に適合するもの ※障害物感知装置 (自動閉鎖型) ・ 可動座板式 シャッターケース ・ 設ける (16.11.2) スラット及びシャッターケース用鋼板 (16.11.3) ・ JIS G 3302 (溶融亜鉛めっき鋼板及び鋼帯) ・ JIS G 3312 (塗装溶融亜鉛めっき鋼板及び鋼帯) めっき付着量 ※Z12又はF12 ガイドレール等のステンレス鋼板 ※SUS304、SUS430J1L、SUS430、SUS443J1 開閉機能による種類 (16.12.2) (表16.12.1) ※手動式 ・ 上部電動式 (手動併用) 耐風圧強度 (16.12.2) スラット (16.12.3) (16.12.4) 材質 ※JIS G 3312 (塗装溶融亜鉛めっき鋼板及び鋼帯) めっき付着量 ※Z06 又は F06 ・ JIS G 3322 (塗装溶融亜鉛-55%アルミニウム合金メッキ鋼板及び鋼帯) めっき付着量 ※AZ90 形状 ○インターロッキング形 ・ オーバーラッピング形 (16.13.2) (16.13.3) セクション材料による区分 開閉方式による区分 収納形式による区分 ガイドレールの材質 ※スチールタイプ ※バランス式 ・ スタンダード形 ※溶融亜鉛めっき鋼板 ・ アルミニウムタイプ ・ チェーン式 ○ローヘッド形 ・ ステンレス鋼板 ・ ファイバークラスタイプ ・ 電動式 ・ ハイリフト形 ・ ・ パーチャカル形 耐風圧性能 (JIS A 4715による強さ) (16.13.2) ・ 50 ○75 ・ 100 ・ 125	④ 合成樹脂調合ペイント塗り (SOP) (18.4.2) 塗料の種類 ※1種 ・ 2種 木部合成樹脂調合ペイント塗り (18.4.3) (表18.4.1) 屋外 ※A種 ・ B種 屋内 ・ A種 ※B種 鉄鋼面の合成樹脂調合ペイント塗りの種別 (18.4.4) (表18.4.2) ・ A種 ※B種 ⑤ クリヤラッカー塗り (DL) (18.5.2) (表18.5.1) クリヤラッカー塗りの種別 ・ A種 ※B種 6 7/8樹脂系非水分散形塗料塗り (NAD) (18.6.2) (表18.6.1) アクリル樹脂系非水分散形塗料塗りの種別 ・ A種 ※B種 7 耐候性塗料塗り (DP) (18.7.4) (表18.7.3) コクリート面及び押出成形ワット板面耐候性塗料塗りの種別 ・ A種 ・ B種 ・ C種 上塗り塗料等級 (18.7.2) (18.7.3) (18.7.4) 鉄鋼面 級 亜鉛メッキ鋼面 級 コクリート面及び押出成形ワット板面 級 8 つや有合成樹脂エマルジョンペイント塗り (EP-G) (18.8.2) (表18.8.1) ・ A種 ※B種 屋内の鉄鋼面つや有合成樹脂エマルジョンペイント塗りの種別 (18.8.4) (表18.8.3) ・ A種 ※B種 ⑨ 合成樹脂エマルジョンペイント塗り (EP) (18.9.2) (表18.9.1) 合成樹脂エマルジョンペイント塗りの種別 ・ A種 ※B種 10 合成樹脂エマルジョン模様塗料塗り (EP-T) (18.10.2) (表18.10.1) 合成樹脂エマルジョン模様塗料塗りの種別 ・ A種 ※B種 11 ウレタン樹脂ワニス塗り (UC) (18.11.2) (表18.11.1) ウレタン樹脂ワニス塗りの種別 ・ A種 ※B種 ⑫ オイルステイン塗り (OS) (18.12.2) (表18.12.1) 塗料 ・ 油性 ・ 水性 13 木材保護塗料塗り (WP) (18.13.1) (表18.13.1) 木材保護塗料塗りの種別 ① ビニル床シート (19.2.2) (19.2.3) 種類 種類 厚さ (mm) 色柄 目地処理する場合の工法 ※FS ※2.0 ・ 無地 ※熱溶接 ・ 突付け 2 ビニル床タイル (19.2.2) 種類の記号 厚さ (mm) 色柄 寸法 ※KT ※2.0 ・ ・ 3 帯電防止床シート、床タイル、防滑性床シート、床タイル (19.2.2) ・ 帯電防止シート 種類 () 性能 () 厚さ (mm) ・ 帯電防止床タイル 種類 () 性能 () 寸法 厚さ (× mm) ・ 防滑性床シート 種類 () 厚さ () ・ 防滑性床タイル 種類 () 寸法 厚さ (× mm) 4 視覚障害用床タイル (19.2.2) 種類 形状 ・ 5 耐動荷重性床シート (19.2.2) 種類 厚さ (mm) ・ 6 ビニル幅木 (19.2.2) 材質 高さ (mm) 厚さ (mm) ・ 軟質 ・ 硬質 ※60 ・ ※1.5以上 7 ゴム床タイル (19.2.2) 種類 厚さ (mm) 色柄 寸法 (mm) ・ 施工箇所の下地がセメント系下地及び木質系下地以外の場合の接着剤の種類 ・
	16	⑩ 建具用金物	金物の種類及び見掛けり部の材質 (16.8.2) (表16.8.1) ※標準仕様書表16.8.1及び図示 (図面番号) による 金属製建具に使用する丁番の枚数及び大きさ (16.8.2) ※標準仕様書表16.8.2及び図示 (図面番号) による 樹脂製建具に使用する丁番 (16.8.2) (表16.8.3) ※標準仕様書表16.8.3による 木製建具に使用する丁番の枚数及び大きさ (16.8.2) ※標準仕様書表16.8.4及び図示 (図面番号) による 木製建具に使用する戸車及びレール (16.8.2) ※標準仕様書表16.8.5及び図示 (図面番号) による 握り玉及びレバーハンドル、押板類、クレセント等の取付け位置 ※図示 (図面番号) マスターキー (16.8.4) ○製作する (・ 在来マスターキーに合わせる ・) ・ 制作しない その他の鍵の製作本数 ※3本1組 鍵箱 ※無 ○有 (○鋼製既製品 ・) (16.9.2) (16.9.3) 自動ドア 駆動装置の性能 検出装置の性能 防錆 センサーの種類 ・ SSD-1 ※ (表16.9.1) ・ 光線 (反射) センサー ・ SSD-2 による ・ 熱線センサー ・ DSLD-1 ・ 音波センサー ・ DSLD-2 ※ (表16.9.3) ・ 電波センサー 多機能トイレ ※ (表16.9.2) による ・ 適用する 出入りに設置 による される引き戸 ・ ・ 図示 ・ 押しボタンスイッチ ・ 多機能トイレスイッチ 凍結防止措置 ・ 行 う () (16.9.3) 12 自動ドア開閉装置 引戸装置の性能 (16.10.3) (表16.10.1) ※標準仕様書表16.10.1により、適用する戸の質量に応じたもの 14 重量シャッター (16.11.2) シャッターの種類 ・ 管理用シャッター (耐風圧強度) ・ 外壁用防火シャッター (耐風圧強度) ・ 屋内用防火シャッター ・ 防煙シャッター 開閉機能による種類 (16.11.2) (表16.11.1) ※上部電動式 (手動併用) ・ 上部手動式 (16.11.2) 二重チェーン、急降下制動装置、急降下停止装置を設けた電動シャッターの設置場所 ・ 図示 障害物感知装置の設置箇所 ・ 図示 屋内用防火シャッター又は防煙シャッターの危害防止装置 設置箇所 ・ 図示 「防火区画に用いる防火設備等の構造方法を定める件」 (昭和48年12月28日建設省告示第2563号) に定める基準に適合するもの ※障害物感知装置 (自動閉鎖型) ・ 可動座板式 シャッターケース ・ 設ける (16.11.2) スラット及びシャッターケース用鋼板 (16.11.3) ・ JIS G 3302 (溶融亜鉛めっき鋼板及び鋼帯) ・ JIS G 3312 (塗装溶融亜鉛めっき鋼板及び鋼帯) めっき付着量 ※Z12又はF12 ガイドレール等のステンレス鋼板 ※SUS304、SUS430J1L、SUS430、SUS443J1 開閉機能による種類 (16.12.2) (表16.12.1) ※手動式 ・ 上部電動式 (手動併用) 耐風圧強度 (16.12.2) スラット (16.12.3) (16.12.4) 材質 ※JIS G 3312 (塗装溶融亜鉛めっき鋼板及び鋼帯) めっき付着量 ※Z06 又は F06 ・ JIS G 3322 (塗装溶融亜鉛-55%アルミニウム合金メッキ鋼板及び鋼帯) めっき付着量 ※AZ90 形状 ○インターロッキング形 ・ オーバーラッピング形 (16.13.2) (16.13.3) セクション材料による区分 開閉方式による区分 収納形式による区分 ガイドレールの材質 ※スチールタイプ ※バランス式 ・ スタンダード形 ※溶融亜鉛めっき鋼板 ・ アルミニウムタイプ ・ チェーン式 ○ローヘッド形 ・ ステンレス鋼板 ・ ファイバークラスタイプ ・ 電動式 ・ ハイリフト形 ・ ・ パーチャカル形 耐風圧性能 (JIS A 4715による強さ) (16.13.2) ・ 50 ○75 ・ 100 ・ 125	⑰ ガラス留め材	20 ガラスブロック積み				
	16	⑪ 鍵	マスターキー (16.8.4) ○製作する (・ 在来マスターキーに合わせる ・) ・ 制作しない その他の鍵の製作本数 ※3本1組 鍵箱 ※無 ○有 (○鋼製既製品 ・) (16.9.2) (16.9.3) 自動ドア 駆動装置の性能 検出装置の性能 防錆 センサーの種類 ・ SSD-1 ※ (表16.9.1) ・ 光線 (反射) センサー ・ SSD-2 による ・ 熱線センサー ・ DSLD-1 ・ 音波センサー ・ DSLD-2 ※ (表16.9.3) ・ 電波センサー 多機能トイレ ※ (表16.9.2) による ・ 適用する 出入りに設置 による される引き戸 ・ ・ 図示 ・ 押しボタンスイッチ ・ 多機能トイレスイッチ 凍結防止措置 ・ 行 う () (16.9.3) 12 自動ドア開閉装置 引戸装置の性能 (16.10.3) (表16.10.1) ※標準仕様書表16.10.1により、適用する戸の質量に応じたもの 14 重量シャッター (16.11.2) シャッターの種類 ・ 管理用シャッター (耐風圧強度) ・ 外壁用防火シャッター (耐風圧強度) ・ 屋内用防火シャッター ・ 防煙シャッター 開閉機能による種類 (16.11.2) (表16.11.1) ※上部電動式 (手動併用) ・ 上部手動式 (16.11.2) 二重チェーン、急降下制動装置、急降下停止装置を設けた電動シャッターの設置場所 ・ 図示 障害物感知装置の設置箇所 ・ 図示 屋内用防火シャッター又は防煙シャッターの危害防止装置 設置箇所 ・ 図示 「防火区画に用いる防火設備等の構造方法を定める件」 (昭和48年12月28日建設省告示第2563号) に定める基準に適合するもの ※障害物感知装置 (自動閉鎖型) ・ 可動座板式 シャッターケース ・ 設ける (16.11.2) スラット及びシャッターケース用鋼板 (16.11.3) ・ JIS G 3302 (溶融亜鉛めっき鋼板及び鋼帯) ・ JIS G 3312 (塗装溶融亜鉛めっき鋼板及び鋼帯) めっき付着量 ※Z12又はF12 ガイドレール等のステンレス鋼板 ※SUS304、SUS430J1L、SUS430、SUS443J1 開閉機能による種類 (16.12.2) (表16.12.1) ※手動式 ・ 上部電動式 (手動併用) 耐風圧強度 (16.12.2) スラット (16.12.3) (16.12.4) 材質 ※JIS G 3312 (塗装溶融亜鉛めっき鋼板及び鋼帯) めっき付着量 ※Z06 又は F06 ・ JIS G 3322 (塗装溶融亜鉛-55%アルミニウム合金メッキ鋼板及び鋼帯) めっき付着量 ※AZ90 形状 ○インターロッキング形 ・ オーバーラッピング形 (16.13.2) (16.13.3) セクション材料による区分 開閉方式による区分 収納形式による区分 ガイドレールの材質 ※スチールタイプ ※バランス式 ・ スタンダード形 ※溶融亜鉛めっき鋼板 ・ アルミニウムタイプ ・ チェーン式 ○ローヘッド形 ・ ステンレス鋼板 ・ ファイバークラスタイプ ・ 電動式 ・ ハイリフト形 ・ ・ パーチャカル形 耐風圧性能 (JIS A 4715による強さ) (16.13.2) ・ 50 ○75 ・ 100 ・ 125	⑱ ガラス	20 ガラスブロック積み				
	16	⑫ 鍵	マスターキー (16.8.4) ○製作する (・ 在来マスターキーに合わせる ・) ・ 制作しない その他の鍵の製作本数 ※3本1組 鍵箱 ※無 ○有 (○鋼製既製品 ・) (16.9.2) (16.9.3) 自動ドア 駆動装置の性能 検出装置の性能 防錆 センサーの種類 ・ SSD-1 ※ (表16.9.1) ・ 光線 (反射) センサー ・ SSD-2 による ・ 熱線センサー ・ DSLD-1 ・ 音波センサー ・ DSLD-2 ※ (表16.9.3) ・ 電波センサー 多機能トイレ ※ (表16.9.2) による ・ 適用する 出入りに設置 による される引き戸 ・ ・ 図示 ・ 押しボタンスイッチ ・ 多機能トイレスイッチ 凍結防止措置 ・ 行 う () (16.9.3) 12 自動ドア開閉装置 引戸装置の性能 (16.10.3) (表16.10.1) ※標準仕様書表16.10.1により、適用する戸の質量に応じたもの 14 重量シャッター (16.11.2) シャッターの種類 ・ 管理用シャッター (耐風圧強度) ・ 外壁用防火シャッター (耐風圧強度) ・ 屋内用防火シャッター ・ 防煙シャッター 開閉機能による種類 (16.11.2) (表16.11.1) ※上部電動式 (手動併用) ・ 上部手動式 (16.11.2) 二重チェーン、急降下制動装置、急降下停止装置を設けた電動シャッターの設置場所 ・ 図示 障害物感知装置の設置箇所 ・ 図示 屋内用防火シャッター又は防煙シャッターの危害防止装置 設置箇所 ・ 図示 「防火区画に用いる防火設備等の構造方法を定める件」 (昭和48年12月28日建設省告示第2563号) に定める基準に適合するもの ※障害物感知装置 (自動閉鎖型) ・ 可動座板式 シャッターケース ・ 設ける (16.11.2) スラット及びシャッターケース用鋼板 (16.11.3) ・ JIS G 3302 (溶融亜鉛めっき鋼板及び鋼帯) ・ JIS G 3312 (塗装溶融亜鉛めっき鋼板及び鋼帯) めっき付着量 ※Z12又はF12 ガイドレール等のステンレス鋼板 ※SUS304、SUS430J1L、SUS430、SUS443J1 開閉機能による種類 (16.12.2) (表16.12.1) ※手動式 ・ 上部電動式 (手動併用) 耐風圧強度 (16.12.2) スラット (16.12.3) (16.12.4) 材質 ※JIS G 3312 (塗装溶融亜鉛めっき鋼板及び鋼帯) めっき付着量 ※Z06 又は F06 ・ JIS G 3322 (塗装溶融亜鉛-55%アルミニウム合金メッキ鋼板及び鋼帯) めっき付着量 ※AZ90 形状 ○インターロッキング形 ・ オーバーラッピング形 (16.13.2) (16.13.3) セクション材料による区分 開閉方式による区分 収納形式による区分 ガイドレールの材質 ※スチールタイプ ※バランス式 ・ スタンダード形 ※溶融亜鉛めっき鋼板 ・ アルミニウムタイプ ・ チェーン式 ○ローヘッド形 ・ ステンレス鋼板 ・ ファイバークラスタイプ ・ 電動式 ・ ハイリフト形 ・ ・ パーチャカル形 耐風圧性能 (JIS A 4715による強さ) (16.13.2) ・ 50 ○75 ・ 100 ・ 125	⑱ ガラス	20 ガラスブロック積み				
	16	⑬ 鍵	マスターキー (16.8.4) ○製作する (・ 在来マスターキーに合わせる ・) ・ 制作しない その他の鍵の製作本数 ※3本1組 鍵箱 ※無 ○有 (○鋼製既製品 ・) (16.9.2) (16.9.3) 自動ドア 駆動装置の性能 検出装置の性能 防錆 センサーの種類 ・ SSD-1 ※ (表16.9.1) ・ 光線 (反射) センサー ・ SSD-2 による ・ 熱線センサー ・ DSLD-1 ・ 音波センサー ・ DSLD-2 ※ (表16.9.3) ・ 電波センサー 多機能トイレ ※ (表16.9.2) による ・ 適用する 出入りに設置 による される引き戸 ・ ・ 図示 ・ 押しボタンスイッチ ・ 多機能トイレスイッチ 凍結防止措置 ・ 行 う () (16.9.3) 12 自動ドア開閉装置 引戸装置の性能 (16.10.3) (表16.10.1) ※標準仕様書表16.10.1により、適用する戸の質量に応じたもの 14 重量シャッター (16.11.2) シャッターの種類 ・ 管理用シャッター (耐風圧強度) ・ 外壁用防火シャッター (耐風圧強度) ・ 屋内用防火シャッター ・ 防煙シャッター 開閉機能による種類 (16.11.2) (表16.11.1) ※上部電動式 (手動併用) ・ 上部手動式 (16.11.2) 二重チェーン、急降下制動装置、急降下停止装置を設けた電動シャッターの設置場所 ・ 図示 障害物感知装置の設置箇所 ・ 図示 屋内用防火シャッター又は防煙シャッターの危害防止装置 設置箇所 ・ 図示 「防火区画に用いる防火設備等の構造方法を定める件」 (昭和48年12月28日建設省告示第2563号) に定める基準に適合するもの ※障害物感知装置 (自動閉鎖型) ・ 可動座板式 シャッターケース ・ 設ける (16.11.2) スラット及びシャッターケース用鋼板 (16.11.3) ・ JIS G 3302 (溶融亜鉛めっき鋼板及び鋼帯) ・ JIS G 3312 (塗装溶融亜鉛めっき鋼板及び鋼帯) めっき付着量 ※Z12又はF12 ガイドレール等のステンレス鋼板 ※SUS304、SUS430J1L、SUS430、SUS443J1 開閉機能による種類 (16.12.2) (表16.12.1) ※手動式 ・ 上部電動式 (手動併用) 耐風圧強度 (16.12.2) スラット (16.12.3) (16.12.4) 材質 ※JIS G 3312 (塗装溶融亜鉛めっき鋼板及び鋼帯) めっき付着量 ※Z06 又は F06 ・ JIS G 3322 (塗装溶融亜鉛-55%アルミニウム合金メッキ鋼板及び鋼帯) めっき付着量 ※AZ90 形状 ○インターロッキング形 ・ オーバーラッピング						

[illegible]

21排水工事

①排水管

②側溝、排水樹等

3地業の材料

④コンクリート

5鉄筋

⑥埋め戻し用材料

⑦街きよ、縁石、側溝

排水管用材料

種類・記号形状呼び径基床の厚さ及び種類(mm)

・遠心力鉄筋コンクリート管

・硬質ポリ塩化ビニル管

・硬質ポリ塩化ビニル管継手

排水用硬質塩化ビニル管継手

※接着剤

・ゴム輪

側溝

形状及び寸法

・図示(図面番号)

排水樹

形状及び寸法

・図示(図面番号)

マンホールふたの種類

※図示(図面番号)

グレーチングの材質、用途、適用荷重、メインバーピッチ等

※図示(図面番号)

凍上抑制層に用いる材料

・砂の粒度試験

・行う

・行わない

種類

※普通コンクリート

設計基準強度(N/mm²)

※18

スランプ(cm)

※15

※18

種類の記号

※SD295A

標準仕様書表3.2.1による種類

・A種

※B種

・C種

・D種

・縁石

規格名称種類呼び

プレキャスト無筋コンクリート製品

・片面歩車道境界ブロック

・両面歩車道境界ブロック

○地先境界ブロック

・L型側溝

規格名称種類呼び

プレキャスト無筋コンクリート製品

・1種

・250A

・250B

・プレキャスト鉄筋コンクリート製品

・2種

・250A

・250B

・300

・350

・500A

・500B

・500C

・U型側溝

規格名称種類呼び

プレキャスト鉄筋コンクリート製品

・1種

・2種

・U型側溝ふた

規格名称種類呼び

プレキャスト鉄筋コンクリート製品

・1種

・2種

・150

・180

・240

・300

・360

・450

・600

砂利地業の厚さ(mm)

※100

1路床

遮断層

・設ける

厚さ(mm)材料品質

凍上抑制層

・設ける

厚さ(mm)材料品質

透水性舗装のフィルター層の厚さ(mm)

車道部

歩道部

路床安定処理

・行う

方法

※添加材料による安定処理

品質

厚さ(mm)

目標CBR

添加材料

・普通ポルトランドセメント

・高炉セメントB種

・フライアッシュセメントB種

・生石灰特号

・生石灰1号

・消石灰特号

・消石灰1号

・ジオテキスタイルによる安定処理

盛土用材料

※標準仕様書表3.2.1による種類による(・A種・B種・C種・D種)

路床土の支持力比(CBR)試験

・行う

路床締固め度試験

・行う

砂の粒度試験

・行う

発生土の処理

※構外搬出適切処理

22舗装工事

③アスファルト舗装

4コンクリート舗装

5カラー舗装

6透水性アスファルト舗装

7ブロック系舗装

8砂利敷き

舗装の種類と路盤の厚さ

(22.3.2)(表22.3.3)

舗装の種類

路盤の厚さ(mm)

車道部

歩道部

・アスファルト舗装

・100

・150

○250

・350

・カラー舗装

・100

・150

・250

・350

・コンクリート舗装

150

・透水性アスファルト舗装

・100

・150

・250

・

・排水性アスファルト舗装

・100

・150

・250

・

・インターlocking舗装

150

・転圧コンクリート舗装

150

・コンクリート平板舗装

100

・鋪石舗装

50

路盤材料

(22.3.3)(表22.3.3)

※砕石及び再生材のクラッシャー又はクラッシャーラン鉄鋼スラグ

路盤の締固め度試験

※行う

・行わない

アスファルト舗装の構成及び厚さ

(22.4.2)

※図示

車道部の基層の適用

・適用する

舗装の平坦性

(22.4.2)

※通行の支障となる水たまりを生じない程度

再生アスファルトの種類

・60～80

・80～100

加熱アスファルト混合物等の種類

(22.4.4)(表22.4.4)

表層

○密粒度アスファルト混合物

・13

・細粒度アスファルト混合物

・13F

基層

○粗粒度アスファルト混合物

・20

シールコート用乳剤の種類

○PK-1

・PK-2

アスファルト混合物等の抽出試験

・行う

コンクリート舗装等の構成及び厚さ

(22.5.2)(22.5.3)(表22.5.1)(表22.5.2)

舗装の種類

部位

舗装の厚さ(mm)

コンクリート

・コンクリート舗装

車道部

※150

・※標準仕様書表22.5.1による

歩道部

※70

・

寒冷地での縁部立下り寸法等

(22.5.2)

舗装の平坦性

(22.5.2)

※通行の支障となる水たまりを生じない程度

早強ポルトランドセメント

・使用する

注入目地材料の種類

(22.5.3)(表22.5.2)

※低弾性タイプ

・高弾性タイプ

・加熱系カラー舗装

(22.6.2)(22.6.3)(22.6.4)

構成及び厚さ

・図示

加熱系混合物の結合材

・アスファルト混合物

・石油樹脂系混合物

顔料の添加量(%)

着色骨材

()

自然石

()

・常温系カラー舗装

工法

・ニート工法

・塗布工法

着色剤の下部

・アスファルト舗装

・コンクリート舗装

舗装の平坦性

(22.6.2)(22.4.2)

※通行の支障となる水たまりを生じない程度

加熱系混合物に使用する材料

(22.6.3)

添加する着色骨材又は自然石

加熱系混合物の結合材に石油樹脂を使用する場合の顔料の添加量

(22.6.4)

樹脂系混合物、ニート工法及び塗布工法の配合その他

(22.6.4)

加熱系混合物の抽出試験

・行う

(22.6.6)(22.4.6)

舗装の平坦性

(22.7.2)

※著しい不陸がないこと

アスファルト

(22.7.3)

※スレートアスファルト

シールコート

・行う

(22.7.5)(22.4.5)

透水性アスファルト混合物の抽出試験

・行う

(22.7.6)

仕上り面の平坦性

(22.8.2)

※歩行に支障となる段差のないものとし、段差は3mm以内

・コンクリート平板舗装

(22.8.2)(22.8.3)

種類

寸法(mm)

厚さ(mm)

目地材

・普通平板(N)

・300角

※60

※砂

・透水平板(P)

・モルタル

・保水性平板(W)

・インターlockingブロック舗装

(22.8.3)

種類

曲げ強度

形状、寸法

表面加工

※普通ブロック

※5N/mm²

※図示(図面番号)

・

・透水性ブロック

・

・保水性ブロック

・

・鋪石舗装

(22.8.2)(22.8.3)

種類

寸法、形状

鋪石の基層

基層の厚さ

・アスファルト混合物

・50cm

・コンクリート版

・70cm

クッション材

(22.8.3)

※砂

・空練りモルタル

種別

(22.9.2)(表22.9.1)

通路

※A種

・B種

建物周囲その他

・A種

※B種

1植栽地の確認等

2植栽基礎整備工法

3植樹

4支柱材

5芝張り、吹き付けは種及び地被類

6屋上緑化

土壌の水素イオン濃度指数(pH)試験

・行う

(23.1.3)

電気伝導度の試験

・行う

(23.1.3)

腐植含有量の試験

・行う

(23.1.3)

有効土層として整備する面積及び厚さ

(表23.2.1)

※標準仕様書表23.2.1による

排水工法

(23.2.2)

・暗きよ

・開きよ

・排水層

・縦穴排水

植栽基礎整備工法の種類

(23.2.2)(表23.2.2)

・樹木

※A種

・B種

・C種

・D種

・芝及び地被類

A種

※B種

・C種

・D種

・土壌改良材

(23.2.2)(23.2.3)

種類

仕様

・バーク堆肥

・下水汚泥コンポスト

発生土の処理

(23.2.4)

※構外搬出適切処理

樹木

(23.3.2)

樹種

寸法

株立数

刈込みものの適用

数量

新植樹木の枯損償還期間

(23.3.4)

※引渡しの日から1年

移植樹木の枯損処置を行う期間

(23.3.6)

※引渡しの日から1年

支柱材

(23.3.2)

支柱材

防腐処理方法

※丸太

※加圧式防腐処理

・真竹

幹巻き用材料

(23.3.2)

※幹巻き用テープ

・わら及びこも

支柱形式

(23.3.3)

・添え柱形

・鳥居形

・ハツ掛け形

・布掛け形

・ワイヤ掛け形

・地下埋設形

芝の種類

※コライシシバの類

・ノシバの類

芝張りの工法

(23.4.3)

平地

※目地張り

・べた張り

法面

・目地張り

※べた張り

吹付けは種用種子等の種子

(23.4.2)

種子の種類

量

※洋芝類(発芽率90%)

地被類

(23.4.2)

樹種

芽立数

コンテナ径

単位面積当たりのコンテナ数

枯損した芝及び地被類の処置

(23.4.7)(23.3.4)

※引渡しの日から1年

屋上緑化システム

(23.5.2)(23.5.3)

土壌層の厚さ

・15cm

・30cm

・人工軽量土

※改良土

屋上緑化システムの排水層

種類

層の厚さ

・軽量骨材

・火山砂利

・黒曜石バーライト

・膨張性頁岩

・透水排水管

・合成樹脂系

・黒曜石バーライト詰め

・板状成形品

(23.5.3)(23.4.2)

樹種又は種類

寸法

株立数

刈込みもの

数量

樹木

・※コライシシバの類

芝

・ノシバの類

地被類

見切り材、舗装材、水抜き管、マルチング材等

(23.5.3)

※図示(図面番号)

「屋根ふき材及び屋上に面する傾斜の風圧に対する構造耐力上の安全性を確かめるための構造計算の基準を定める件」による風圧力に対応した固定方法

・適用する

支柱

・設置する

形式

・抵抗板設置固定法

・設置する

種類

新植樹木、芝及び地被類の枯損償還

(23.5.5)(23.3.4)(23.4.7)

※引渡しの日から1年

支柱

・設置する

形式

・抵抗板設置固定法

・設置する

種類

新植樹木、芝及び地被類の枯損償還

(23.5.5)(23.3.4)(23.4.7)

※引渡しの日から1年

7工事区分

1仮設

2基礎

3躯体の開口補強

4仕上材の開口補強

5衛生設備工事関係

6空気調和設備工事関係

7電気設備工事関係

8設備間の取合

9その他

項目

細目

建築設備

電気設備

備考

(1)外部足場

○

(2)内部足場

○

(3)塵出し、養生、清掃

○

(4)底層部分の養生

○

(5)工事用電力、電話、水道引込工事

○

○

(6)上記料金

○

(7)監督員事務所

○

(8)現場事務所

○

(9)仮設便所

○

(10)仮囲い、ゲート

○

(11)道路清掃

○

(12)洗車員

○

(1)屋外基礎

○

「軽荷重」屋外機

(1)貫通孔材

○

(2)貫通孔材の補強筋

○

(3)床、壁開口部の入れ及び・増強筋

○

(4)貫通孔、雨入れ穴埋め

○

(5)上記の塵出し及び集計(床、梁、壁)

○

(1)天井、壁・柱間仕切りの開口(ボード等の切込み及び増強材)

○

(2)アウトレッドボックス類

○

(3)上記の塵出し及び集計

(1)雨水排水(配管、ます、ふた)

○

(2)汚水、雑排水(配管、ます、ふた)

○

(3)敷地内合流(雨水、汚水、雑排水)の場合

○

(4)下水本管への接続

(5)根柢室、ます、ふた

(6)屋外くつ洗い流し

(7)便器、洗面器

○

(8)洗面カウンター

○

(9)ステンレスL型手摺

(10)ステンレス手摺(小便器用)

(11)ステンレス鍵ね上げ手摺

(12)鍵もたれ(多目的便所 次便器用)

(13)スタイルボード

(14)オムツ交換ベッド

(15)ダストボックス

(16)ベビーチェア

(17)食器洗 水槽

(18)化粧鏡(多目的便所共)

(1)外部ガラリ(ダクト接続の場合取付特共)

○

(2)内部ガラリ(ドアガラリ)

○

(3)内部ガラリ(レタランガラリ)

○

(4)新扉フード(扉板、吊りボルト共)

○

(5)換気用取付枠

○

(6)ウエザーカー

○

(7)防火区画、ダクト貫通部鋼枠

(1)電柱(新設、移設共)

(2)煙感知器連動防火戸のラッチ受取付用切込補強

(3)煙感知器連動防火戸の磁石式吸着板、電磁式受け受取付

(4)自動ドア電源供給(1次配線)

(5)自動ドア電源供給(2次配線及びFireh147A)

(6)電動シャッター電源供給(1次配線)

(7)電動シャッター電源供給(2次配線)

(8)ユニット機器等電源供給(1次配線)

○

(9)ユニット機器等電源供給(2次配線)

○

(10)パッケージ形空調機電源供給(1次配線)

○

(1)機器付属の制御盤以降の配管配線(接地共)

○

(2)機器付属の制御盤への電源供給配管配線

○

(3)自動制御盤と動力制御盤への電源供給及び操作回路の渡り配管配線

○

(4)空冷パッケージ及び全熱交換形換気扇と操作スイッチとの配管配線及び接地

(5)煙感知器から連動制御盤を経て防火ダンパーに至る配管配線

(6)小機器用前水装置への電源供給配管配線

(7)電極棒及び電極棒

(8)パッケージ形空調機(ルームエアコン等を含む)の次側配管配線及び接地

○

(1)配管、配線トラフ(ふた、セパレーター共)

○

(2)点検口(床、天井、壁、補強共)

(3)屋内釣油槽

(4)ガス漏れ警報器(単独)

○

(5)引き渡しまでの電力・水道料金

○

御所市消防団第8分団消防車庫解体工事特記仕様書

I. 工事概要

1. 工事場所

御所市大字名柄 201番1の一部・201番2の一部・203番2の一部

2. 敷地面積

388.21㎡

3. 工事種目

取り壊し
建物概要
OB造 1階建て 建築面積:60.84㎡ 延べ面積:60.84㎡ 1棟
火の見櫓 鉄骨造 12m(基礎共) 1基

II. 解体工事仕様

1. 共通仕様

(1) 図面及び特記仕様に記載されていない事項は、国土交通省大臣官房官庁営繕部監修「建築物解体工事共通仕様書・同解説(平成31年版)」(以下「解体共通仕様書」という。)による。ただし、解体共通仕様書に規定されている項目以外は国土交通省大臣官房官庁営繕部監修「公共建築改修工事標準仕様書(建築工事編)平成31年版」(以下「改修標準仕様書」という。)及び「公共建築工事標準仕様書(建築工事編)平成31年版」による。

(2) 全ての設計図書は、相互に補完する。設計図書間に相違がある場合の優先順位は、1 質問回答書(2から5までに対するもの)、2 現場説明書、3 特記仕様書、4 図面、5 標準仕様書とし、これにより難い場合は、(3)による。

(3) 設計図書に定められた内容に疑義が生じた場合又は現場の納まり、取合い等の関係で、設計図書によることが困難若しくは不都合が生じた場合は、監督職員と協議する

(4) 本工事に電気設備改修工事及び機械設備改修工事を含む場合、その仕様はそれぞれの工事仕様書を適用する。

2. 特記仕様

(1) 項目は、番号に○印の付いたものを適用する。

(2) 特記事項は、○印の付いたものを適用する。印は適用しない。
○印のつかない場合は、※印の付いたものを適用する。
○印と◎印の付いた場合は、共に適用する。

(3) 特記事項に記載の[]内表示記号は、解体共通仕様書の当該項目、当該図又は当該表を示す。
()内表示番号は改修標準仕様書の当該項目、当該図又は当該表を示す。

章	項 目	特 記 事 項
1 解体工事一般事項	① 適用基準等	※建築工事標準詳細図 国土交通省大臣官房官庁営繕部監修(平成28年版) ○建築改修工事監理指針上・下 国土交通省大臣官房官庁営繕部監修(令和元年版) ○建築工事監理指針上・下 国土交通省大臣官房官庁営繕部監修(令和元年版) ○構内舗装・排水設計基準 国土交通省大臣官房官庁営繕部監修(平成27年版) ○敷地調査共通仕様書(平成27年10月) ※県土マネジメント部建築工事監督及び検査必携 奈良県県土マネジメント部 ※建築及び設備工事監督・検査事務処理様式集 奈良県県土マネジメント部
	② 官公署その他への届出手続等	(1) 工事の着手、施工及び完成に当たり、関係法令等に基づく官公署その他の関係機関への必要な届出手続等を直ちに行う。なお、届出内容について、あらかじめ監督職員に報告する。 (2) 関係法令等に基づく官公署その他の関係機関の検査に必要な資機材、労務等を提供する。
	③ 工事実績情報の登録	※ 行う(登録する) ・行わない
	④ 実施工程表	工事の着手に先立ち、実施工程表を作成し、監督職員の承諾を受ける。 実施工程表を変更する必要がある場合は、施工等に支障がないよう実施工程表を直ちに変更し、当該部分の施工に先立ち、監督職員の承諾を受ける。
	⑤ 施工計画書	(1) 工事の着手に先立ち、工事の総合的な計画をまとめた施工計画書(総合施工計画書)を作成し、監督職員に提出する。 (2) 品質計画、施工の具体的な計画並びに工程の施工の確認内容及びその確認を行う段階を定めた施工計画書(工程別施工計画書)を、工事の施工に先立ち作成し、監督職員に提出する。
	⑥ 発生材の処理等	○県内処分場にて処理する。(安定5品目) 半径(60)km 以内 (安定5品目: がれき類、がらすくず及び陶磁器くず、腐りがれき類、金属くず類、がらすくず) ○引渡しを要するもの(※PCB含有物) [1.3.10] ○現場において再利用を図るもの [1.3.10][4.4.1] () ○再資源化を図るもの(県内処理) [4.4.1] ○コンクリート塊 ○アスファルトコンクリート塊 ○建設発生木材 ○再資源化を図るもの ○金属類 ・硬質ポリ塩化ビニル管、線手 ・ガラス ○廃棄物処理法に基づく水銀使用製品産業廃棄物 (○蛍光灯管 ・小型二次電池) ・資源有効利用促進法に基づく指定再資源化製品 (・パーソナルコンピューター) ・指定再利用促進製品 (・浴室ユニット) ※再生資源利用〔促進〕計画(実施)書を提出する。 ※産業廃棄物の処理 関係法令に従い構外排出適切処理とし、産業廃棄物管理票(マニフェスト)を提出する。 なお、県内の最終処分場に搬入することとなる場合は、奈良県産業廃棄物税相当額を支払うこと。 処理に注意を要する建設廃棄物(処理方法は、4.5.1による) [4.5.1] ・CCA処理木材 ○石綿含有石膏ボード ・ひ素、カドミウム含有石膏ボード ・上記以外の石膏ボード

⑦ 工事の記録

施工の記録、工事写真等の整備 [1.2.3]
※奈良県県土マネジメント部監修 工事写真の撮影マニュアルによる。

区分	分類・規格	撮影枚数	部数	備考
※施工前	○作業基準による	○作成基準による	1	
※工事中	同上	同上	1	
※完成時	・カラーサービスピリ ・カラーキャビネリ ・カラーバネル半切	・0 ・6 ・9 ・監督員指示による ・0 ・1 ・2		

(ただし、上記写真は、アルバム製本とする。)

・完成写真として、全紙パネルを 部提出する。
・完成写真撮影業者(完成写真撮影場所は監督員の指示による)
・監督員の承諾する撮影業者。

⑧ 電気保安技術者

⑨ 施工条件

⑩ 技能士

⑪ 完成時の提出図書

12 完成図

⑬ 設計GL

14 六価クロム溶出試験等

5 監督職員事務所の備品等

監督員事務所の備品等の種類及び数量は以下の表による [2.3.1]

備品の種類	机・椅子	書棚	黒板又はホワイトボード	掛時計
数 量	組	台	個	個
備品の種類	ゴム長靴	雨がっぱ	安全帯	ヘルメット
数 量	足	着	個	個
備品の種類	懐中電灯	衣類ロッカー	冷暖房機器	加入電話機
数 量	個	人用	台	台
備品の種類	湯沸器	掃除具	パソコン	周辺機器
数 量	台	個	台	

その他事務所として通常必要な備品を揃えること

6 山留めの撤去

鋼矢板等の抜き跡の処理 ※直ちに砂で充填 ・ [2.4.3]

3 解体施工

① 事前措置

2 杭の撤去

3 さく、照明設備等の附属物

④ 樹木等

⑤ 地下埋設物及び埋設配管

⑥ 解体後の整地

⑦ 建設発生土の処理

4 特別管理産業廃棄物の処理

① 一般事項

② 特別管理産業廃棄物の処分等

5 石綿含有建材の除去及び処理

① 一般事項

2 石綿含有吹付け材の除去

3 石綿含有仕上塗材の除去

4 石綿含有保温材等の除去

⑤ 石綿含有成形板の除去

⑥ 手続き等

⑦ 石綿作業主任者

⑧ 石綿含有材の箇所

6 特殊な建設副産物の処理

① 一般事項

② 特殊な建設副産物の回収及び処分

分析調査
・行う ○行わない [7.1.3]
[7.3.1]

種類	処分(処理方法)
○フロン(冷媒) ・フロン(建材用断熱材フロン) ・ハロン ・イオン化式感知器 ・六ふっ化硫黄(SF ₆)ガス ・PFOS ・特定化学物質 ・その他 ()	解体工事共通仕様書 [7.3.1]による

工事名
御所市消防団第8分団消防車庫改築工事
図名
解体工事 特記仕様書
縮尺
—
作成日
— 年 — 月 — 日
承認日
(実務者) 年 月 日

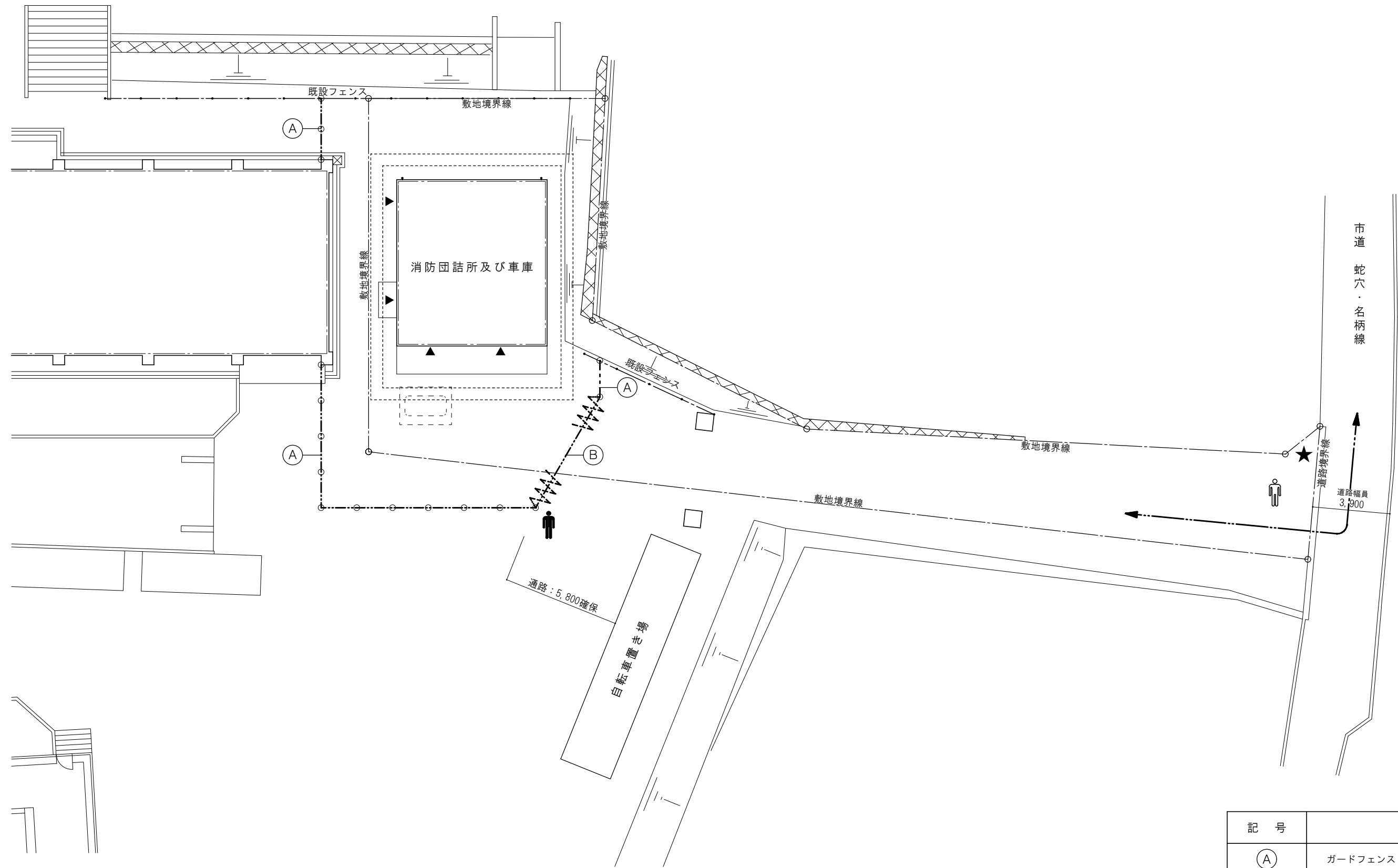
設計図
確認印



図面番号
A - 10

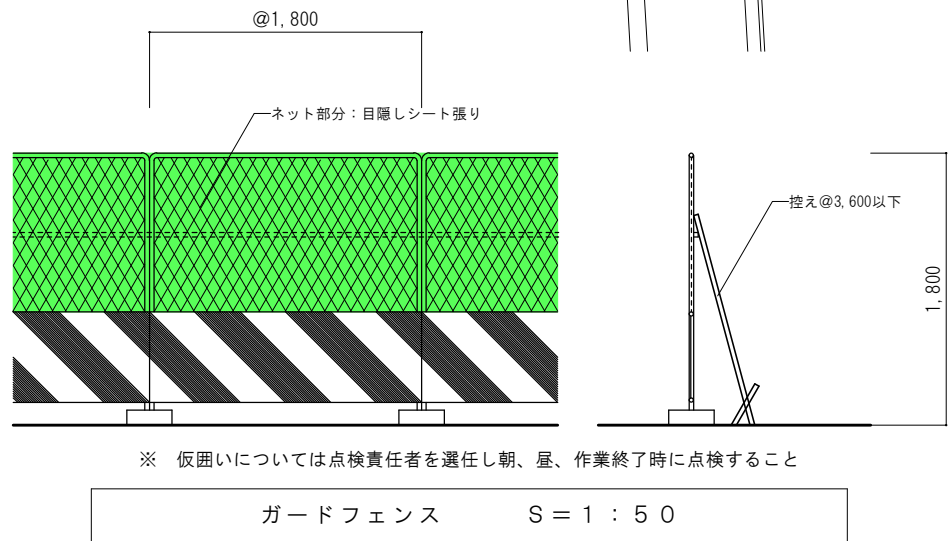
総合企画、建築設計、監理 株式会社 中環設計


一般建築士事務所
奈良県建築士会 2020(へ)第1421号
一般建築士会 174531号 中谷芳一

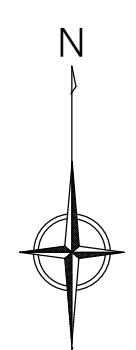
1. 仮設計画については、施工前に学校側と協議を行い、仮設の施工要領を決定する事。また、学校敷地外駐車場等の使用も、監督員に相談の上関係各所へ協議を行い決定する事。
2. 工事車両進入路は施工前に現地視察（近隣進入路）を行い、養生等必要部分については、請負者側にて適切に行う事。
3. 仮囲いはガードフェンス H=1800とし、養生シート張りを行う事。コンクリートベース 300φ×t=100、単管にて頭つなぎを取り、拉せ#5400設置。
4. 交通誘導員については、工事内容及び工事車両の状況に応じ配置を変更又は、増員を行う事。
5. 外部足場については、くさび緊結式足場とする。（一部設けが困難な場合は単管足場）とし、防音シート張りを全面施工する事。
6. 仮設電力は、請負者側にて申請を行い仮設引き込みとする。また仮設給水は、参考モニターを取付け水道金庫の構築を行う事。
7. 保護柵は、設置されている箇所での仮囲い範囲外で吊り上げ作業を行う場合は、ラフター周辺に舗装面を保護を行う事。




記 号	仕 様	備 考
Ⓐ	ガードフェンス H=1,800	参考長さ：23.0 m
Ⓑ	キャストターゲット H=1,800 W=6,000	1 か所
★	工事看板設置位置	
← --- →	工事車輦経路	
	交通整備員（工事期間常時 1 名）	延人数 **名を配置
	交通整備員（工事車輦進入及び資材搬入時スポット設置）	

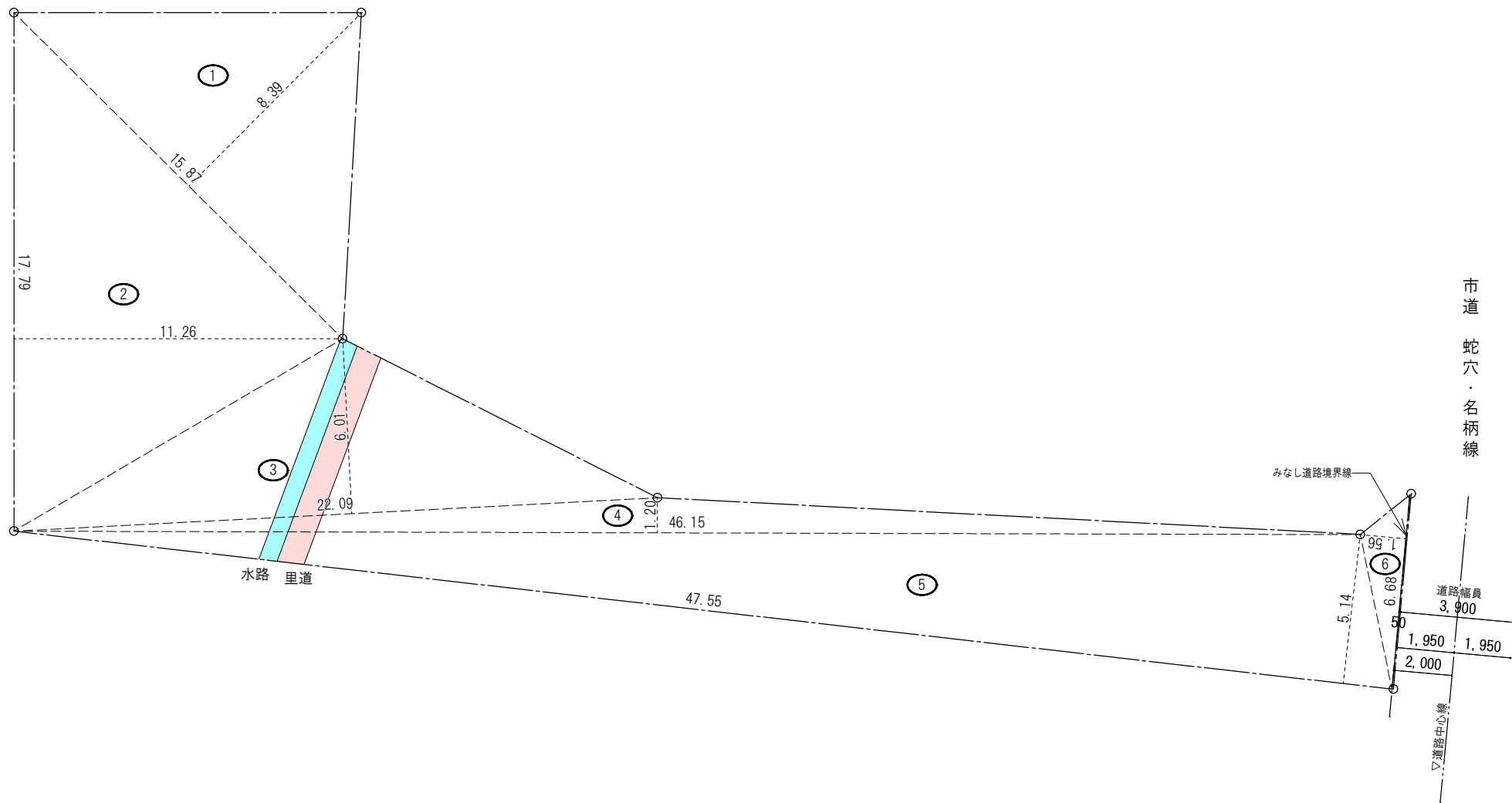
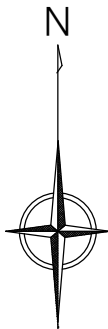


			工事名 御所市消防団第8分団消防車庫改築工事		設計図		図面番号 A - 12	
			図名 共通仮設図【参考図】		縮尺 1/200		作成日 年 月 日	
					変更日 (最終) 年 月 日		確認印	
			 総合企画、建築設計、監理 株式会社 中谷設計		一級建築士事務所 2020 (へ) 第1421号 一級建築士権174531号 中谷芳一			



X1 — X1' 敷地断面図

	工事名	御所市消防団第8分団消防車庫改築工事						設計図	図面番号	A - 13
	図名	配置図		縮尺	1/200	作成日	年 月 日		確認印	
	【確認申請兼用】					受理日 （最終）	年 月 日			
	 総合企画、建築設計、監理 株式会社 中興設計		一般建築士事務所 奈良県知事登録 2020(～)第1421号 一般建築士会174531号 中谷芳一							

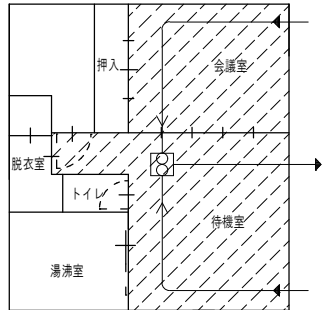
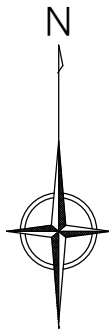


番号	底 辺	高 さ	倍 面 積	面 積
1	15.87	8.39	133.1493	66.57465
2	17.79	11.26	200.3154	100.15770
3	22.09	6.01	132.7609	66.38045
4	46.15	1.20	55.3800	27.69000
5	47.55	5.14	244.4070	122.20350
6	6.68	1.56	10.4208	5.21040
計				388.21670
敷 地 全 体 面 積				388.21670 m ²
水 路 占 用 面 積 (法定外公共物使用許可書より)				4.88000 m ²
里 道 占 用 面 積 (法定外公共物使用許可書より)				7.03000 m ²
合 計 (敷地全体面積－水路占用面積－里道占用面積)				376.30670 m ²
確 認 申 請 敷 地 面 積				376.30 m ²

外 部 仕 上 表					
屋 根	折版葺き カラーガルバリウム鋼板 t＝0.8（不燃NM-8697） 山高85（三晃金属：ルーフロック8 5同等品以上） 裏面：ペフ貼り t＝4.0			外 構	ポーチ・車庫前：土間コンクリート直押さえ金コテ仕上げ
外 壁	金属サイディング張り カラーガルバリウム鋼板 t＝0.8（不燃NM-8697）（三晃金属：アートシャドー同等品以上）				その他周囲：アスファルト舗装 t＝80（路盤工 t＝250）、ネットフェンス H=1500、雨水コンクリート会所 300角
巾 木	モルタル 金コテ押え				既設建物（CB造平屋 消防団詰所・車庫、鉄骨造 火の見やぐら）：撤去 【撤去図参照】
下 屋	折版葺き カラーガルバリウム鋼板 t＝0.8（不燃NM-8697） 山高85（三晃金属：ルーフロック8 5同等品以上）			浄化槽	合併処理浄化槽 5人槽 （重荷重仕様） 【詳細図参照】
樋	軒樋：カラー硬質塩ビ角樋 120角 吊り金物共 縦樋：カラーV P－ 75φ つかみ金物共				
パラペット	カラーアルミ製笠木 W=200（既製品）			ホース乾燥塔	株式会社ダイケン 電動昇降式ボール形 D P－AU型 同等品以上 2.0Mホース 6本吊 x 2台 コンクリート基礎共【詳細図参照】
小 庇	1 階出入口：アルミ製（アルフィン：AD2同等品以上） 窓上：アルミ製（アルフィン：AF93同等品以上）				
その他	開口部：鉄骨用アルミサッシュ、スチール製軽量バランスシャッター、スチール製オーバースライドドア（ローヘッド）			使用材料	石膏ボード t=9.5 （準不燃：QM－9 8 2 8）
	建具額縁：木製 S O P 塗装				石膏ボード t=12.5 （不燃：NM－3 6 1 9）
	断熱材：2 階外壁面及び天井面 グラスウール 24k g / m ² t＝100				化粧石膏ボード t=9.5 （準不燃：QM－0 5 2 4）

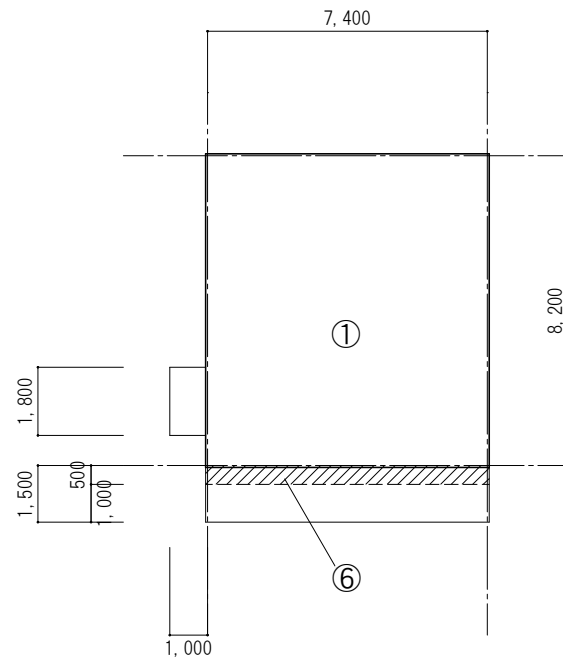
内 部 仕 上 表								
階 数	室 名	床	巾木	壁	天 井	廻り縁	天井高	備 考
1	車 庫	土間コンクリート直押えの上 防塵塗装仕上げ	RC打放しのまま H=300	金属サイディング（外壁）表し（鉄部すべてSOP塗装） 間仕切り壁面：LGS90下地 石膏ボード t=12.5+9.5張り EP塗装	デッキプレート 表し SOP塗り （鉄部すべてSOP塗り）	塩ビ製	3,580～3,680	※SOP塗装は防火塗料とする事。（準不燃：QM－9816） ※EP塗装は防火塗料とする事。（準不燃：QM9816） 下足箱（22足分）・木製棚【詳細図参照】
	トイレ	防水モルタル金コテ押え t=30 下地 エポキシ樹脂塗床（厚膜・防滑仕上げ）t=3.0	床材と同様 H=300まで立上げ	LGS90下地 シーキング石膏ボード t=12.5+9.5張り ビニルクロス貼	LGS下地 化粧石膏ボード張り t=9.5		2,400	※ビニルクロスは準不燃壁紙とする事。（準不燃：QM－9416）
	屋外倉庫	モルタル金こて押え	RC打放しのまま H=300	金属サイディング（外壁）表し（鉄部すべてSOP塗り） 間仕切壁面：LGS90下地 石膏ボード t=12.5+9.5張り EP塗装	鉄骨階段プレート表し SOP塗り （鉄部すべてSOP塗り）			
2	階段ホール	セルフレベリング t=12.5 ネダフォーム t=78（洋室用） ラワン合板 t=12捨張り ラワン合板 t=5.5 長尺塩ビシート t=2.0貼り	ソフト巾木 H=60	外壁面：LGS50下地 石膏ボード t=12.5張り ビニルクロス貼り 間仕切壁面：LGS90下地 石膏ボード t=12.5+9.5張り ビニルクロス貼り	LGS下地 化粧石膏ボード張り t=9.5	塩ビ製	2,500	※ビニルクロスは準不燃壁紙とする事。（準不燃：QM－9416）
	前 室	セルフレベリング t=20 ネダフォーム t=78（洋室用） ならフローリング t=12張り	ソフト巾木 H=60	階段室側壁面：LGS90下地 石膏ボード t=12.5+9.5張り ビニルクロス貼り 内壁面：LGS65下地 石膏ボード t=12.5+9.5張り ビニルクロス貼り	LGS下地 化粧石膏ボード張り t=9.5	塩ビ製	2,500	
	会議室	セルフレベリング t=15 ネダフォーム t=40（和室用） 畳敷き t=55	タタミ寄せ	外壁面：LGS50下地 石こうボード t=12.5張り ビニルクロス貼り 内壁面：LGS65下地 石膏ボード t=12.5+9.5張り ビニルクロス貼り	LGS下地 化粧石膏ボード張り t=9.5	塩ビ製	2,500	※ビニルクロスは準不燃壁紙とする事。（準不燃：QM－9416）
	待機室	セルフレベリング t=15 ネダフォーム t=40（和室用） 畳敷き t=55 一部：セルフレベリング t=20 ネダフォーム t=78（洋室用） ならフローリング t=12張り	タタミ寄せ	外壁面：LGS50下地 石膏ボード t=12.5張り ビニルクロス貼り 内壁面：LGS65下地 石膏ボード t=12.5+9.5張り ビニルクロス貼り	LGS下地 化粧石膏ボード張り t=9.5	塩ビ製	2,500	
	湯沸室 （火気使用室）	セルフレベリング t=12.2 ネダフォーム t=78（洋室用） ラワン合板 t=12捨張り ラワン合板 t=5.5 クッションフロア t=2.3貼り	ソフト巾木 H=60	外壁面：LGS50下地 石膏ボード t=12.5張り ビニルクロス貼り 内壁面：LGS65下地 石膏ボード t=12.5+9.5張り ビニルクロス貼り 流し前：LGS50下地 ケイカル板 t=6.0 捨貼り 化粧ケイカル板 t=6.0張り	LGS下地 化粧石膏ボード張り t=9.5	塩ビ製	2,500	流し台：L=1500、ガス台：L=700、吊戸棚L=1200+300、レンジフード ※ビニルクロスは準不燃壁紙とする事。（準不燃：QM－9416） ※化粧ケイカル板 t=6.0及びケイカル板 t=6 （不燃 NM-3468）
	トイレ	セルフレベリング t=12.5 ネダフォーム t=78（洋室用） ラワン合板 t=12捨張り ラワン合板 t=5.5 超防汚性ビニル床シート t=2.0 貼り	ソフト巾木 H=60	LGS65下地 石膏ボード t=12.5+9.5張り	LGS下地 化粧石膏ボード張り t=9.5	塩ビ製	2,500	
	脱衣室	セルフレベリング t=12.2 ネダフォーム t=78（洋室用） ラワン合板 t=12捨張り ラワン合板 t=5.5 クッションフロア t=2.3貼り	ソフト巾木 H=60	外壁面：LGS50下地 石膏ボード t=12.5張り ビニルクロス貼り 内壁面：LGS65下地 石膏ボード t=12.5+9.5張り ビニルクロス貼り	LGS下地 化粧石膏ボード張り t=9.5	塩ビ製	2,400	木製棚（中段）
	シャワー室	シャワーユニットの仕様による		シャワーユニットの仕様による	シャワーユニットの仕様による		2,030 （参考数値）	シャワーユニット 0808型
	物 入	セルフレベリング t=20 ネダフォーム t=78（洋室用） ラワン合板 t=12張り	雑巾摺	外壁面：LGS50下地 ラワン合板 t=12張り 階段室側壁面：LGS90下地 石膏ボード t=12.5+9.5張り 内壁面：LGS65下地 ラワン合板 t=12張り	LGS下地 石膏ボード張り t=9.5	塩ビ製	2,400	中段、枕棚
共通	階 段	踏面・踊り場：モルタルt=30下地 ビニル床シート t=2.0 貼り	蹴上・ササrah SOP塗り	外壁面：LGS50下地 石膏ボード t=12.5張り ビニルクロス貼り 間仕切壁面：LGS90下地 石膏ボード t=12.5+9.5張り ビニルクロス貼り	LGS下地 化粧石膏ボード張り t=9.5	塩ビ製		※ビニルクロスは準不燃壁紙とする事。（準不燃：QM－9416） 段鼻：アルミノンスリップ（既製品） 階段木目調ビニル手摺（既製品）

										工事名		御所市消防団第8分団消防車庫改築工事										設計図		図面番号		A - 15					
										図 名		仕 上 表										縮尺		一		作成日		年 月 日		確認印	
												【確認申請兼用】												変更日		年 月 日					
																								承認日		年 月 日					

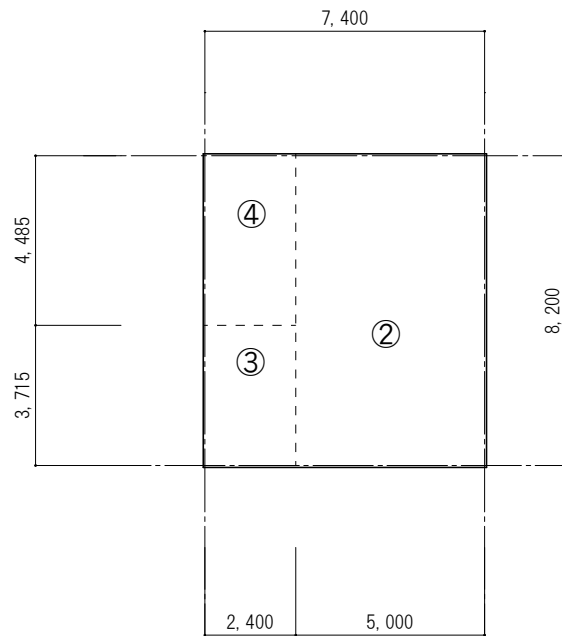


換気エリア図

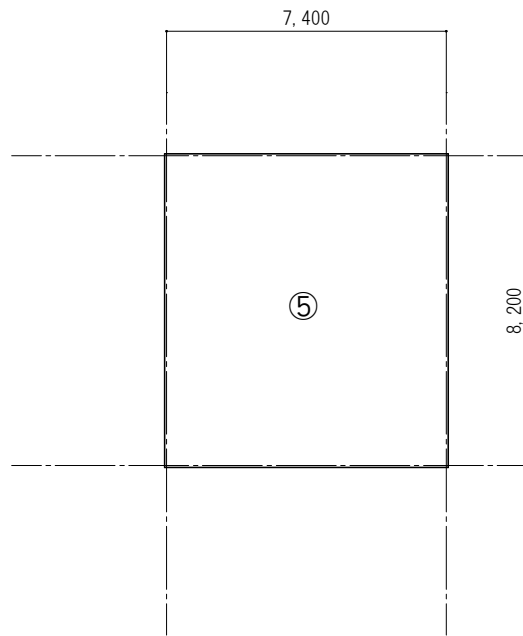
凡 例	
	換気扇(24H換気)
	自然給気口
	換気エリア



建築面積求積図 S=1/200



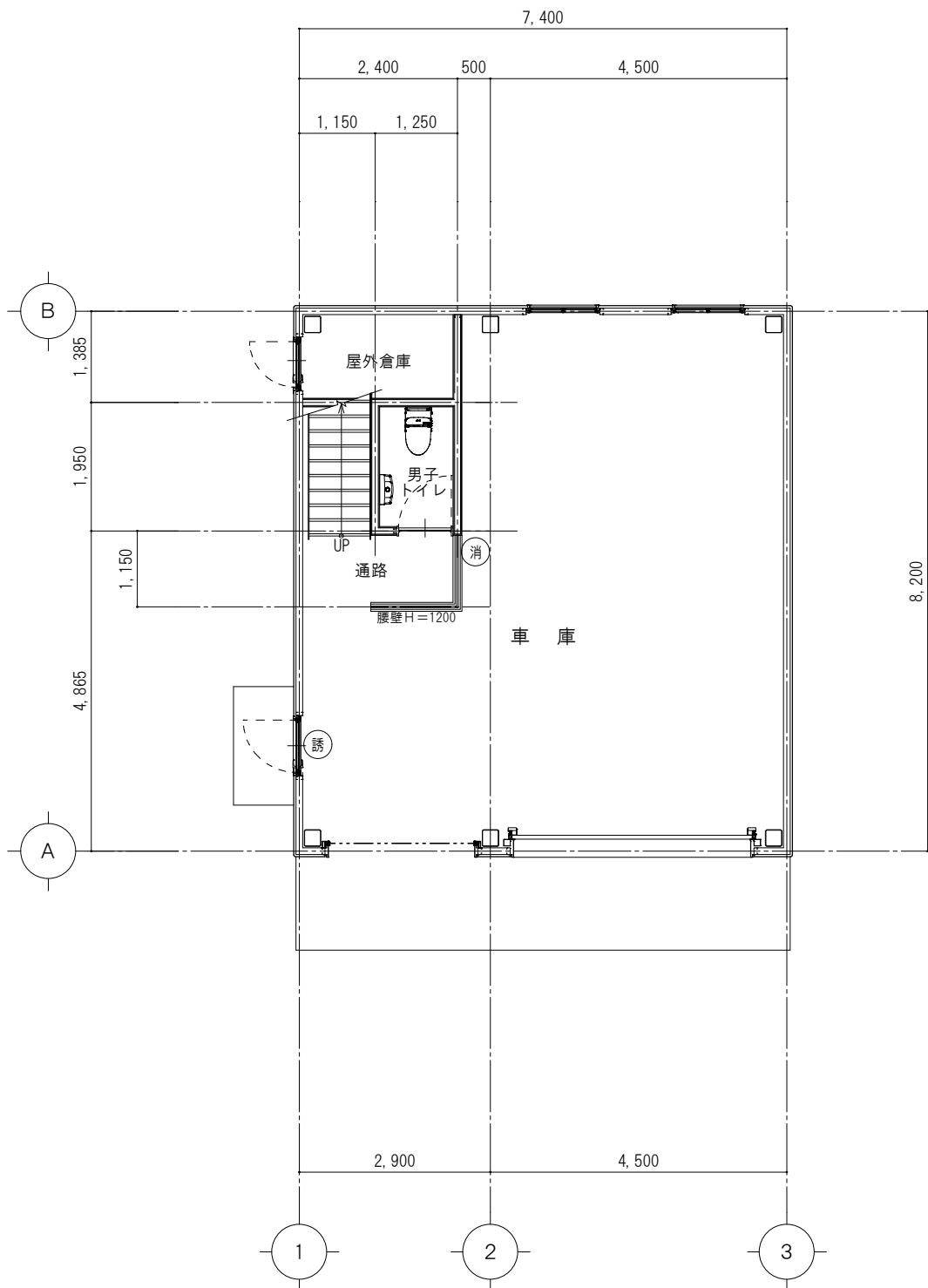
1階床面積求積図 S=1/200



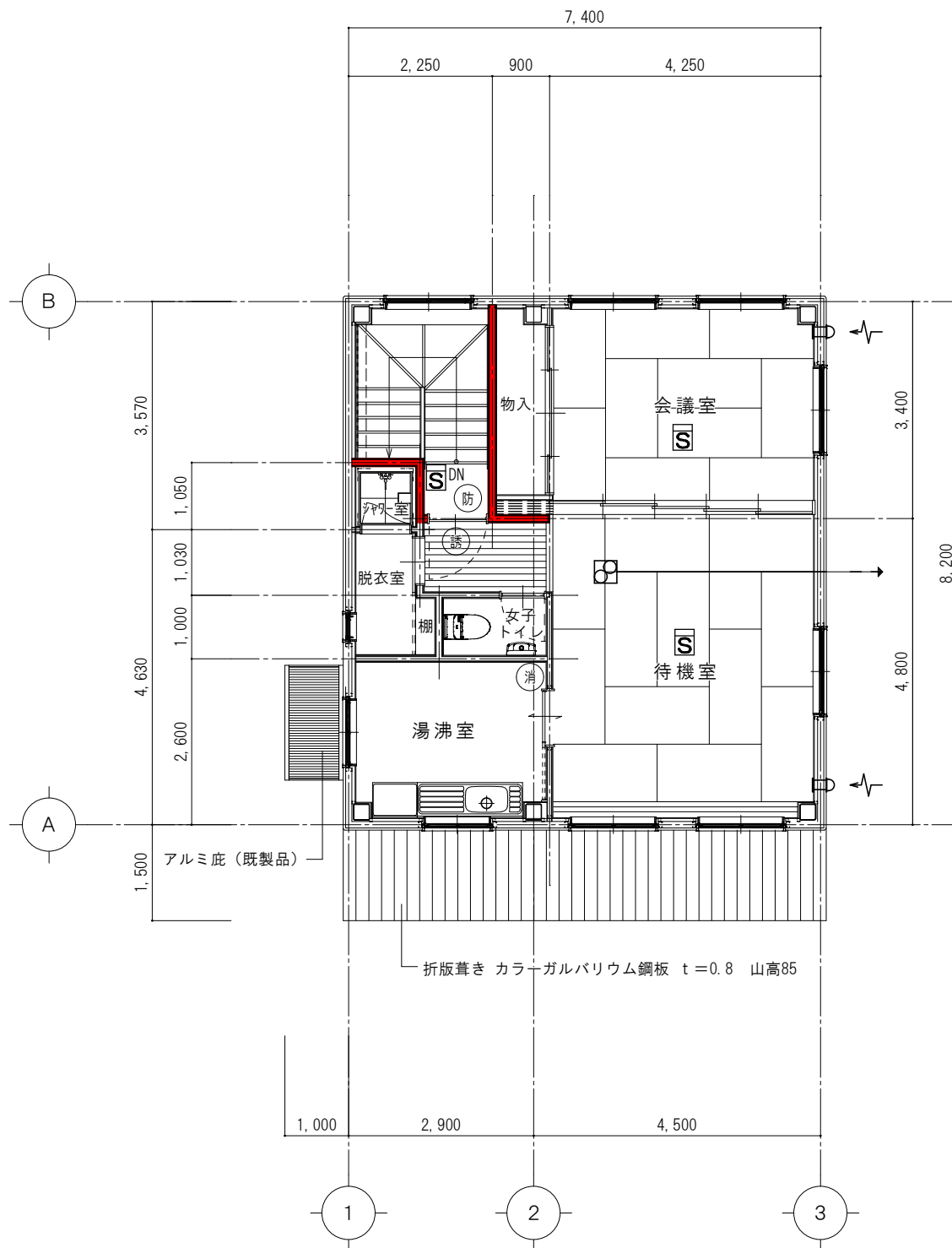
2階床面積求積図 S=1/200

床面積算定図		
①	7.400 × 8.200	60.680000
②	5.000 × 8.200	41.000000
③	2.400 × 3.715	8.916000
④	2.400 × 4.485	10.764000
⑤	7.400 × 8.200	60.680000
⑥	7.400 × 0.500	3.700000
建築面積	①+⑥	= 64.3800 64.38 m ²
床面積	1階部分	②+③+④ = 59.9400 60.68 m ²
	2階部分	⑤ = 60.6800 60.68 m ²
延床面積	②+③+④+⑤	=121.3600 121.36 m ²
車庫面積	②+③	= 49.9160 49.92 m ²

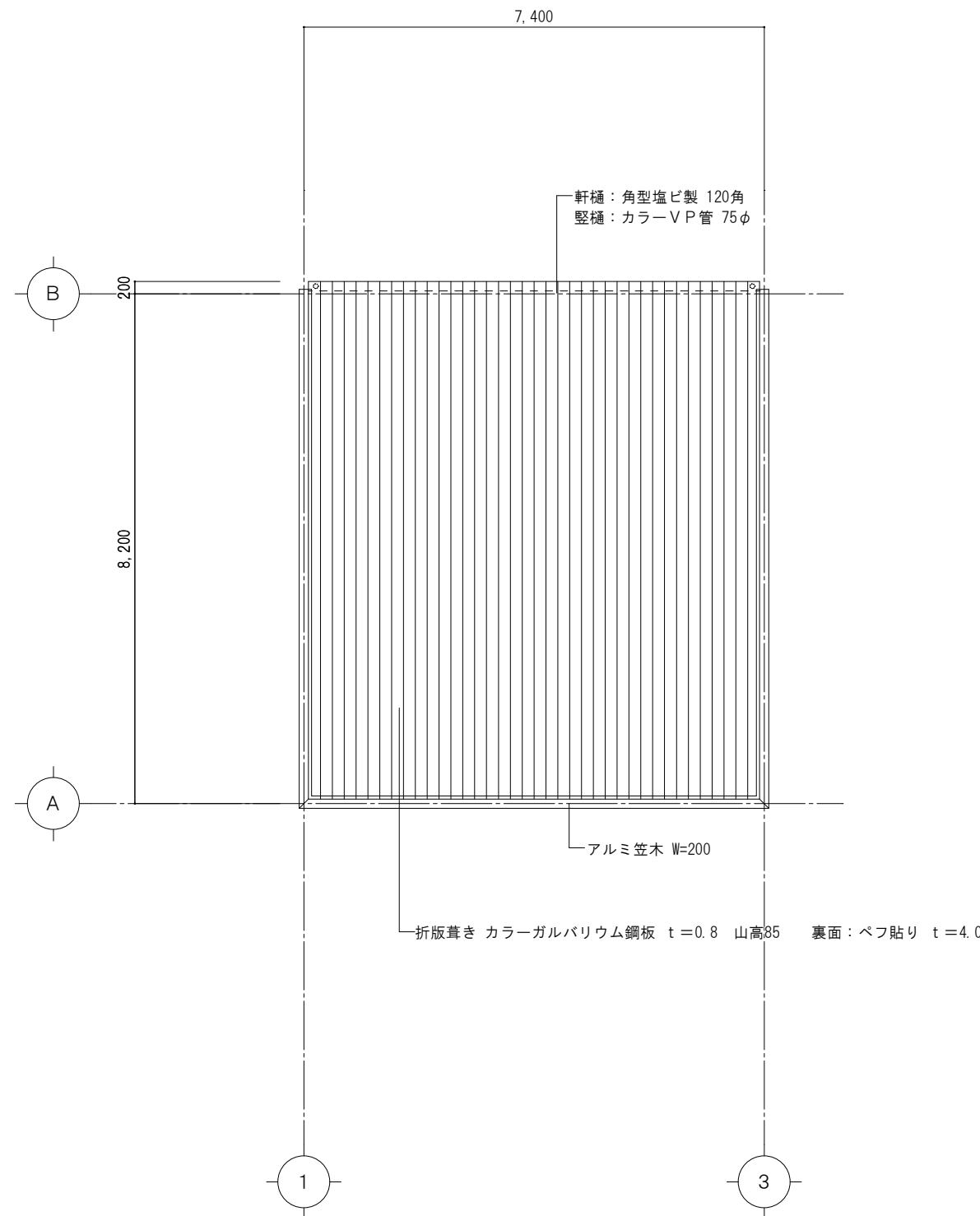
延べ床面積:121.36 m² / 5 =24.272 m²は容積率から除外
容積率対象床面積: 97.088 m²



1階平面図 S=1/100

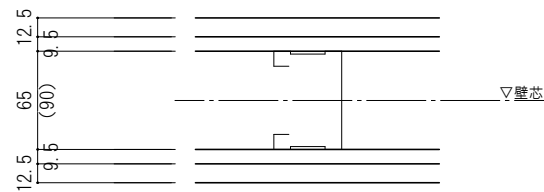


2階平面図 S=1/100



屋根伏図 S=1/100

凡 例			
	換気扇(24H換気)		A B C 消火器 10型 (蓄圧式)
	自然給気口		蓄光誘導標識
	法第2条第九号の二に規定する防火設備		
	準耐火構造壁 (小屋裏まで) 国土交通省告示1358号第1(一)ハ1(ii) LGS下地 PB厚12.5+9.5 両面貼り (右図による)		煙式住宅用防災警報器 ※壁から60cm以上、換気扇・1720から1.5m以上離す 壁付けの場合は、天井面より警報器の中心まで15cm～50cm以内に設置する



準耐火構造壁 詳細図 S=1/5

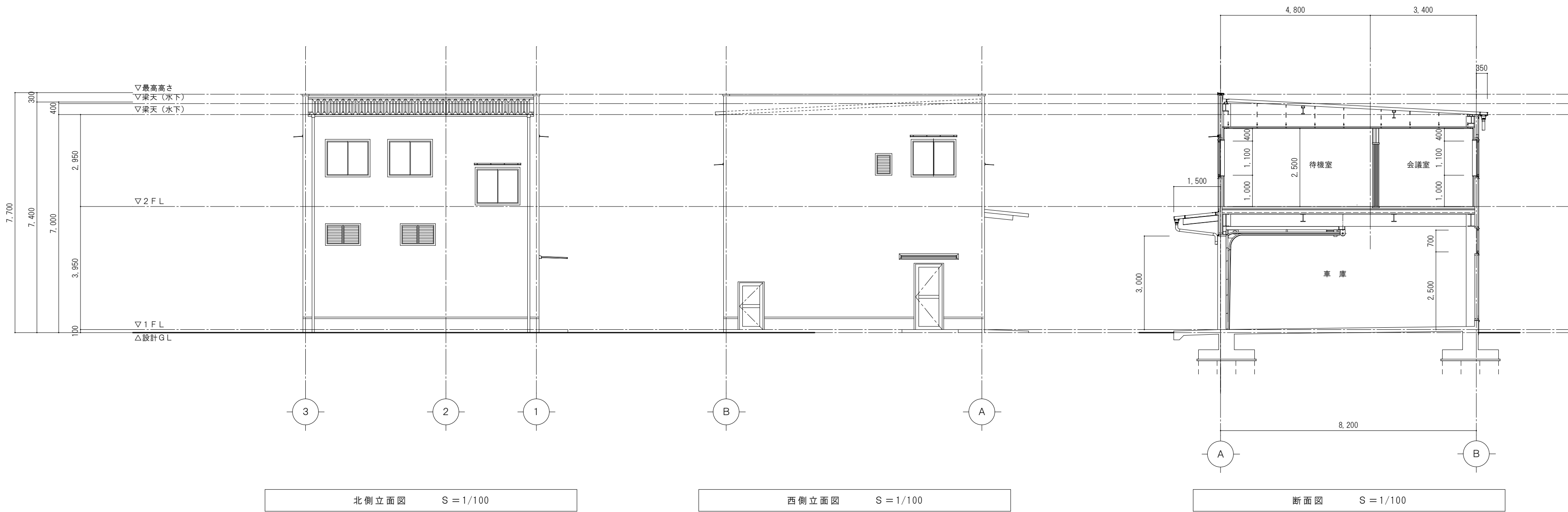
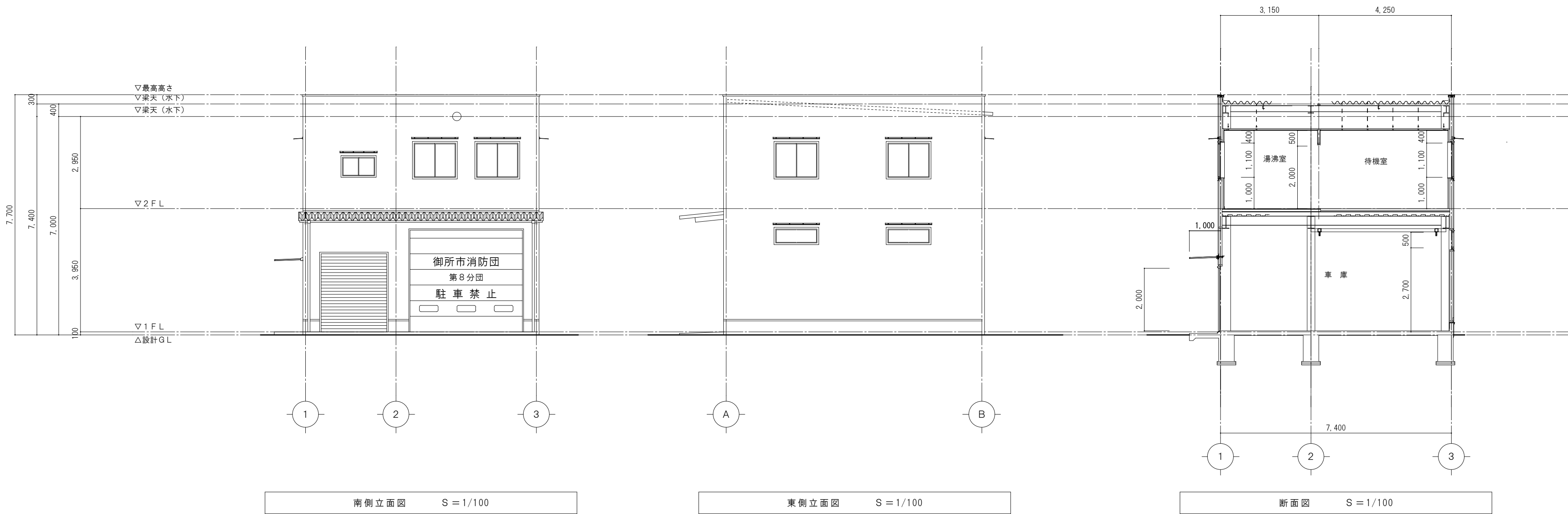
階段寸法	
有効幅	803.5
蹴上	204.74
踏面	225


会議室 ALVS表	
A : 4.25×3.40	=14.45 m ²
L : 1.30×1.10×3	= 4.29 m ²
V : 1.30×1.10×3×0.5	= 2.145 → 2.14 m ²
S : 1.30×0.40×3×0.5	= 0.78 m ²

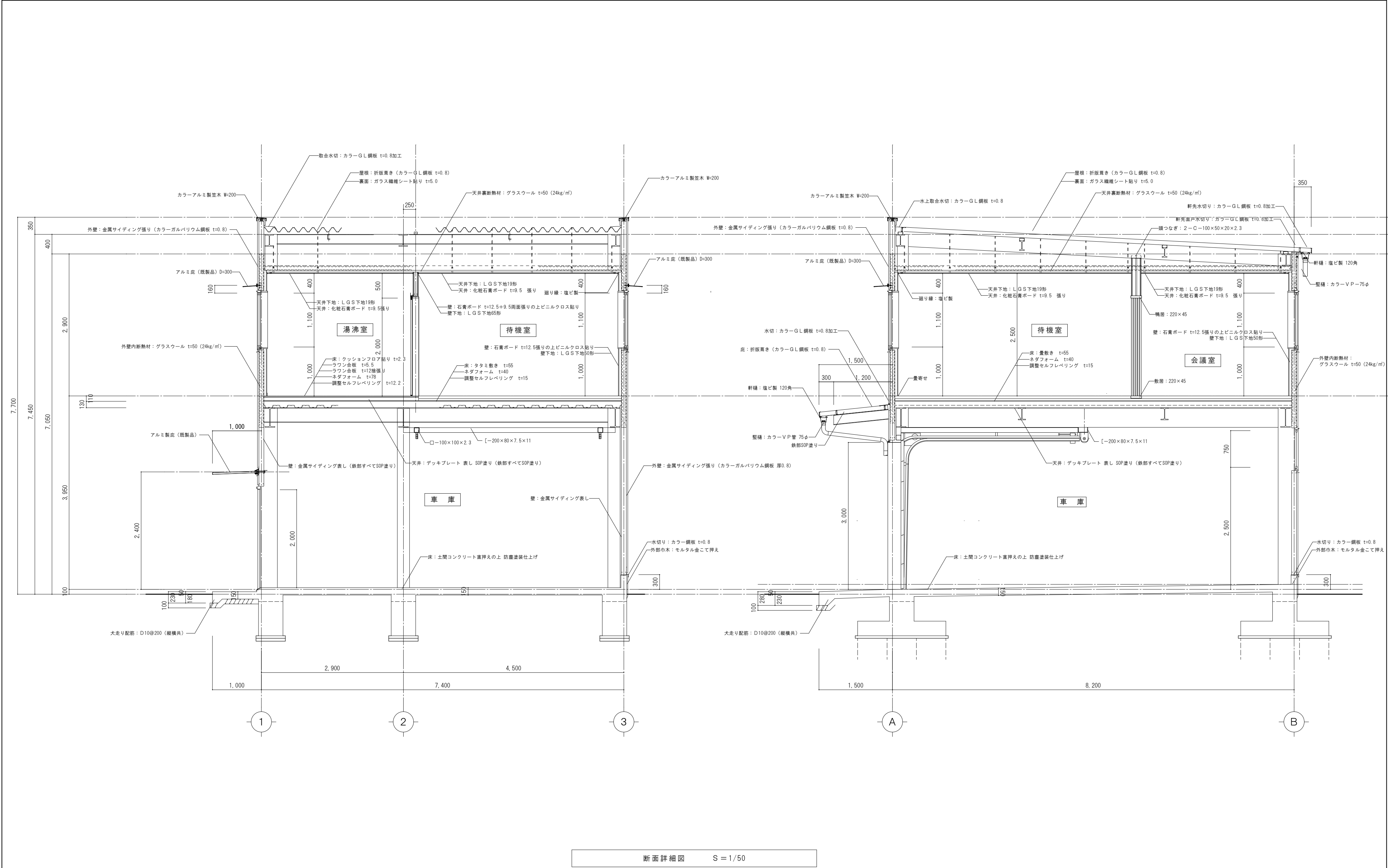
待機室 ALVS表	
A : 4.25×4.80	=20.40 m ²
L : 1.30×1.10×3	= 4.29 m ²
V : 1.30×1.10×3×0.5	= 2.145 → 2.14 m ²
S : 1.30×0.40×3×0.5	= 0.78 m ²

湯沸室 ALVS表	
A : 3.15×2.60	= 8.19 m ²
L : 1.00×1.10+1.0×0.6	= 1.70 m ²
V : (1.00×1.10+1.0×0.6) ×0.5	= 0.85 m ²
S : 1.00×0.40×0.5	= 0.20 m ²

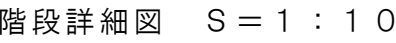
御所市消防団第8分団消防車庫改築工事				設計図	図面番号
各階平面図・屋根伏図				縮尺 1/100	作成日 年 月 日
【確認申請兼用】				確認日 年 月 日	確認印
総合企画、建築設計、監理 株式会社 中谷設計				一級建築士事務所 奈良県知事登録 2020(ハ)第1421号 一級建築士 174531号 中谷芳一	




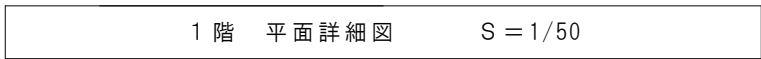
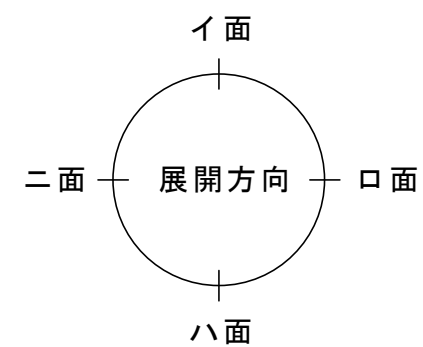
工事名			御所市消防団第8分団消防車庫改築工事			設計図		図面番号		
図名			立面図・断面図		縮尺		1/100		作成日	
							年		月	
							日		確認印	
			【確認申請兼用】				変更日			
							(表紙)		年	
							月		日	
			総合企画、建築設計、監理		株式会社		中和設計		一級建築士事務所 奈良県知事登録 2020 (へ) 第1421号	
									一級建築士 174531号 中谷芳一	




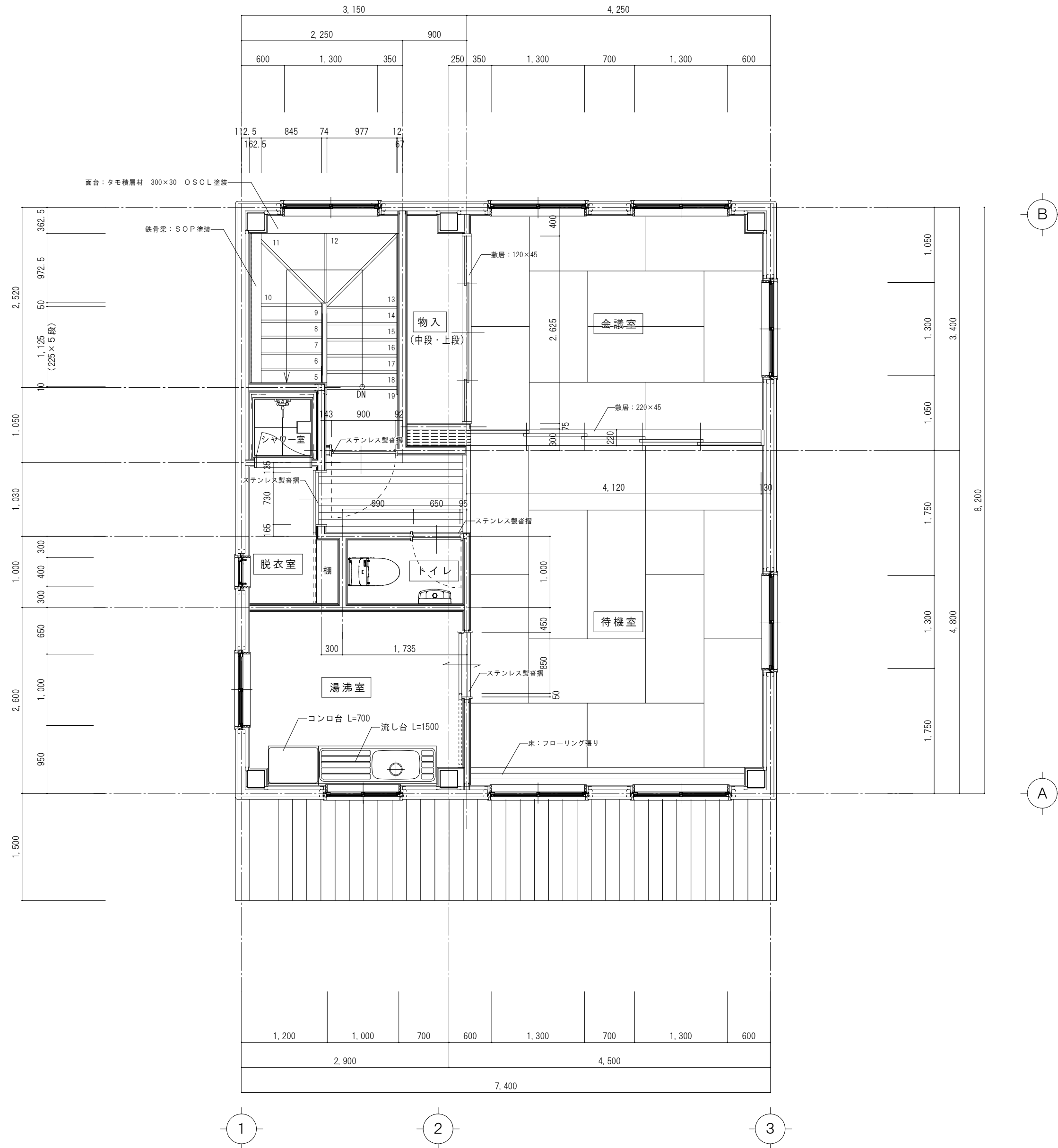
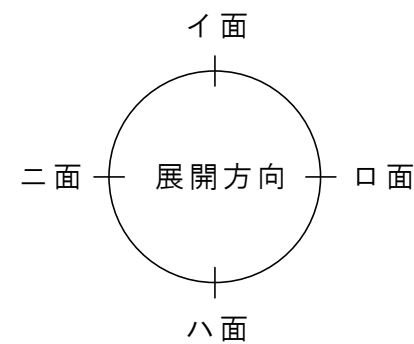
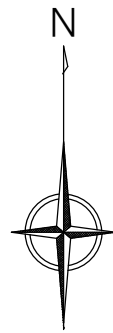
※ S O P 塗装は防火塗料とする事。（準不燃：QM－9 8 1 6）	工事名 御所市消防団第 8 分団消防車庫改築工事			設計図		図面番号 A - 18	
※ E P 塗装は防火塗料とする事。（準不燃：QM－9 8 1 6）	図 名 断面詳細図		縮尺 1/50	作成日 年 月 日		確 認 印	
※ ビニルクロスは準不燃壁紙とする事。（準不燃：QM－9 4 1 6）				発注日 年 月 日			
			総合企画、建築設計、監理 株式会社 中環設計		一級建築士事務所 奈良県知事登録 2020 (ハ) 第1421号 一級建築士 174531号 中谷芳一		



※ S O P 塗装は防火塗料とする事。(準不燃: Q M - 9 8 1 6)	工事名		御所市消防団第 8 分団消防車庫改築工事		図面番号	A - 19	
※ E P 塗装は防火塗料とする事。(準不燃: Q M - 9 8 1 6)	図 名		階段詳細図		縮尺	1/30・1/10	
※ ビニルクロスは準不燃壁紙とする事。(準不燃: Q M - 9 4 1 6)					作成日	生 月 日	
※ 図中 / 印はシーリングを示す。					実測日 (最終)	生 月 日	
 総合企画、建築設計、監理 株式会社 中環設計			一級建築士事務所 奈良県知事登録 2020 (ハ) 第1421号 一級建築士 174531号 中谷芳一				

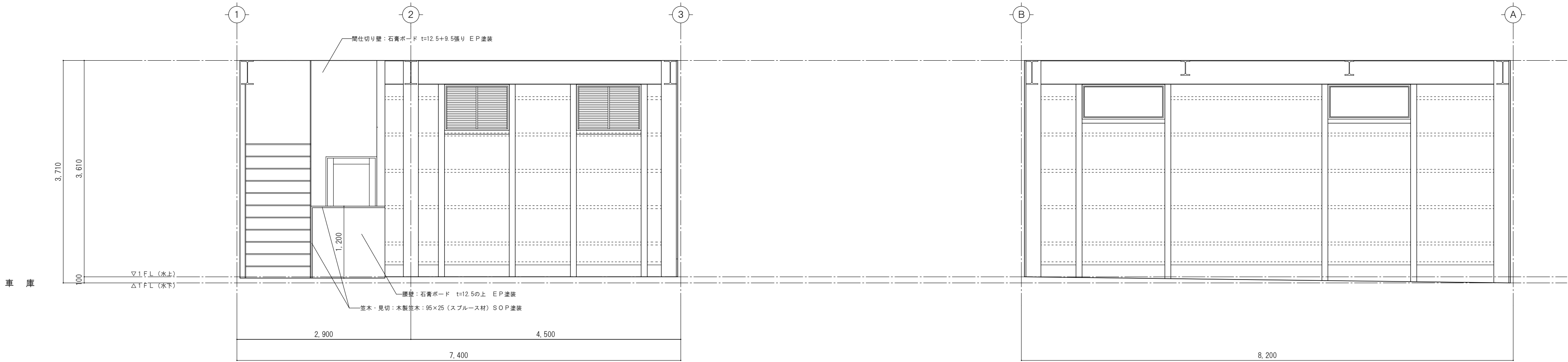


工事名			御所市消防団第8分団消防車庫改築工事			設計図			図面番号		
図名			1階平面詳細図			縮尺			1/50		
						作成日			年 月 日		
						変更日 (最終)			年 月 日		
 総合企画、建築設計、監理 株式会社 中和設計			一級建築士事務所 奈良県知事登録 2020 (入) 第1421号 一級建築士№174531号 中谷芳一								



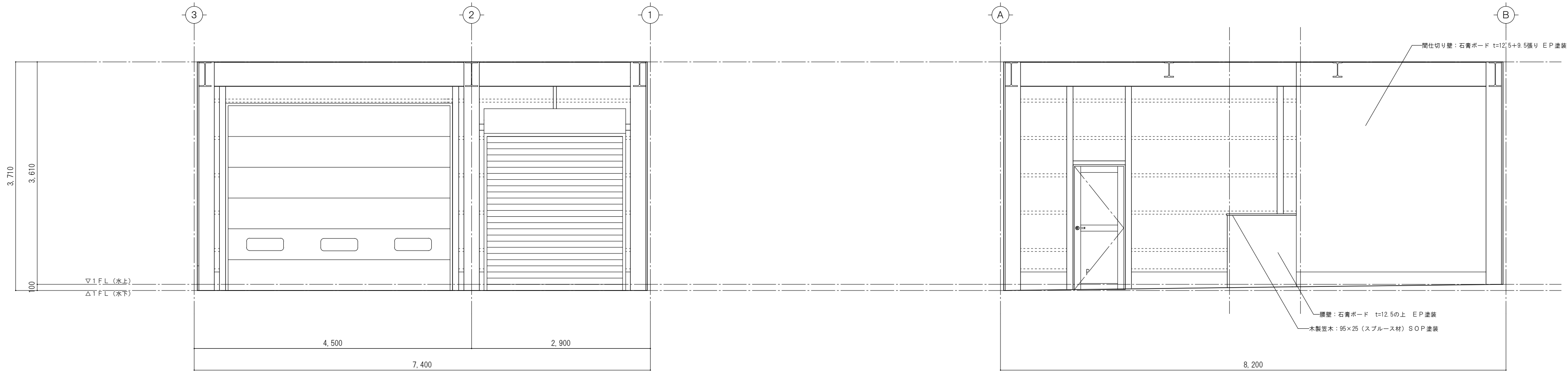
2階 平面詳細図 S=1/50

工事名 御所市消防団第8分団消防車庫改築工事				設計図		図面番号 A - 21
図名 2階 平面詳細図		縮尺 1/50	作成日 年 月 日	確認印		
総合企画、建築設計、監理 株式会社 中谷設計		一級建築士事務所 奈良県事務所 2020 (へ) 第1421号	年 月 日			
		一級建築士 174531号 中谷芳一				



イ 面

ロ 面



ハ 面

ニ 面

車 庫	
床	スラブコンクリート直押えの上 防塵塗装仕上げ
巾木	コンクリート打放しのまま H=300
壁	金属サイディング（外壁）表し（鉄部すべてSOP塗装）
天井	デッキプレート 表し SOP塗り

※ 特記なき限り上記の仕上げとする

※ S O P 塗装は防火塗料とする事。（準不燃：QM－9 8 1 6）	工事名 御所市消防団第 8 分団消防車庫改築工事			設計図	図面番号 A - 22
※ E P 塗装は防火塗料とする事。（準不燃：QM－9 8 1 6）	図 名 展開図（1）		縮尺 1/50	作成日 年 月 日 （蓋印） 年月日	確 認 印
■■■■ 総合企画、建築設計、監理 株式会社 中利設計			一般建築士事務所 奈良県知事登録 2020（へ）第1421号 一般建築士証174531号 中谷芳一		

男子トイレ

2,400

30

ΔTFL (床下)

1,100

1,950

1,100

1,950

イ 面

ロ 面

ハ 面

ニ 面

男子トイレ		CH=2,400	
床	エポキシ樹脂塗床 (厚膜・防滑仕上げ) t=3.0		
巾木	床材と同様 H=300		
壁	シーリング石膏ボード t=12.5+9.5張り ビニルクロス貼		
天井	化粧石膏ボード張り t=9.5		

※ 特記なき限り上記の仕上げとする

屋外倉庫

30

ΔTFL (床下)

2,400

1,385

2,400

1,385

イ 面

ロ 面

ハ 面

ニ 面

間仕切り壁：石膏ボード t=12.5+9.5張り EP塗装

間仕切り壁：石膏ボード t=12.5+9.5張り EP塗装

1

B

1

B

車 庫	
床	モルタル金こて押え
巾木	コンクリート打放しのまま H=300
壁	金属サイディング (外壁) 表し (鉄部すべてSOP塗装)
天井	鉄骨階段プレート表し SOP塗り

※ 特記なき限り上記の仕上げとする

※ SOP塗装は防火塗料とする事。(準不燃：QM-9816)

※ EP塗装は防火塗料とする事。(準不燃：QM-9816)

※ ビニルクロスは準不燃壁紙とする事。(準不燃：QM-9416)

工事名

御所市消防団第8分団消防車庫改築工事

設計図

図 名

展開図 (2)

縮尺

1/50

作成日

年 月 日

実施日

年 月 日

総合企画、建築設計、監理

株式会社 中谷設計

一級建築士事務所

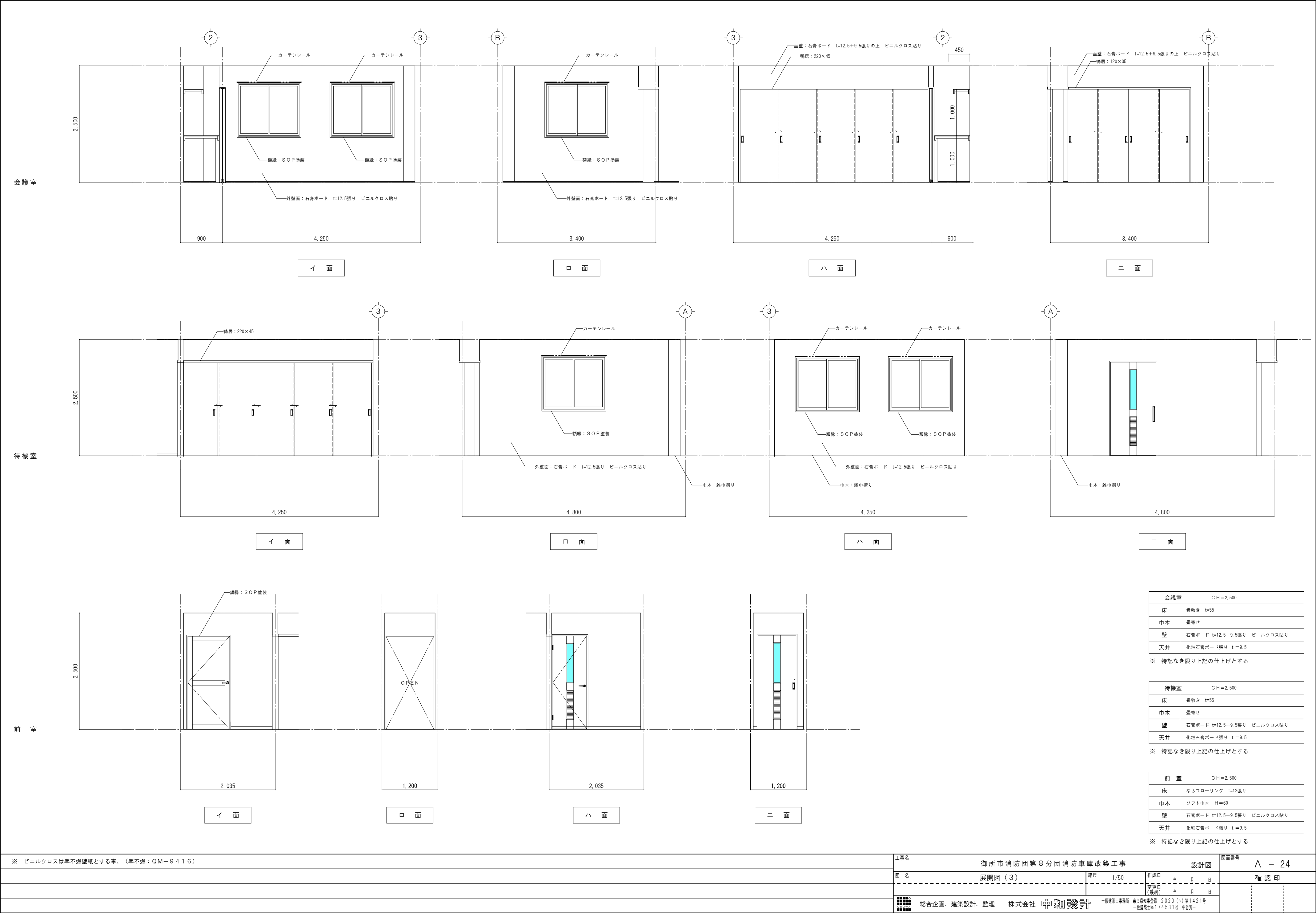
奈良県知事登録 2020 (へ) 第1421号

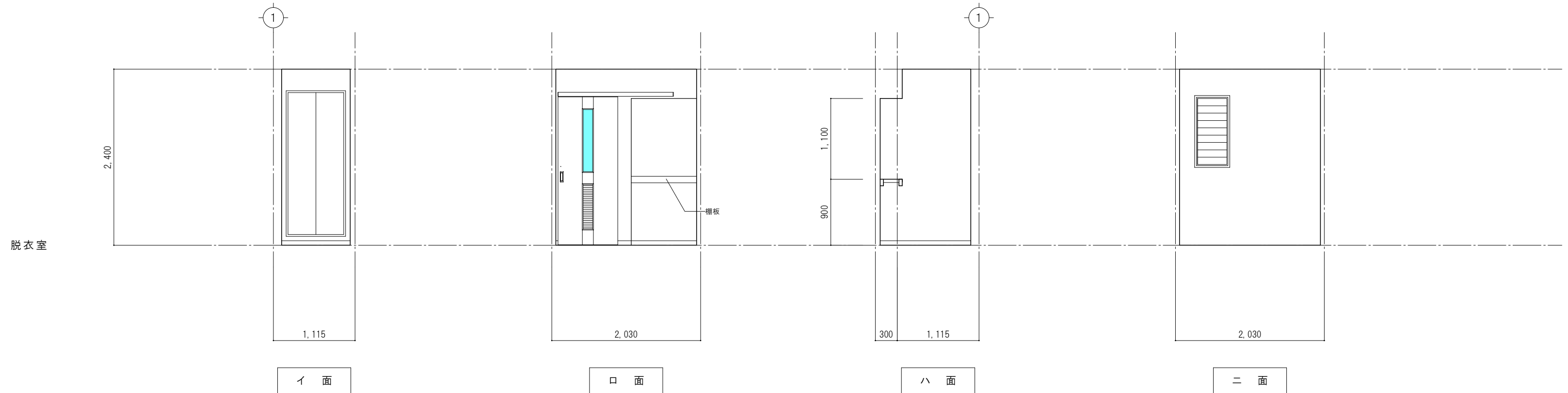
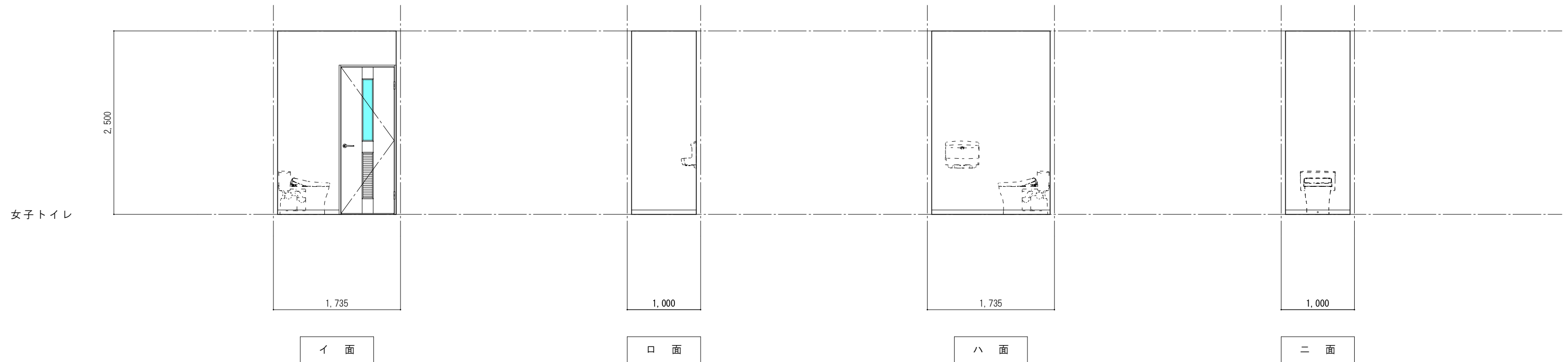
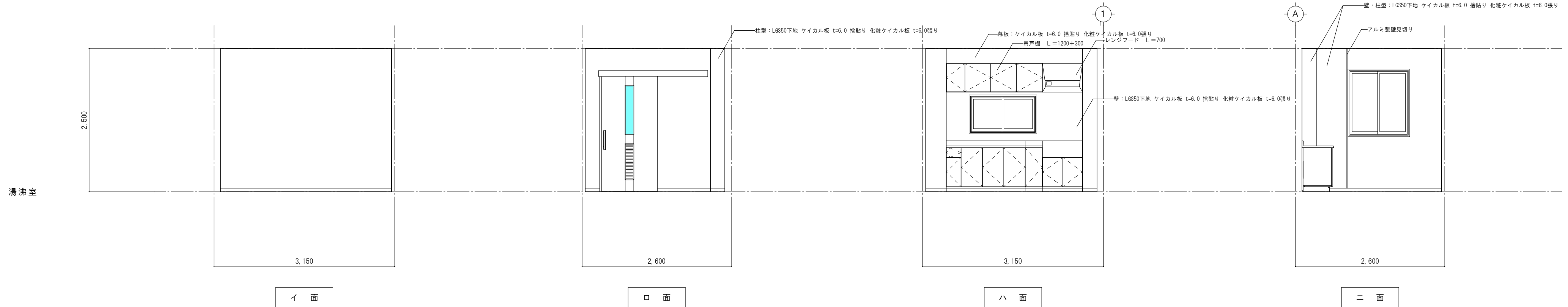
一級建築士 №174531号 中谷芳一

図面番号

A - 23

確認印





湯沸室		CH=2.500	
床	クッションフロア	t=2.3	貼り
巾木	ソフト巾木	H=60	
壁	石膏ボード	t=12.5+9.5張り	ビニルクロス貼り
天井	化粧石膏ボード張り	t=9.5	

※ 特記なき限り上記の仕上げとする


女子トイレ		CH=2,500	
床	超防汚性ビニル床シート t=2.0 貼り		
巾木	ソフト巾木 H=60		
壁	石膏ボード t=12.5+9.5張り ビニルクロス貼り		
天井	化粧石膏ボード張り t=9.5		

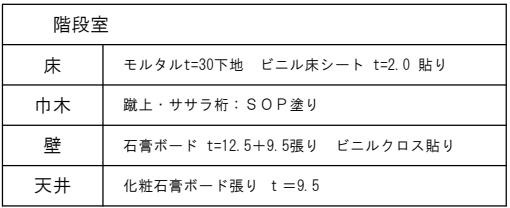
※ 特記なき限り上記の仕上げとする

脱衣室		C H=2, 400
床	クッションフロア t=2.3貼り	
巾木	ソフト巾木 H=60	
壁	石膏ボード t=12.5+9.5張り ビニルクロス貼り	
天井	化粧石膏ボード張り t=9.5	

※ 特記なき限り上記の仕上げとする

※ ビニルクロスは準不燃壁紙とする事。(準不燃：QM-9416)

工事名 御所市消防団第8分団消防車庫改築工事		設計図		図面番号 A - 25
図名 展開図(4)	縮尺 1/50	作成日 年 月 日	確認印	
		変更日 (最終) 年 月 日		
 総合企画、建築設計、監理 株式会社 中興設計		一般建築士事務所 奈良県知事登録 2020 (ハ) 第1421号 一般建築士 174531号 中島芳一		



※ 特記なき限り上記の仕上げとする

※ ビニルクロスは準不燃壁紙とする事。(準不燃：QM-9416)

設計図

A - 26

縮尺 1/50

作成日

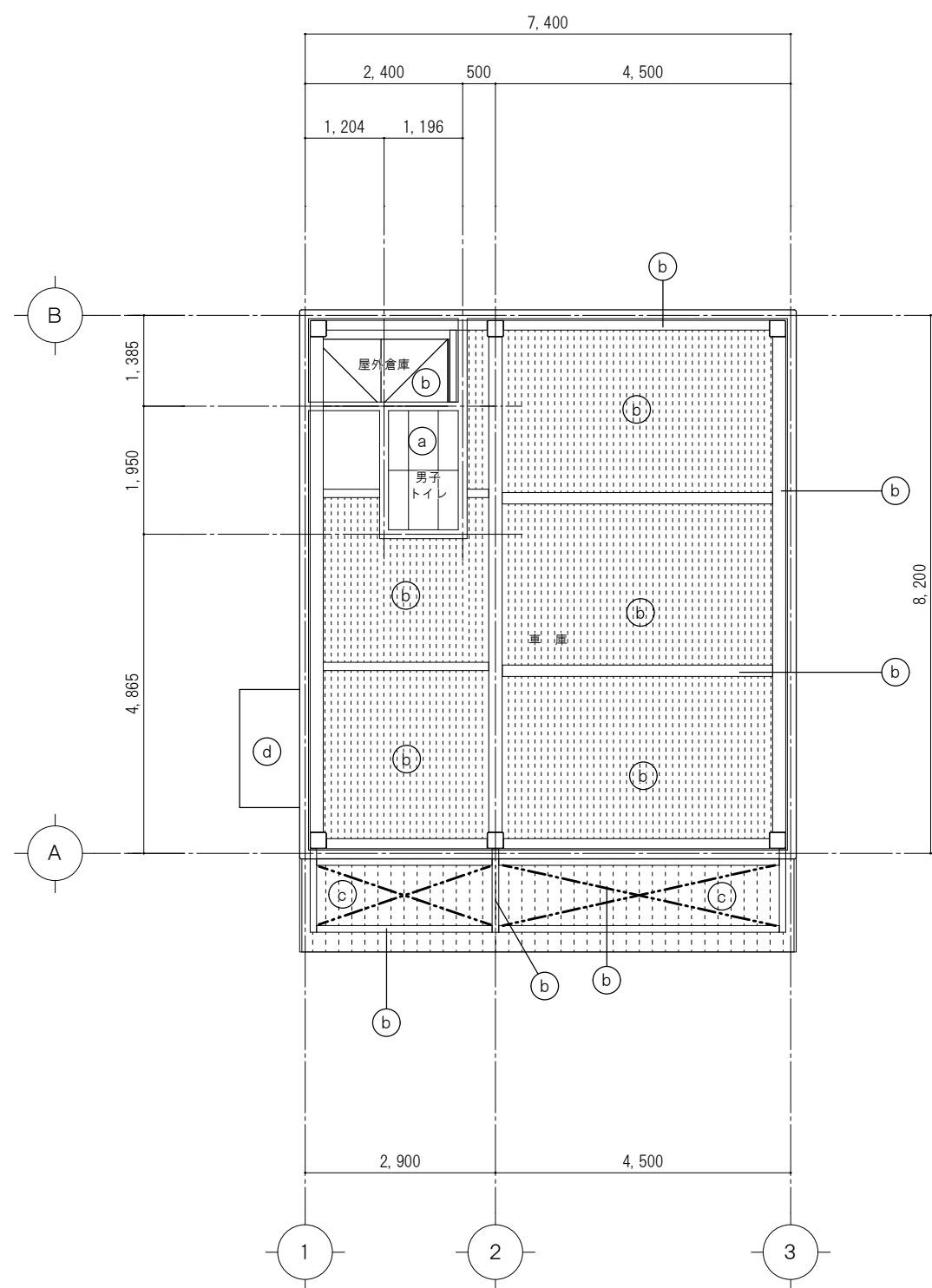
確認印

CHUWA

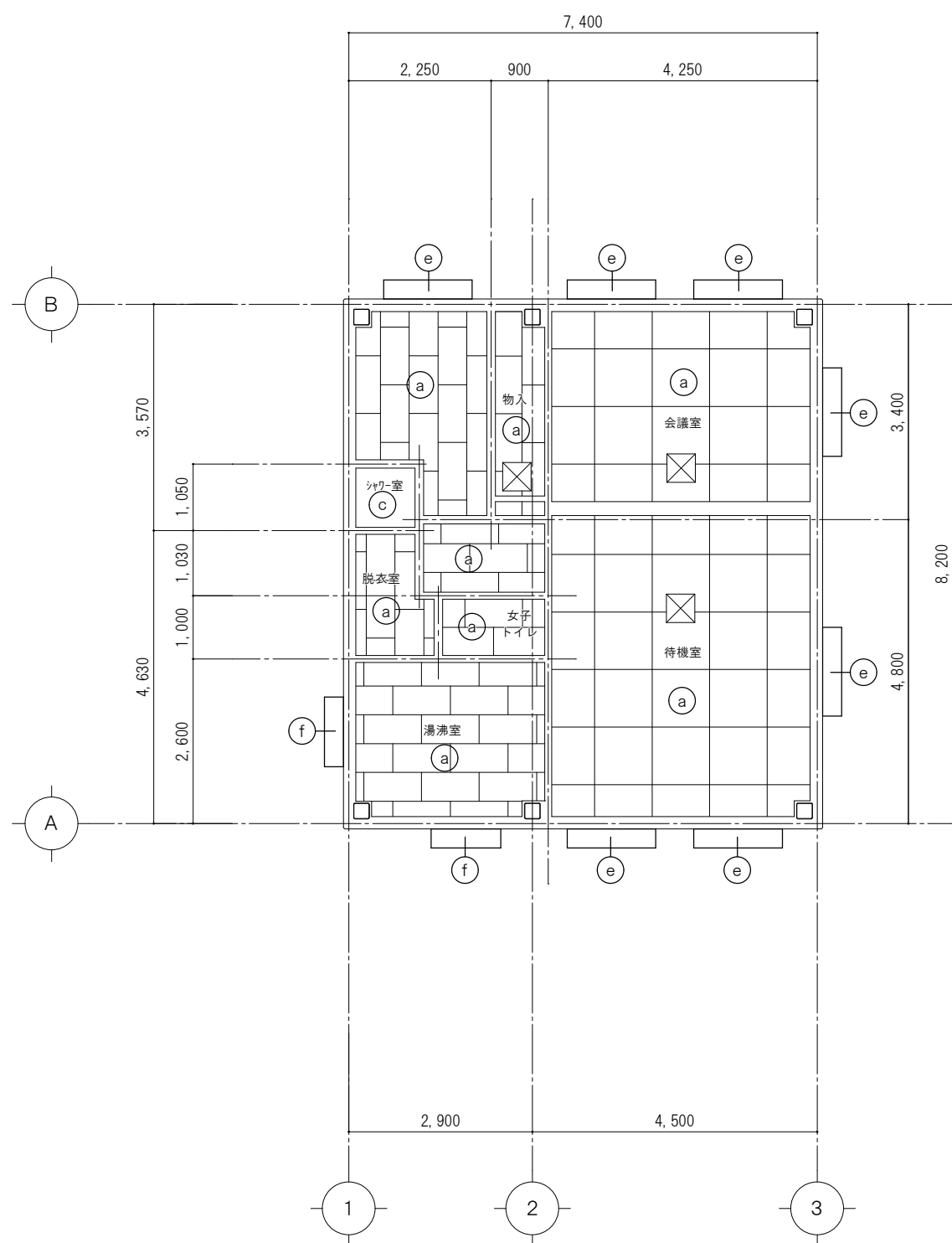
総合企画、建築設計、監理 株式会社 由利設計

一級建築士事務所 奈良県知事登録 2020(へ)第1421号
 代表取締役 174521号 大谷 芳

一級建築士事務所 奈良県知事登録 2020(ハ)第1421号
一級建築士 174531号 中谷芳一

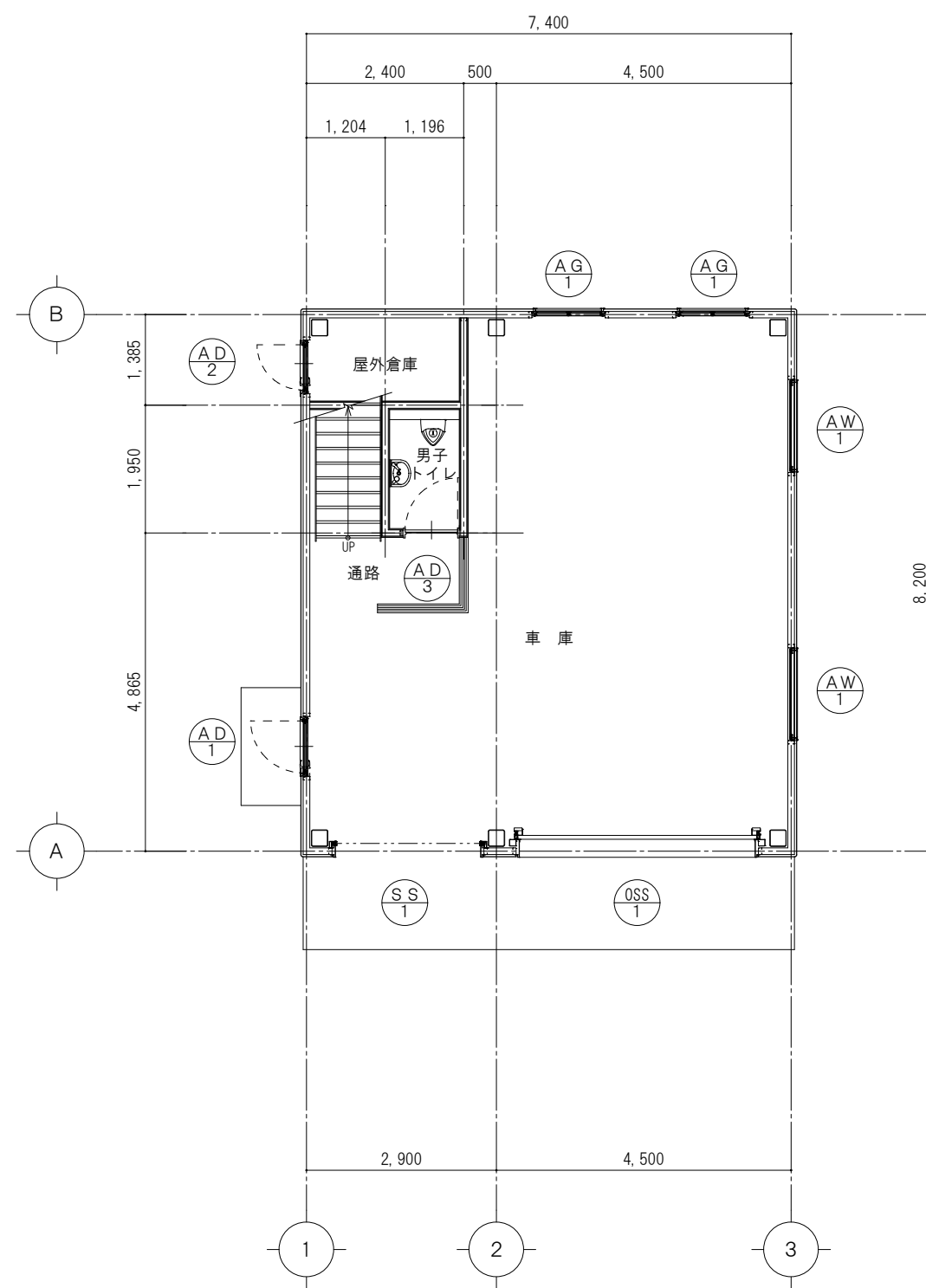
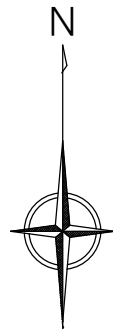


1 階天井伏図 S = 1/100

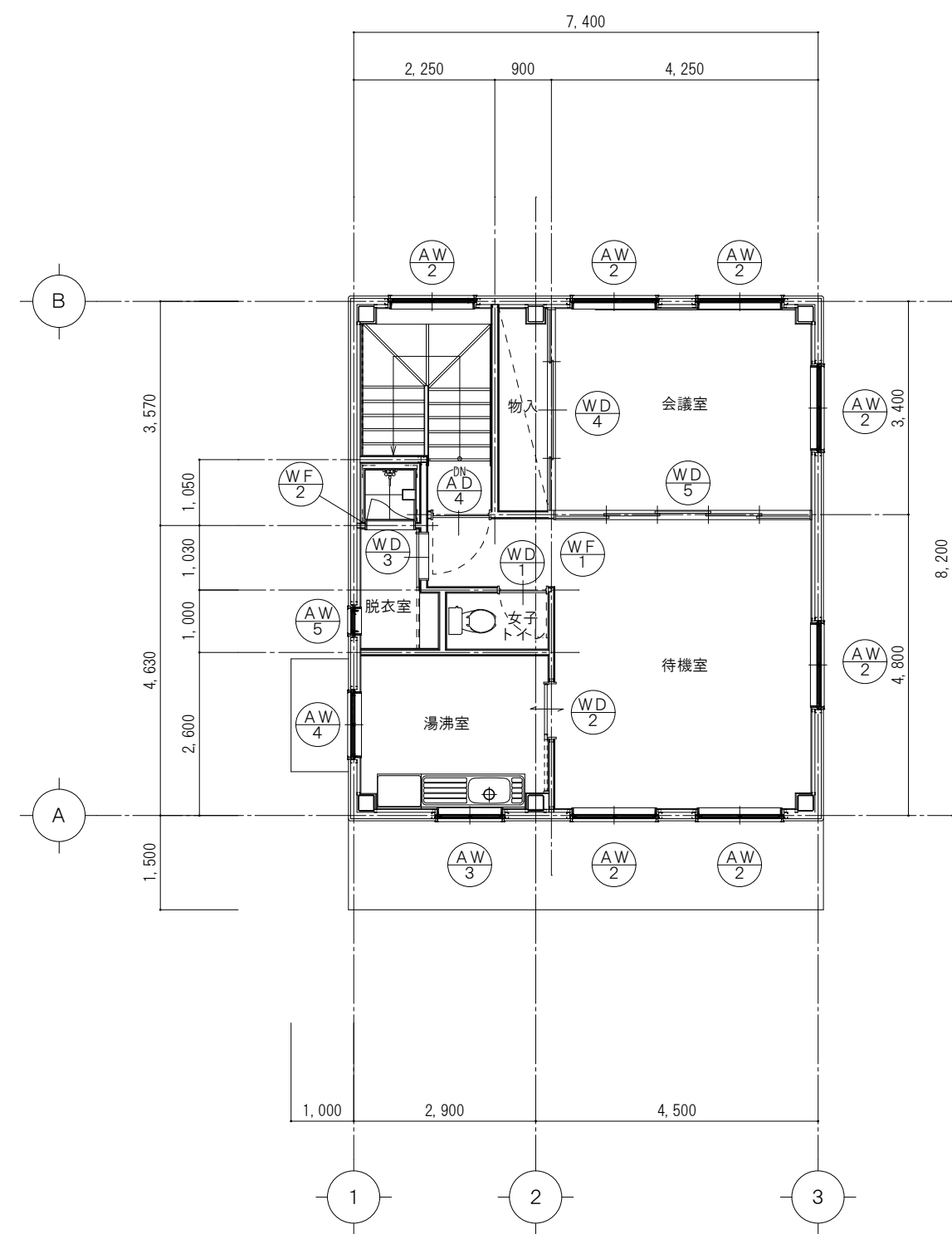


2 階天井伏図 S = 1/100

天井伏図 凡例				
符号	仕 上	天井下地	廻り縁	備 考
(a)	化粧石膏ボード t=9.5	LGS下地	塩ビ製	
(b)	SOP塗り (デッキプレート裏・鉄骨梁等見え掛かり全て)			
(c)	屋根材のまま			
(d)	アルミ庇 (アルフィン: AD2 同等品以上) 1800×1000			
(e)	アルミ庇 (アルフィン: AF93同等品以上) 1400×300			
(f)	アルミ庇 (アルフィン: AF93同等品以上) 1100×300			
☒	天井点検口: 450角			



1 階建具キープラン図 S = 1/100



2 階建具キープラン図 S = 1/100

工事名			御所市消防団第8分団消防車庫改築工事			設計図		図面番号		A - 28				
図名			建具キープラン図		縮尺		1/100		作成日		年 月 日		確認印	
									変更日		年 月 日			
									実測日		年 月 日			

符 号	<div>OS1</div> オーバースライディングシャッター	<div>SS1</div> 軽量バランスシャッター	<div>AD1</div> アルミ製片開き戸	<div>AD2</div> アルミ製片開き戸	<div>AD3</div> アルミ製片開き戸	<div>AD4</div> アルミ製片開き戸（防火設備）		
姿 図			 ※内装無の為、塞ぎアングル必要					
位 置	車 庫		車 庫	屋外倉庫	男子トイレ	階段室		
見込 数量	5 0	1		7 0	1	7 0	1	
仕 上	溶融亜鉛メッキ鋼板 t=0.5（標準塗装品）		カラー鋼板（スラット t=0.5mm）焼付塗装	アルミ カラー	アルミ カラー	アルミ カラー	アルミ カラー	
金 物	自動ロック式・附属金物一式		シャッターケース（角形）・ガイドレール・座板・施錠金物・付属金物一式	レバーハンドル、丁番、シリンダー本締錠、ドアチェック S U S戸当り・S U S番指・附属金物一式	レバーハンドル、丁番、シリンダー本締錠、ドアチェック S U S戸当り・S U S番指・附属金物一式	レバーハンドル、丁番、シリンダー表示錠（非常解除付き）、ドアチェック S U S戸当り・S U S番指・附属金物一式	レバーハンドル、丁番、シリンダー本締錠、ドアチェック アングルピース・戸当り・S U S番指・附属金物一式	
ガラス	明窓：アクリル板 t=3.0			型板ガラス t=4.0（下部：アルミパネル t=3.0）	網入り型板ガラス t=6.8（下部：アルミパネル t=3.0）	型板ガラス t=4.0（下部：アルミパネル t=3.0）	網入りガラス t=6.8	
備 考	バランス式ローヘッドタイプ			鉄骨用サッシ	鉄骨用サッシ	鉄骨用サッシ	鉄骨用サッシ	
符 号	<div>AG1</div> アルミ製換気ガラリ	<div>AW1</div> アルミ製 F I X 窓	<div>AW2</div> アルミ製引違い窓	<div>AW3</div> アルミ製引違い窓	<div>AW4</div> アルミ製引違い窓	<div>AW5</div> アルミ製ルーバー窓		
姿 図	 ※内装無の為、塞ぎアングル必要	 ※内装無の為、塞ぎアングル必要						
位 置	車 庫		車 庫	会議室・待機室・階段室	湯沸室	湯沸室	脱衣室	
見込 数量	7 0	2	7 0	2	7 0	1	7 0	1
仕 上	アルミ カラー		アルミ カラー	アルミ カラー	アルミ カラー	アルミ カラー	アルミ カラー	
金 物	網戸・アルミ水切		アルミ水切	クレセント・戸車・網戸・アルミ水切・アングルピース・附属金物一式	クレセント・戸車・網戸・アルミ水切・アングルピース・附属金物一式	クレセント・戸車・網戸・アルミ水切・アングルピース・附属金物一式	オペレーターハンドル・網戸・アルミ水切・アングルピース・附属金物一式	
ガラス			フロート板ガラス t=5.0	フロート板ガラス t=5.0	フロート板ガラス t=5.0	フロート板ガラス t=5.0	型板ガラス t=6.0	
備 考	鉄骨用サッシ		鉄骨用サッシ	鉄骨用サッシ	鉄骨用サッシ	鉄骨用サッシ	鉄骨用サッシ	
符 号	<div>WD1</div> 木製片開き戸	<div>WD2</div> 木製上吊り片引き戸（壁付け）	<div>WD3</div> 木製上吊り片引き戸（壁付け）	<div>WD4</div> 木製片引き戸	<div>WD5</div> 木製引込み戸			
姿 図								
位 置	女子トイレ		湯沸室	脱衣室	会議室	会議室		
見込 数量	ドア：36 固定枠：130	1	ドア：30 固定枠：130	1	ドア：30 固定枠：155	1	ドア：30	1
仕 上	カラー樹脂化粧シート（枠共）		カラー樹脂化粧シート（枠共）	カラー樹脂化粧シート（枠共）	カラー樹脂化粧シート（枠共）	カラー樹脂化粧シート（枠共）		
金 物	カバー丁番・戸当り・レバーハンドル錠（表示錠・非常解除付き） 換気ガラリ・その他附属品一式		上レール・引手・戸当り・換気ガラリ・その他附属品一式	上レール・引手・戸当り・錠錠（表示錠・非常解除付き） 換気ガラリ・その他附属品一式	引戸枠・鴨居・敷居・レール・引手・その他附属品一式	レール・引手・その他附属品一式		
ガラス	半透明アクリル板		半透明アクリル板	半透明アクリル板				
備 考	Panasonic：ペリティス KC型同等品以上		Panasonic：ペリティス KC型同等品以上	Panasonic：ペリティス KC型同等品以上	Panasonic：ペリティス PG型同等品以上			

※ A 2 サイズの図面を A 3 サイズへ縮小しています。

工事名

御所市消防団第 8 分団消防車庫改築工事

設計図

図 名

建具表（1）

縮尺

1/100

作成日

年 月 日

監 査 日

年 月 日

総合企画、建築設計、監理

株式会社 中環設計

一般建築士事務所 奈良県建築登録 2020（ハ）第1421号
一般建築士証174531号 中谷芳一

図面番号

A - 29

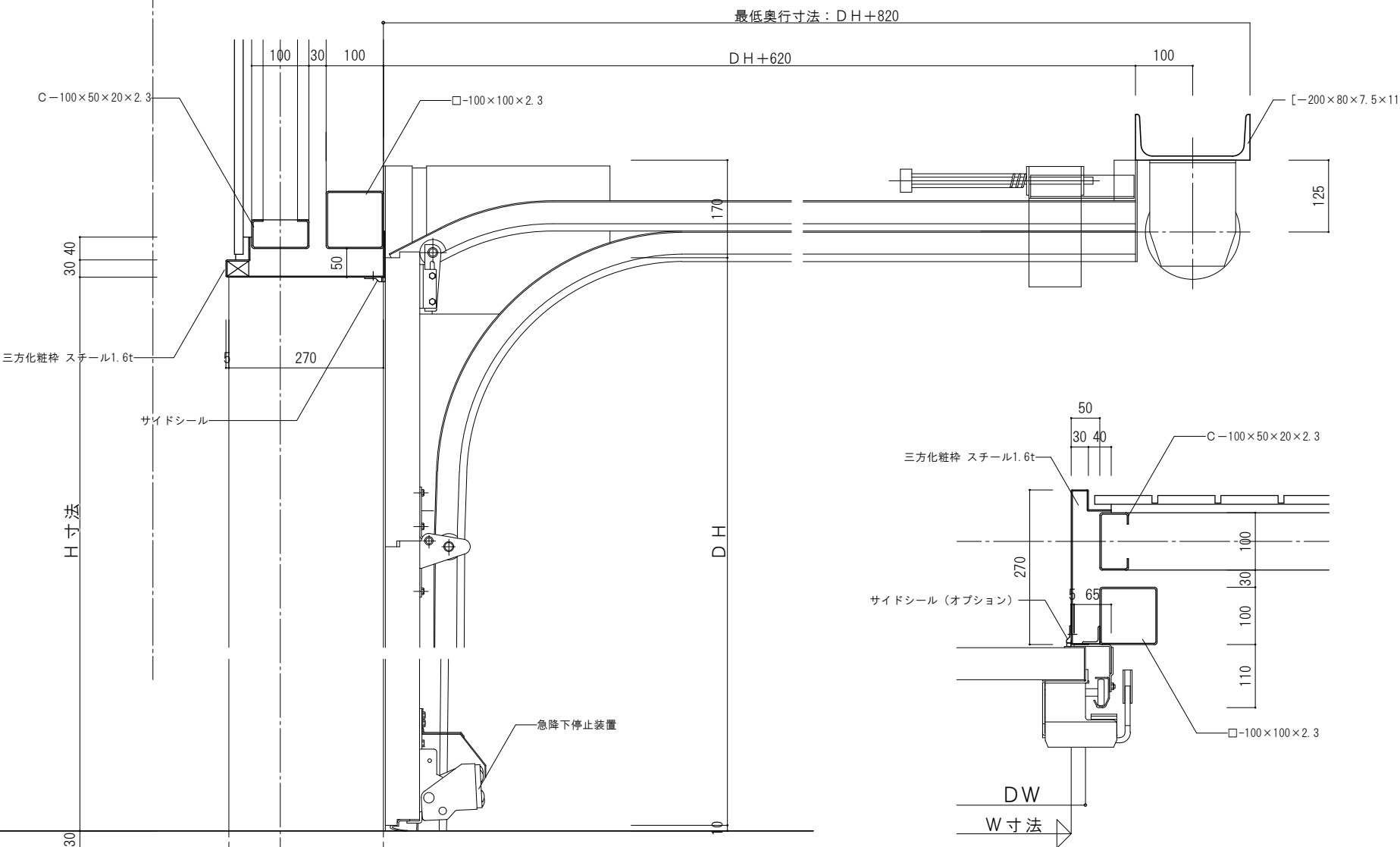
確認印

符 号		WF1木製三方枠		WF2木製四方枠		AD1		AD2		AD3		AD4	
姿 図		<div><div><div>1,020</div><div></div></div><div><div></div><div>2,000</div></div></div>		<div><div><div>755</div><div></div></div><div><div></div><div>1,935</div></div></div>									
位 置		待機室		脱衣室									
見込	数量	1301		1101									
仕 上		タモ集成材 OSCL		タモ集成材 OSCL									
金 物													
ガラス													
備 考													
符 号													
姿 図													
位 置													
見込	数量												
仕 上													
金 物													
ガラス													
備 考													
符 号													
姿 図													
位 置													
見込	数量												
仕 上													
金 物													
ガラス													
備 考													

工事名								設計図				図面番号	
御所市消防団第8分団消防車庫改築工事												A - 30	
図 名								縮尺		作成日		確認印	
建具表 (2)								1/100		年 月 日			
										年 月 日			
										年 月 日			
										年 月 日			
										年 月 日			
										年 月 日			
										年 月 日			
										年 月 日			
										年 月 日			
										年 月 日			
										年 月 日			
										年 月 日			
										年 月 日			
										年 月 日			
										年 月 日			
										年 月 日			
										年 月 日			
										年 月 日			
										年 月 日			
										年 月 日			
										年 月 日			
										年 月 日			
										年 月 日			
										年 月 日			
										年 月 日			
										年 月 日			
										年 月 日			
										年 月 日			
										年 月 日			
										年 月 日			
										年 月 日			
										年 月 日			
										年 月 日			
										年 月 日			
										年 月 日			
										年 月 日			
										年 月 日			
										年 月 日			
										年 月 日			
										年 月 日			
										年 月 日			
										年 月 日			
										年 月 日			
										年 月 日			
										年 月 日			
										年 月 日			
										年 月 日			
										年 月 日			
										年 月 日			
										年 月 日			
										年 月 日			
										年 月 日			
										年 月 日			
										年 月 日			
										年 月 日			
										年 月 日			
										年 月 日			
										年 月 日			
										年 月 日			
										年 月 日			
										年 月 日			
										年 月 日			
										年 月 日			
										年 月 日			
										年 月 日			
										年 月 日			
										年 月 日			
										年 月 日			
										年 月 日			
										年 月 日			
										年 月 日			
										年 月 日			
										年 月 日			
										年 月 日			
										年 月 日			
										年 月 日			
										年 月 日			
										年 月 日			
										年 月 日			
										年 月 日			
										年 月 日			
										年 月 日			
										年 月 日			
										年 月 日			
										年 月 日			
										年 月 日			
										年 月 日			
										年 月 日			
										年 月 日			
										年 月 日			
										年 月 日			
										年 月 日			
										年 月 日			
										年 月 日			
										年 月 日			
										年 月 日			
										年 月 日			
										年 月 日			
										年 月 日			
										年 月 日			
										年 月 日			
										年 月 日			
										年 月 日			
										年 月 日			
										年 月 日			
										年 月 日			
										年 月 日			
										年 月 日			
										年 月 日			
										年 月 日			
										年 月 日			
										年 月 日			
										年 月 日			
										年 月 日			
										年 月 日			
										年 月 日			
										年 月 日			
										年 月 日			
										年 月 日			
										年 月 日			
										年 月 日			

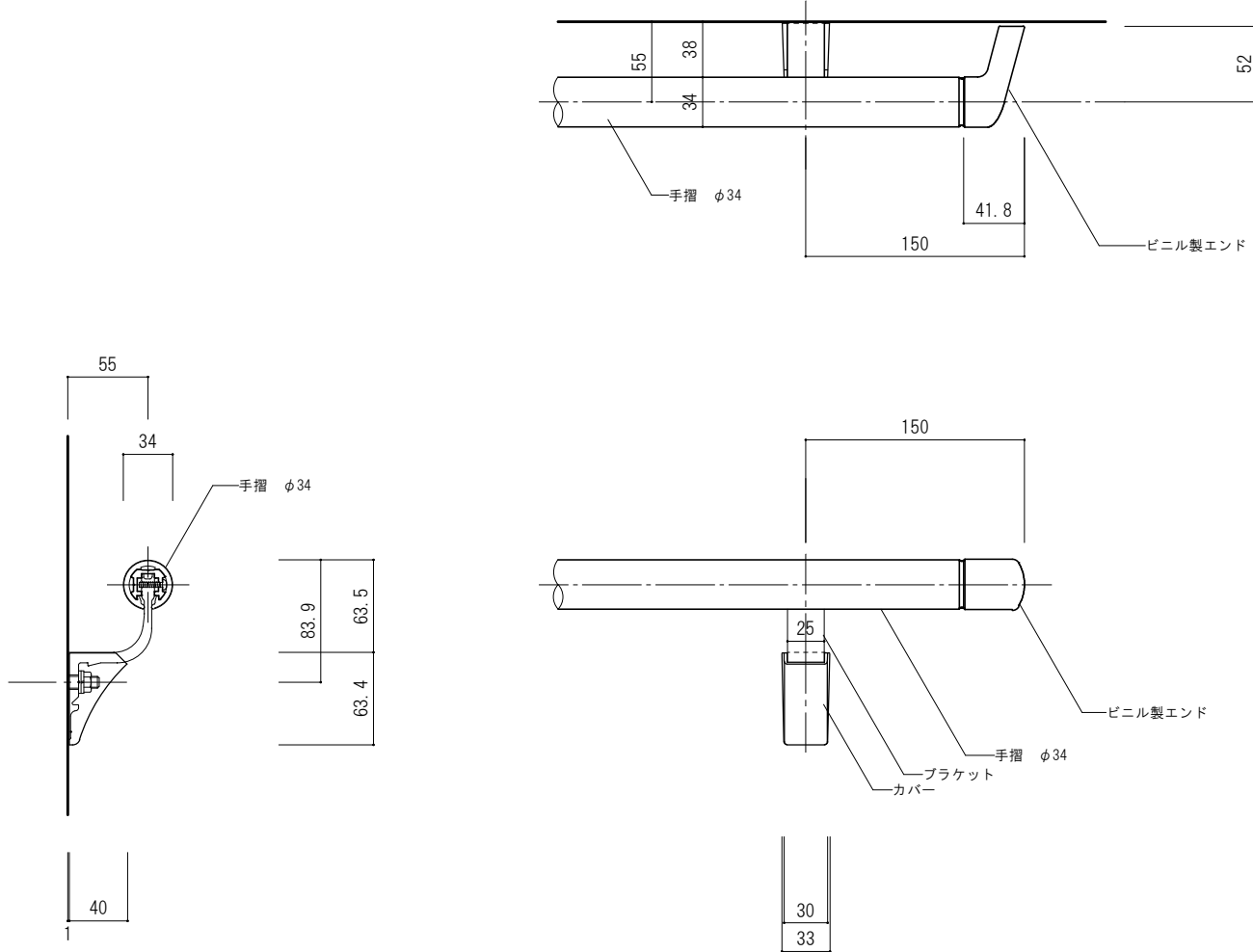
オーバースライディングシャッター 詳細図

1/10



階段木目調ビニル手摺 詳細図

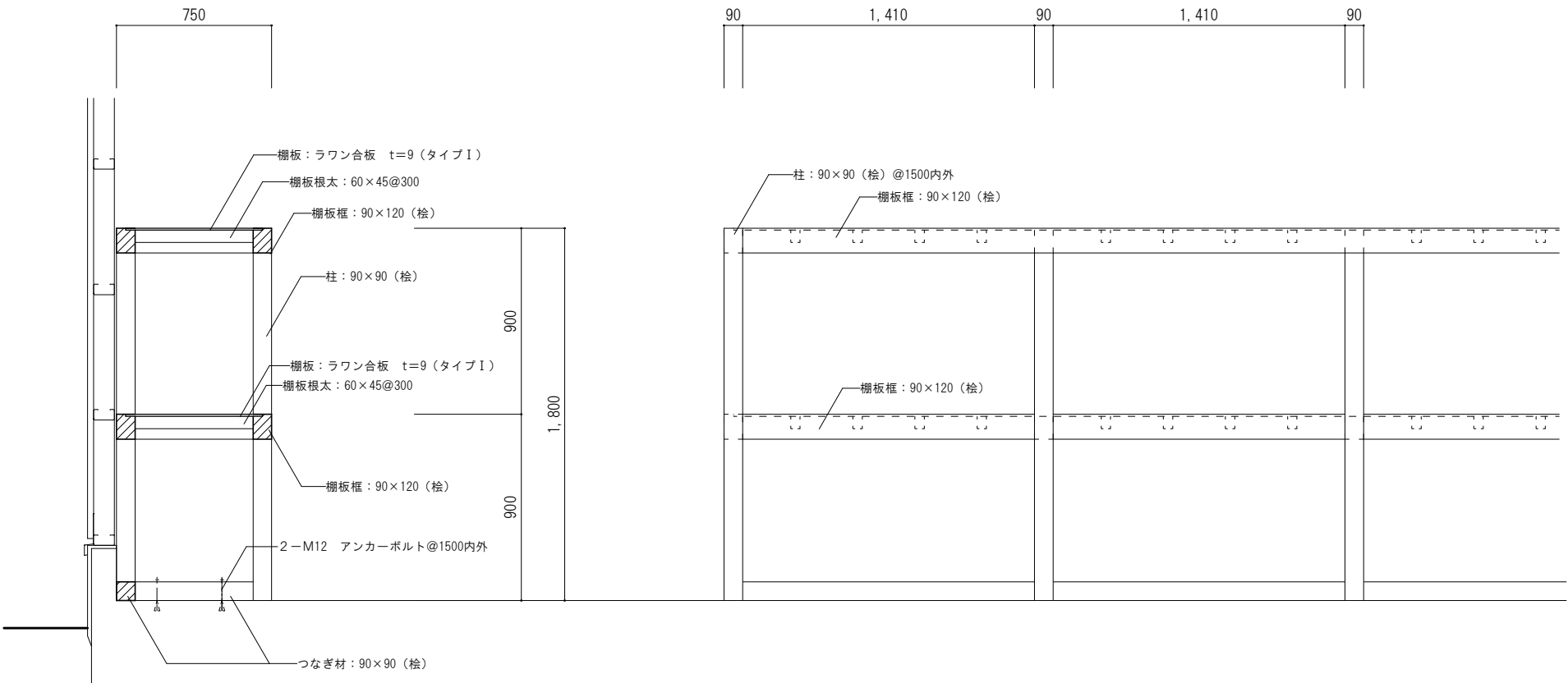
1/5



※ B.L. 認定品仕様：ブラケットピッチ@910以内とし、ブラケット下端部にビス止めとする。

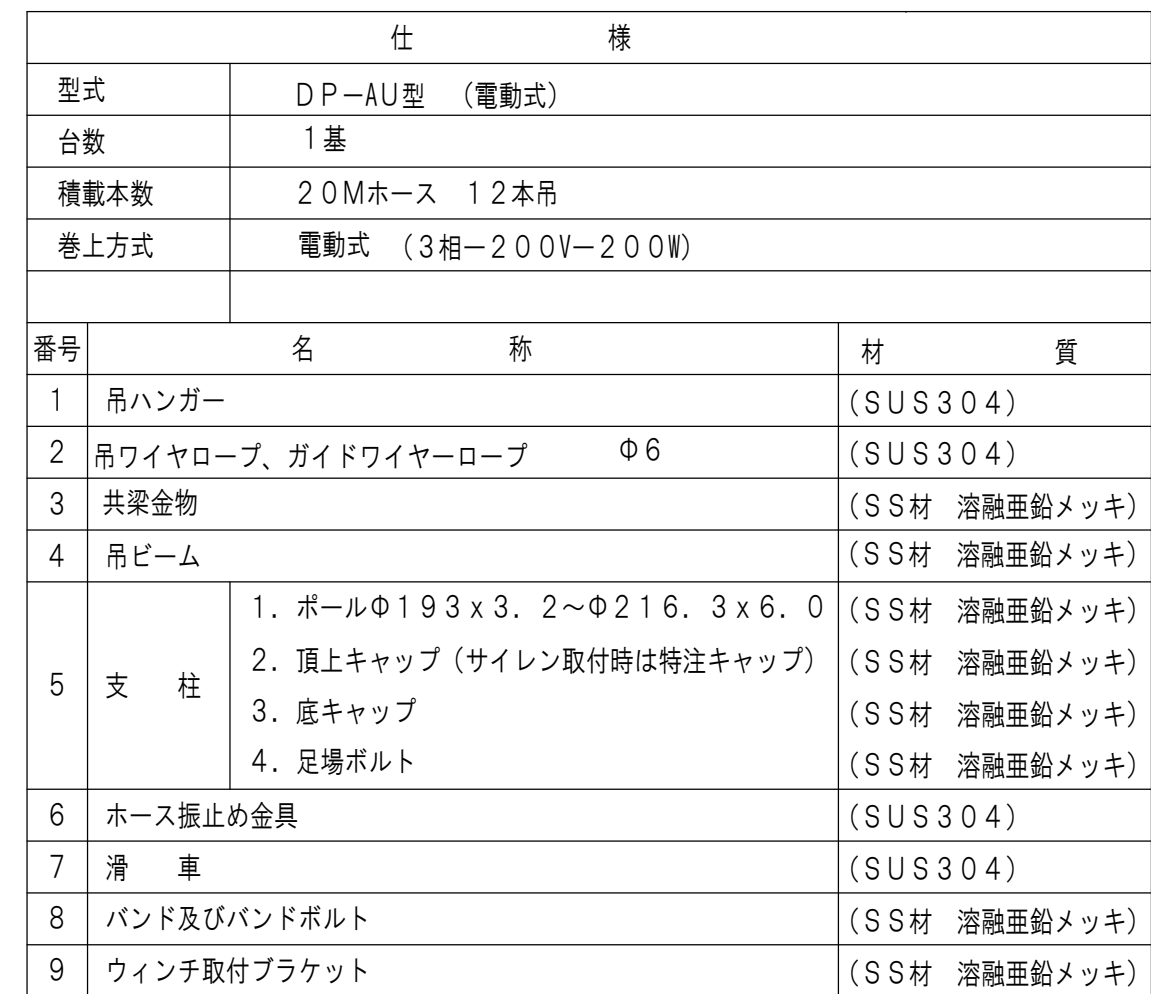
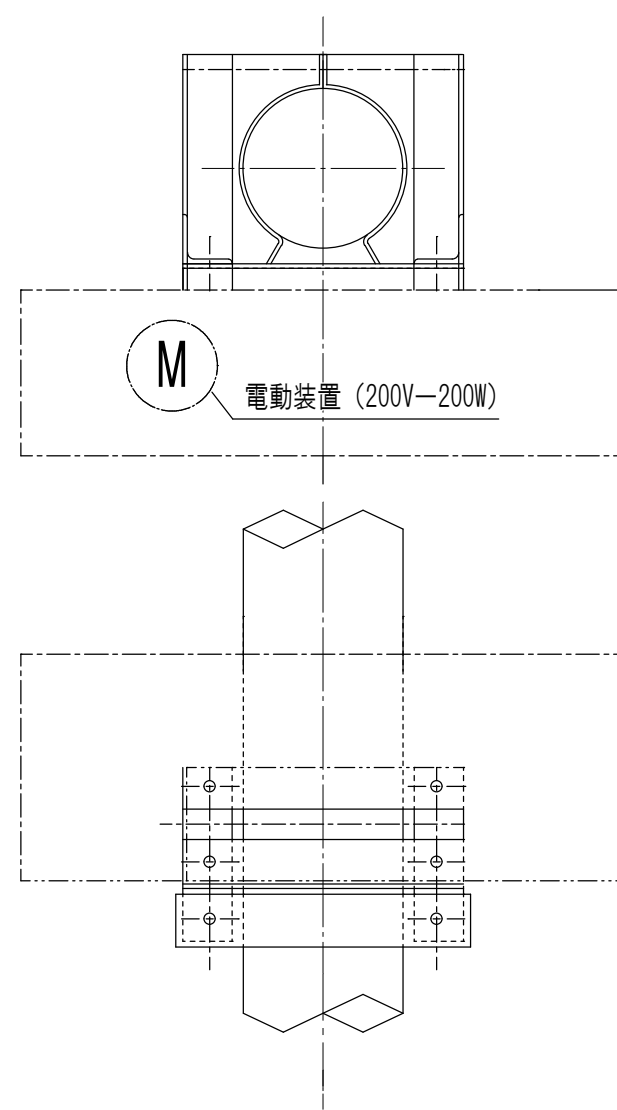
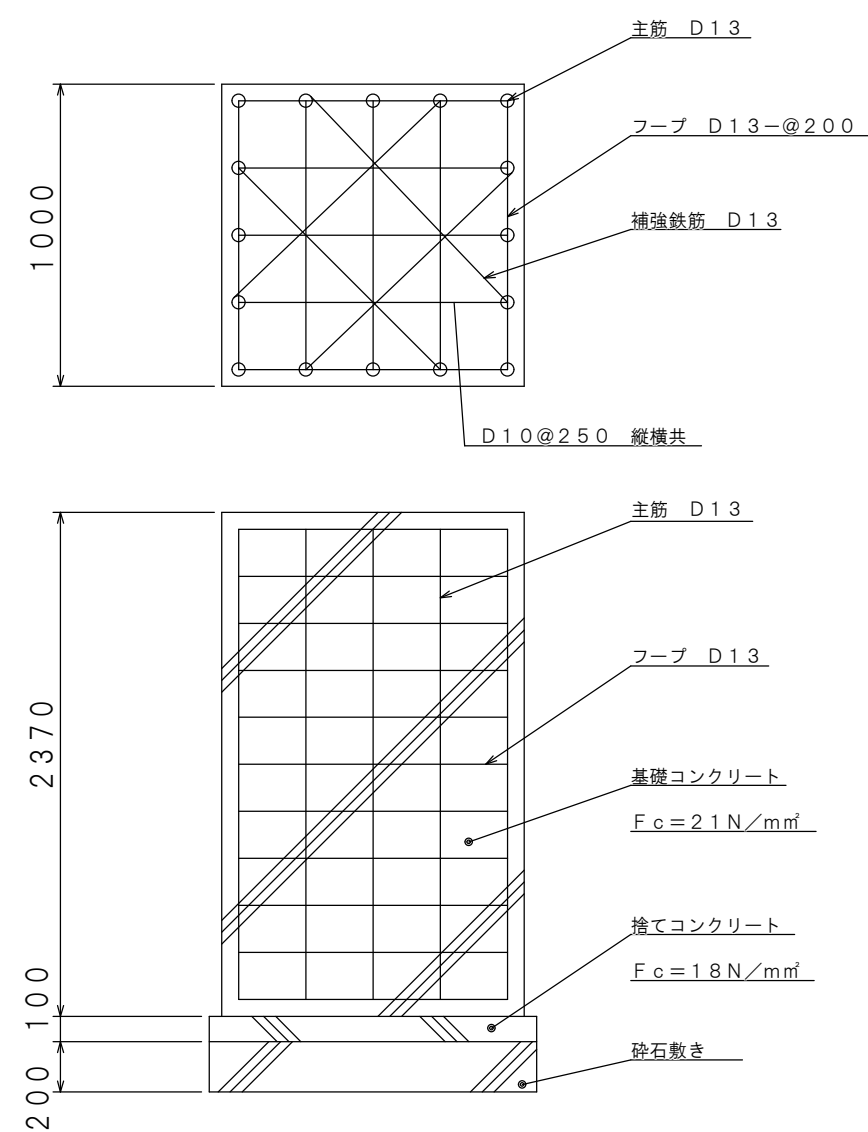
木製棚 詳細図

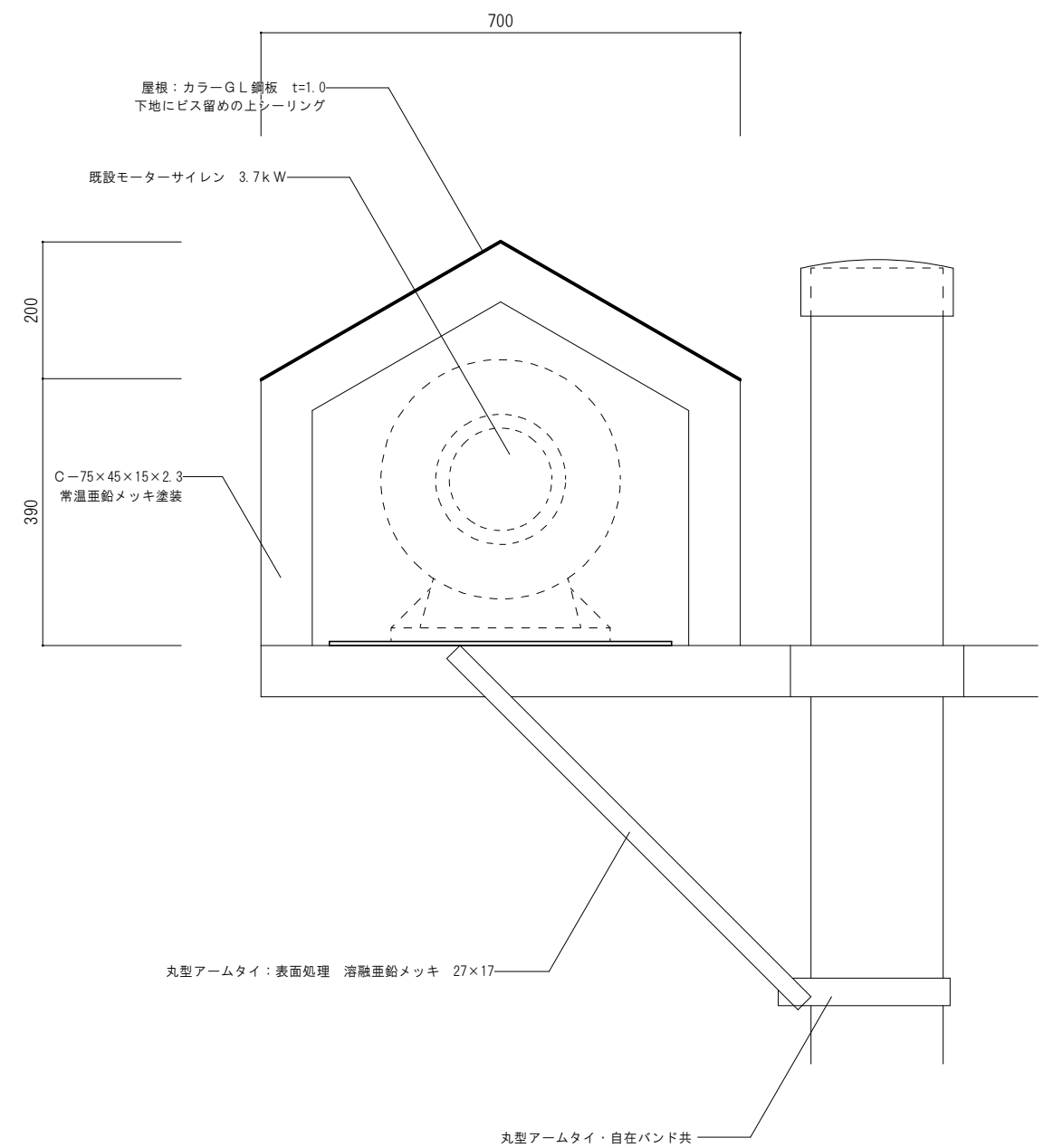
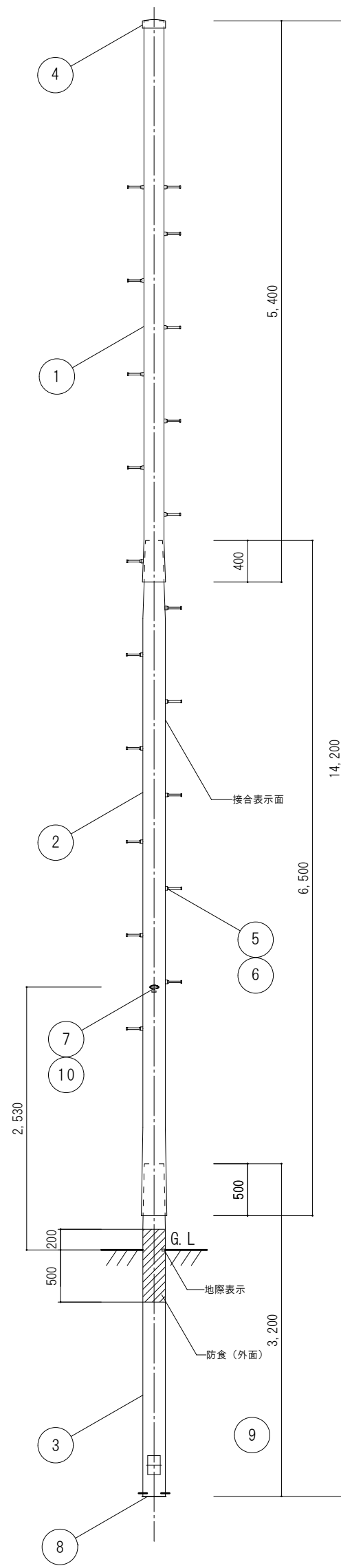
1/10



※ 木表面仕上げ：プレナー加工仕上げとする

工事名 御所市消防団第8分団消防車庫改築工事				設計図		図面番号 A - 31
図名 部分詳細図		縮尺 図示	作成日 年 月 日	確認印		
総合企画、建築設計、監理 株式会社 中谷設計		一般建築士事務所 奈良県建築士会 2020 (へ) 第1421号	年 月 日			





1.200

1.200

主筋 D13
フープ D13-@200

補強鉄筋 D13

D10@250 縦横共

2.400

200

主筋 D13

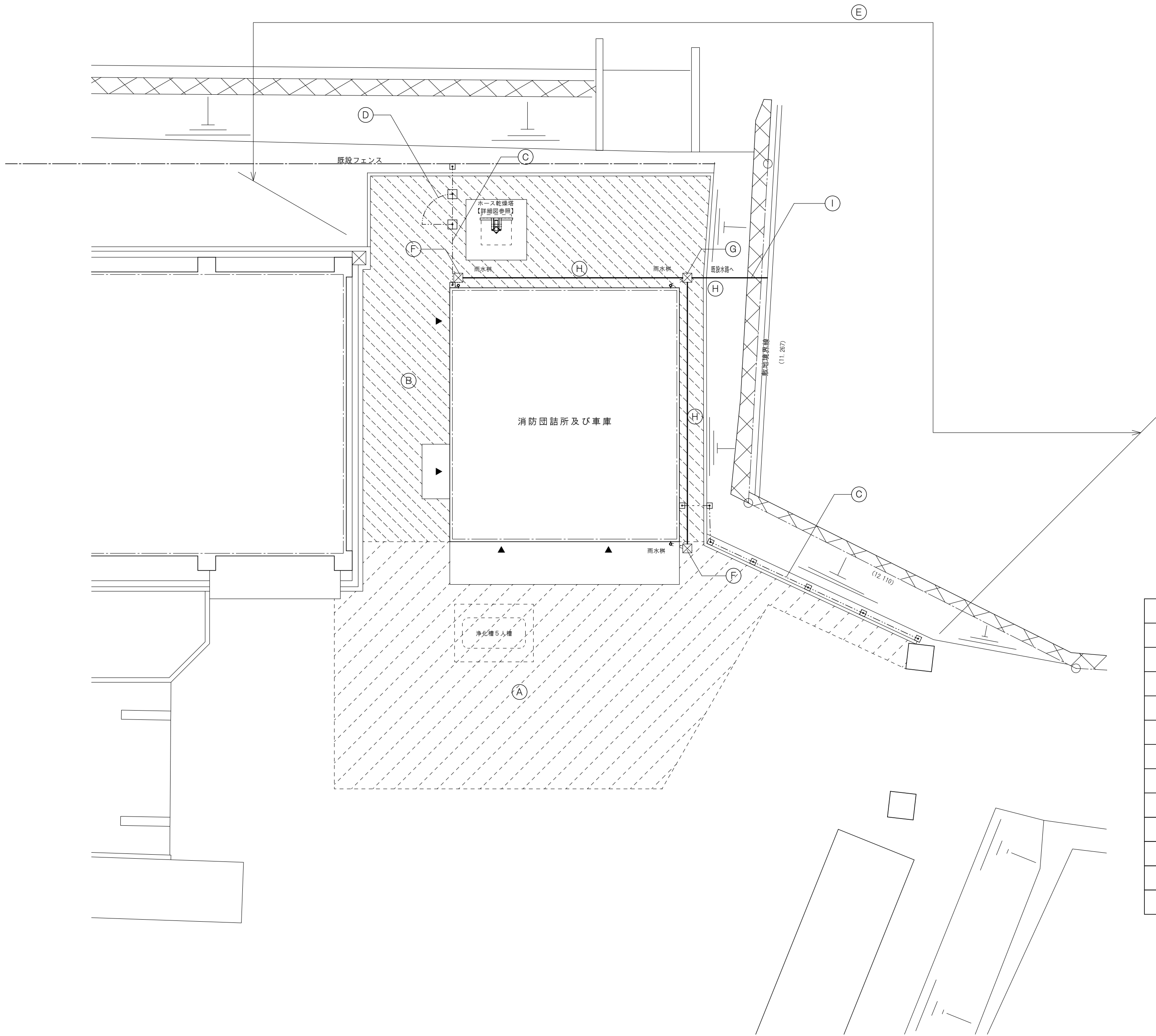
フープ D13

基礎コンクリート $F_c = 21 \text{ N/mm}^2$

捨てコンクリート $F_c = 18 \text{ N/mm}^2$

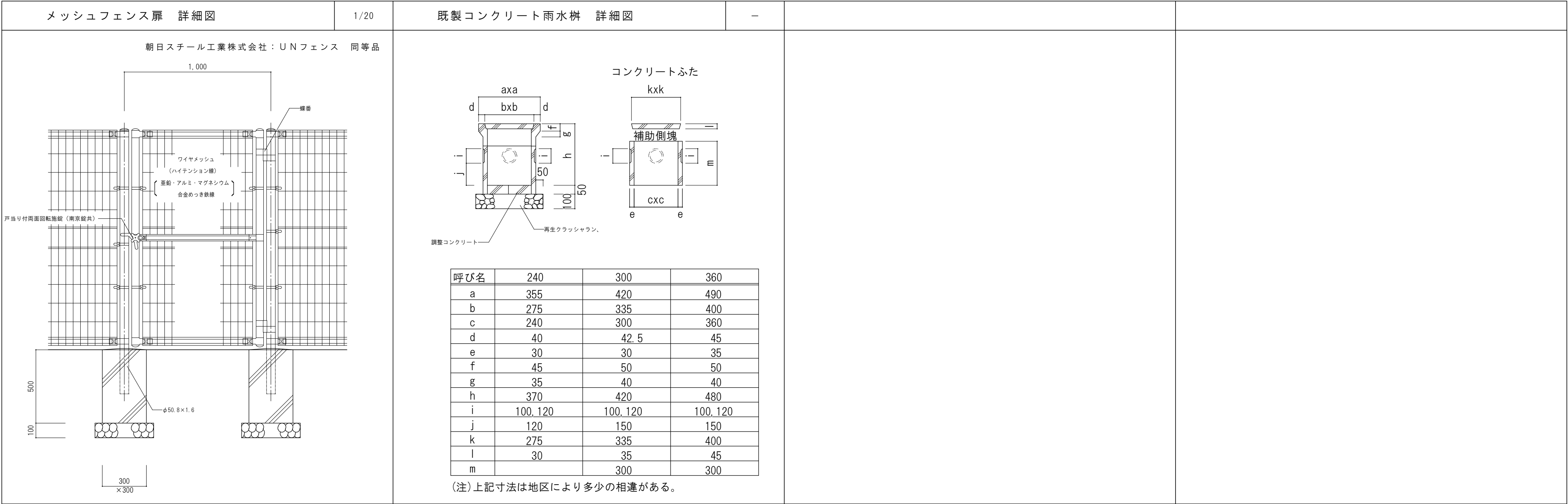
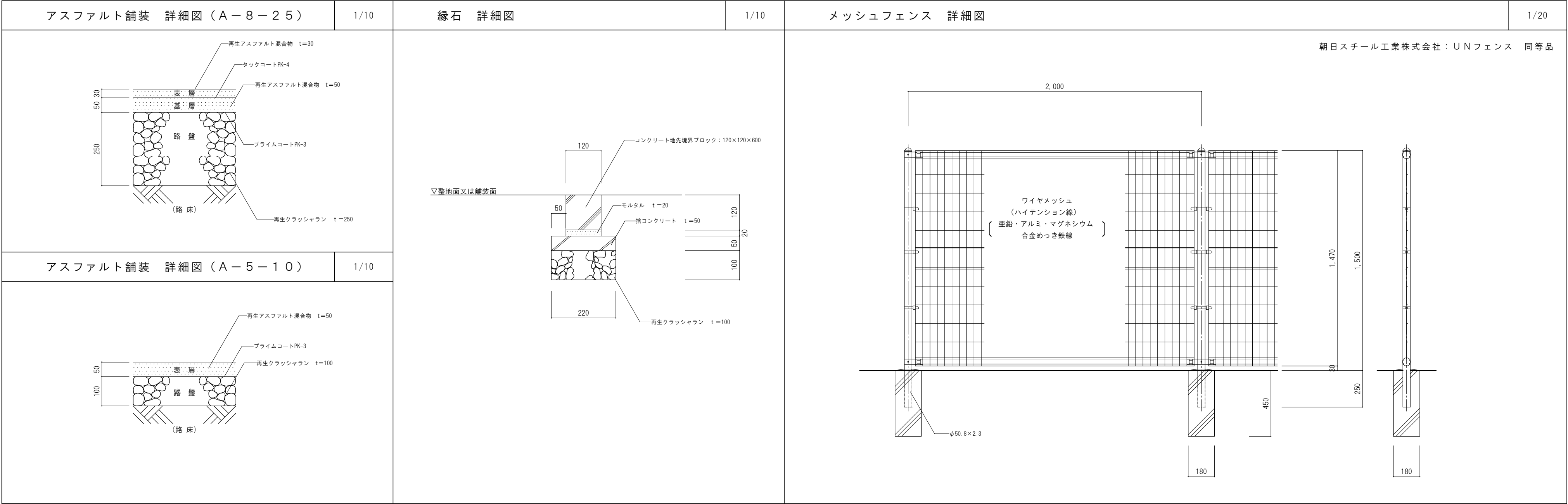
砕石敷き

品番	品名	個数	材質	備考
1	φ193×3.2-5400	1	STK490	
2	φ216.3×4.5-6500	1	STK540	
3	φ216.3×6.0-3200	1	STK540	
4	キャップ(φ193用)	1	SPHC	
5	足場座(C5型)	20	SAPH370	
6	足場ボルト(W5/8)	20	強度区分4.6	
7	商品ラベル(M-570)	1	消銀-UTL ラミネート	
8	底板(φ216.3用)	1	SS400	
9	保管注意事項ラベル	1	ユボ#80	
10	年月ラベル	1	消銀-UTL ラミネート	



外 構 図 凡 例

記 号	仕 様	数 量
Ⓐ	アスファルト舗装 A-8-25	96.8 m ²
Ⓑ	アスファルト舗装 A-5-10	71.8 m ²
Ⓒ	メッシュフェンス H=1500 (基礎共)	12.7 m
Ⓓ	メッシュフェンス扉 H=1500 (南京錠・基礎共)	1 か所
Ⓔ	縁石：地先境界ブロック 120×120×600	33.8 m
Ⓕ	既製コンクリート雨水樹 呼び名300	2 か所
Ⓖ	既製コンクリート雨水樹 呼び名360	1 か所
Ⓗ	雨水排水管 VP-75φ (埋設管)	18.4 m
Ⓘ	雨水排水管 VP-100φ (支持金物・エルボ共)	2.0 m



呼び名

240

300

360

a

355

420

490

b

275

335

400

c

240

300

360

d

40

42.5

45

e

30

30

35

f

45

50

50

g

35

40

40

h

370

420

480

i

100, 120

100, 120

100, 120

j

120

150

150

k

275

335

400

l

30

35

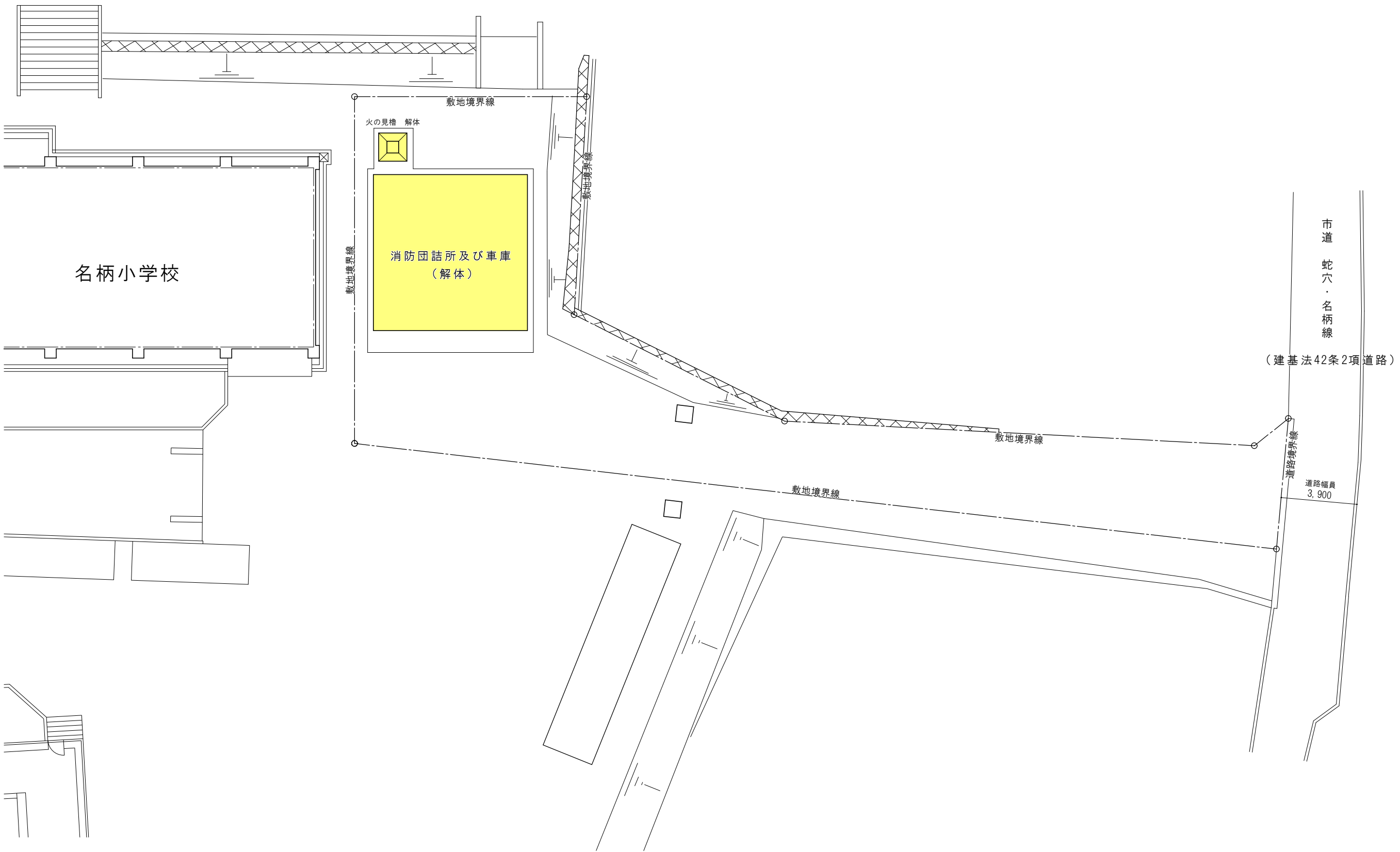
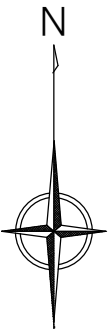
45


m

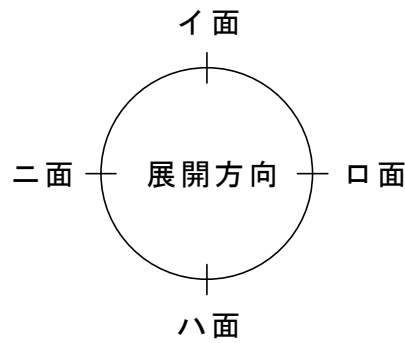
300

300


(注) 上記寸法は地区により多少の相違がある。

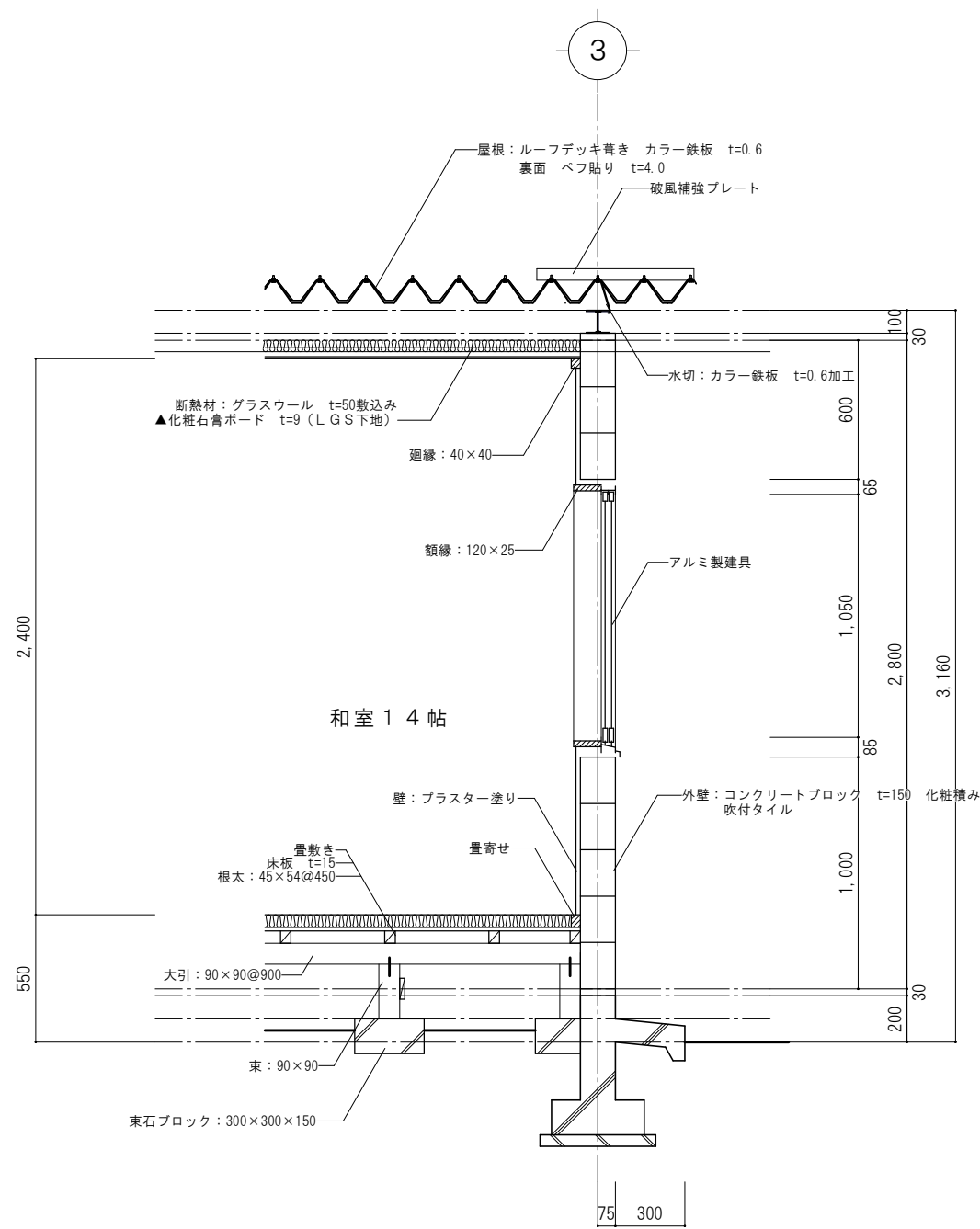
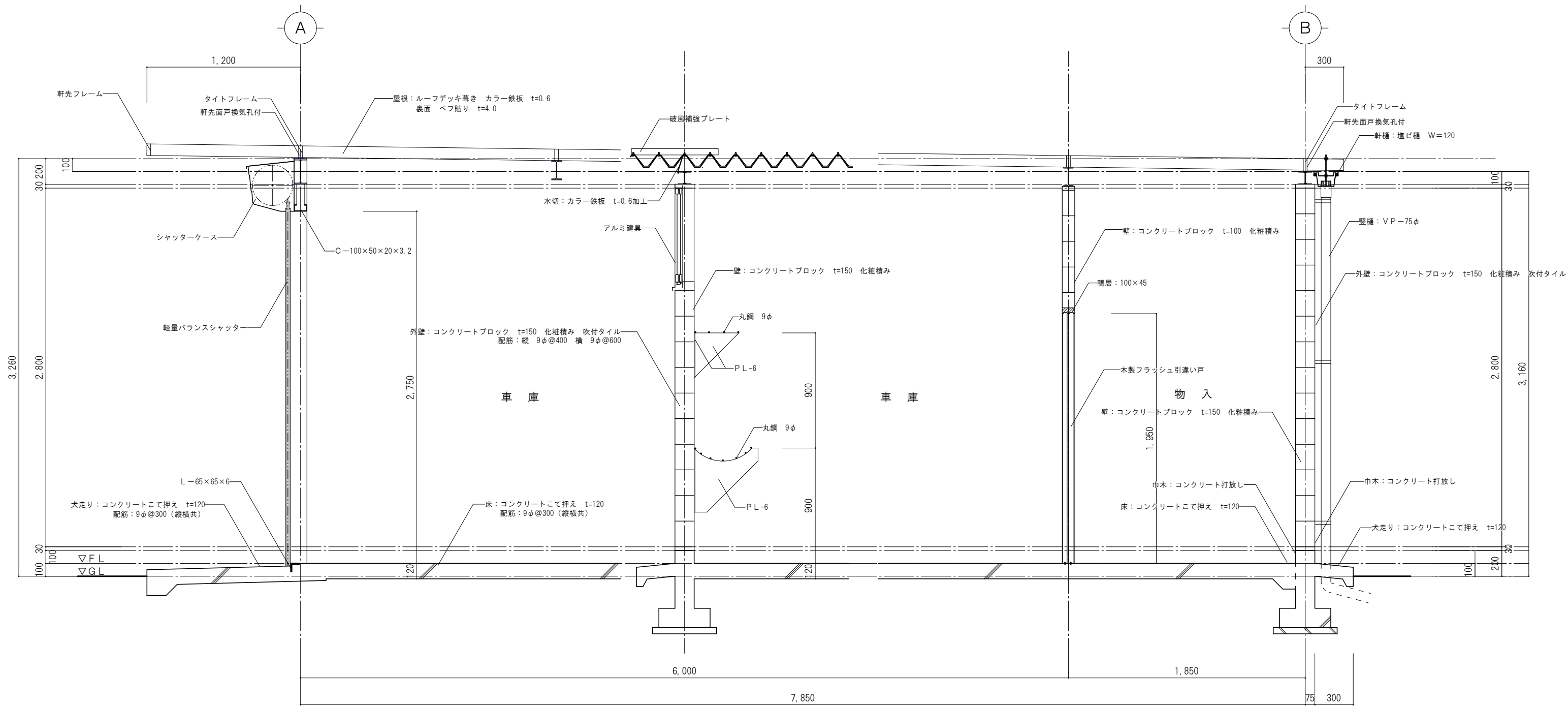


工事名 御所市消防団第8分団消防車庫改築工事			設計図		図面番号 A - 36	
図名 配置図		縮尺 1/200		作成日 年 月 日		確認印
【既設建築物解体】				変更日 (最終) 年 月 日		
 総合企画、建築設計、監理 株式会社 中利設計		一般建築士事務所 奈良県知事登録 2020 (へ) 第1421号 一般建築士法174531号 中谷芳一				

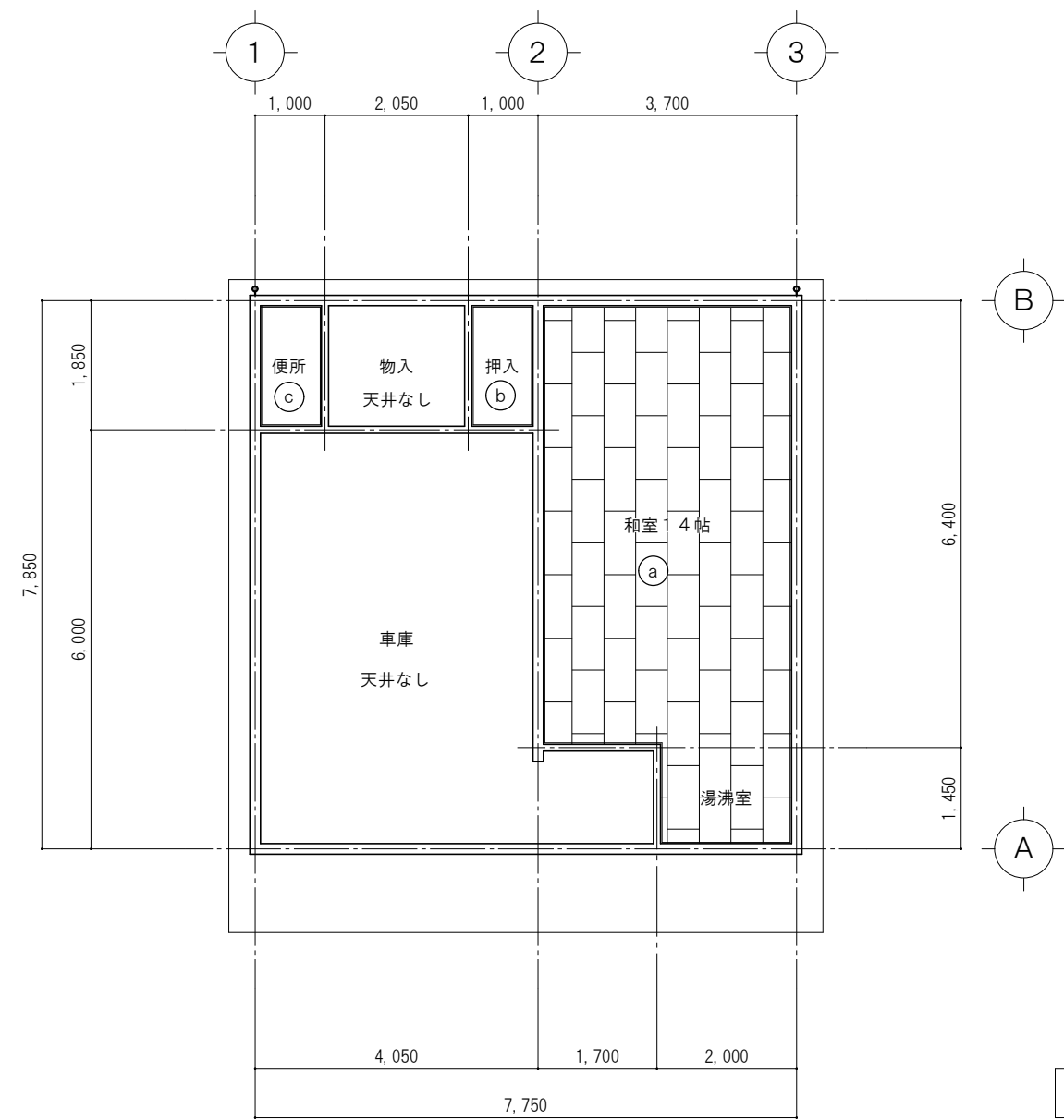


室 名	床	巾 木	壁	天 井	備 考
車 庫	コンクリートこて押え 目地切	コンクリート打ち放し	コンクリートブロック化粧積み		ホース棚・棚・服掛け
物 入	コンクリートこて押え 目地切	コンクリート打ち放し	コンクリートブロック化粧積み		
和室１４帖	畳敷き	畳寄せ	プラスター塗りこて押え	▲化粧石膏ボード t=9	
湯沸室	アビントクランクフローリング貼	雑巾摺り	プラスター塗りこて押え	▲化粧石膏ボード t=9	流し台・ガス台・棚
押 入	ラワンベニヤ t=9	雑巾摺り	プラスター塗りこて押え	ラワンベニヤ t=4	中段付
便 所	モルタルこて押え	モルタルこて押え	モルタルこて押え	▲フレキシブルボード t=4 VP 塗装	

▲印はアスベスト含有撤去材を示す。			工事名 御所市消防団第8分団消防車庫改築工事			設計図			図面番号 A - 37		
			図名 仕上表・平面図・立面図		縮尺 1/50・1/100		作成日 年 月 日		確認印		
			【既設解体撤去図】				変更日 (最終) 年 月 日				
			 総合企画、建築設計、監理 株式会社 中畑設計			一般建築士事務所 奈良県知事登録 2020 (～) 第1421号 一般建築士法174531号 中谷芳一					

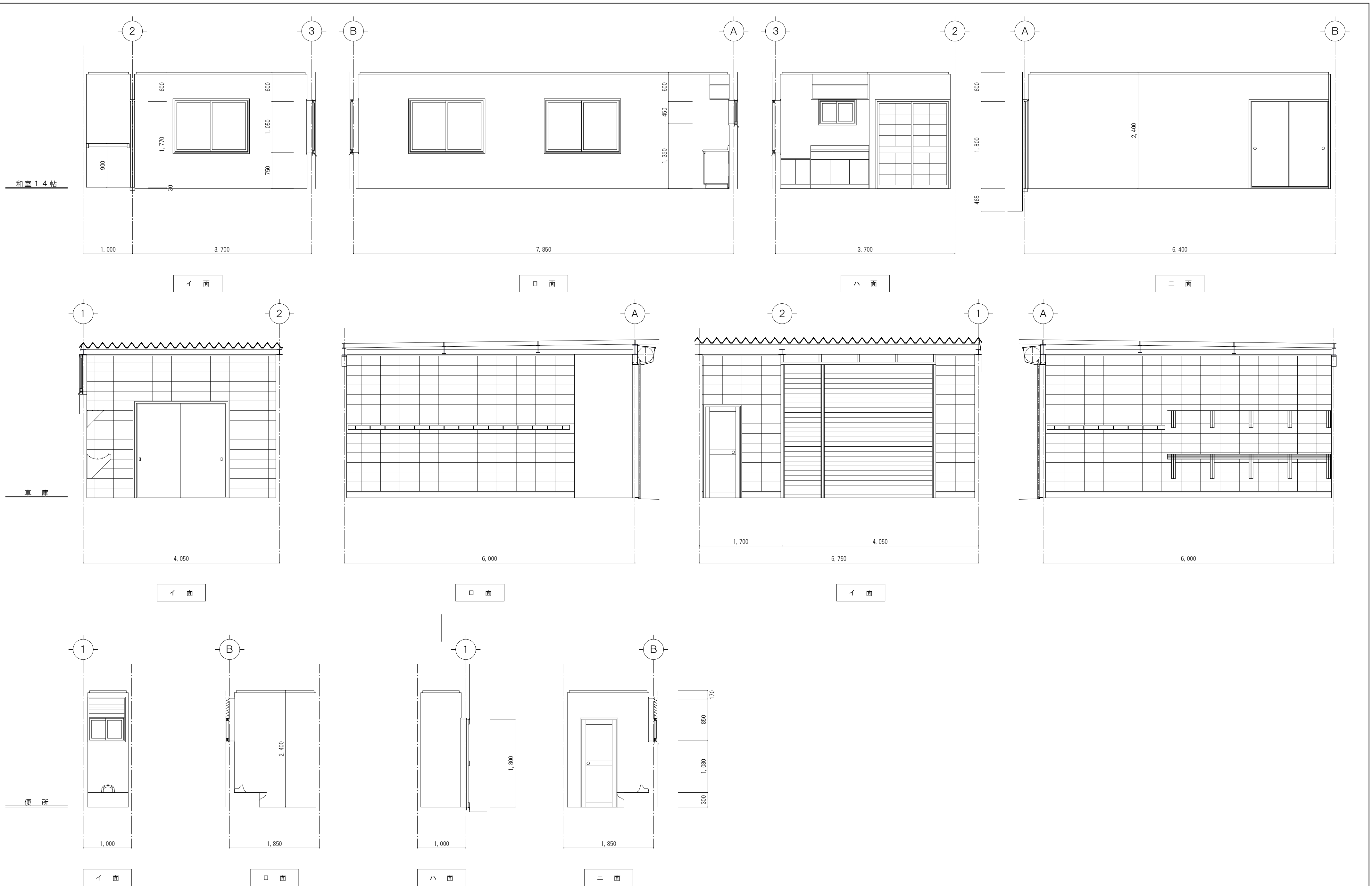


断面詳細図 S = 1/30

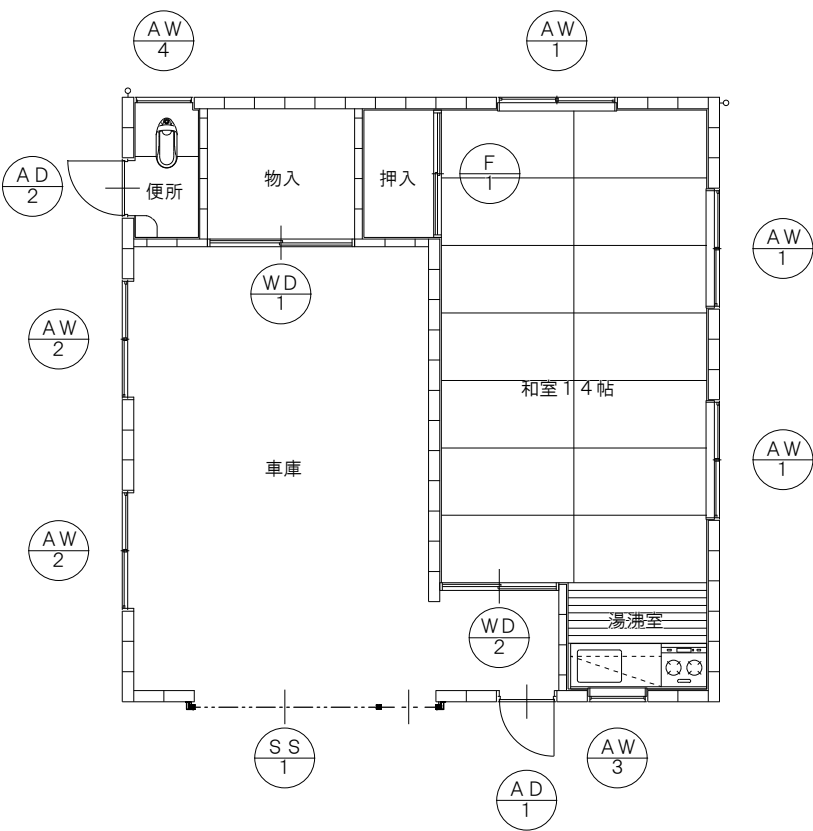


天井伏図 凡例				
符号	仕 上	廻り縁	天井下地	備 考
(a)	▲化粧石膏ボード t=9	木製：40×40	木製下地	
(b)	ラワンベニア t=4	木製：40×40	木製下地	
(c)	▲フレキシブルボード t=4 VP塗装	木製：40×40	木製下地	


天井伏図 S = 1/100

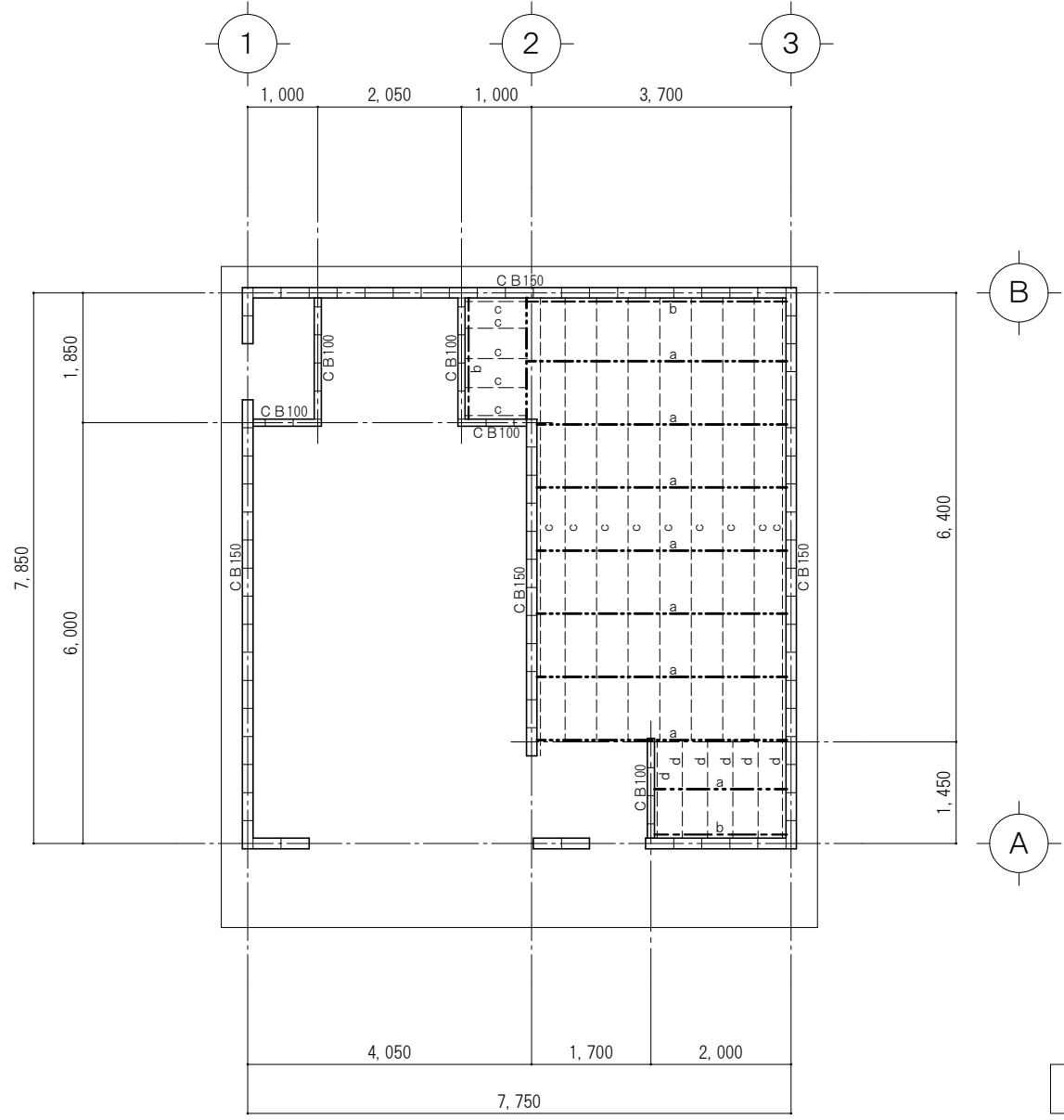


▲印はアスベスト含有撤去材を示す。		工事名 御所市消防団第8分団消防車庫改築工事		設計図		図面番号 A - 39	
図名 展開図		縮尺 1/50		作成日 生 月 日		確認印	
【既設解体撤去図】				変更日 【最終】 生 月 日			
 総合企画、建築設計、監理 株式会社 中和設計		一級建築士事務所 奈良県知事登録 2020 (～) 第1421号 一般建築士会174531号 中谷芳一					


$$S = 1/100$$

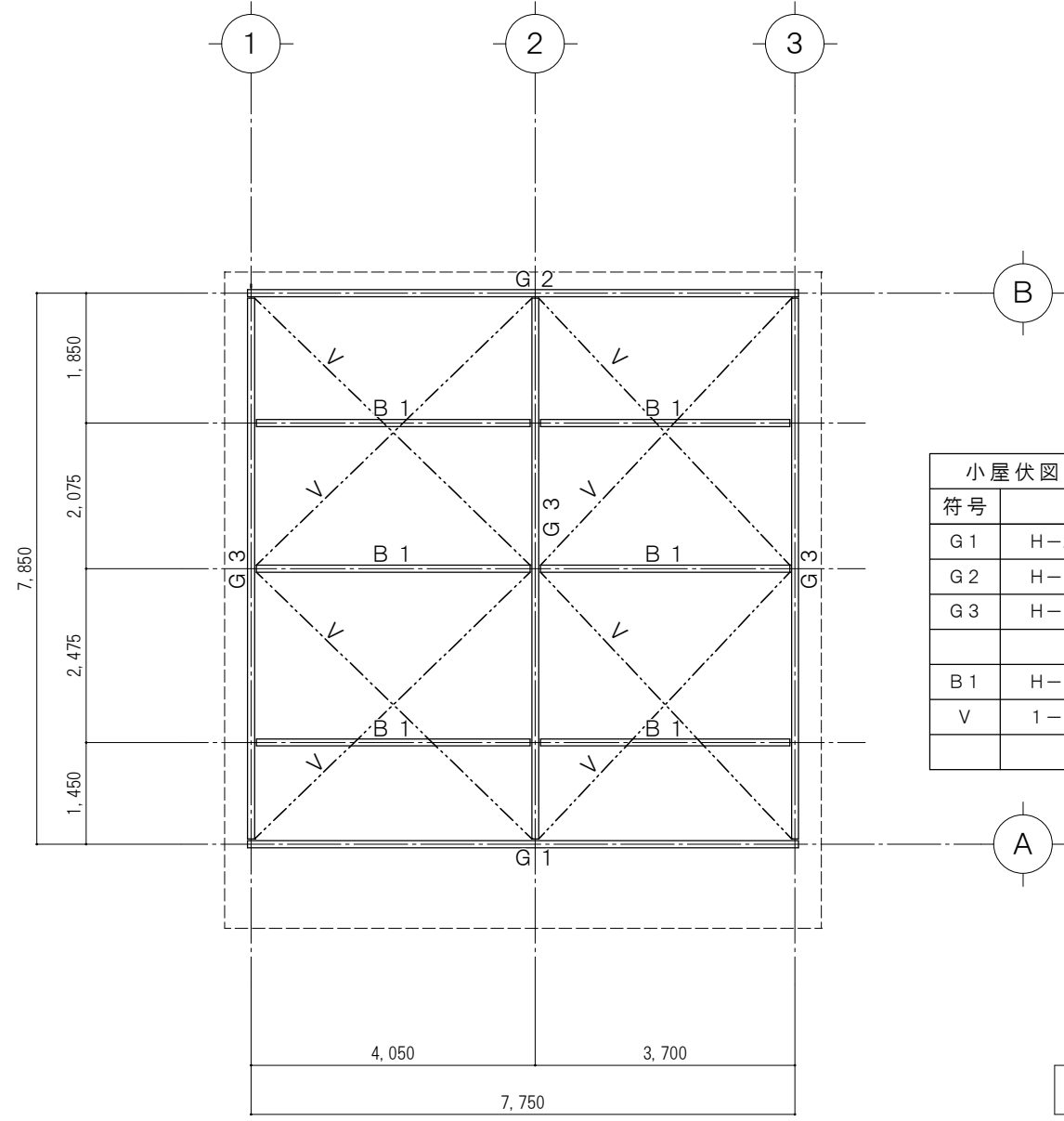
符 号		<div>WD 1</div> 木製引違いフラッシュ戸		<div>WD 2</div> 木製引違いガラス戸		<div>F 1</div> 引違い襖		
既設姿図								
見 込	数 量	3	3	3	3	2	1	
仕 上	耐水ベニア OP 塗装		スプルース		新鳥の子紙			
ガラス			型板ガラス t=4					
備 考								

工事名		御所市消防団第8分団消防車庫改築工事		設計図		図面番号		A - 40	
図名		建具表		縮尺 1/50		作成日		年 月 日	
		【既設解体撤去図】				変更日 (最終)		年 月 日	
		総合企画、建築設計、監理 株式会社 中和設計		一級建築士事務所 奈良県知事登録 2020 (ハ) 第1421号 一級建築士 174531号 中谷芳一					



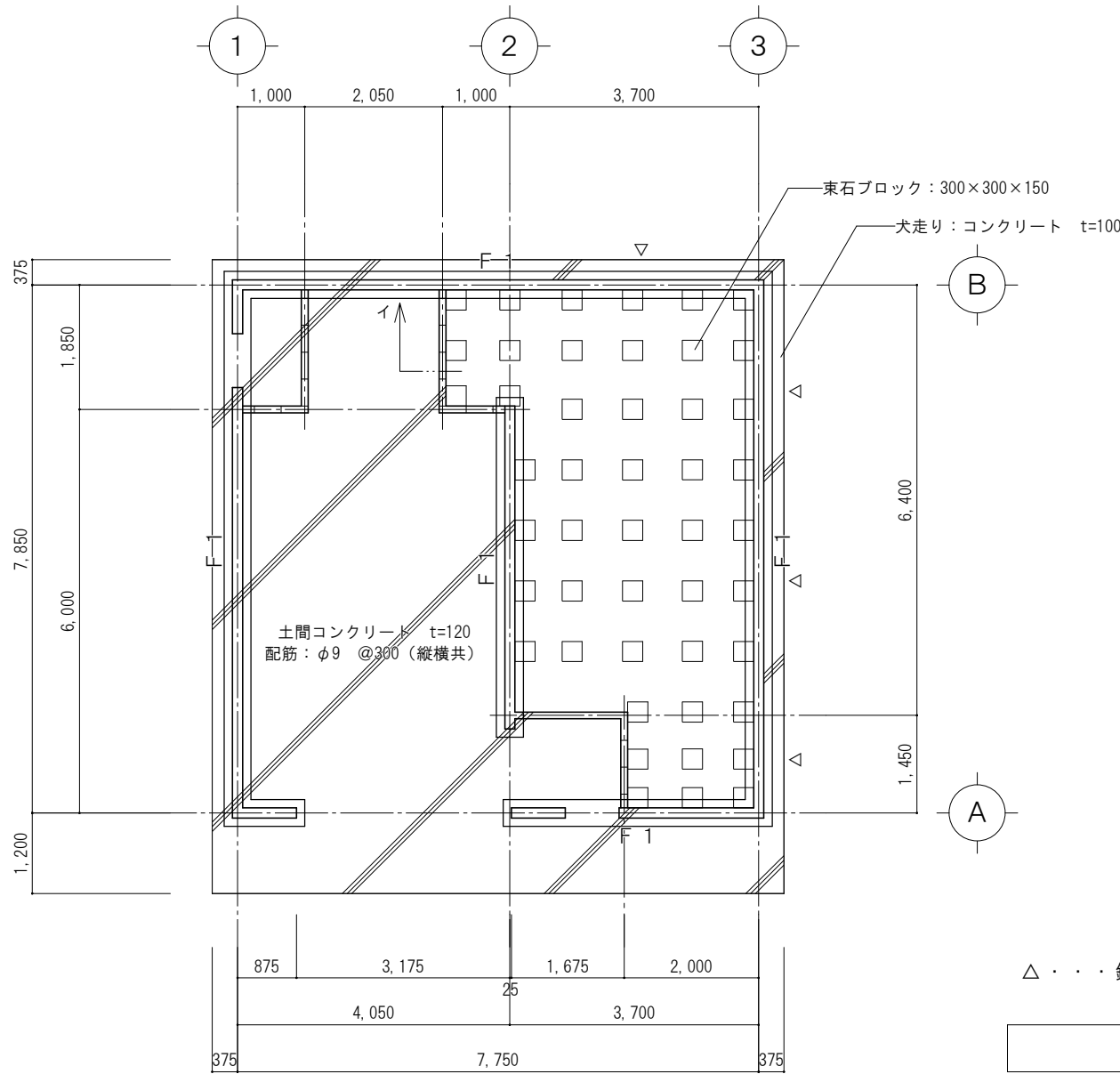
床伏図 部材リスト 凡例			
符号	部位	樹種	部材寸法
a	大引	桧・ヒバ	90×90 @900
b	根太掛	桧・ヒバ	90×45
c	根太	桧・松	54×45 @450
d	根太	桧・松	54×45 @360

天井伏図 S = 1/100



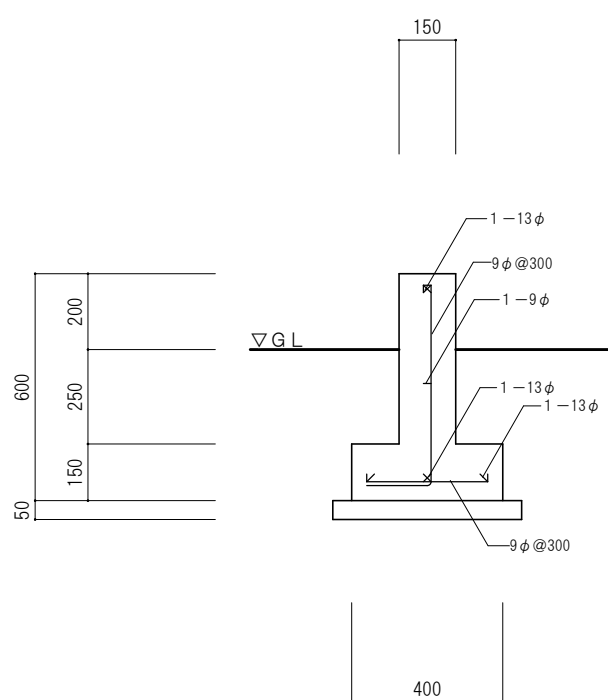
小屋伏図 部材リスト 凡例			
符号	主材	W J	アンカーボルト
G 1	H-200×100×5.5×8		6-13φ L=500 Wナット締め
G 2	H-100×100×6×8		6-13φ L=500 Wナット締め
G 3	H-100×100×6×8	PL-9 HTB 2-M16	6-13φ L=500 Wナット締め
B 1	H-100×100×6×8	PL-9 HTB 2-M16	
V	1-13φ ターンバックル締め	GPL-6 HTB 1-M16	

小屋伏図 S = 1/100

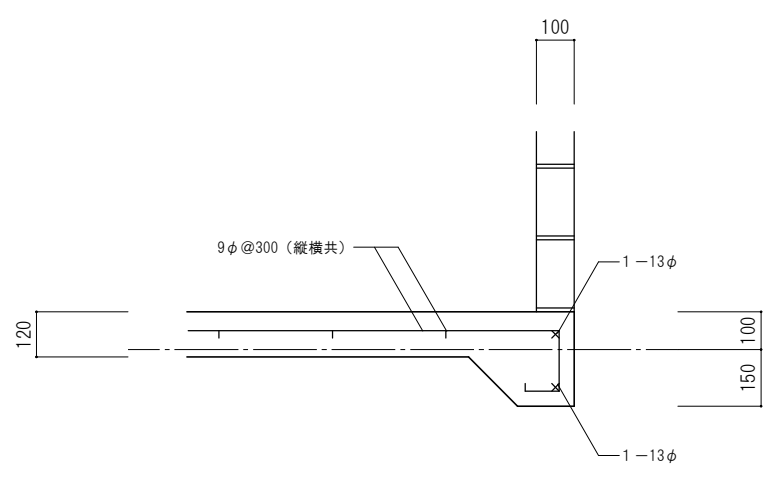


△・・・ 鑄鉄製床下換気口 400×200を示す。

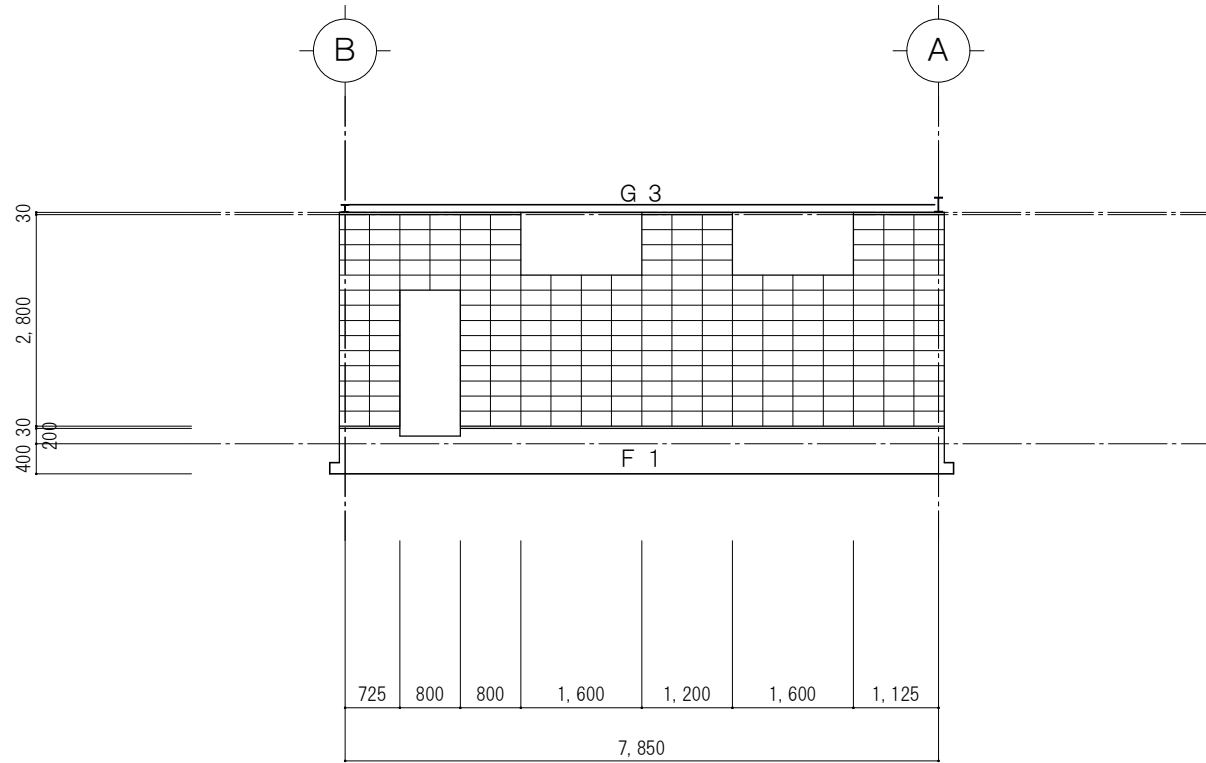
基礎伏図 S = 1/100



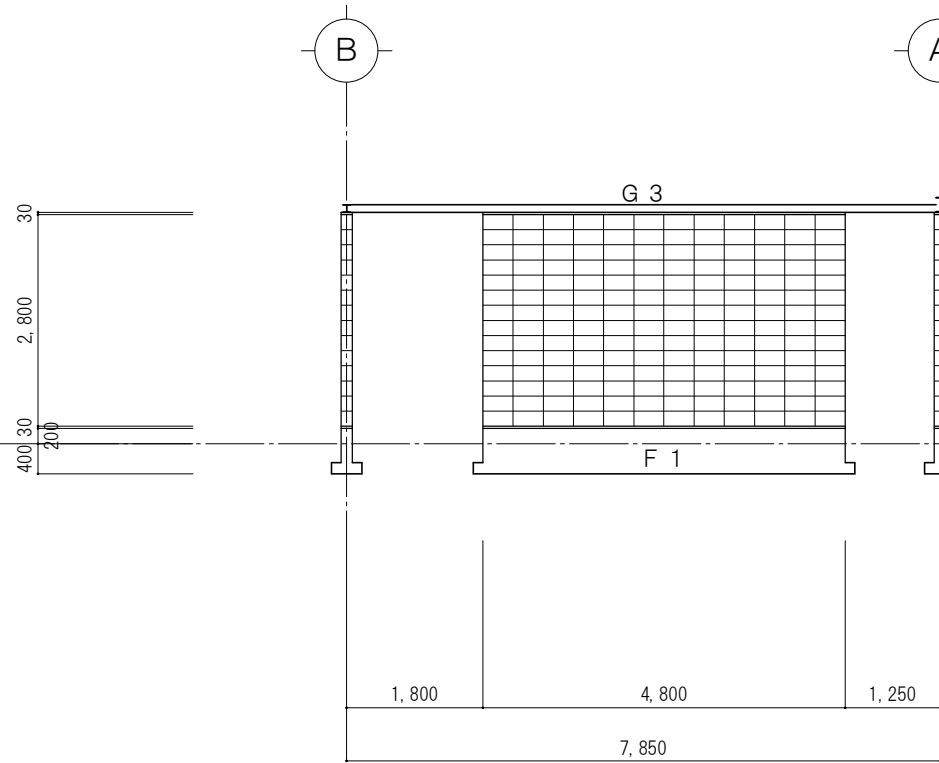
F 1 基礎詳細図 S = 1/20



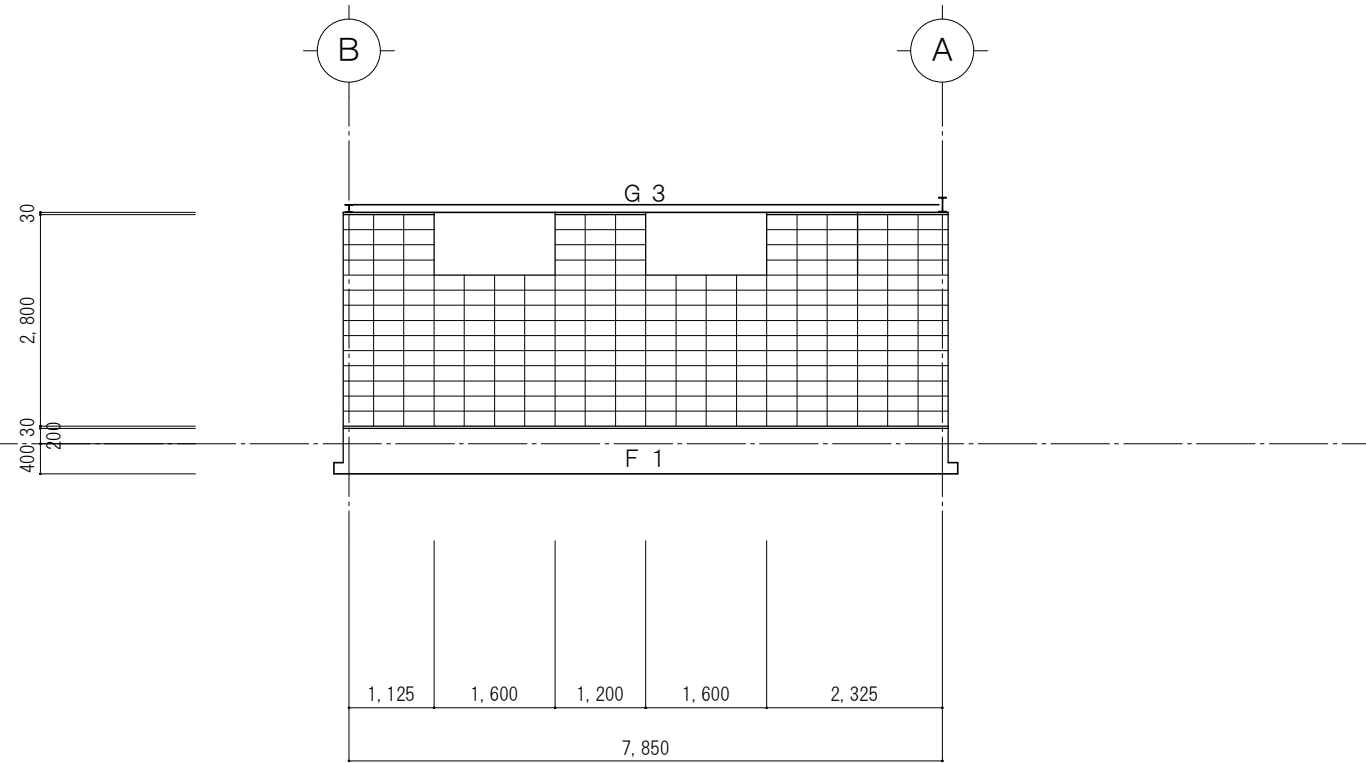
イ断面 基礎詳細図 S = 1/20



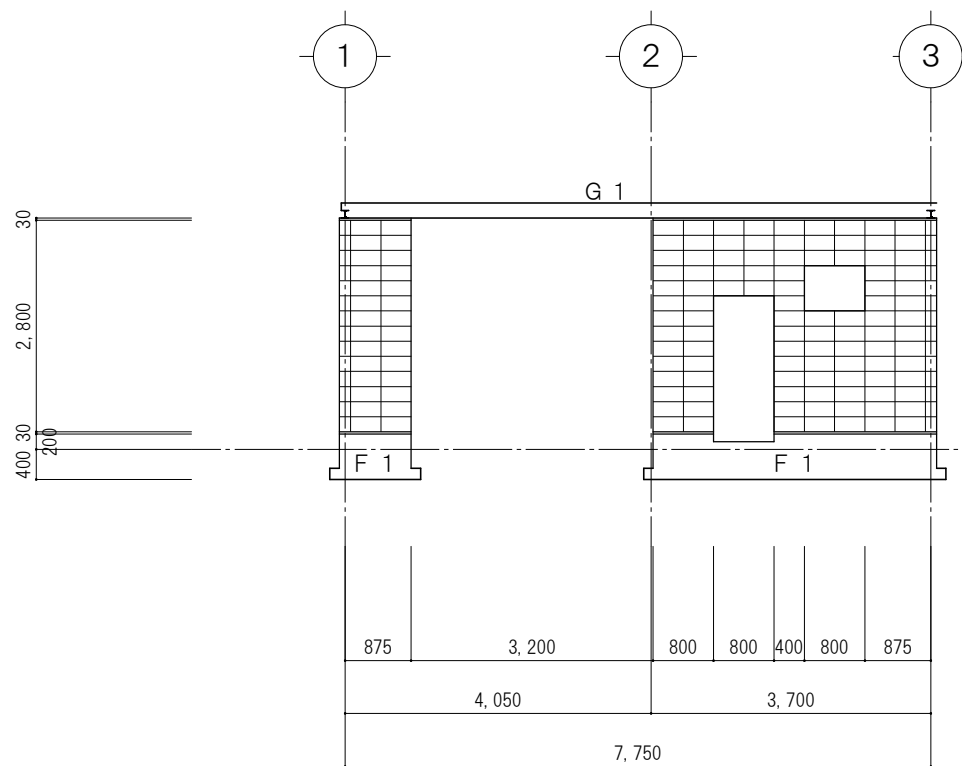
1 通り 軸組図 S = 1/100



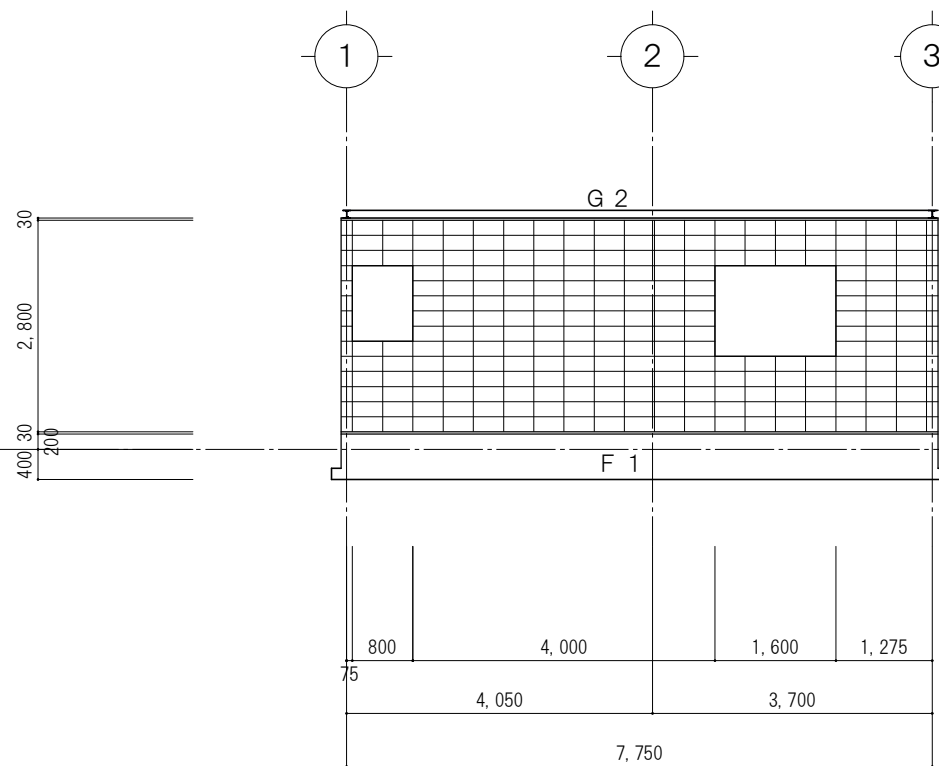
2 通り 軸組図 S = 1/100




3 通り 軸組図 S = 1/100

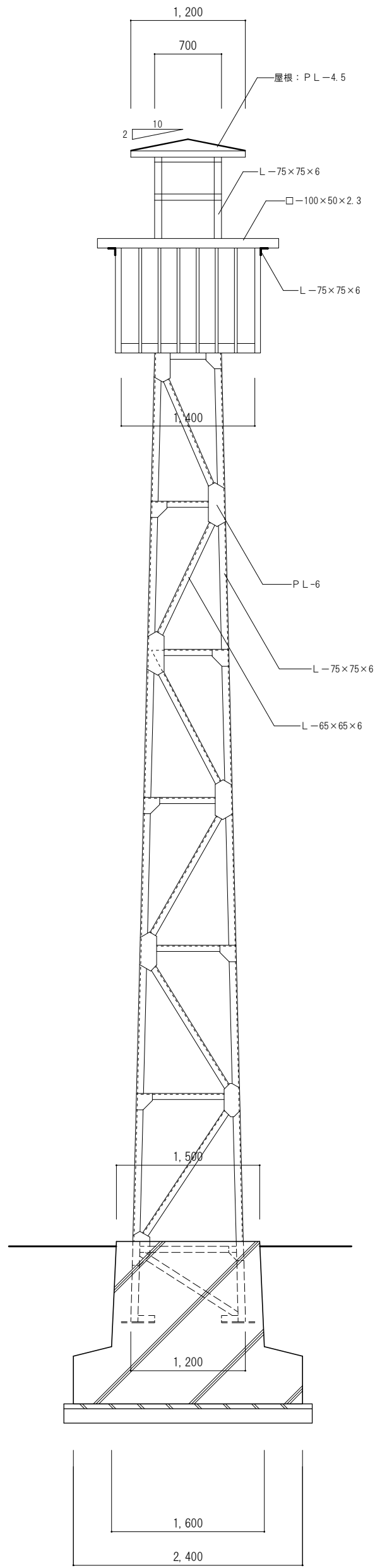
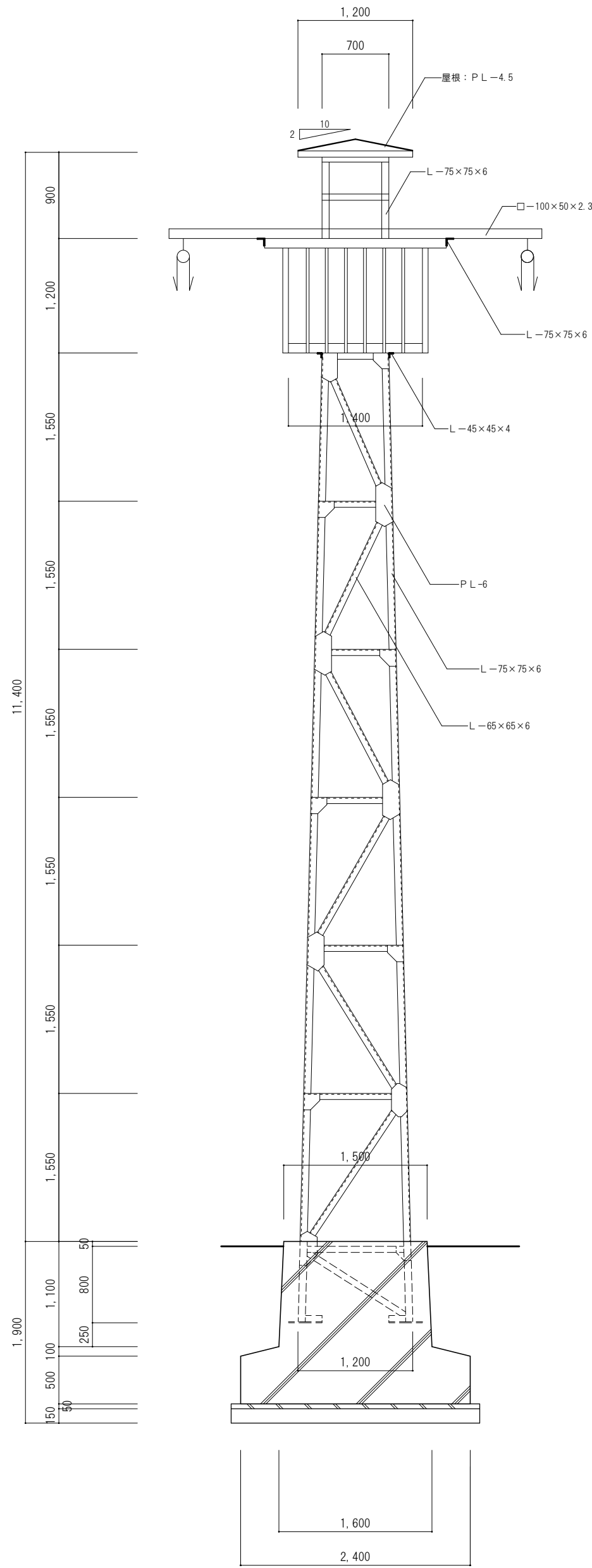


A 通り 軸組図 S = 1/100

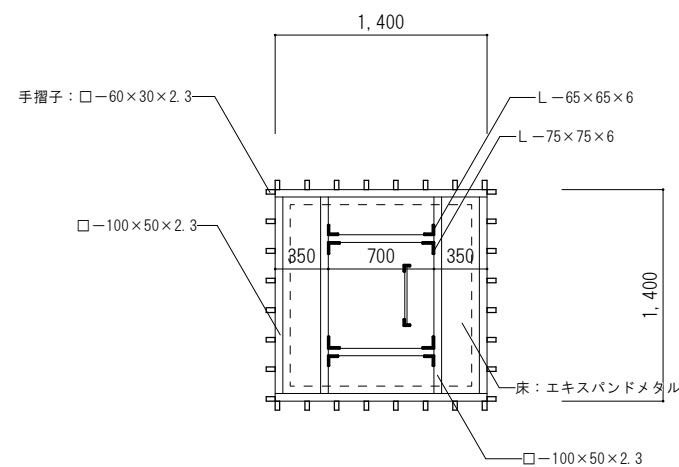
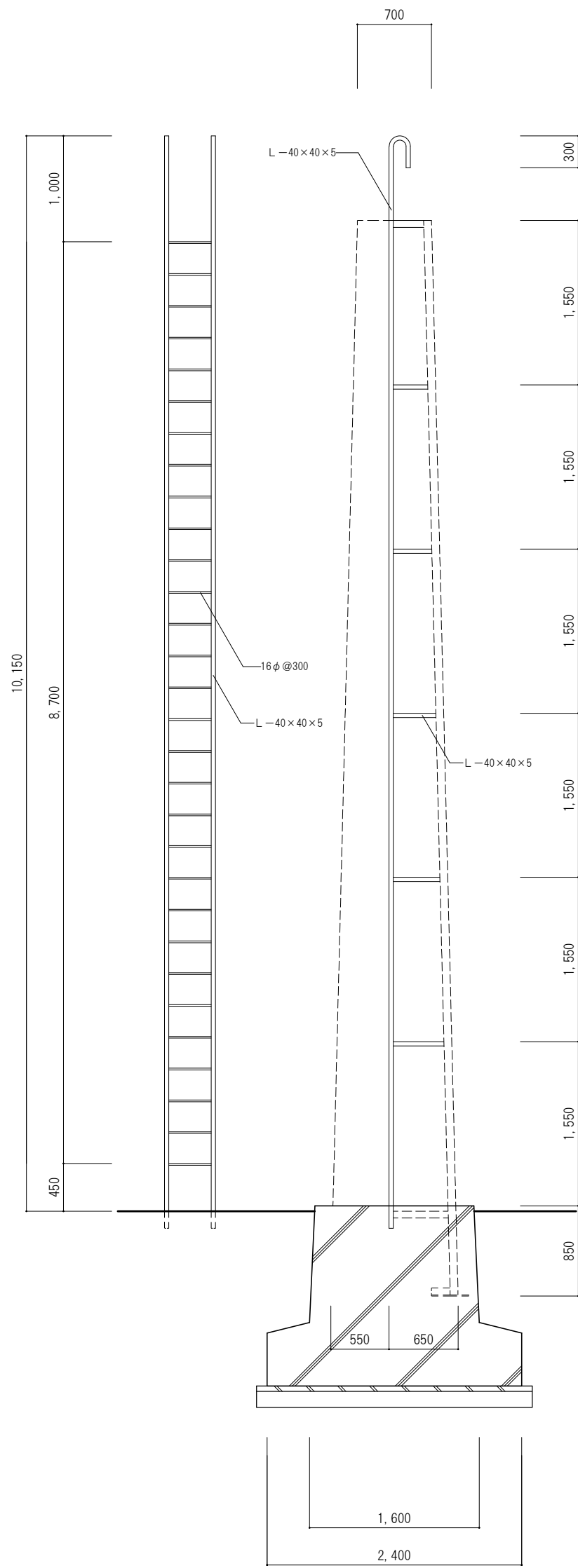


B 通り 軸組図 S = 1/100

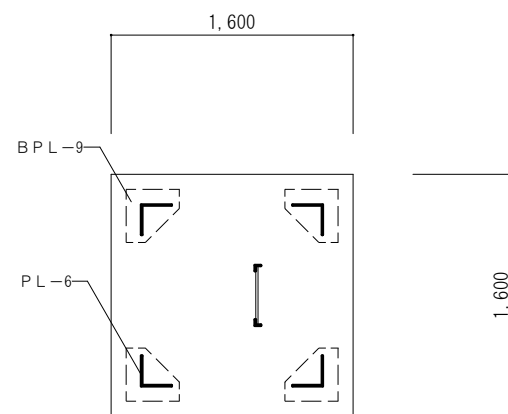
工事名			御所市消防団第8分団消防車庫改築工事		設計図	図面番号	A - 42				
図名			軸組図		縮尺	1/100	作成日	年	月	日	確認印
-----			【既設解体撤去図】				消滅日	年	月	日	
			総合企画、建築設計、監理		株式会社 中谷設計		一級建築士事務所 奈良県知事登録 2020 (へ) 第1421号 一級建築士 174531号 中谷芳一				



火の見櫓 立面図 S = 1/50

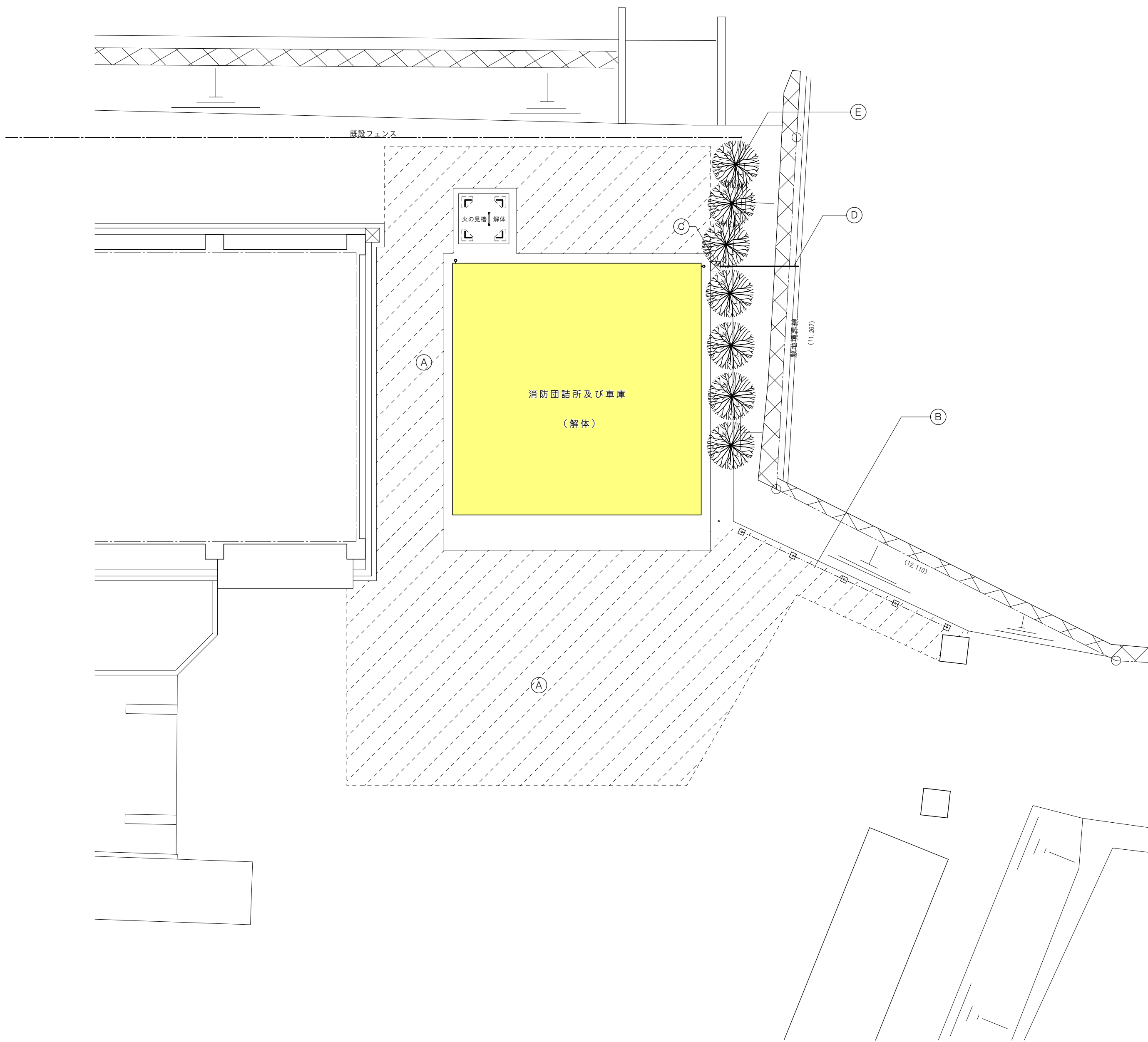


火の見櫓 上部平面図 S = 1/50



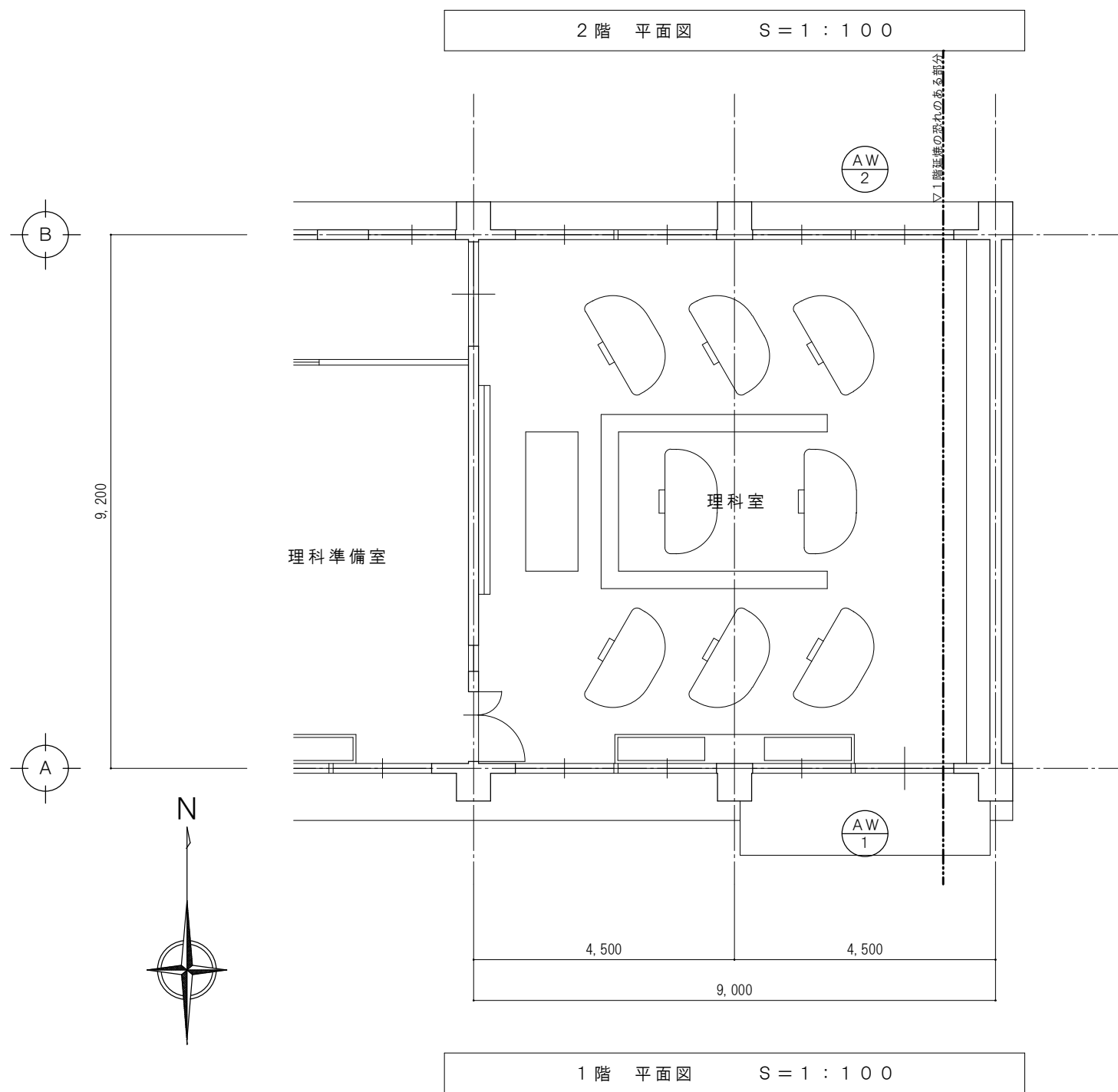
火の見櫓 基礎部平面図 S = 1/50

工事名 御所市消防団第8分団消防車庫改築工事				設計図		図面番号 A - 43
図名 火の見櫓 平面図・立面図				縮尺 1/50	作成日 年 月 日	確認印
【既設解体撤去図】					消滅日 年 月 日	
総合企画、建築設計、監理 株式会社 中環設計				一級建築士事務所 奈良県知事登録 2020 (ハ) 第1421号 一級建築士 174531号 中谷芳一		



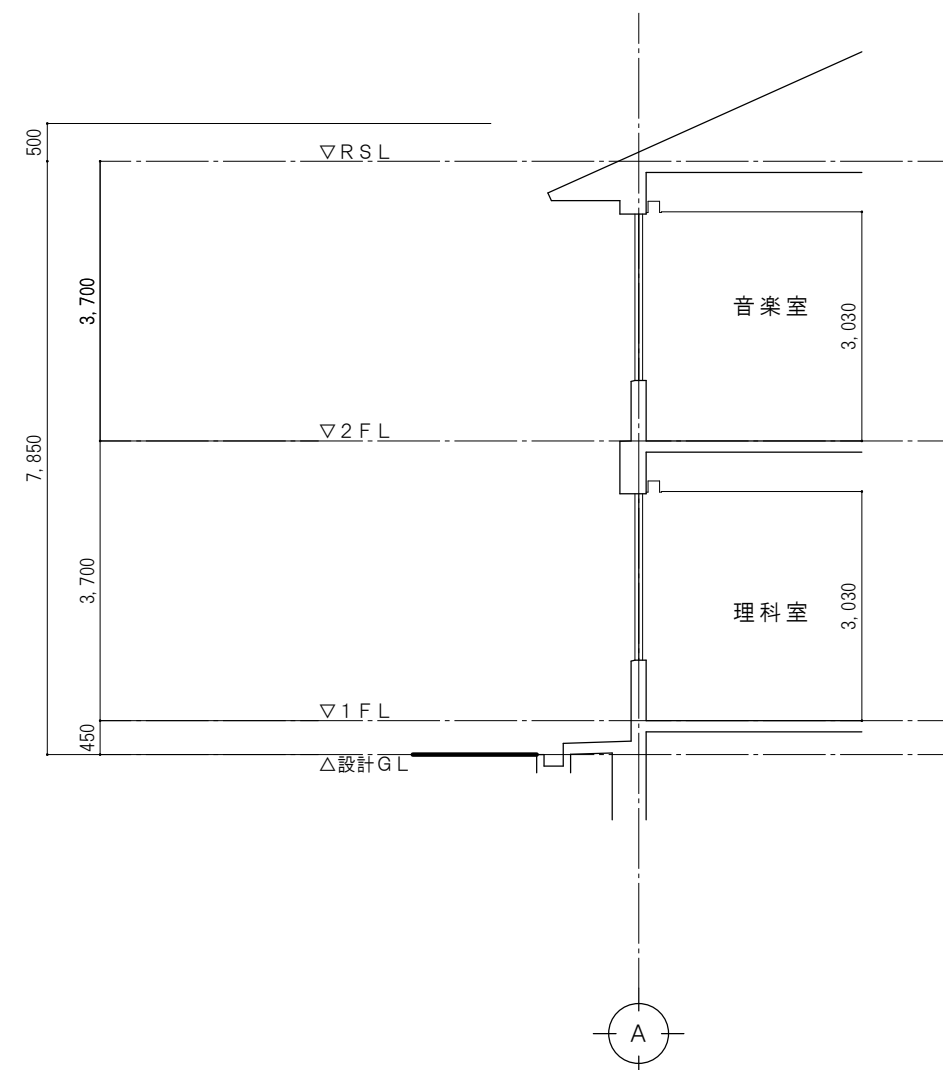
外 構 撤 去 凡 例

記 号	仕 様	数 量
Ⓐ	アスファルト舗装 A-5-10	155.0 ㎡
Ⓑ	ネットフェンス H=1500 基礎共	7.2 m
Ⓒ	コンクリート雨水排水柵	1 か所
Ⓓ	雨水排水管 VP-100φ	4.0 m
Ⓔ	高木 H=4m	7 本




符 号	AW 1	アルミ製引き違い窓	AW 2	アルミ製引き違い窓	AW 2	アルミ製引き違い窓	
現況建具姿図	※ 参考寸法であり現場実測の上施工する事。 		※ 参考寸法であり現場実測の上施工する事。 		※ 参考寸法であり現場実測の上施工する事。 		
改修後建具姿図	△2階延焼の恐れのある部分 		△1階延焼の恐れのある部分 		△2階延焼の恐れのある部分 		
室 名	2 階 音楽室		2 階 音楽室		2 階 音楽室		
見 込	数量	70	2	70	2	70	2
仕 上	アルミ（アルマイトシルバー）		アルミ（アルマイトシルバー）		アルミ（アルマイトシルバー）		
ガラス	網入り透明ガラス t=6.8へ 入替え（シーリング共）【トーン範囲】		網入り透明ガラス t=6.8へ 入替え（シーリング共）【トーン範囲】		網入り透明ガラス t=6.8へ 入替え（シーリング共）【トーン範囲】		
備 考	腰：網入り型板ガラス t=6.8へ 入替え（シーリング共）				横間アルミパネルは既設のまま		

符 号	<div style="display: flex; align-items: center; justify-content: center;"> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 5px; margin-right: 10px;"> A W 4 </div> アルミ製引き違い窓 </div>	
現況建具姿図	<div style="display: flex; justify-content: space-between; align-items: flex-start;"> <div style="text-align: center;"> </div> <div style="text-align: right;"> <small>※ 参考寸法であり現場実測の上施工する事。</small> </div> </div>	
改修後建具姿図	<div style="display: flex; justify-content: space-between; align-items: flex-start;"> <div style="text-align: center;"> </div> <div style="text-align: right;"> <small>※ 参考寸法であり現場実測の上施工する事。</small> </div> </div>	
室 名	2 階 音楽室	
見込	数量	70
仕 上	アルミ (アルマイトシルバー)	
ガラス	網入り透明ガラス t=6.8へ 入替え (シーリング共) 【トーン範囲】	
備 考		



断面図 $S = 1 : 100$

工事名		御所市消防団第8分団消防車庫改築工事		設計図	図面番号	A - 45	
図名	名柄小学校改修図		縮尺	1/100	作成日	年 月 日	
					変更日 (養修)	年 月 日	
 総合企画、建築設計、監理 株式会社 中興設計			一級建築士事務所 奈良県知事登録 2020(ハ)第1421号 一級建築士施174531号 中谷 一		確認印		

構 造 特 記 仕 様 書		2019年度版																																				
§ 1 一般事項		選択項目は <input checked="" type="radio"/> 印を適用し、 <input type="radio"/> 印が無い場合は * 印を適用する。 <input type="radio"/> 印が複数有る場合は、共に適用する。																																				
1-1	使用材料は原則としてJIS規格品、又は大臣認定品とする。																																					
1-2	設計図書の優先順位は下記による。																																					
1) 本特記仕様書																																						
2) 設計図																																						
3) 標準図	<div><div><input checked="" type="radio"/>鉄筋コンクリート構造配筋標準図</div><div><input checked="" type="radio"/>鉄骨工作標準図</div><div><input checked="" type="radio"/>鉄筋鉄骨コンクリート構造標準図</div><div><input checked="" type="radio"/>高強度せん断補強筋施工仕様書</div><div><input checked="" type="radio"/>鉄筋コンクリート壁式標準配筋図</div></div>																																					
4) 仕様書 (● 公共建築協会 * 日本建築家協会)																																					
5) 日本建築学会標準仕様書、JASS5、JASS6																																						
1-3	各工事に際して、施工計画書及び施工図を提出し、工事監理者の承認を得る。																																					
1-4	構造関係材料及び各種試験成績書・検査報告書を作成し提出する。																																					
	第三者機関による検査・試験費用は工事費に (* 含む) (* 含まない)																																					
1-5	設計図書に示されていない材料、工法等を採用する場合は文書にて工事監理者の承認を得る。																																					
1-6	築貫適位置、径、及び箇所数は (● 意匠図 ● 構造図 * 設備図) による。																																					
1-7	その他																																					
§ 2 構造計算ルート																																						
2-1	<table><tr><th>方 向</th><th colspan="4">構造計算ルート</th></tr><tr><td>X</td><td><input checked="" type="radio"/> ルート1</td><td><input checked="" type="radio"/> ルート2</td><td><input checked="" type="radio"/> ルート3</td><td><input checked="" type="radio"/> ●</td></tr><tr><td>Y</td><td><input checked="" type="radio"/> ルート1</td><td><input checked="" type="radio"/> ルート2</td><td><input checked="" type="radio"/> ルート3</td><td><input checked="" type="radio"/> ●</td></tr></table>			方 向	構造計算ルート				X	<input checked="" type="radio"/> ルート1	<input checked="" type="radio"/> ルート2	<input checked="" type="radio"/> ルート3	<input checked="" type="radio"/> ●	Y	<input checked="" type="radio"/> ルート1	<input checked="" type="radio"/> ルート2	<input checked="" type="radio"/> ルート3	<input checked="" type="radio"/> ●																				
方 向	構造計算ルート																																					
X	<input checked="" type="radio"/> ルート1	<input checked="" type="radio"/> ルート2	<input checked="" type="radio"/> ルート3	<input checked="" type="radio"/> ●																																		
Y	<input checked="" type="radio"/> ルート1	<input checked="" type="radio"/> ルート2	<input checked="" type="radio"/> ルート3	<input checked="" type="radio"/> ●																																		
2-2	鉄筋の継手 構造計算ルート別による主筋又は、耐力壁の鉄筋の継手の重ね長さ ● 建築基準法施行令第73条 (政令第73条第2項) による仕様規定 <input checked="" type="radio"/> 日本建築学会 JASS5 (2015)、鉄筋コンクリート造配筋指針・同解説 ● 日本建築学会 RC標準2010 XY両方向共にルート3及び境界耐力計算の場合は、政令第73条の仕様規定によらずJASS5 (2015)、鉄筋コンクリート造配筋指針・同解説及びRC標準2010とすることができる。																																					
§ 3 仮設工事、土工																																						
3-1	山留め、根切り																																					
3-2	埋戻し土、盛土、残土処分 埋戻し土 * 根切り土の中の良土 ● 搬入良土 盛土 * 根切り土の中の良土 ● 搬入良土 残土処分 ● 場内地均し * 場外搬出処分 (* 自由 ● 指定場所)																																					
§ 4 地業工事																																						
4-1	基礎及びスラブ下地業 (単位:mm) <table><tr><th rowspan="2">場 所</th><th rowspan="2">捨てコンクリート厚さ</th><th colspan="2">※ (1)</th><th rowspan="2">厚 さ</th></tr><tr><th>A : 砕 石</th><th>B : 割栗石</th></tr><tr><td rowspan="2">基 礎</td><td>独立、布</td><td>* 50 ● 60 ● 100</td><td>* A ● B</td><td>* 60 ● 100 ● 150 ●</td></tr><tr><td>ベ タ</td><td>* 50 ● 60 ● 100</td><td>* A ● B</td><td>* 60 ● 100 ● 150 ●</td></tr><tr><td colspan="2">地 中 梁</td><td>* 50 ● 60 ● 100</td><td>* A ● B</td><td>* 60 ● 100 ● 150 ●</td></tr><tr><td colspan="2">構造スラブ</td><td>* 50 ● 60 ● 100</td><td>* A ● B</td><td>* 60 ● 100 ● 150 ●</td></tr><tr><td rowspan="2">土間スラブ</td><td>屋内</td><td>* 50 ● 60 ● 100</td><td>* A ● B</td><td>* 60 ● 100 ● 150 ●</td></tr><tr><td>屋外</td><td>* 50 ● 60 ● 100</td><td>* A ● B</td><td>* 60 ● 100 ● 150 ●</td></tr></table> 注 (1) アンカーボルト支持用フレームの、あと施工アンカーを打込む部分は100以上とする。 (2) 端部aは100以上とする。 			場 所	捨てコンクリート厚さ	※ (1)		厚 さ	A : 砕 石	B : 割栗石	基 礎	独立、布	* 50 ● 60 ● 100	* A ● B	* 60 ● 100 ● 150 ●	ベ タ	* 50 ● 60 ● 100	* A ● B	* 60 ● 100 ● 150 ●	地 中 梁		* 50 ● 60 ● 100	* A ● B	* 60 ● 100 ● 150 ●	構造スラブ		* 50 ● 60 ● 100	* A ● B	* 60 ● 100 ● 150 ●	土間スラブ	屋内	* 50 ● 60 ● 100	* A ● B	* 60 ● 100 ● 150 ●	屋外	* 50 ● 60 ● 100	* A ● B	* 60 ● 100 ● 150 ●
場 所	捨てコンクリート厚さ	※ (1)				厚 さ																																
		A : 砕 石	B : 割栗石																																			
基 礎	独立、布	* 50 ● 60 ● 100	* A ● B	* 60 ● 100 ● 150 ●																																		
	ベ タ	* 50 ● 60 ● 100	* A ● B	* 60 ● 100 ● 150 ●																																		
地 中 梁		* 50 ● 60 ● 100	* A ● B	* 60 ● 100 ● 150 ●																																		
構造スラブ		* 50 ● 60 ● 100	* A ● B	* 60 ● 100 ● 150 ●																																		
土間スラブ	屋内	* 50 ● 60 ● 100	* A ● B	* 60 ● 100 ● 150 ●																																		
	屋外	* 50 ● 60 ● 100	* A ● B	* 60 ● 100 ● 150 ●																																		
4-2	設計耐力力 長期 100 kN/m ² 短期 200 kN/m ² 終局 kN/m ² 耐力力載荷試験 ● 行 っ (箇所、長期設計耐力の3倍を確認する) * 行わない																																					
4-3	地盤改良 ● 無筋コンクリート地業 ● 締固め工法 ● ソイルセメント杭 <input checked="" type="radio"/> セメント系固化材費拌 ● 圧密排水工法 ● [● 載荷試験 ● 一軸圧縮試験] ● 行 っ (1 箇所) * 行わない [<input checked="" type="radio"/> 六価クロム溶出試験] ● 行 っ * 行わない																																					
4-4	既製コンクリート杭、鋼管杭、その他特殊杭 1) 杭種 ● PHC杭 ● A種 ● B種 ● C種 ● ● ST杭 ● A種 ● B種 ● C種 ● ● SC杭 t mm ● ● ● ● PRC杭 ● I 種 ● II 種 ● III 種 ● IV 種 ● 鋼杭 ● A種 ● B種 ● C種 ● 2) 工法 ● 打撃工法 ● 油圧ハンマー ● ディーゼルハンマー ● 埋込み工法 ● プレローリングセメントミルク注入工法 ● プレローリング拡大掘削工法 (認定工法) 杭周固定液 * あり ● なし ● 中間拡大掘削工法 (認定工法) ● 回転掘削掘削工法 (認定工法)																																					

3)杭径、設計耐力、本数表

杭径(杭底部)mm	長期kN	短期kN	終局kN	本数	備 考
()					
()					
()					
()					

4)杭の構成は設計図による。

5)杭頭補強

● かご筋

● スタッド溶接

● 杭外周溶接

4-5場所打鉄筋コンクリート杭、場所打鋼管コンクリート杭

1)工法

● アースドリル工法

● 拡張アースドリル工法

● リバース工法

● オールケーシング工法

(● ベノト工法

●)

● BH工法

●

2)杭径、設計耐力、本数表(杭底部は施工図を示す)

杭径(杭底部)mm	管厚 mm	長期kN	短期kN	終局kN	本数	備 考
()						
()						
()						
()						
()						

3)杭先端深さ

Q₁ ~ m

4)孔壁測定

(2 方向)

* 行 っ

(● 全数

● %)

● 行わない

5)使用材料

コンクリートの仕様は設計図による。特記のない場合JASS5水中コンクリートによる。

コンクリート

Fc

(● 普通ポルトランドセメント

● 高炉セメント B種)

鉄筋

● D 以下

SD295A

● D 以上

SD345

● D 以上

SD390

鋼管(リブ付)

● SKK400

● SKK490

4-6杭打地業共通事項

1)[

● 杭長決定用先行杭

● 試験掘

]

● 行 っ (本)

● 行わない

2)載荷試験

● 行 っ (箇所、長期設計耐力の3倍を確認する)

● 行わない

3)SL塗布

● 行 っ

● 行わない

§ 5 鉄筋工事

5-1材種

種 類	径	継 手
<div><div><input checked="" type="radio"/> SD295A</div></div>	D16 以下	* 重ね継手 ● スパイラル ● 工場溶接
<div><div><input checked="" type="radio"/> SD345</div></div>	D19 以上	● 重ね継手 * ガス圧接 ● 溶接継手
● SD390	D 以上	* ガス圧接 ● 溶接継手 ● 機械継手(級)
● SD490	D 以上	● ガス圧接 * 溶接継手 ● 機械継手(級)
<div><div><input checked="" type="radio"/> 溶接鋼</div></div>		<div><div><input checked="" type="radio"/> 重ね継手</div></div>
● 高強度せん断補強筋	● 1275級	P ● フック加工 ● スパイラル ● 工場溶接
	● 785級	K
	● 685級	U

5-2ガス圧接部の検査(第三者機関による)外観検査全数(引張り試験の場合、施工者自主検査でもよい)

● 抜取り検査

● 引張り試験 (JISZ3120)

1 検査ロットにつき

* 3 本

● 原則 柱・梁の径毎に3本

☒ 超音波探傷試験 (JISZ3062)

● 熱間押抜き試験

1 検査ロットにつき

☒ 30 箇所

●

o 不合格となった圧接部は切り取って再圧接を行う。また残り全数に対して超音波探傷試験を行う。

1 検査ロットは1組の作業班が1日に施工した圧接箇所の数で200箇所以内

5-3溶接、機械式継手の検査は各々の認定方法による他日本継手協会仕様書(2017年)による。

5-4梁貫通補強

補強筋は原則として工場製品(認定品)を使用する。

5-5その他

基礎梁、基礎小梁の継手及び定着は原則として

☒ ①一般

● ②地反力を受ける

● ③上載荷重が大きい場合

とする。

梁の余長

☒ 採用

 大梁・小梁

 * D (梁有効長)

● 端部上下筋15d 中央上下筋20d

地中梁

 * min(D/4/2019

● 端部上下筋15d 中央上下筋20d

鉄筋の組立は適切な位置にスペーサーを使用し、組立後は形状保持のための養生を行う。

コンクリート打設する部材は、初回の打設後に鉄筋の露布を行う。

コンクリート打設前に工事監理者の検査を受け不備な箇所は修正を行う。

§ 6 コンクリート工事

6-1設計基準強度

(N/mm²)

1)セメント

* 普通44kg/1袋 JISR5210

高炉44kg/1袋

● 低熱44kg/1袋 JISR5210

●

2)粗骨材

● 砂利

* 砕石

高炉44kg/1袋

● 4.軽量骨材

● 再生骨材

最大径(mm)

* 20

● 25

● 40

3)躯体(使用区分は設計図の軸組図に示す)

● 普通コンクリート

● Fc18

☒ Fc21

● Fc24

● Fc27

● Fc30

● Fc

● Fc

● 軽量コンクリート (* 1種

● 2種 気乾単位容積質量 * 18.5)

● LFc18

● LFc21

● LFc24

● LFc27

● LFc30

● LFc

4)土間コンクリート

☒ Fc 18

(ただし柱、壁等と同時に打込む場合は躯体の強度とする)

5)捨てコンクリート

☒ Fc 18

6)防水押さえコンクリート

☐ Fc

☒ LFc 18

(気乾単位容積質量 * 18.5)

7)かき上げコンクリート

☐ Fc

☐ LFc

(気乾単位容積質量 * 18.5)

6-2 混和材

☒ AE 減水剤

☒ 高性能 AE 減水剤

☐ 躯体防水材

☐ 膨脹材

注1 混和剤は所定の品質を確保するためにプラントの特性に応じたものを使用する。

6-3

箇 所	基礎、地中梁	一 般			備 考
スラブ	cm 15	18			
水セメント比	% 60以下	60以下			60以下
単位水量	kg/m ³ 185以下	185以下			185以下
単位セメント量	kg/m ³ 270以上	270以上			270以上

6-4

試験(躯体コンクリートの28日圧縮試験は公称機関において行う)

1)骨材 [☒ 塩分含有量 ● アルカリシリカ反応性] * 行 っ ● 行わない

2)フレッシュコンクリート [☒ スランプ ☒ 空気量] * 行 っ ● 行わない

3)躯体のせき板取り外し時期決定圧縮試験

● 行 っ ● 行わない

4)コンクリートコア抜き取り圧縮試験

● 行 っ * 行わない

5)マスコンクリートのひび割れ調査(温度応力解析)

● 行 っ * 行わない

6)単位水量測定

● 行 っ ● 行わない

6-5

調合(補正値は工事費に含む)

計画供用期間の級()は耐久設計基準強度F_d

● 短期(18)

☒ 標準(24)

● 長期(30)

● 超長期(36)

調合管理強度 F_{cm}=Max{F_c, F_d}+S S=3~6

材齢28日の調合強度Fは下記の式式を満足するものとする。

F_d≧F_{cm}-1.73W+0.033 F_d≧0.85F_{cm}-3W+0.033

6-6

せき板及び支柱の必要期間(普通ポルトランドセメントの場合)

	基礎、梁、柱、壁	スラブ下	梁 下
コンクリートの材料による場合	15℃以上	3 日	17 日
	5℃以上	5 日	25 日
	0℃以上	8 日	28 日
圧縮試験による場合	5N/mm ²	0.85Fcまたは12N/mm ²	設計強度

6-7

住宅性能表示

劣化等級 ● 等級2 ● 等級3

劣化等級2又は3を指定する場合は、鉄筋コンクリート構造配筋標準図(1)2-7がふり書きが変わる場合があるので注意すること。

6-8

Fc36を超える高強度コンクリートは別記特記仕様書(JASS5等)による。

§ 7 鉄骨工事

7-1

材種及び使用箇所

規 格 名 称	鋼 材 名	柱	通 し ダイヤ	内 ダイヤ	大梁	グレー	小梁 他
一般構造用圧延鋼材	<input checked="" type="radio"/> SS400 ●				<input checked="" type="radio"/>	<input checked="" type="radio"/>	<input checked="" type="radio"/>
溶接構造用圧延鋼材	● SM400A ● SM490A						
	● SM400A ●						
	● SM400B ● SM490B						
建築構造用圧延鋼材	● SM400C <input checked="" type="radio"/> SM490C		<input checked="" type="radio"/>				
	● SM400C ● SM490C						
一般構造用角形鋼管	● STKR400 ● STKR490						
冷間成形角形鋼管	<input checked="" type="radio"/> BQR295 ●	<input checked="" type="radio"/>					
	● BQP235 ● BQP325						
熱間成形角形鋼管	● SHC400B ● SHC400C						
	● SHC490B ● SHC490C						
一般構造用炭素鋼管	● STK400 ● STK490						
一般構造用軽量形鋼	<input checked="" type="radio"/> SSC400 ●						<input checked="" type="radio"/>
建築構造用圧延鋼鋼	● SMR400						

7-2

高力ボルト

高 力 ボ ル ト の 種 類	使 用 箇 所
トルシア形高力ボルト	<input checked="" type="radio"/> S10T 全般
JIS形高力ボルト	<input checked="" type="radio"/> F10T トルシア形が使用できない部分
溶融亜鉛メッキ高力ボルト	● F8T 母材が亜鉛メッキされている部分
超高力ボルト	● S14T 屋内環境

7-3

普通ボルト、アンカーボルト

1) 材質 ● SS400 ● SS490 (M₁₀以上)
● ABR400 ● ABR490 ● ABM400 ● ABM490 (ABMはM24以上)

2) 大臣認定柱脚(メーカー仕様による) ☒ 使用する ● 使用しない

7-4

頭付きスタッド

径	長 さ (mm)	使 用 箇 所
16 M/0306	<input checked="" type="radio"/> 80 ● 100 ● 120 ● 150 ●	
19 M/0306	● 80 ● 100 ● 120 ● 150 ●	
22 M/0306	● 100 ● 120 ● 150 ●	

7-5

溶接材料

1)アーク溶接に使用する溶接棒、ワイヤ及びフラックスは母材の種類、寸法、及び溶接条件に相応したものを選定する。

2)ガスシールドアーク溶接に使用するシールドガスは溶接に相応したものとする。

7-6

スクラップ形状 * スクラップ工法 ● ノンスクラップ工法

7-7

継手

	柱	梁
フランジ	● 高力ボルト <input checked="" type="radio"/> 現場溶接 * 高力ボルト ● 現場溶接	
ウェブ	● 高力ボルト <input checked="" type="radio"/> 現場溶接 * 高力ボルト ● 現場溶接	

溶接手法及び管理

1)使用する溶接ワイヤー、入熱量及びバス温度等の仕様については鉄建協又は金協の仕様で、専任の溶接施工管理技術者により管理を行うこと。

2)本工事で代替タブを使用する場合は、代替タブ溶接技術者技能検定付加試験を●行う＊行わない

3)A/B検定(工場・現場・代替タブ)の有資格者で、係員の承認を受けた者は技能検定付加試験を免除する。

7-9

デッキプレート(単位mm)

1)床用高さ●板厚●

2)合成スラブ用高さ●50板厚●1.2

3)型枠用高さ●板厚●形板タイプ

4)防錆処理●プライマー●亜鉛メッキ●Z12●Z27

7-10

塗装(工場塗＊2回●1回、現場タッチアップ程度とする)

1)素地調整＊クレン●プラスト

2)下塗り用塗料

適用		塗料	種別	標準膜厚
屋外	室内			
＊	＊	鉛、クロムフリー錆止め	JISK5674	＊1種＊2種30μm
	＊	水素さび止めペイント	JASS18M-111	30μm
●	●	水性エポキシ樹脂プライマー	JASS18M-109	●1種●2種40μm
●	●	有機ジンクリッチプライマー	JISK5552	●2種15μm
●	●	構造用さび止めペイント	JISK5551	A種30μm

3)溶融亜鉛メッキ●●●

鉄筋コンクリート構造配筋標準図(1) 2019年度版

§1 一般事項

1-1
基本事項

1. 使用材料、工法等は構造特記仕様書による。
2. 設計図書に記載なき場合は本標準図に従うものとする。
また本標準図に明記なき場合は構造特記仕様書1-2-4に指定した共通仕様書及び日本建築学会「JASS5(2015)」及び「鉄筋コンクリート造配筋指針・同解説」による。
3. 本標準図は異形鉄筋を対象とし、dは呼び名に用いた数値とする。
4. 本標準図に示す単位は特記なき限りすべてmmとする。

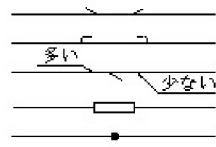
1-2
その他

§2 共通事項

鉄筋の表示記号及び異径は下表による。

記 号	●	×	※	●	○	⊗	⊙	⊕	⊖	⊗	
呼び径 d	D10	D13	D16	D19	D22	D25	D29	D32	D35	D38	D41
異径径 D	11	14	18	21	25	28	33	36	40	43	46

- フックのない場合
- フックのある場合
- 本数に差がある場合
- 機械式継手表示
- ガス圧接、溶接継手表示

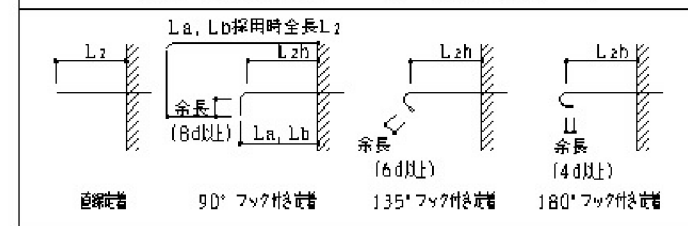
2-1
鉄筋の
表示記号

柱・梁・基礎の主筋、及び、その他の鉄筋の折曲げ形状・寸法

折曲げ 角度	図	鉄筋の 使用箇所 による呼び	鉄筋の 種類	鉄筋の 径による区分	鉄筋の折曲げ内法 長さ(D)
180°		柱・梁主筋 基礎主筋 桁筋 スライラ筋 スラブ筋 壁筋	SD295 SD345 SD390 SD490	D16以下 D19~ D41 D25以下 D29~ D41	3d以下 4d以下 5d以下 6d以下
135°					
90°					

2-2
鉄筋の
折り曲げ「JASS5
(2015)」
に準拠
重ね継手は
40dとする。

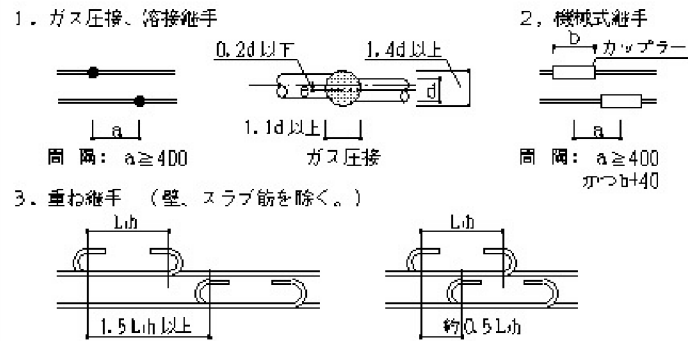
鉄筋の 種類	コンクリート の設計基 礎強度 (N/mm ²)	重ね継手の 長さ 上層筋 L ₁ 下層筋 L ₂ T ₁ T ₂ L ₁ L ₂	定着の長さ		L ₁ =20d L ₂ =10d スラブの 場合 L ₁ =10d かつ 150以下
			一般	小梁・床スラブ	
SD295 SD345 (1はSD345 のみ)	18	45d(50d) 35d	40d 30d	15d (20d)	
	21	40d(45d) 30d	35d 25d	20d(25d), 15(20)d	
	24~27	35d(40d) 25d(30d)	30d(35d) 20d(25d), 15(20)d	15d	
	30~36	35d 25d	30d 20d(30d), 15d		
	39~45	30d(35d) 20d(25d)	25d(30d) 15d(20d), 15d		
SD390 (SD490) (1はSD490 のみ)	21	50d(-) 35d(-)	40d(-) 30d(-), 20d(-)	20d (-)	SD490 の場合
	24~27	45d(55d) 35d(45d)	40d(45d) 30d(35d), 20(25)d		
	30~36	40d(50d) 30d(35d)	35d(40d) 25d(30d), 20(25)d	15d (-)	
	39~45	40d(45d) 30d(35d) 25d(30d)	35d(40d) 25d(30d), 15(20)d		

一般定着の長さ L₁または L₂はフック付きの L₁h, L₂h, L₁b, L₂b の図

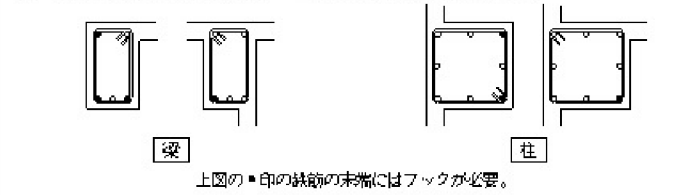
1. 重ね継手の長さは鉄筋の折曲げ起点間の距離、又、フック付きの L₁h は仕口面から鉄筋の折曲げ起点までとし、末端のフックは定着長さに含まない。
2. 軽量コンクリートを使用する場合は、2-3の数値に5dを加算する。

2-4
継手一
般2-5
鉄筋のフック2-6
鉄筋のあき2-7
かぶり厚さ

3. 構造特記仕様書2-2で政令第73条とした場合、主筋又は耐力壁の鉄筋の重ね重ね長さは左下表1) かつ40d (軽量コンクリートを使用する場合は50d)とする。
4. 構造特記仕様書2-2でJASS5(2015)、RC標準2010とした場合、主筋又は、耐力壁の鉄筋の重ね重ね長さは設計者の指示による。参考値として左下表JASS5(2015)にL₁、L₂を示す。



4. D35以上の鉄筋は原則として重ね継手は用いない。
(ガス圧接、溶接、機械式継手等による)
5. 鉄筋継手を行う場合は原則として同一鋼種とし、鉄筋径の差はガス圧接の場合は2サイズ、溶接の場合は1サイズまでとする。
6. 溶接継手及び機械式継手の場合はメーカー仕様による。
○ 下記の1) ~ 7) に示す鉄筋の末端部にはフックをつける。
1. あばら筋及び帯筋 2. 懸梁の鉄筋
3. 柱及び梁 (基礎梁を除く) の出隅部分の鉄筋 (下図参照)

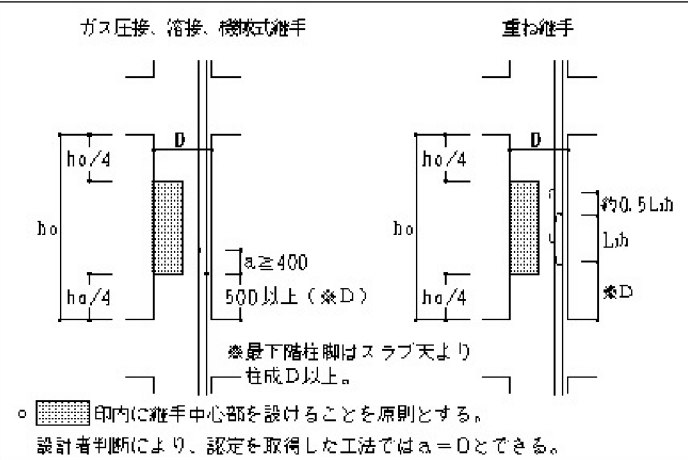
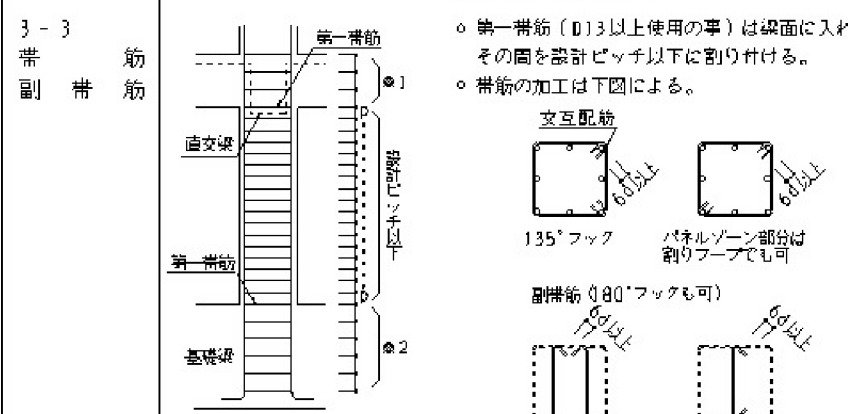
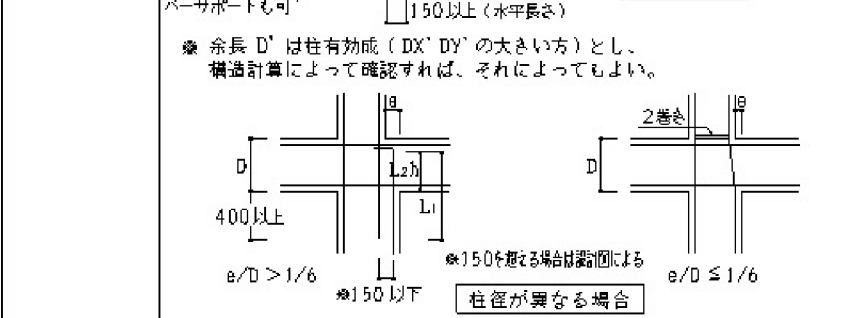
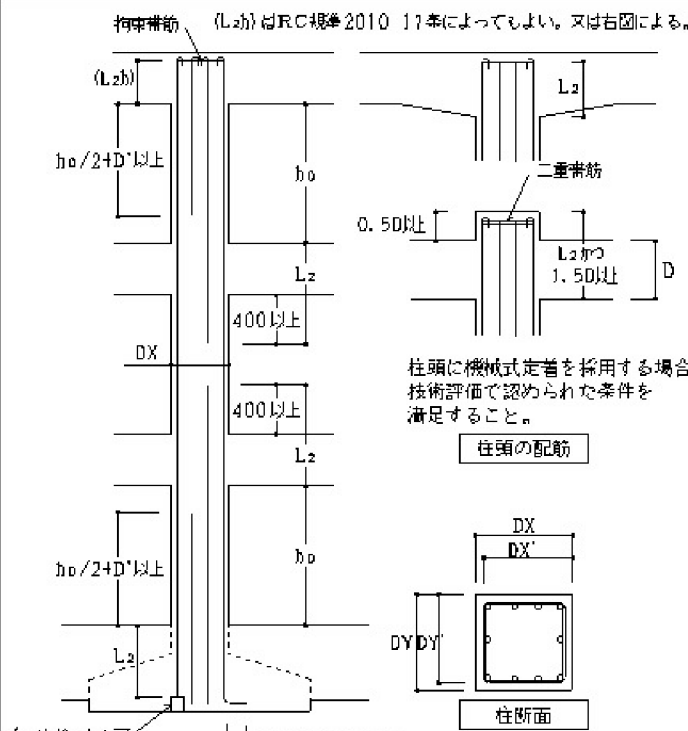


4. 片持ちスラブの上端筋の先端
5. 最上階及びこれに準ずる箇所の柱間の四隅の鉄筋
6. 杭基礎の基礎筋 (偏心基礎及び杭2本打以上の場合)
7. 鉄骨柱の脚部の基礎柱、又は根巻コンクリートの四隅の鉄筋
- 鉄筋のあき a は原則として下記による。
呼び名の数値 d の 1.5 倍以上
但し、a は最大寸法の 1.25 倍以上 } かつ 25 以上
※ D は異径を示す
- 鉄筋径が異なる場合は大きい方による。
- 二段筋のあきは 1.5d とする。
- 鉄筋に対するコンクリートの設計かぶり厚さと最小かぶり厚さ

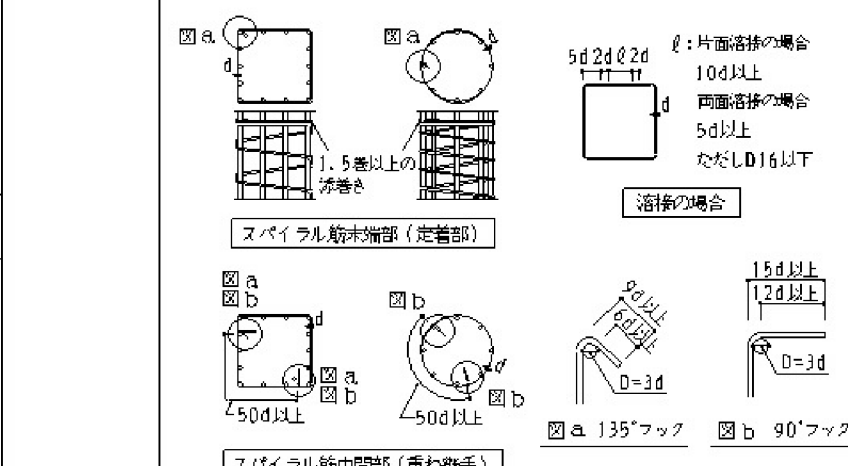
部 位	要 求	かぶり厚さ	
		仕上げあり	仕上げなし
土に接しない部分	電線スラブ	30(20)	30(20)
	床スラブ	30(20)	40(30)
	耐力壁	40(30)	40(30)
	柱	40(30)	50(40)
土に接する部分	柱・梁・床スラブ・壁	50(40)	50(40)
	基礎・杭	70(60)	70(60)

1. () 内の数値は最小かぶり厚さを示す。
2. 仕上げあり とは、鉄筋の耐久性上有効な仕上げのある場合とする。
3. ※1 品質・施工法に拘り、工事監理者の承認で10%減の値とすることが出来る。
4. ※2 軽量コンクリートの場合は、これに10%加算する。
5. 柱・梁の主筋のかぶり厚さは主筋径の1.5倍以上とする。

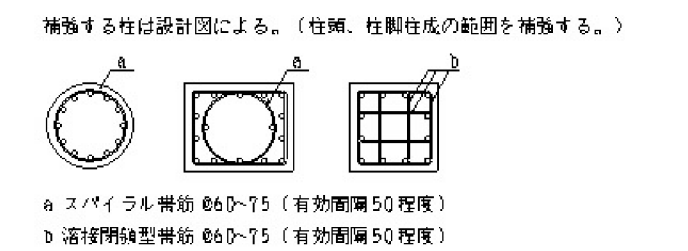
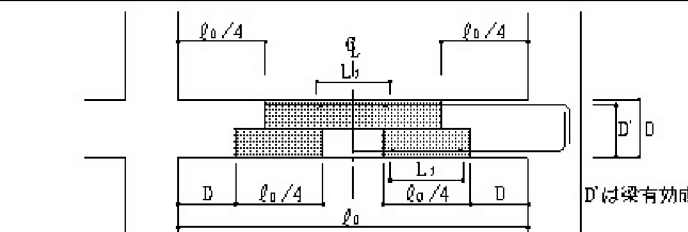
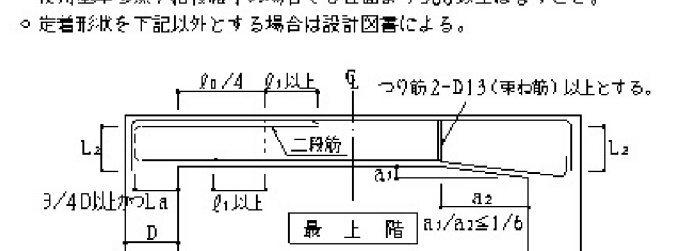
§3 柱

3-1
主筋の継手3-2
主筋の定着

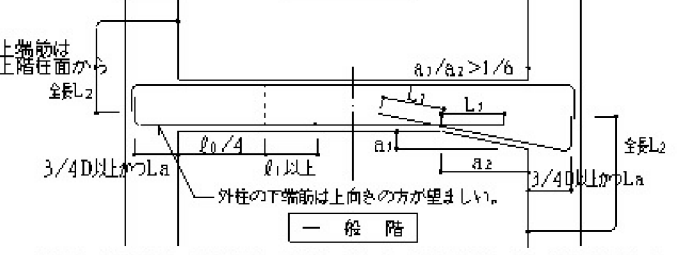
- 第一帯筋 (D13以上使用の事) は梁面に入れ、その間を設計ピッチ以下に割り付ける。
- 帯筋の加工は下図による。
- スライラ筋の末端処理及び継手は下記のとおりとする。
- 1. 末端は 1.5 倍以上の溶着をなし、図 a のフックをつける。
- 2. 重ね継手は重ね長さを 50d 以上とし、図 a 又は図 b のフックをつける。



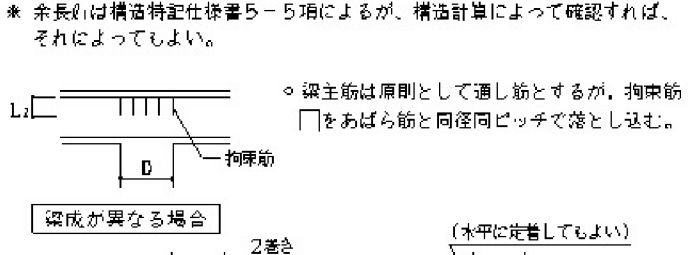
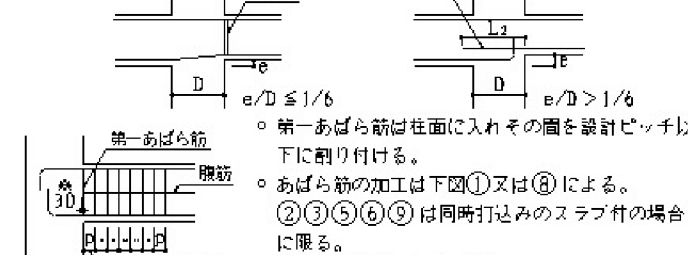
- 補助筋は D10 をピッチ 600 以内に割り付ける。
- 中止筋を設ける場合は、設計者の指示による。

3-4
補助筋3-5
柱の
コンファインド
補強4-1
主筋の継手4-2
主筋の定着
及び余長

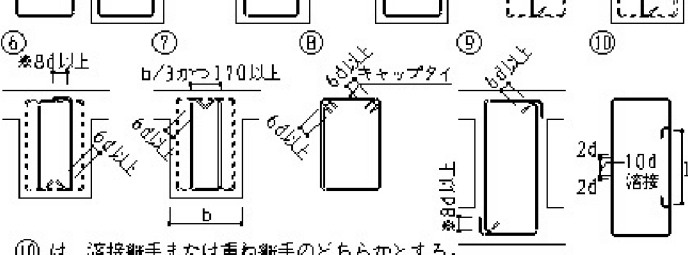
外 柱



中 柱

4-3
あばら筋
副あばら筋

- 第一あばら筋は柱面に入れその間を設計ピッチ以下に割り付ける。
- あばら筋の加工は下図①又は②による。
- ②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩は同時打込みのスラブ付の場合に限る。
- ⑨⑩は梁成の大きい場合。
- ①はピッチ 2p で交互配置とする。
- 135° フックは 180° フックでも可とする。
- 溶接継手は帯筋の項を参照のこと。



- ⑩は、溶接継手または重ね継手のどちらかとする。
- 柱面より梁成の範囲は、180° フック又は 135° フックが望ましい。

(販売元) 一般社団法人日本建築構造設計事務所協会連合会 <http://fasa-net.jp>(発行元) 一般社団法人関西建築構造設計事務所協会 TEL (06) 6763-8205 FAX (06) 6763-8206 <http://www.kec-web.com/>

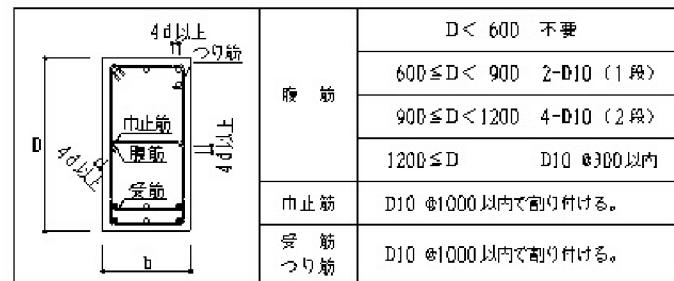
2019年2月1日版

(不許複製)

工事名	御所市消防団第8分団消防車庫改築工事			設計図	図面番号	S - 02
図 名	鉄筋コンクリート構造配筋標準図(1)			縮尺	—	作成日
			年	月	日	確認印
			年	月	日	
総合企画、建築設計、監理 株式会社 中環設計			一般建築士事務所 奈良県知事登録 2020 (ハ) 第1421号 一般建築士法 174531号 中谷芳一			

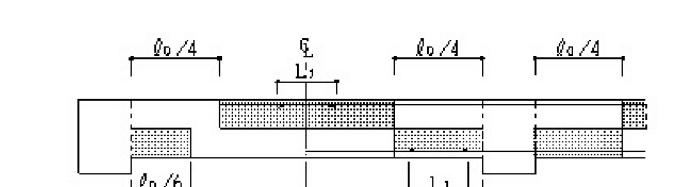
鉄筋コンクリート構造配筋標準図(2) 2019年度版

4-4 補助筋

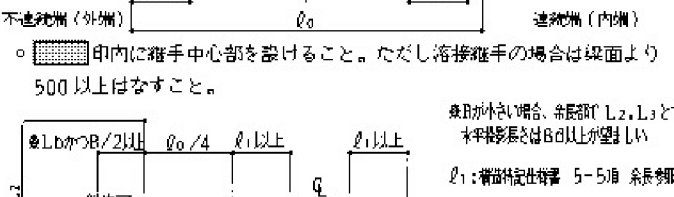


4-5 小梁及び片持梁

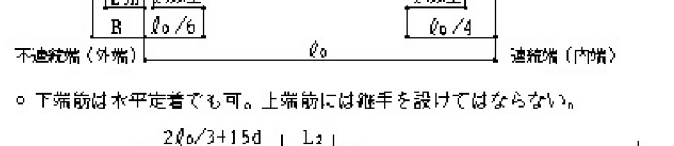
a) 小梁継手



定着

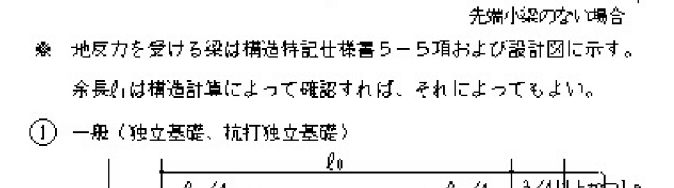


b) 片持梁定着

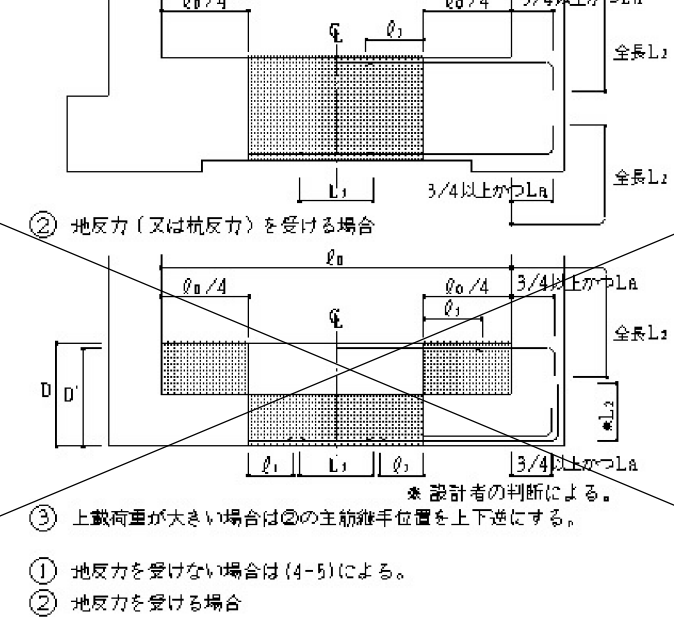


4-6 基礎梁及び基礎小梁

a) 基礎梁の継手及び定着

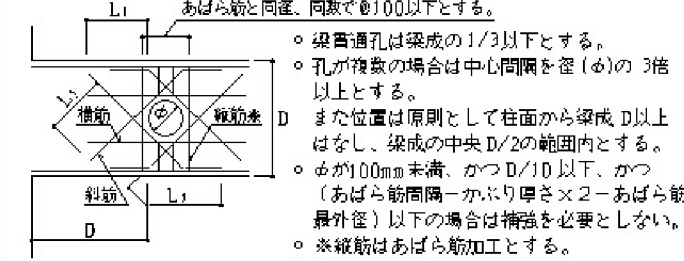


b) 基礎小梁の継手及び定着



4-7 梁の貫通補強

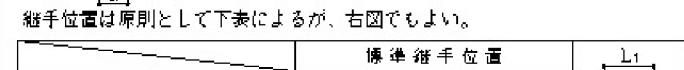
1. 補強筋は原則として工場製品(認定品)を使用する。
2. 認定品を使用しない場合は下図によるが、補強筋は設計者の指示による。



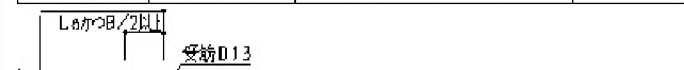
5-1 鉄筋の折り曲げ及び定着



5-2 継手



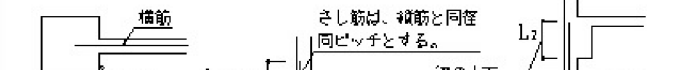
5-3 片持スラブ



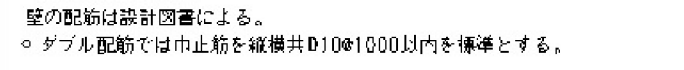
5-4 補強筋



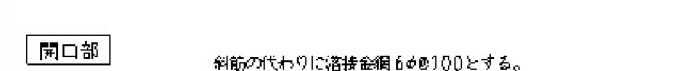
6-1 定着及び継手



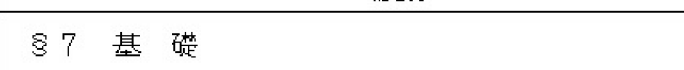
6-2 壁配筋



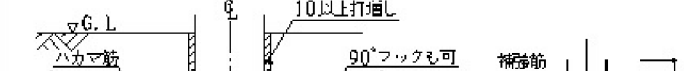
6-3 補強筋



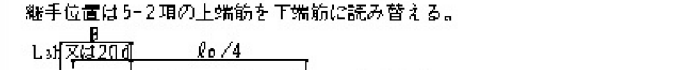
7-1 独立基礎



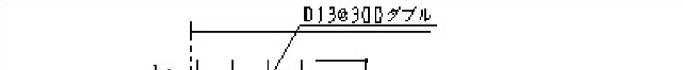
7-2 杭基礎



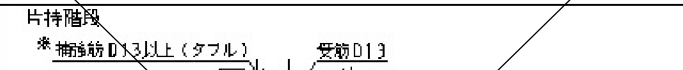
7-3 べた基礎継手及び定着



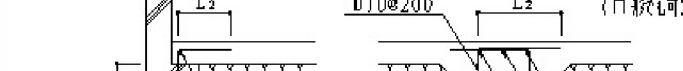
7-4 基礎と基礎梁



8-1 階



8-2 土間コンクリート



8-3 打増し補強



8-4 増築予定

(販売元) 一般社団法人日本建築構造設計事務所協会連合会 <http://fasa-net.jp>(発行元) 一般社団法人関西建築構造設計事務所協会 TEL(06)6763-8205 FAX(06)6763-8206 <http://www.kec-web.com/>

2019年2月1日版 (不許複製)

一般事項

1-2
その他

- ## § 2 共通事項

- ### § 3 ボルト接合

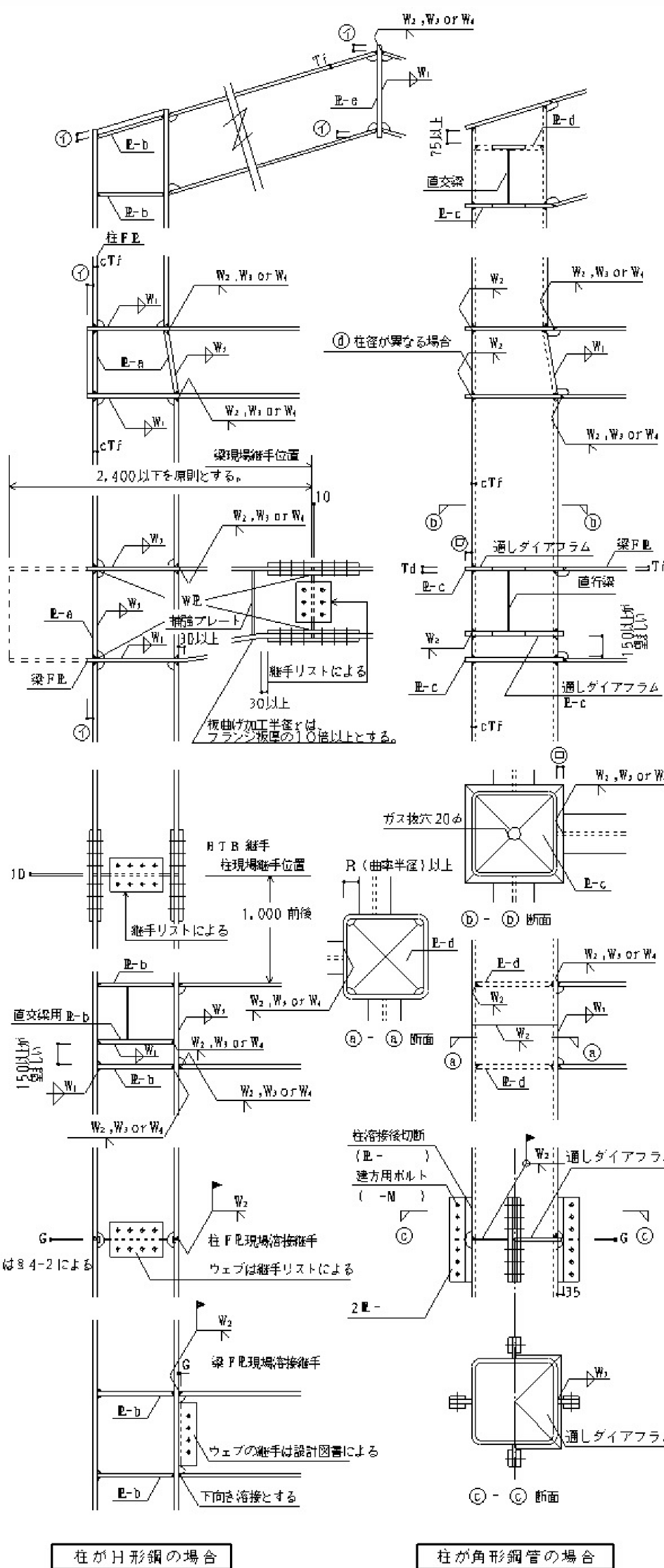
* B = 300 は千鳥打ちとする。
 ** 印の欄の g 及び最大軸径の値は強度上支障がないとき
 最小縁端距離の規定にかかわらず用いることができる。

4-2
完全溶込み
溶接
(突合せ溶接)

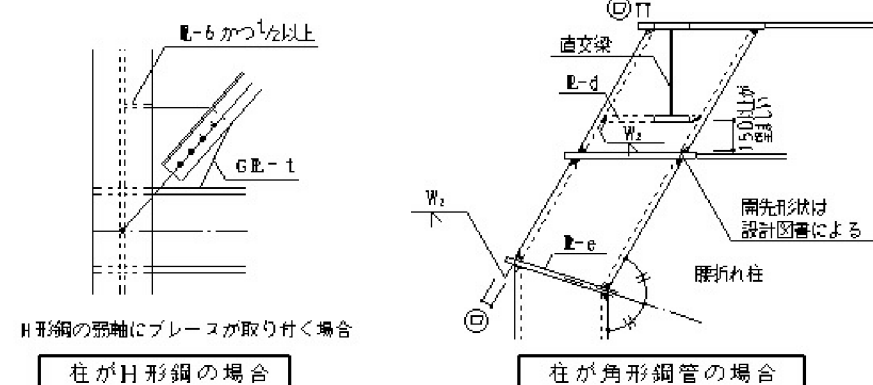
4-3
部分語込み
語接

1. GE, RE は材種、阪厚とも小梁の WE と同等以上とする。
2. 継手プレート及び高力ボルトはリストによる。

目 6 柱梁接合部及び継手

6-5
彈場液熱對手

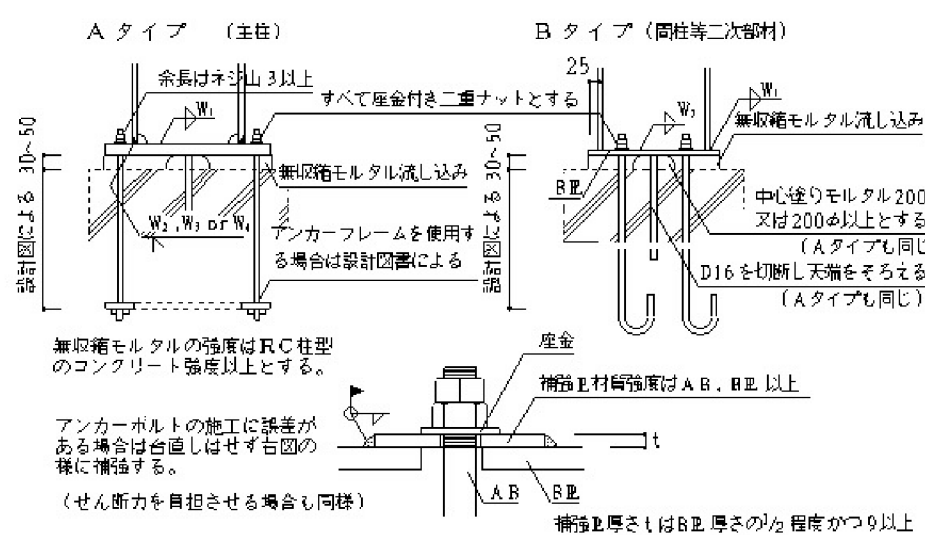
6-6
その他



- 1) パネルゾーンの厚さの取合
- | | |
|-------------------|--------------------------------------|
| 1, E-a (鉛直スチフラン) | 上下柱のF.E.の厚い方より1サイズUP以上 |
| 2, E-b (水平スチフラン) | 仕口部に集結する梁の最大F.E.より1サイズUP以上 |
| 3, E-c (通しダイアフラム) | 仕口部に集結する梁の最大F.E.より2サイズUP以上かつ柱のF.E.以上 |
| 4, E-d (内ダイアフラム) | 仕口部に集結する梁の最大F.E.より2サイズUP以上 |
| 5, E-e (折れ曲がり部) | 梁(柱)のF.E.より1サイズUP以上 |
- 2) 寸法
- ① 25^{mm}かつcTf以上
- ② cTf≦25の場合 25
- cTf≧28の場合 30
- 3) 注記
- 1, ダイアフラムの材質は特記仕様書による。特記なき場合は、接続する柱及び梁の1ランク上質とする。また接続する柱及び梁の強度及び材質の異なる場合は、強度は大きい方に同じとし、材質は上の方の1ランク上質とする。
- 2, ④ (b-2項) 上下階で柱径が異なる場合の板厚は上下階柱の厚い方、材質は上下階柱と同質以上とし、折り曲げ加工は溶接加工とする。
- 3, ハンチ部でF.E.を折曲げる場合はR≧10Tfとし補強プレートを入れる。ただし、勾配のゆるい場合(1/6程度)は不要。
- 4, ダイアフラムと梁フランジの接合部は、梁フランジはダイアフラムの厚みの内部で溶接すること。(告示1464)
- 5, 現場溶接を行なう場合は工事監理者の承認を得、養生に十分配慮して行うこと。

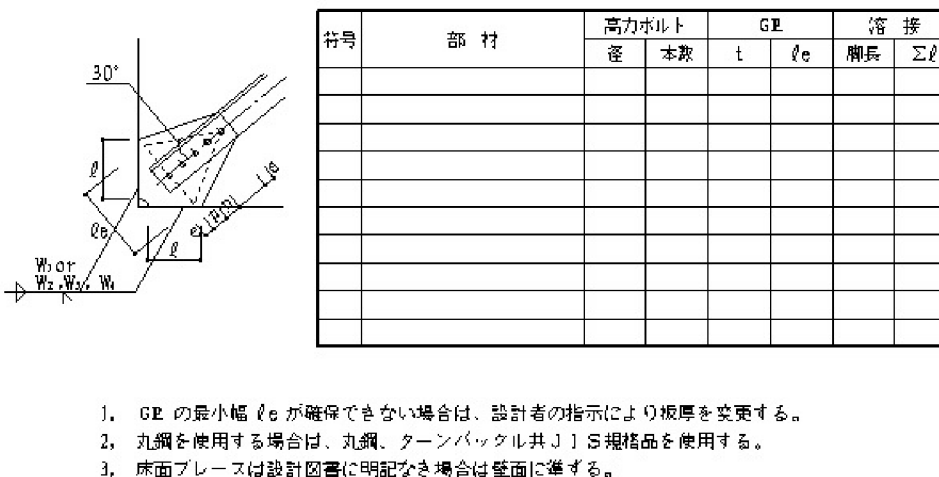
§ 7 柱 脚

7-1
一般柱脚



88 壁面ブレース

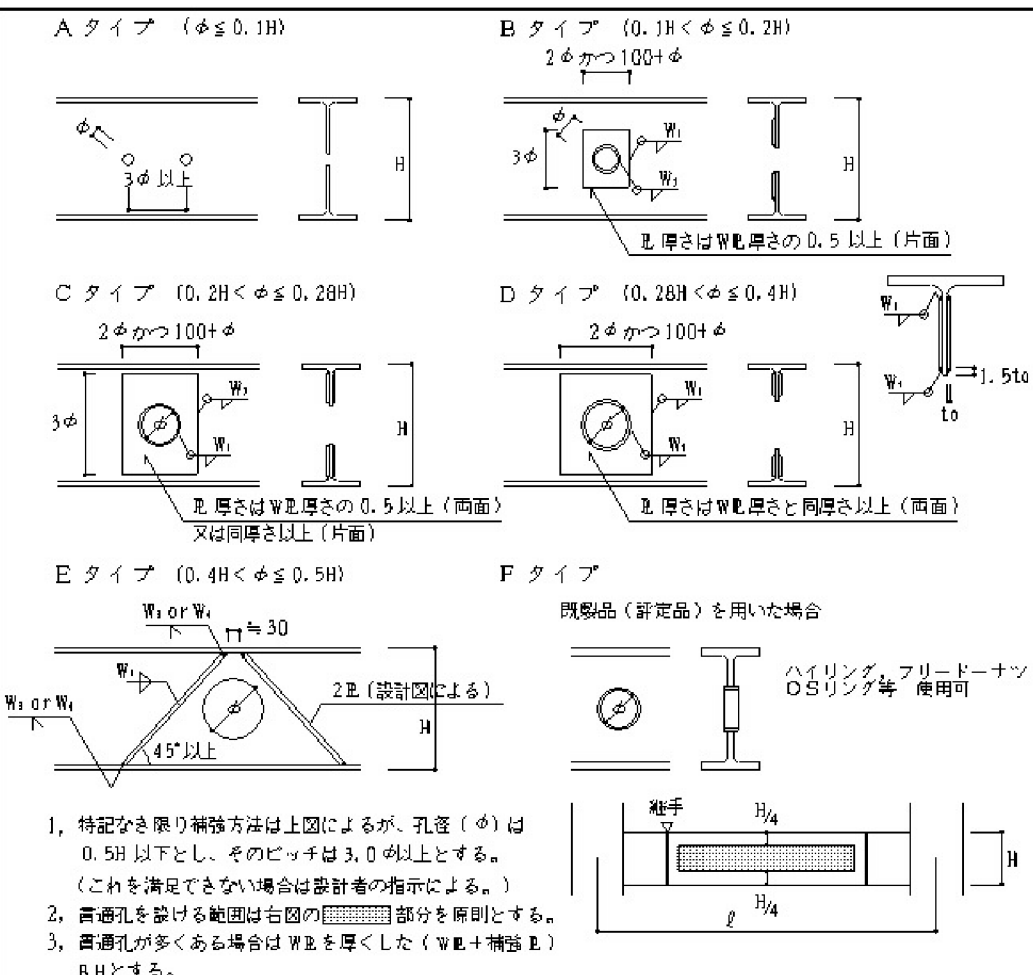
8-1
ブレースリスト



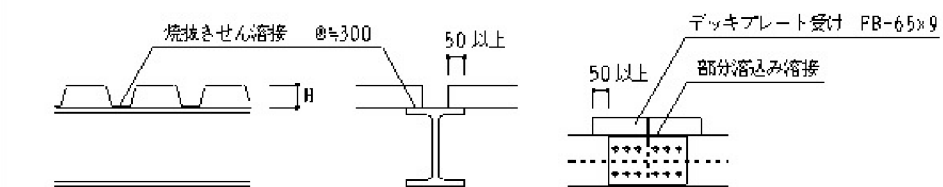
1. GE の最小幅 b_e が確保できない場合は、設計者の指示により板厚を変更する。
2. 丸鋼を使用する場合は、丸鋼、ターンバックル 共 JIS 規格品を使用する。
3. 床面ブレースは設計図書に明記なき場合は壁面に準ずる。

§ 9 その他

9-1
實地補強

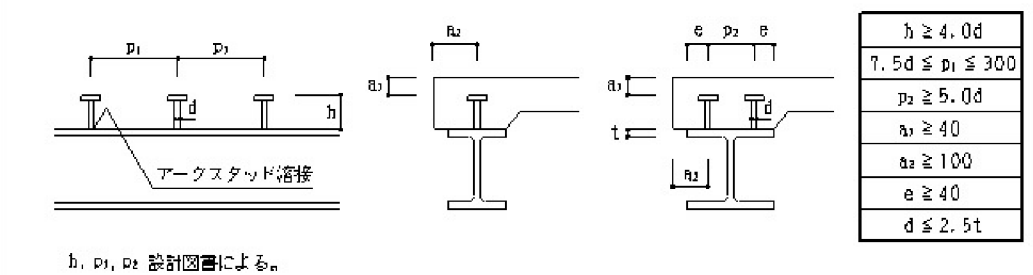


9 - 2
デッキプレート



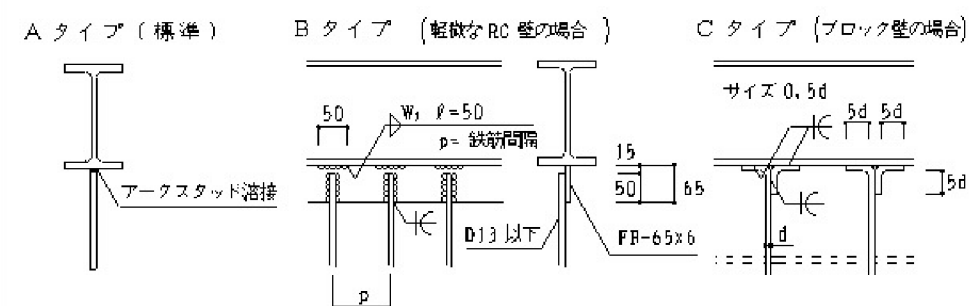
- 合成スラブの場合はメーカー仕様による。

9-3
スタッドジベル



h, p₁, p₂ 設計図書による。


9-4 鋼筋の溶接



(販売元) 一般社団法人日本建築構造設計事務所協会連合会 <http://fasa-net.jp>

(発行元) 一般社団法人関西建築構造設計事務所協会 TEL(06)6763-8205 FAX(06)6763-8206 <http://www.kae-web.com/>

2019年2月1日作成 (不許複製)

工事名		御所市消防団第8分団消防車庫改築工事		設計図		図面番号 S - 05	
図 名		鉄骨工作標準図(2)		縮尺 一		作成日 年 月 日 実入白 (最終) 年 月 日	
						確 認 印	
		総合企画、建築設計、監理 株式会社 中和設計		一般建築士事務所 奈良県知事登録 2020(ハ)第1421号 一級建築士№174531号 中谷芳一			

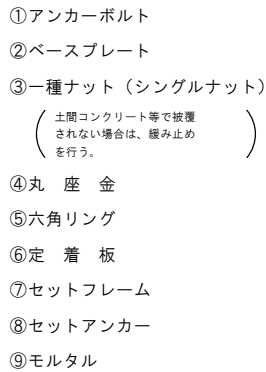
国土交通大臣認定番号 MBLT-0116（平成26年1月30日），MBLT-0144（平成27年2月12日），MBLT-0150（平成27年7月27日），MBLT-0151（平成27年7月27日），MBLT-0164（平成28年1月25日）

□450×450用

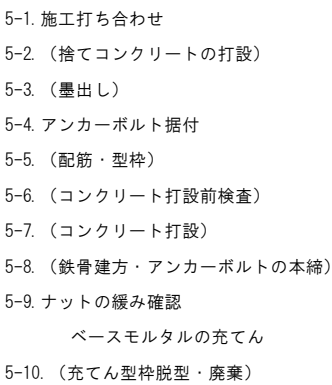
平成29年3月作成

TEL 03-5251-5545 FAX 03-5251-5226

5. 施工



主筋、帯筋の径・本数は、標準柱形の場合を示す。
柱形の幅 (bc) を広げた場合、検討が必要。
主筋頂部のフックは、設けないことを標準とする。



施工は、施工マニュアルに準じて行い、施工後「チェックシート」により、許容範囲内にあることを確認する。

※1 柱材は、指定JIS規格品または大臣認定品とする。

溶接施工	溶接施工に関しては、「日本建築学会； 建築工事標準仕様書 JASS 6鉄骨工事」 に準じる。
◆注意◆	ベースプレートは “中心マーク”のある面が上面（鋼管取付面） “溶接突起”のある面が下面（底面）

品番	呼び径	ピッチ	db			L	I
			1S8704	1S8740	1S8800B		
A1	M24	3.0	22.0	—	—	595	100
A21	M30	3.5	28.0	28.0	—	605	115
A31	M36	4.0	33.15	33.0	—	675	130
A32	M36	4.0	33.15	33.0	—	725	130
A33	M36	4.0	33.15	33.0	—	775	130
A41	M42	4.5	38.92	38.8	—	745	145
A42	M42	4.5	38.92	38.8	—	845	145
A43	M42	4.5	38.92	38.8	—	945	145
A51	M48	5.0	45.0	45.0	—	965	160
A52	M48	5.0	45.0	45.0	—	1015	160
A53	M48	5.0	45.0	45.0	—	1115	160
A61	M52	5.0	—	—	49.0	1100	185

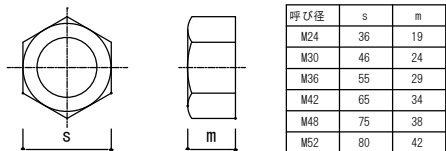
呼び径	s	di	ti	mi
M24	36	22.5	1.6	5
M30	46	28.9	2.0	7
M36	55	33.6	2.0	8
M42	65	39.2	2.3	9
M48	75	45.7	2.3	10
M52	80	49.9	2.8	11

材質：一般構造用圧延鋼材 SS400

材質：一般構造用圧延鋼材 SS400 (P1～P5)
SM490A (P6)

品番	Ba	d	ta
P1	50	26	9
P2	65	32	12
P3	75	38	16
P4	85	44	19
P5	95	50	22
P6	115	54	25

强度区分: JIS B 1052 10 (M52)



QLデッキ合成スラブ設計・施工標準
合成スラブ工業会仕様

耐火仕様①

JFE 建材 株式会社

〔耐火認定FP60FL-9095, 9101, FP120FL-9107, 9113用〕

QLデッキ合成スラブの設計・施工は、(社)日本建築学会「各種合成構造設計指針・同解説」「鉄骨工事技術指針」「建築工事標準仕様書・同解説 JASS5鉄筋コンクリート工事及びJASS8鉄骨工事」、
(一社)日本鋼管建設協会「デッキプレート束構造設計・施工標準 2018」、合成スラブ工業会「合成スラブの設計・施工マニュアル」、QLデッキ設計マニュアル・同施工マニュアルによる。

設計

材料/デッキプレート

[ISO 9001認証取得]

デッキプレート種類	板厚 (mm)	表 面 処 理
QLデッキ		
■QL99-50	■強化有り	■L2
□QL99-75	■無し	□L6

*1: 現場搬入までの二次防錆 (JIS K 5621 2種または3種相当)

材 質	JIS G 3352に定めるSDP1T, SDP2, SDP2G
-----	----------------------------------

材料/コンクリート

種 類	■普通コンクリート	□軽量コンクリート	(□1種 □2種)
設計基準強度	□18 ■21	□ () N/mm ²	2
厚さ (QLデッキ山上)	□60 □70 ■80 □85 □90 □95 ■100 □ ()		mm

材料/溶接金網・異形鉄筋

■溶接金網	JIS G 3551	■φ6-150×150	■φ6-100×100
□異形鉄筋	JIS G 3112, 3117	□D10-200×200	□ ()

接 合

□ 溶接金網	下記溶接金網の項による		
□ 打込み板	接合箇所は特記による		
■ 鋼付キスタッド	JIS B 1198 □φ13 ■φ16 ■φ19 □φ22	各長さ・ピッチは特記による	
		※最小長さはデッキ高さ+30mm以上とする。	
□ そ の 他			

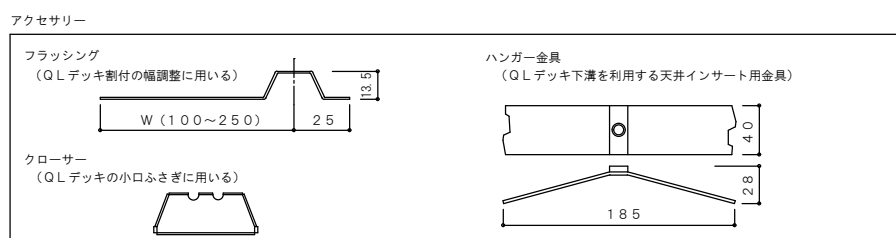
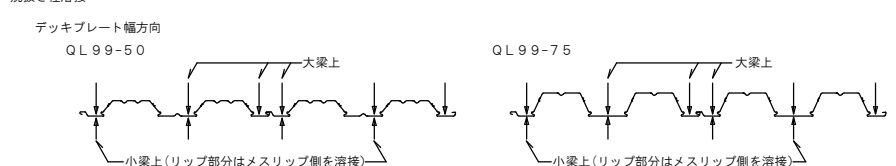
耐 火

連 続 支 持	■FP60FL-9095	□FP120FL-9107
単 純 支 持	□FP60FL-9101	□FP120FL-9113
そ の 他	□ ()	□ ()
□指定なし	□ ()	□ ()

特 記

支 保 工 有 無	その他:
■ 有	

溶接金網



施工順序	敷 込 み
1) 敷込み	鉄骨梁の場合 1) 敷込み止め溶接 2) 溶接金網の敷込み 3) 溶接金網の敷込み
2) 溶接金網の敷込み	鉄骨梁の場合 1) 敷込み止め溶接 2) 溶接金網の敷込み 3) 溶接金網の敷込み
3) 溶接金網の敷込み	鉄骨梁の場合 1) 敷込み止め溶接 2) 溶接金網の敷込み 3) 溶接金網の敷込み

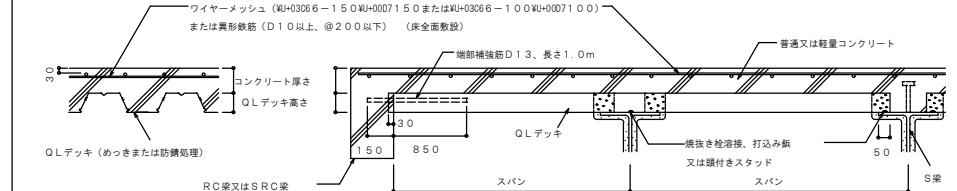
施工時許容スパン表 (デッキプレートの検討)
注1: 普通コンクリート、D10-200×200、表面処理が亜鉛めっきの場合
注2: 表を超える場合は、別途施工が必要とする。

耐 火 仕 様

【連続支持合成スラブ】

支 持 梁 : 鉄骨(S355)梁 及び 大梁 : 鉄筋コンクリート(SRC)梁又は鉄骨鉄筋コンクリート(SRC)梁、小梁 : 鉄骨(S355)梁
コンクリート : 設計基準強度18 N/mm²以上の普通コンクリート、及び、軽量コンクリート (1種・2種)

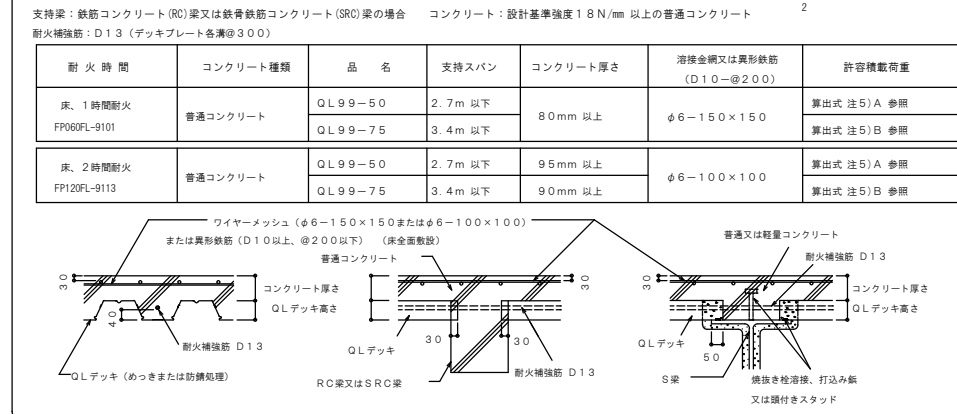
耐 火 時 間	コンクリート種類	品 名	支持スパン	コンクリート厚さ	溶接金網又は異形鉄筋 (D10-φ200)	許容積載荷重
床、1時間耐火 FP60FL-9095	普通コンクリート	QL99-50	3.0m 以下	80mm 以上	■φ6-150×150	算出式 注5)A 参照
		QL99-75	3.4m 以下	90mm 以上	■φ6-150×150	算出式 注5)B 参照
	軽量コンクリート	QL99-50	3.0m 以下	80mm 以上	■φ6-150×150	算出式 注5)A 参照
		QL99-75	3.4m 以下	90mm 以上	■φ6-150×150	算出式 注5)B 参照
床、2時間耐火 FP120FL-9107	普通コンクリート	QL99-50	2.7m 以下	95mm 以上	■φ6-100×100	算出式 注5)A 参照
		QL99-75	3.4m 以下	90mm 以上	■φ6-100×100	算出式 注5)B 参照
	軽量コンクリート	QL99-50	2.7m 以下	85mm 以上	■φ6-100×100	算出式 注5)A 参照
		QL99-75	3.4m 以下	90mm 以上	■φ6-100×100	算出式 注5)B 参照



【単純支持合成スラブ】

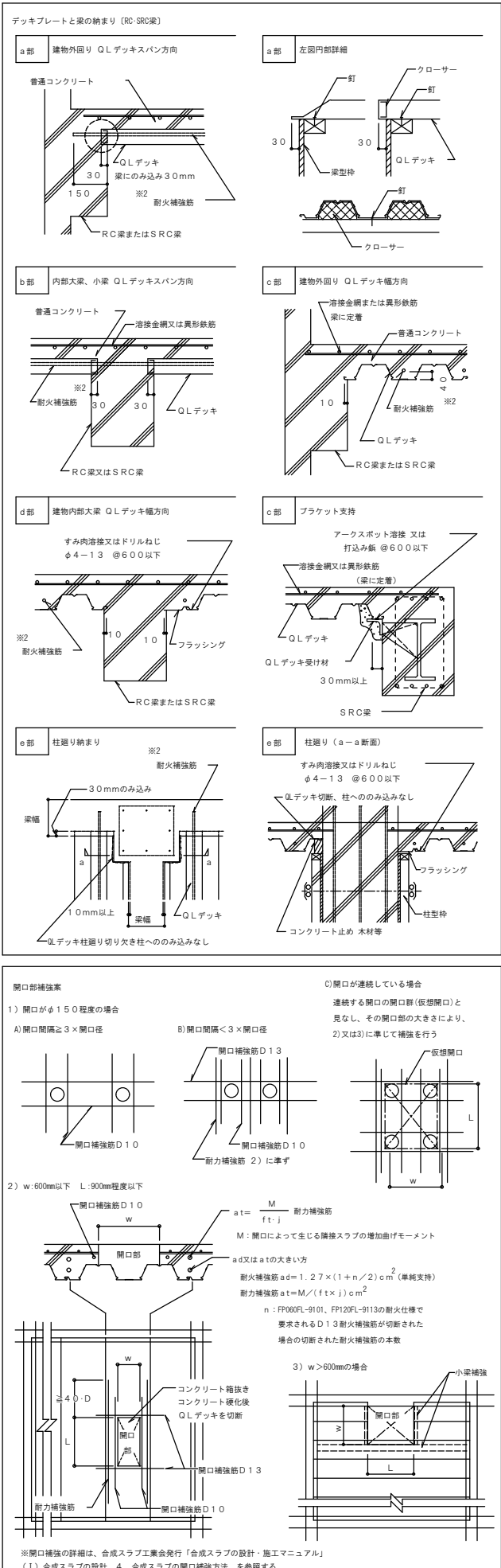
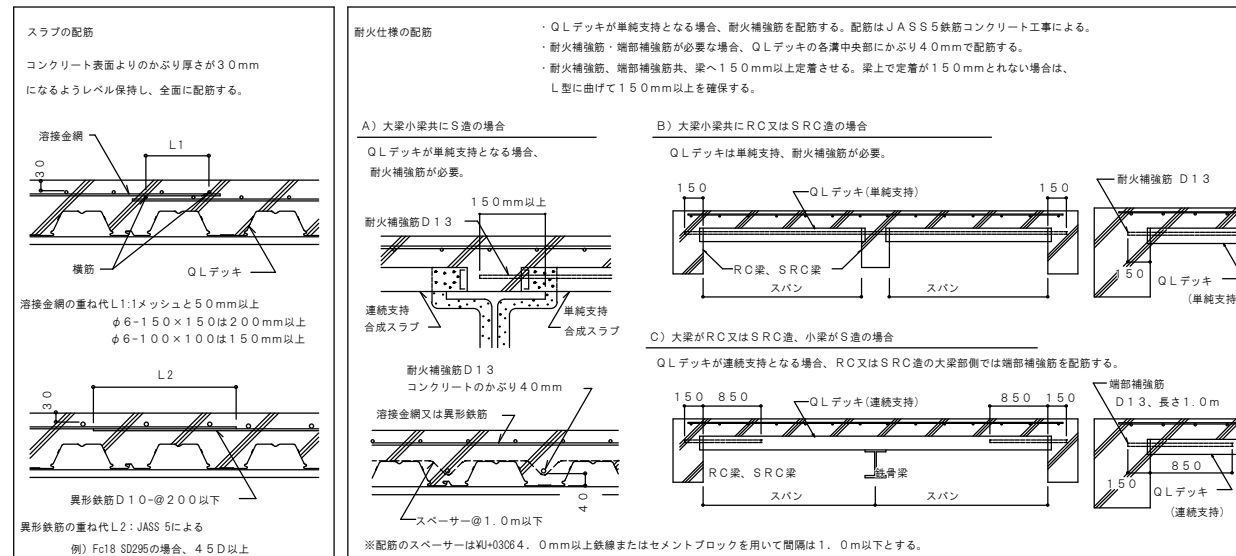
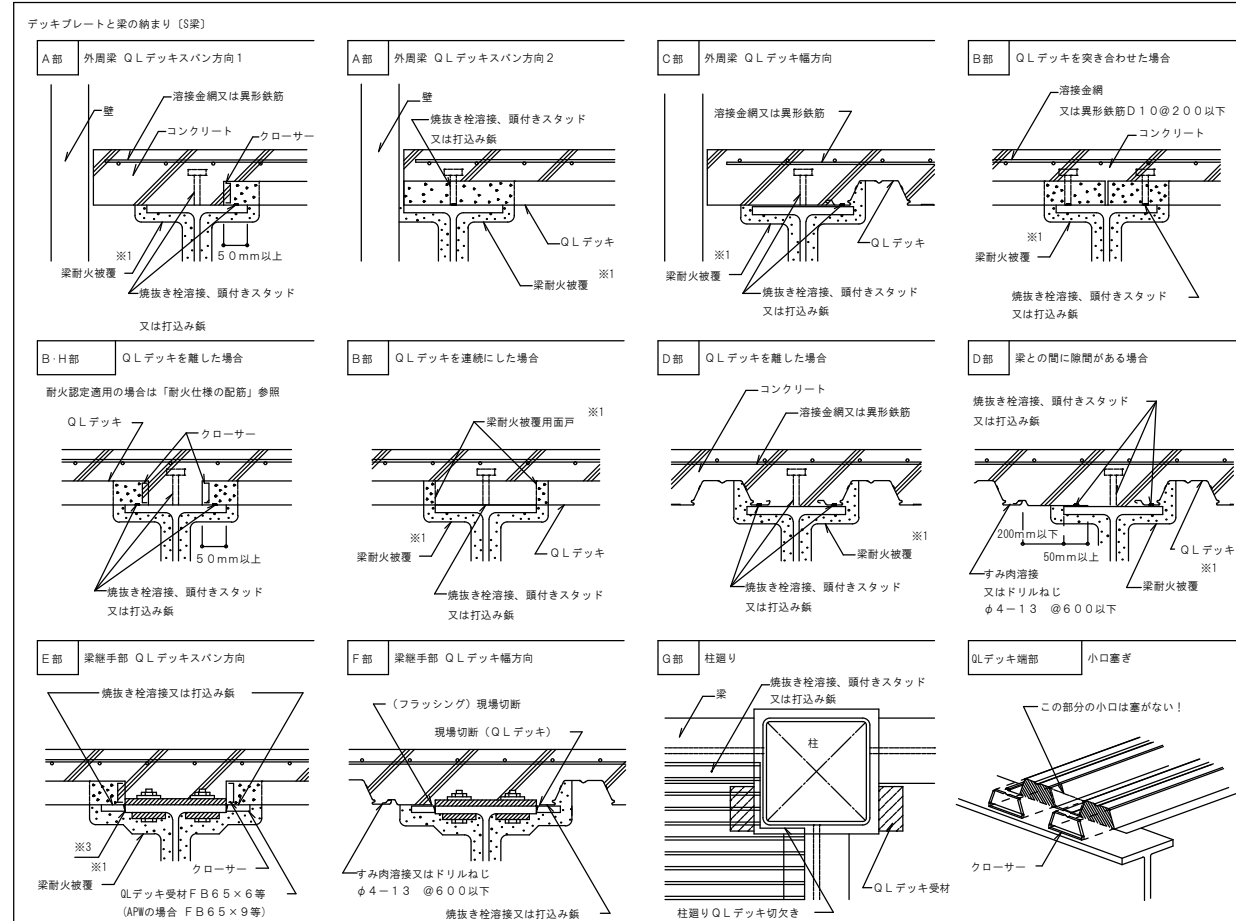
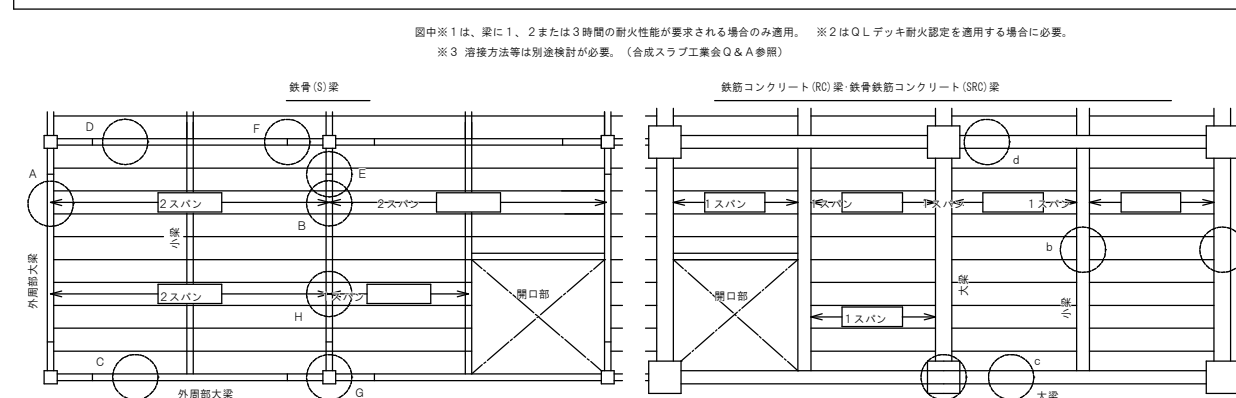
支 持 梁 : 鉄骨(S355)梁 及び 大梁 : 鉄筋コンクリート(SRC)梁又は鉄骨鉄筋コンクリート(SRC)梁、小梁 : 鉄骨(S355)梁
コンクリート : 設計基準強度18 N/mm²以上の普通コンクリート、及び、軽量コンクリート (1種・2種)

耐 火 時 間	コンクリート種類	品 名	支持スパン	コンクリート厚さ	溶接金網又は異形鉄筋 (D10-φ200)	許容積載荷重
床、1時間耐火 FP60FL-9101	普通コンクリート	QL99-50	2.7m 以下	80mm 以上	■φ6-150×150	算出式 注5)A 参照
		QL99-75	3.4m 以下	90mm 以上	■φ6-150×150	算出式 注5)B 参照
	軽量コンクリート	QL99-50	2.7m 以下	80mm 以上	■φ6-150×150	算出式 注5)A 参照
		QL99-75	3.4m 以下	90mm 以上	■φ6-150×150	算出式 注5)B 参照
床、2時間耐火 FP120FL-9113	普通コンクリート	QL99-50	2.7m 以下	95mm 以上	■φ6-100×100	算出式 注5)A 参照
		QL99-75	3.4m 以下	90mm 以上	■φ6-100×100	算出式 注5)B 参照
	軽量コンクリート	QL99-50	2.7m 以下	85mm 以上	■φ6-100×100	算出式 注5)A 参照
		QL99-75	3.4m 以下	90mm 以上	■φ6-100×100	算出式 注5)B 参照



付 属 条 件
連続支持合成スラブの場合、デッキプレートは2スパン以上わたって連続的にはり等によって、ほぼ等間隔(スパン比3:2を超えない程度)に支持されるものとする。
※ 合成スラブ工業会発行「合成スラブの設計・施工マニュアル」参照

標準納まり




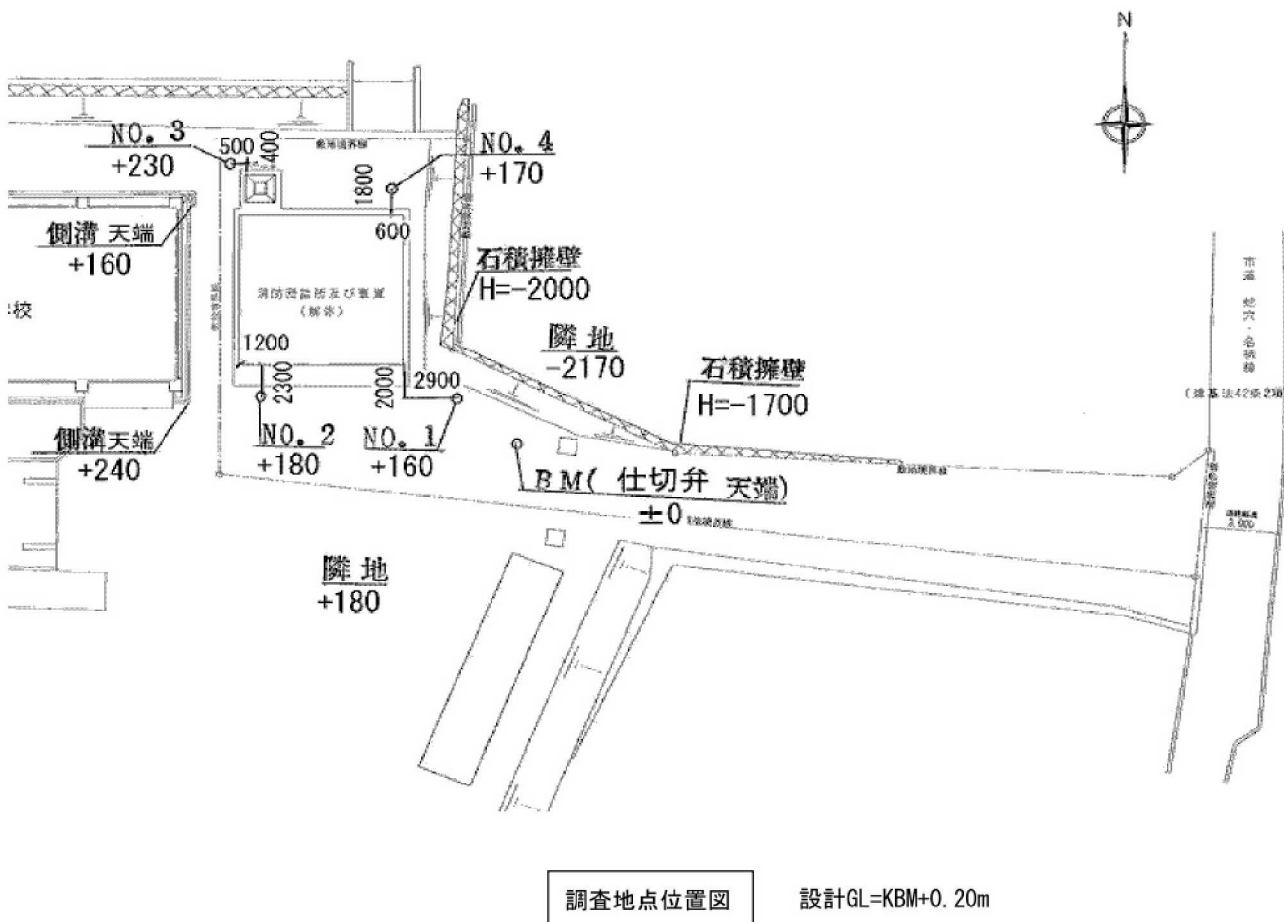
施工順序	敷 込 み	デッキプレートと梁との接合	検 査
1) 敷込み	鉄骨梁の場合 1) 敷込み止め溶接 2) 溶接金網の敷込み 3) 溶接金網の敷込み	1) 溶接金網 2) 溶接金網 3) 溶接金網	1) 溶接金網の敷込み 2) 溶接金網の敷込み 3) 溶接金網の敷込み
2) 溶接金網の敷込み	鉄骨梁の場合 1) 敷込み止め溶接 2) 溶接金網の敷込み 3) 溶接金網の敷込み	1) 溶接金網 2) 溶接金網 3) 溶接金網	1) 溶接金網の敷込み 2) 溶接金網の敷込み 3) 溶接金網の敷込み
3) 溶接金網の敷込み	鉄骨梁の場合 1) 敷込み止め溶接 2) 溶接金網の敷込み 3) 溶接金網の敷込み	1) 溶接金網 2) 溶接金網 3) 溶接金網	1) 溶接金網の敷込み 2) 溶接金網の敷込み 3) 溶接金網の敷込み

施工時許容スパン表 (デッキプレートの検討)
注1: 普通コンクリート、D10-200×200、表面処理が亜鉛めっきの場合
注2: 表を超える場合は、別途施工が必要とする。

深層混合処理工法特記仕様書（ウルトラコラム工法又は同等以上の工法とする）

[illegible]

工事名		御所市消防団第8分団消防車庫改築工事		設計図		図面番号		S - 08	
図名		深層混合処理工法(ウルトラコラム工法)特記仕様書		縮尺		—		作成日	
								年 月 日	
								変更日	
								(最終) 年 月 日	
 総合企画、建築設計、監理 株式会社 中和設計		一級建築士事務所 奈良県知事登録 2020(ハ)第1421号 一般建築士174531号 中谷芳一							



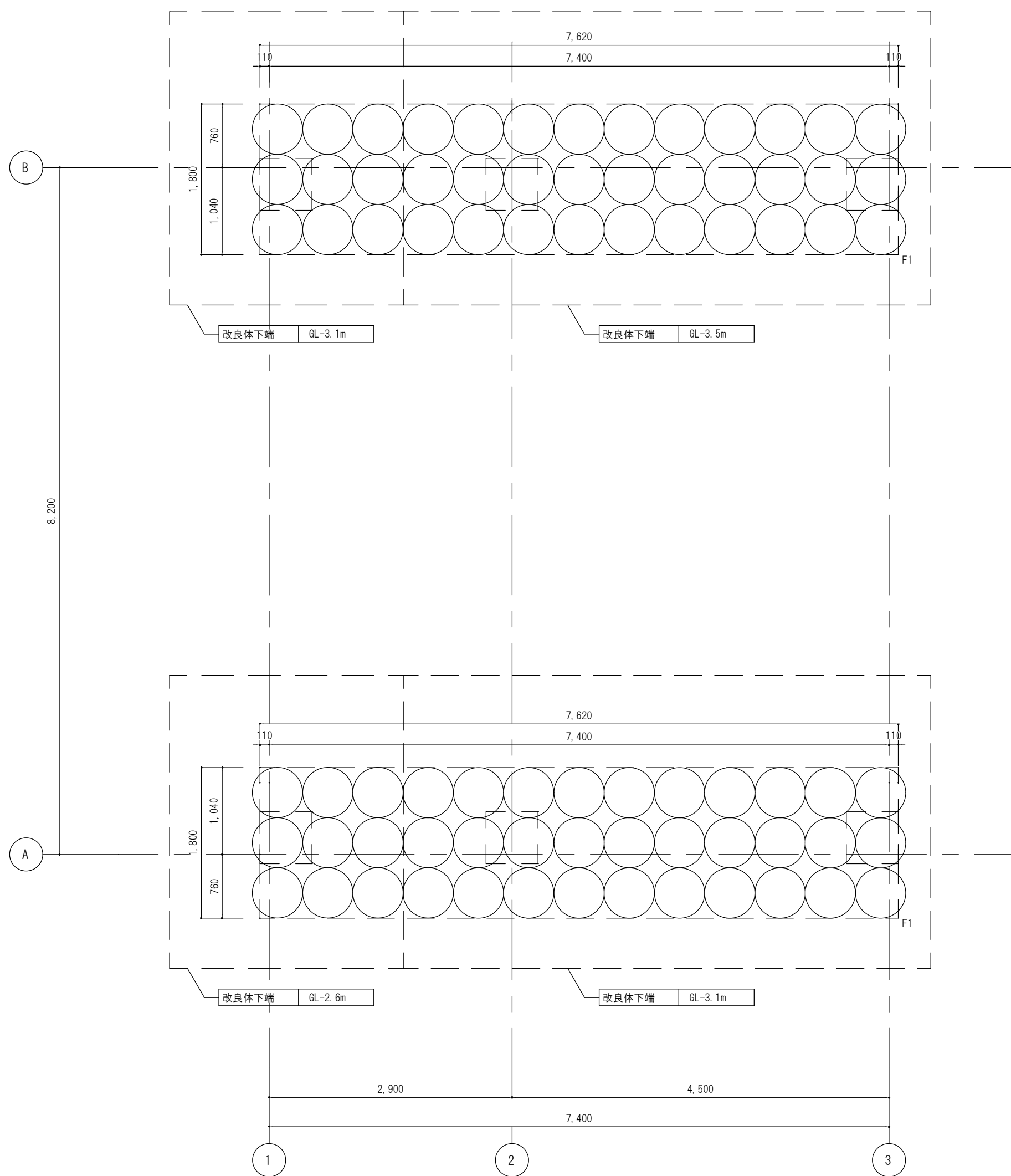
調査地点位置図 設計GL=KBM+0.20m

調査 邸 名										御所市消防団第8分団消防車庫改築工事										試験年月日 令和 2年 6月20日									
調査 地 点										奈良県御所市名柄185 御所市立名柄小学校内																			
測 点 番 号 : No										3		標 高 BM + 0.23 m		試験者 西本 森															
水 位										―― m		最終貫入深さ 3.44 m		天 候 晴		作業時間 13:12～13:22													
スウェーデン式サウンディング試験記録														スウェーデン式サウンディング試験結果															
荷重 W _{sw} (N)	半回転数 N _a (回)	貫入深さ D (m)	貫入量 L (cm)	1m当たりの 半回転数 N _{sw}	状 況	打 撃 (回)	含 水	推 定 土 質	荷重 W _{sw} (N)	貫入量 1 m 当たりの半回転数 N _{sw}	N 値	支 持 力 q _a (kN/㎡)																	
250	0	0.25	25	――	緩自沈			S	250	設計GL	0.5	――																	
1000	10	0.50	25	40				S	1000	200	4.7	54																	
1000	2	0.75	25	8				S	1000	300	2.5	35																	
1000	6	1.00	25	24				S	1000	400	3.6	44																	
1000	3	1.25	25	12				S	1000	50	2.8	37																	
1000	2	1.50	25	8				S	1000	100	2.5	35																	
1000	2	1.75	25	8				S	1000	200	2.5	35																	
1000	2	2.00	25	8				S	1000	300	2.5	35																	
1000	2	2.25	25	8				S	1000	400	2.5	35																	
1000	6	2.50	25	24				S	1000	50	3.6	44																	
1000	21	2.75	25	84				S	1000	100	7.6	80																	
1000	39	3.00	25	156				S	1000	200	12.5	120																	
1000	52	3.25	25	208				S	1000	300	15.9	120																	
1000	122	3.44	19	642	ガリガリ 貫入不	12		S	1000	400	45.0	120																	

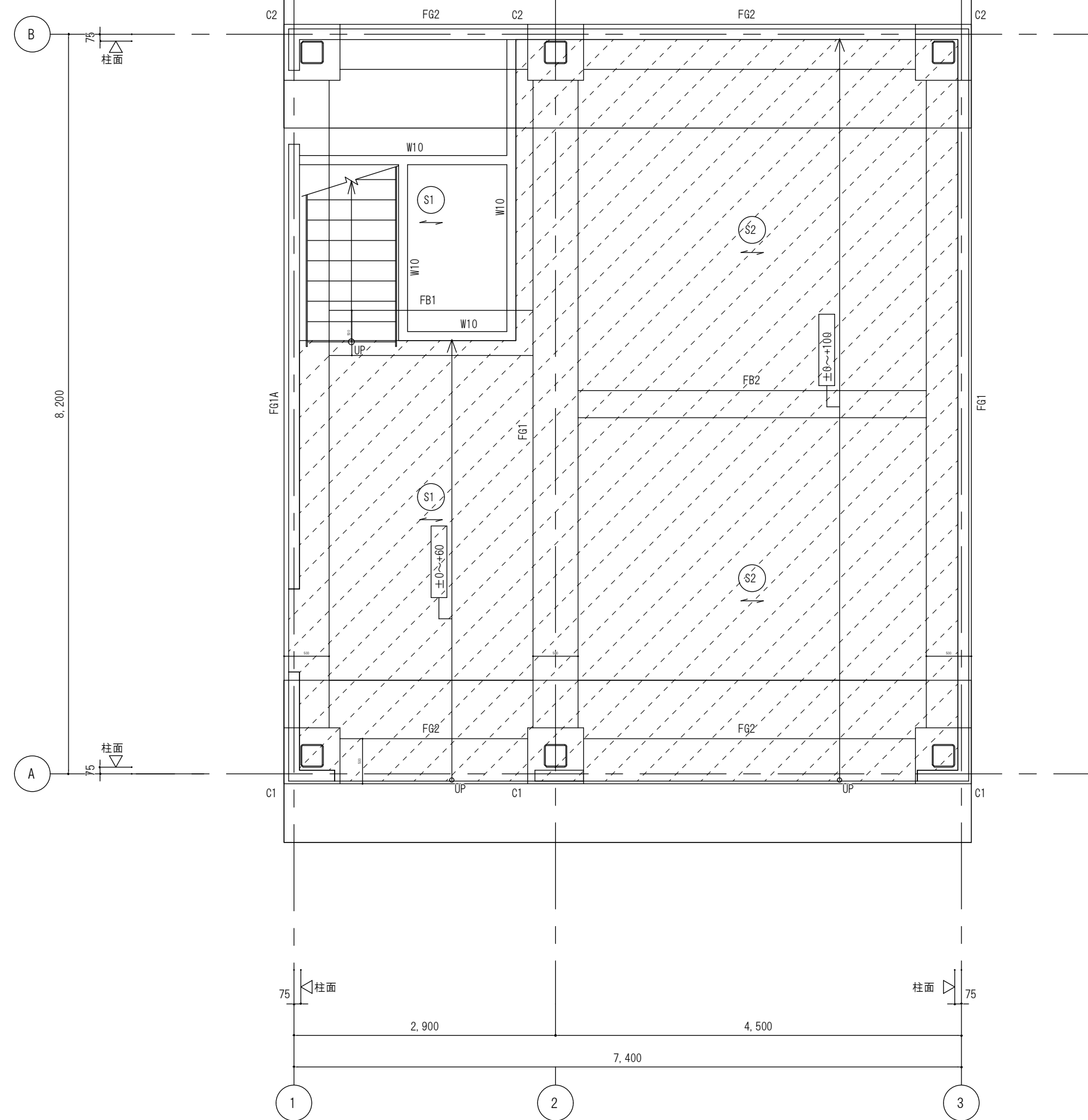
調査 邸 名 御所市消防団第8分団消防車庫改築工事										試験年月日 令和 2年 6月20日																	
調査 地 点 奈良県御所市名柄185 御所市立名柄小学校内																											
測 点 番 号 : No		2		標 高 BM + 0.18 m		試験者 西本 森																					
水 位		―― m		最終貫入深さ 3.31 m		天 候 晴		作業時間 13:21～13:35																			
スウェーデン式サウンディング試験記録										スウェーデン式サウンディング試験結果																	
荷重 W _{sw} (N)	半回転数 N _a (回)	貫入深さ D (m)	貫入量 L (cm)	1m当たりの 半回転数 N _{sw}	状 況	打 撃 (回)	含 水	推 定 土 質	荷重 W _{sw} (N)	貫入量 1 m 当たりの半回転数 N _{sw}	N 値	支 持 力 q _a (kN/㎡)															
50	0	0.25	25	――	緩自沈			S	50	設計GL	0.1	――															
1000	57	0.50	25	228	ジャリ			S	1000	100	17.3	120															
1000	0	0.75	25	――	緩自沈			S	1000	200	2.0	――															
1000	0	1.00	25	――	緩自沈			S	1000	300	2.0	――															
1000	0	1.25	25	――	緩自沈			S	1000	400	2.0	――															
1000	2	1.50	25	8				S	1000	50	2.5	35															
1000	3	1.75	25	12				S	1000	100	2.8	37															
1000	3	2.00	25	12				S	1000	200	2.8	37															
1000	4	2.25	25	16				S	1000	300	3.1	40															
1000	47	2.50	25	188	ジャリ			S	1000	400	14.6	120															
1000	41	2.75	25	164	ジャリ			S	1000	50	13.0	120															
1000	74	3.00	25	296	ジャリ			S	1000	100	21.8	120															
1000	118	3.25	25	472		6		S	1000	200	33.6	120															
1000	53	3.31	6	883	貫入不	9		S	1000	300	61.2	120															



調査 邸 名										御所市消防団第8分団消防車庫改築工事										試験年月日 令和 2年 6月20日																																							
調査 地 点										奈良県御所市名柄185 御所市立名柄小学校内																																																	
測 点 番 号 : No										4										標 高 BM + 0.17 m										試験者 西本 森																													
水 位										---										m										最終貫入深さ 3.61 m										天 候 晴										作業時間 13:37～13:45									
スウェーデン式サウンディング試験記録																				スウェーデン式サウンディング試験結果																																							
荷重 Wsw (N)		半回転数 Na (回)		貫入深さ D (mm)		貫入量 L (cm)		1m当たりの 半回転数 Nsw		状 況		打 撃 (回)		含 水		推 定 土 質		荷重 Wsw (N)		貫入量 1m当たりの半回転数 Nsw		N 値		支 持 力 qa (kN/m ²)																																			
250		0		0.25		25		---		緩自沈						S		250		設計GL		0.5		---																																			
250		0		0.50		25		---		緩自沈						S		250		100		0.5		---																																			
1000		3		0.75		25		12								S		1000		200		2.8		37																																			
1000		2		1.00		25		8								S		1000		300		2.5		35																																			
1000		2		1.25		25		8								S		1000		400		2.5		35																																			
1000		3		1.50		25		12								S		1000		50		2.8		37																																			
1000		4		1.75		25		16								S		1000		100		3.1		40																																			
1000		2		2.00		25		8								S		1000		200		2.5		35																																			
1000		3		2.25		25		12								S		1000		300		2.8		37																																			
1000		3		2.50		25		12		ジャリ						S		1000		400		2.8		37																																			
1000		17		2.75		25		68		ジャリ						S		1000		50		6.6		71																																			
1000		19		3.00		25		76								S		1000		100		7.1		76																																			
1000		13		3.25		25		52								S		1000		200		5.5		61																																			
1000		31		3.50		25		124		ガリガリ						S		1000		300		10.3		104																																			
1000		89		3.61		11		809		ガリガリ 貫入不		6				S		1000		400		56.2		120																																			

調査 邸 名										御所市消防団第8分団消防車庫改築工事										試験年月日 令和 2年 6月20日																																							
調査 地 点										奈良県御所市名柄185 御所市立名柄小学校内																																																	
測 点 番 号 : No										1										標 高 BM + 0.16 m										試験者 西本 森																													
水 位										---										m										最終貫入深さ 3.15 m										天 候 晴										作業時間 13:02～13:15									
スウェーデン式サウンディング試験記録																				スウェーデン式サウンディング試験結果																																							
荷 重 Wsw (N)		半回転数 Ns (回)		貫入深さ D (m)		貫入量 L (cm)		1m当たりの 半回転数 Nsw		状 況		打 撃 (回)		含 水		推 定 土 質		荷 重 Wsw (N)		貫入量 1 m 当たりの半回転数 Nsw		N 値		支 持 力 qa (kN/㎡)																																			
250		0		0.25		25		---		緩目沈						S		250		設計GL		0.5		---																																			
500		0		0.50		25		---		緩目沈						S		500				1.0		---																																			
1000		3		0.75		25		12								S		1000				2.8		37																																			
1000		11		1.00		25		44		ジャリ						S		1000				4.9		56																																			
1000		9		1.25		25		36								S		1000				4.4		52																																			
1000		2		1.50		25		8								S		1000				2.5		35																																			
1000		3		1.75		25		12								S		1000				2.8		37																																			
1000		4		2.00		25		16								S		1000				3.1		40																																			
1000		3		2.25		25		12								S		1000				2.8		37																																			
1000		16		2.50		25		64		ジャリ						S		1000				6.3		68																																			
1000		6		2.75		25		24								S		1000				3.6		44																																			
1000		23		3.00		25		92								S		1000				8.2		85																																			
1000		129		3.15		15		860		ジャリ 貫入不		15				S		1000				59.6		120																																			




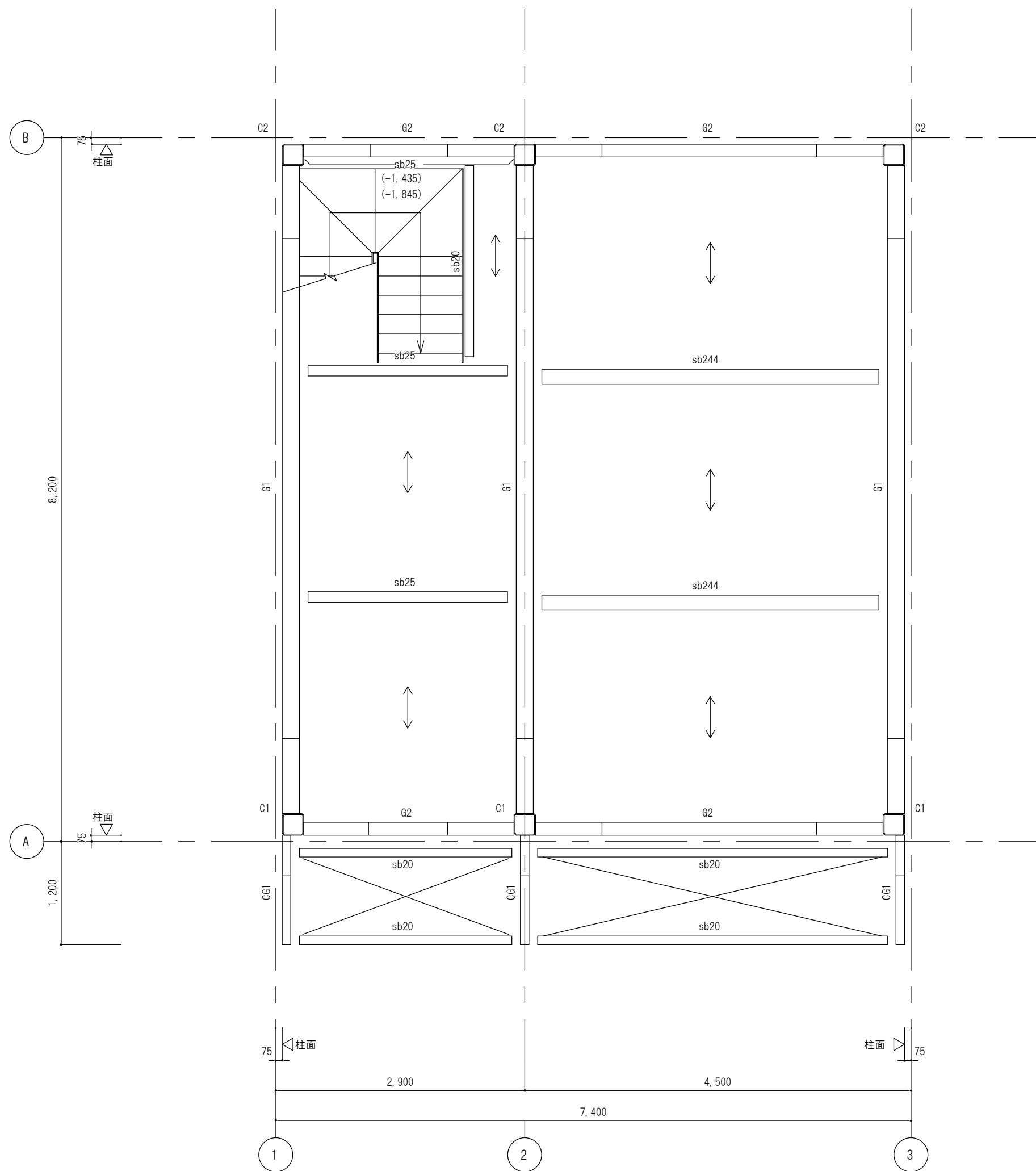
- ・ ○ は、地盤改良体600φを示し、78本とする。
- ・ 設計支持力は、長期100kN/㎡、短期200kN/㎡とする。
- ・ 地盤改良は、深層混合処理工法とし、
設計基準強度は、 $f_c=900\text{ kN/㎡}$ とする。
- ・ 地盤改良下端は、監理者立会いのもとトルク計による
測定値の全数確認を行い、最終決定とすること。
- ・ ⊕ は、地盤調査位置を示す。
- ・ 地盤改良の圆心については、直ちに監理者にその旨を報告すると共に、
監理者の指示を受け、承諾を得てから配筋等の施工を行うこと。



- ・ 1FL=設計GL+100とする。
- ・ 基礎梁天端は1FL-250
- ・ 基礎底は、設計GL-850とする。
- ・ スラブ上階レベルは1FL+LU+00B1とする。
- ・  内の数値は1FLよりの増打ち天レベルを示す。
- ・  表示はスラブ上増打ち範囲を示す。
- ・ 立上り壁符号はW12

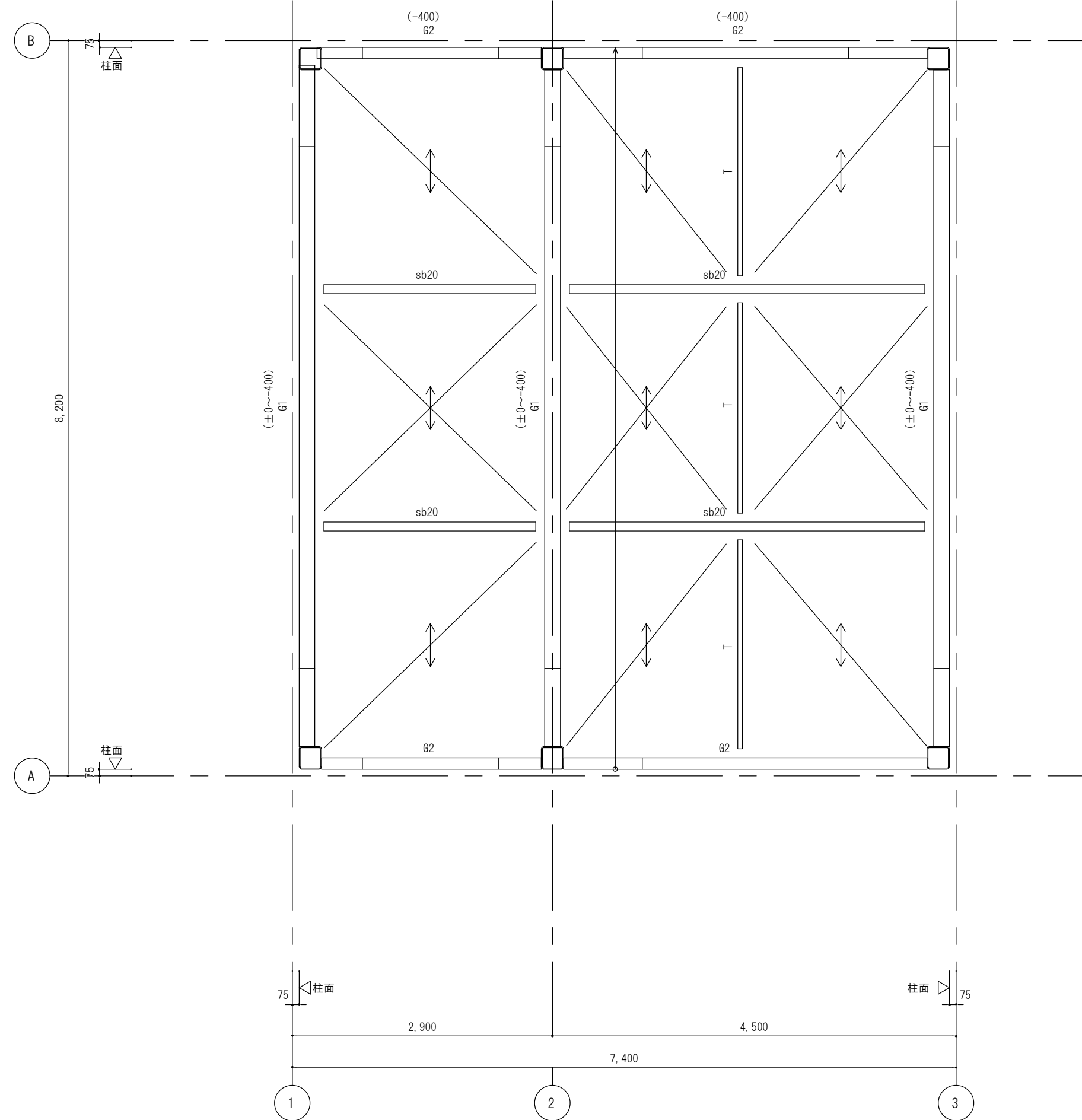
建物と土地境界との空き寸法値は、意匠図に準ずる。

	工事名 御所市消防団第8分団消防車庫改築工事			設計図		図面番号 S - 10	
	図 名 基礎・1階伏図		縮尺 1/50		作成日 年 月 日		確 認 印
					変更日 (最終) 年 月 日		
	 総合企画、建築設計、監理 株式会社 中環設計						
	一般建築士事務所 奈良県知事登録 2020(ハ)第1421号 一般建築士№174531号 中谷芳一						




共通事項：特記なき限り下記による

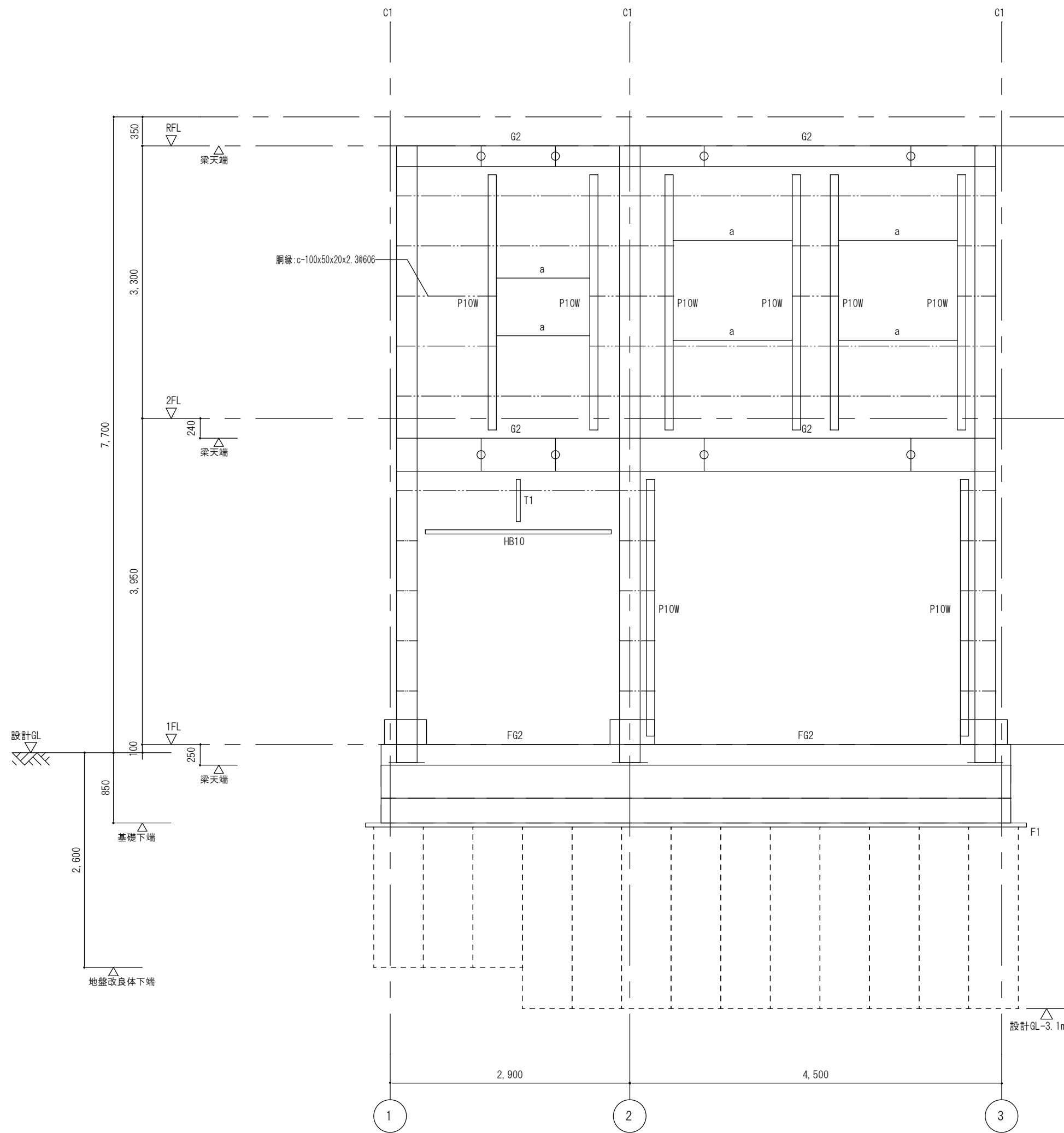
-



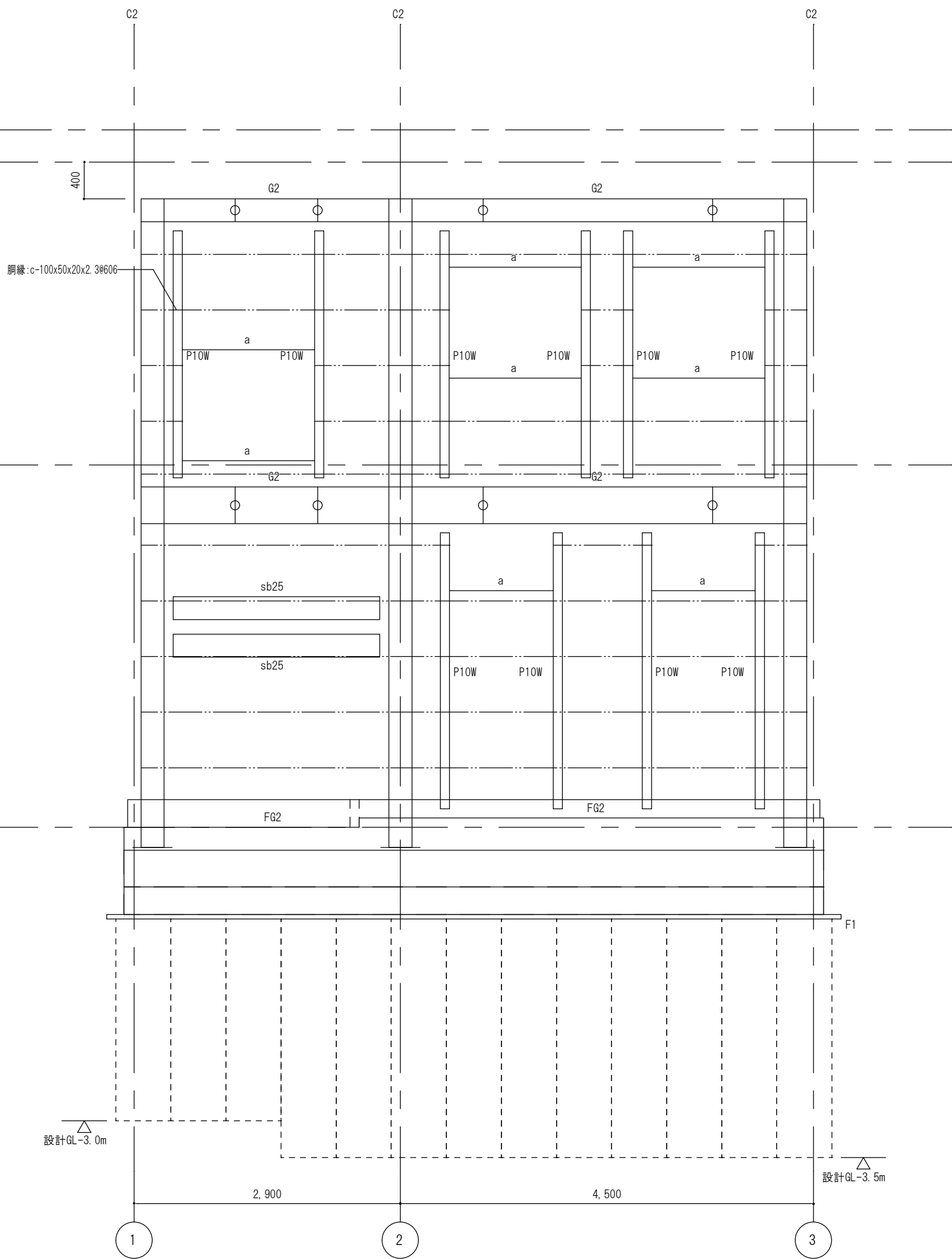
共通事項：特記なき限り下記による

- ・鉄骨梁上端は $RFL \pm 0$
- ・ () 内の数値は RFL よりの上端レベルを示す。
- ・ \vdash は水勾配を示し、鉄骨梁上端は水勾配合わせとする。
- ・ \longleftrightarrow 表示は折版方向を示す。
- ・梁架け位置は軸組図による。
- ・水平ブレースは、HI (1-M16) とする。
- ・軽鉄天井下地用り用受け材 $C-100 \times 50 \times 20 \times 2.3 @ 900$ とする。



工事名			御所市消防団第8分団消防車庫改築工事			設計図			図面番号		
図名			2階・R階伏図			縮尺			1/50		
						作成日			年 月 日		
						変更日 (最終)			年 月 日		
 総合企画、建築設計、監理 株式会社 申和設計			一級建築士事務所 所在地 和歌山県和歌山市 2020 (年) 第1421号 一級建築士 174531号 中谷芳一								




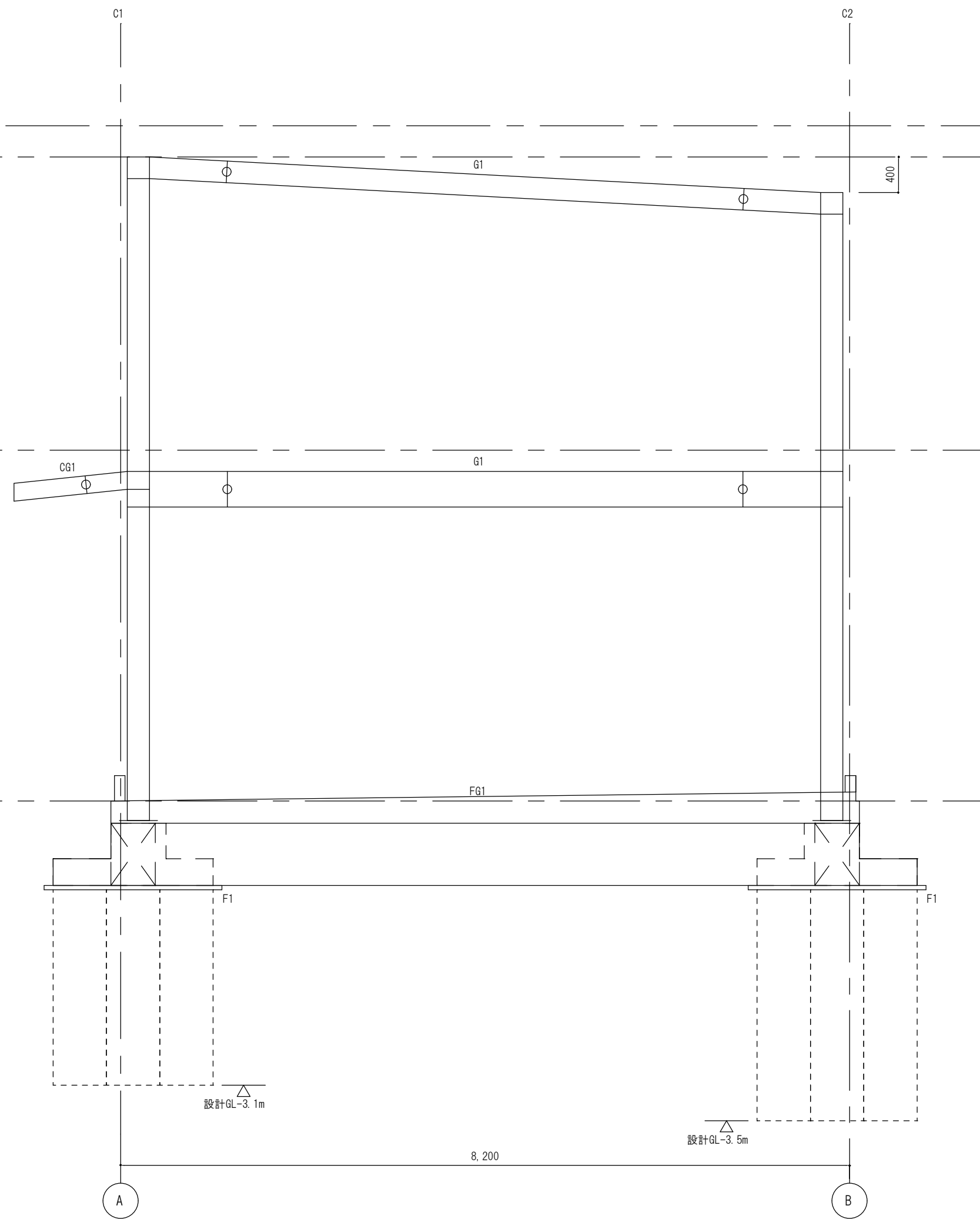
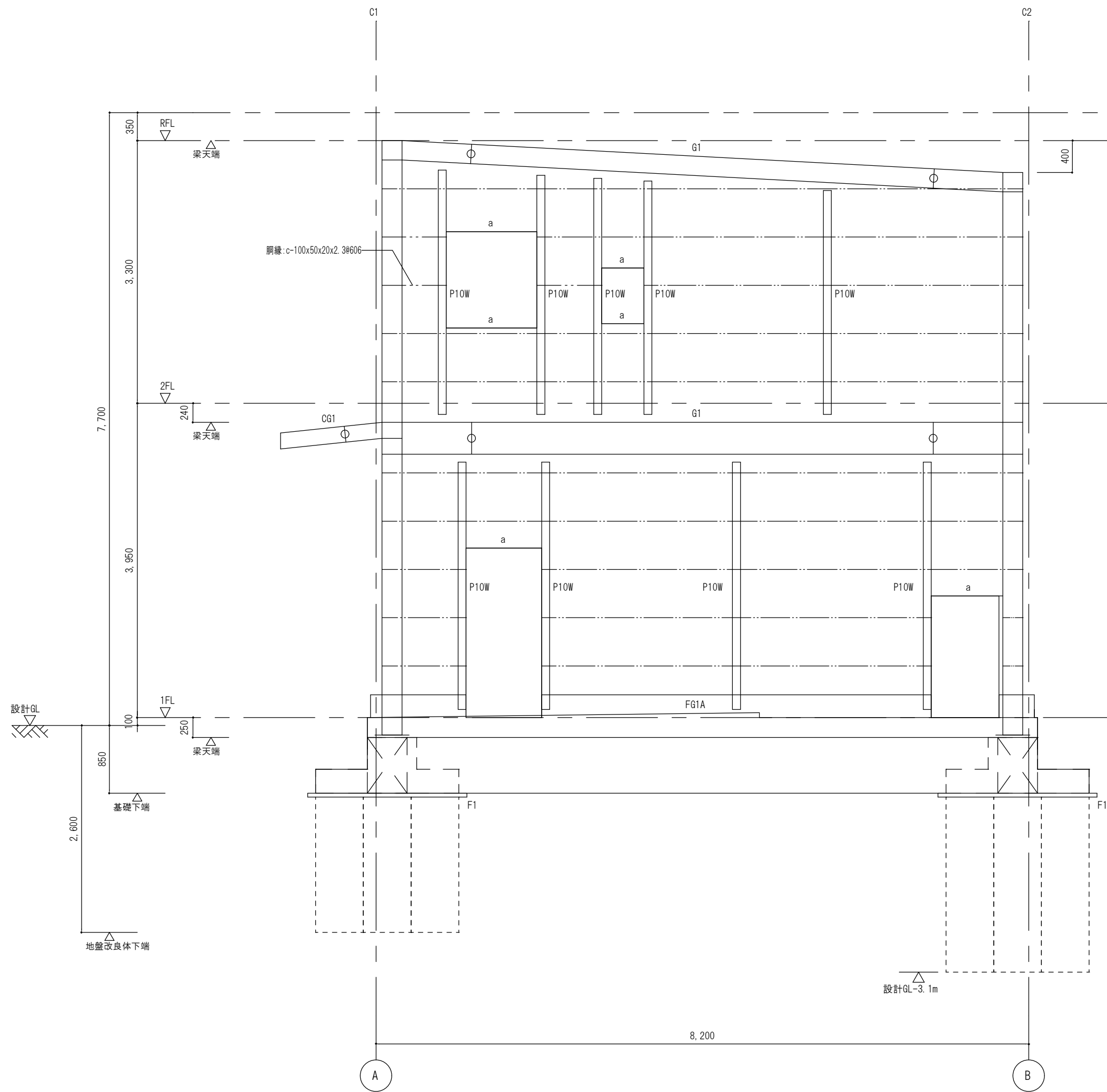
A通軸組図 1/50






B通軸組図 1/50

● 特記なき限り
1)  は現場接合位置を示し、接合位置は柱芯から900の位置とする。
2)  は、増打ちコンクリートを示す。



工事名				御所市消防団第8分団消防車庫改築工事				設計図		図面番号		S - 12			
図名				軸組図(1)		縮尺		1/50		作成日		年 月 日		確認印	
										実務日 (最終)		年 月 日			
				総合企画、建築設計、監理				株式会社		中谷設計		一級建築士事務所 奈良県知事登録 2020(ハ)第1421号 一級建築士 174531号 中谷芳一			



- 特記なき限り
- 1)  は現場接合位置を示し、接合位置は柱芯から1,000の位置とする。
- 2)  は、増打ちコンクリートを示す。

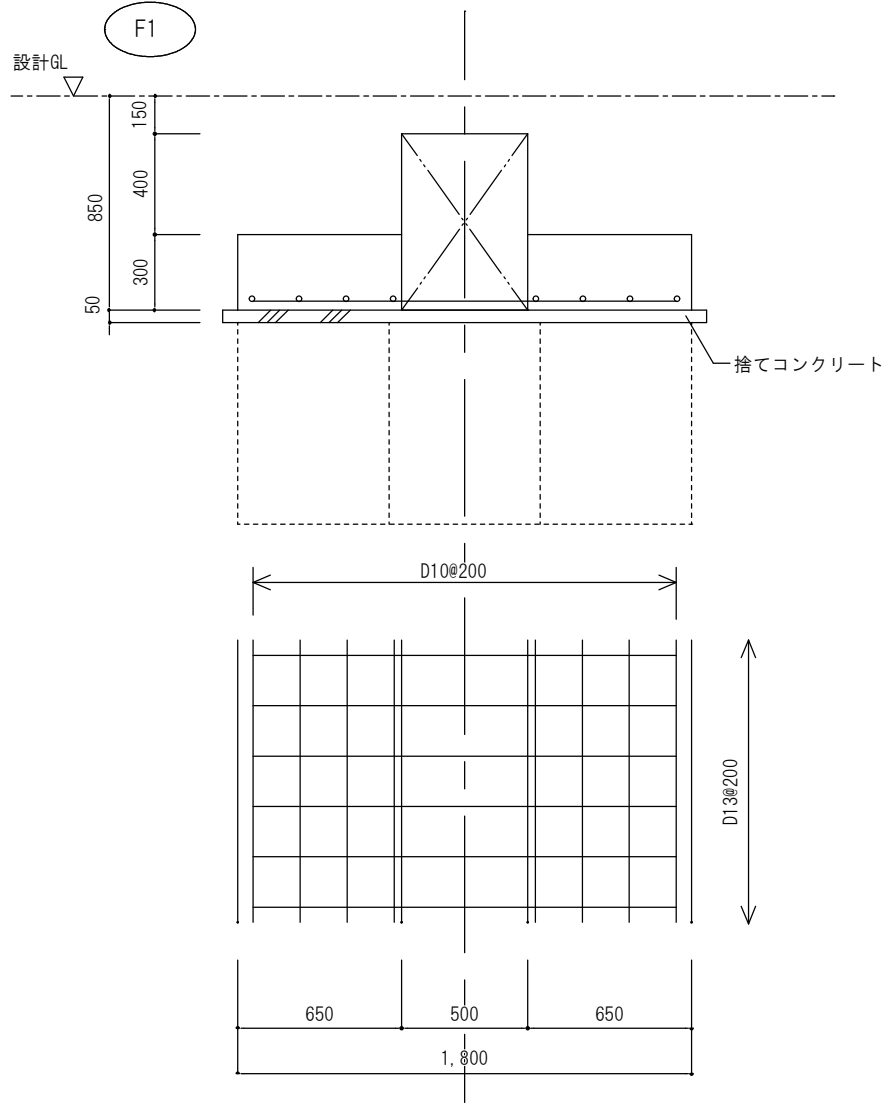
工事名			御所市消防団第8分団消防車庫改築工事			設計図		図面番号		S - 13				
図名			軸組図(2)		縮尺		1/50		作成日		生 月 日		確認印	
									変更日 (最終)		生 月 日			
			総合企画、建築設計、監理			株式会社			中谷設計			一級建築士事務所 奈良県知事登録 2020 (ハ) 第1421号 一級建築士 174531号 中谷芳一		



● 特記なき限り	
1)	 は現場接合位置を示し、接合位置は柱芯から1,000の位置とする。
2)	 は、増打ちコンクリートを示す。

工事名 御所市消防団第8分団消防車庫改築工事			設計図		図面番号 S - 14
図名 軸組図 (3)		縮尺 1/50	作成日 年 月 日 承認日 (蓋印) 年 月 日		確認印
 総合企画、建築設計、監理 株式会社 中興設計			一級建築士事務所 奈良県知事登録 2020 (ハ) 第1421号 一級建築士 174531号 中谷芳一		

基礎リスト 1:30

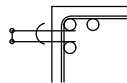


基礎梁リスト 1:30

- 特記なき限り
- 1) 巾止め筋は、D10 @1,000とする。
- 2) 〃は2段筋を示し、要領は右図による。

(あき) 1.5d

d: 主筋径
(主筋のあきを1.5dとする。)



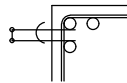
Fc	名 称	FG1		FG1A		FG2	
	位 置	端部	中央	端部	中央	端部	中央
21	断 面						
	BxD	500x700		500x700		500x700	
	上端筋	5-D22	5-D22	5-D22	5-D22	5-D22	5-D22
	下端筋	7-D22	9-D22	5-D22	7-D22	6-D22	5-D22
	あばら筋	D13 □ -#200		D13 □ -#200		D13 □ -#200	
	腹 筋	2-D10		2-D10		2-D10	
	備 考						

基礎小梁リスト 1:30

- 特記なき限り
- 1) 巾止め筋は、D10 @1,000とする。
- 2) 〃は2段筋を示し、要領は右図による。

(あき) 1.5d

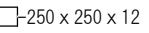
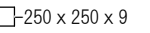
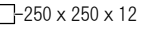
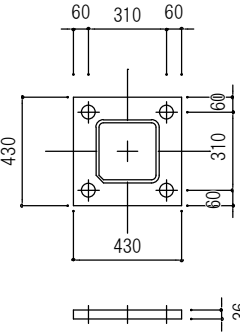
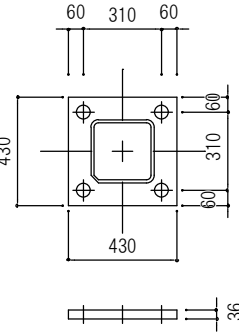
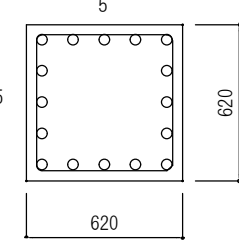
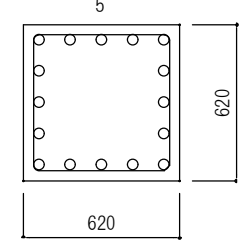
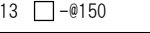
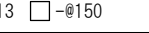
d: 主筋径
(主筋のあきを1.5dとする。)



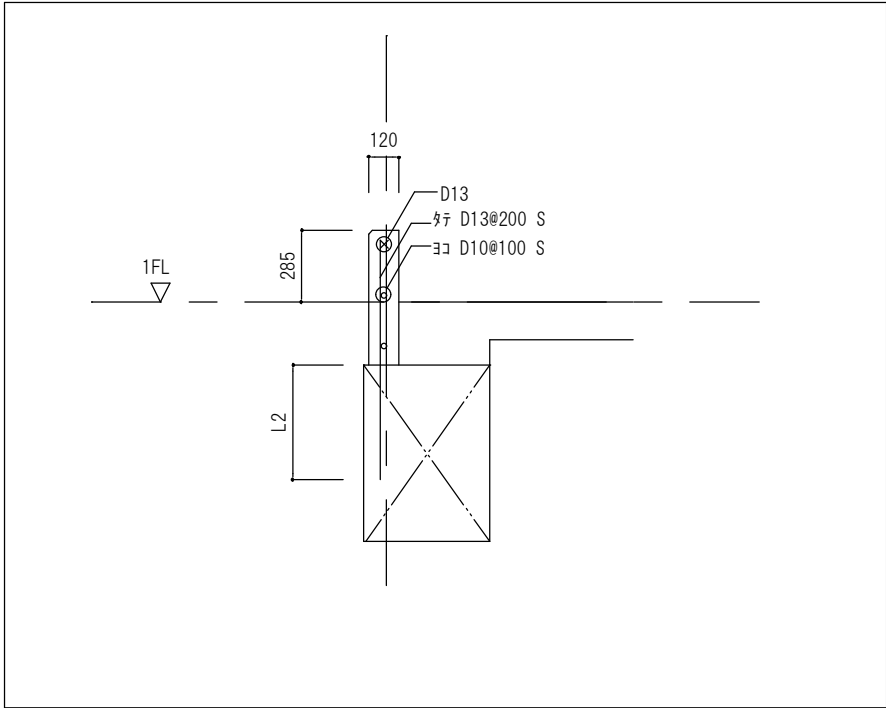
Fc	名 称	FB1	FB2	
	位 置	端部	端部	中央
21	断 面			
	BxD	500x600	300x600	
	上端筋	3-D19	3-D19	3-D19
	下端筋	3-D19	3-D19	4-D19
	あばら筋	D13 □ -#200	D10 □ -#200	
	腹 筋	2-D10	2-D10	
	備 考			

柱リスト 1:30

● 特記なき限り
1) 鋼材種別は、角型鋼管 無印：BGR295

符 号		C1	C2
部 材	2階	 -250 x 250 x 12	 -250 x 250 x 9
	1階	同 上	 -250 x 250 x 12
備 考			
最大有効細長比		$\lambda = 55.3$	$\lambda = 50.5$
柱 脚			
BPL		36 x 430 x 430	36 x 430 x 430
A BOLT		4-M42	4-M42
柱 脚		ISベース SS253	ISベース SS253
柱 型			
主 筋		16-D19 (SD345)	16-D19 (SD345)
帯 筋		D13  -#150	D13  -#150
備 考			

立上り壁配筋要領図

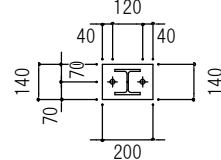


大梁リスト

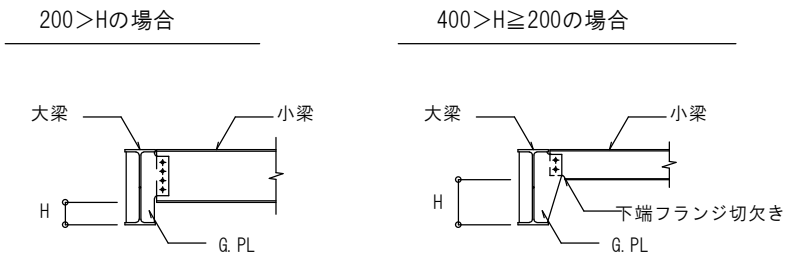
● 特記なき限り
1) 鋼材種別は、無印：SS400

階	符 号		G1	G2	CG1
			H -244 x 175 x 7 x 11	H -250 x 125 x 6 x 9	WJ-2015
2			H -400 x 200 x 8 x 13	H -400 x 200 x 8 x 13	H -200 x 100 x 5.5 x 8

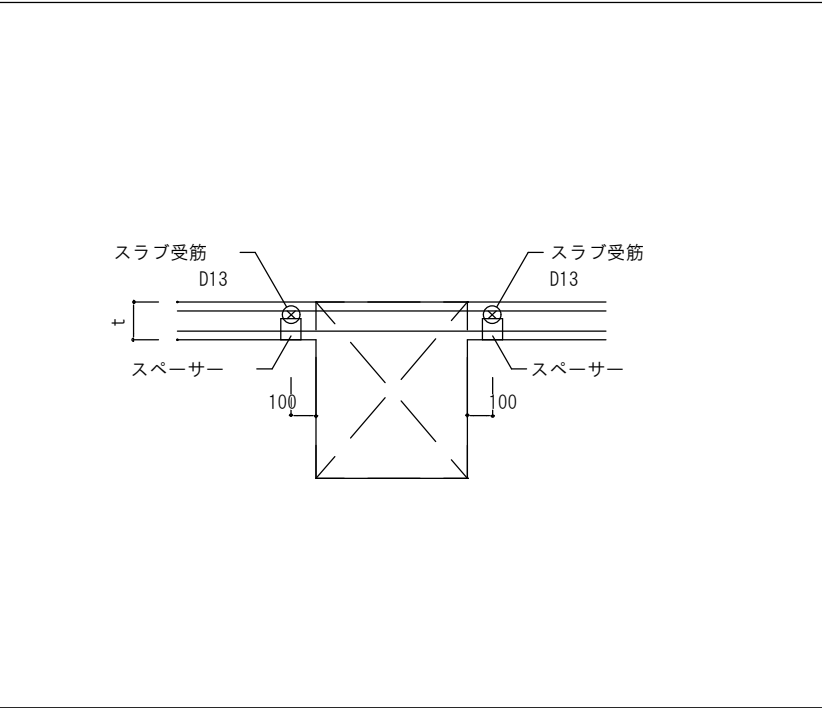
間柱リスト 1:30

※ 特記なき限り		
1) 鋼材種別は、SS400とする。		
符 号	P10W	
部 材	H-100x100x 6x 8	
最大有効細長比	$\lambda = 142.8$	
柱 脚		
BPL	BFL -12	
A BOLT	2-M16 (L=320)	
備 考	ダブルナット付	
接合部	GPL	GPL -9
	HTB	2-M16
	備考	-

大梁座屈止め取付要領図



スラブ端部スパーサー位置



鉄骨部材リスト

● 特記なき限り
1) 鋼材種別は、SS400とする。
2) 高力ボルトは、S10TまたはF10Tとする。

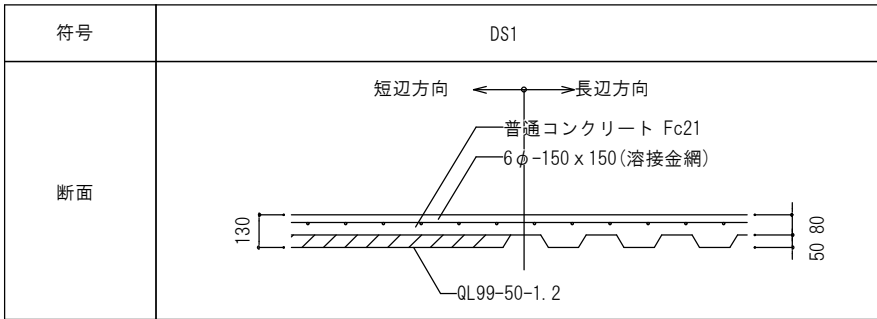
符 号	部 材	継 手		備 考
		ガセット	HTB	
sb20	H-200x100x5.5x 8	GP L-9	2-M20	ボルトピッチ@60
sb25	H-250 x 125 x 6 x 9	GP L-9	3-M20	ボルトピッチ@60
sb244	H-244 x 175 x 7 x 11	GP L-9	3-M20	ボルトピッチ@60
HB10	H-100x50x 5x 7	GP L-6	2-M16	横使い ボルトピッチ@60 2列
a	L-65 x 65 x 6	-	-	開口補強材
T1	[-100 x 50 x 5 x 7.5	GP L-9	2-M16	ボルトピッチ@60 2列
T	[-100 x 50 x 5 x 7.5	GP L-9	2-M16	ボルトピッチ@60 2列
H1	1-M16	GP L-9	1-M16	パイプ式ターンバックル付

スラブリスト

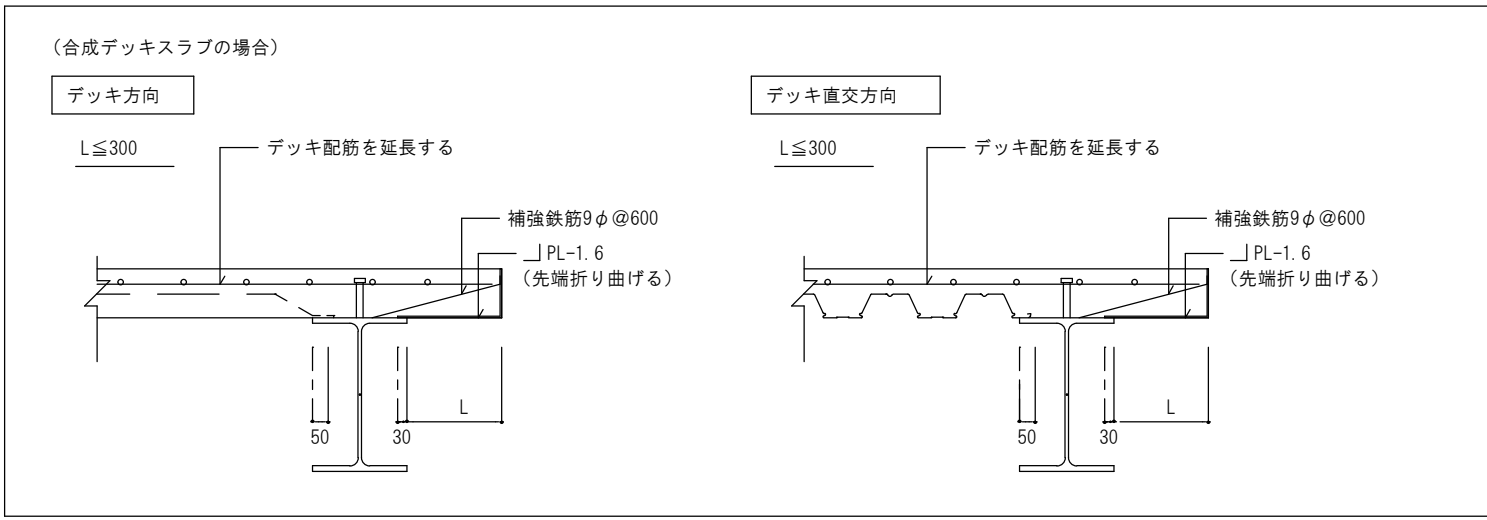
名 称	版 厚	位 置	短 辺 (主 筋) 方 向		長 辺 (配力筋) 方 向		備 考
			端 部	中 央	端 部	中 央	
S 1	150	上端筋	D10, D13-#200	同 左	D10-#200	同 左	
		下端筋	D10-#200	同 左	D10-#200	同 左	
S 2	150	上端筋	D13-#200	同 左	D13-#200	同 左	
		下端筋	D10, D13-#200	同 左	D10, D13-#200	同 左	

合成デッキスラブリスト 1:30

特記なき限り下記による。
・増打ち厚が50mm以上となる場合は増打ち補強筋としてワイヤーメッシュ6φ@150を配筋する。



スラブ端部納まり図



継手リスト 1:30

1:30

- 1) スプラインプレート、及びガセットプレートの鋼種は無印：SS400とする。
- 2) 高力ボルトは、S10TまたはF10Tとする。
- 3) 継手は、「SCSS-H97」による。
- 4) フランジプレート面もしくはウェブ面で段差1mmを超える場合は、フィラープレートを入れて調整すること。

部 材		H -400 x 200 x 8 x 13	G1, G2	H-250x125x6x9	G2	H-244x175x7x11	G1	H-200x100x5. 8 x 8	CG1
接合部									
フランジ	SPL	2SPL - 9x200x410		2SPL - 12x125x410		2SPL - 9x175x290		2SPL - 16x100x290	
		4SPL - 9x 80x410		-		4SPL - 9x 70x290		-	
	HTB	6 x 4-M20		6 x 4-M16		4 x 4-M20		4 x 4-M16	
ウェブ	SPL	2SPL - 9x260x170		2SPL - 6x170x290		2SPL - 9x140x170		2SPL - 6x140x170	
	HTB	4 x 2-M20		4 x 2-M16		2 x 2-M20		2 x 2-M16	

※部材長が、5.0mを超える場合に使用する。

外柱

梁上補強筋
D10#200

500, 14286

500, 14286

※合成スラブ設計・施工標準仕様書参照。

内柱

3-D10-#50

柱幅+1,000

柱幅+600

3-D10-#50

柱幅+1,200

柱幅+1,000

接合部の要領図

BCR295
STKR400
SN490C
SM490A
SS400

tc

td

tc

td

tc

td

BCR295
STKR400
SN490C

通しダブの寸法

■ 出寸法 e

e=25mm (tc<28mm)

e=30mm以上 (tc≥28mm)

かつtb以上

tc: 角形鋼管管厚

td: ダブの厚

■ 板厚

td>tf (梁フランジ厚)

通しPL上端=フランジ上端

※1

通しPL芯=フランジ芯

※2

※1は「プレートタイプ」上使用すること。

※2は「プレートタイプ」上使用すること。

内部鉄骨階段 接合部詳細図

ササラ桁脚部詳細図

BR=12x140x350
A BOLT 2-M16 (L=320)
ダブルナットブック付

19
18
17
16
15
14
12
10
9
8
7
6
5
4
3
2
1

PL-9 (2-M20)

PL-9

PL-4.5加工

PL-300x12

L-65x65x6#450

GPL-9 (2-M20)

PL-9

PL-9 (2-M20)

PL-9

PL-4.5加工

PL-300x12

3.310


3.950

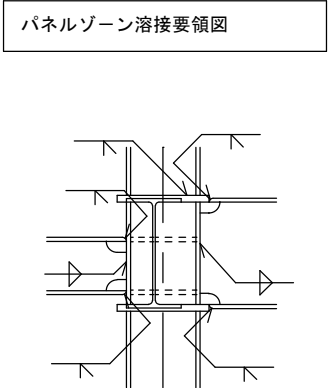
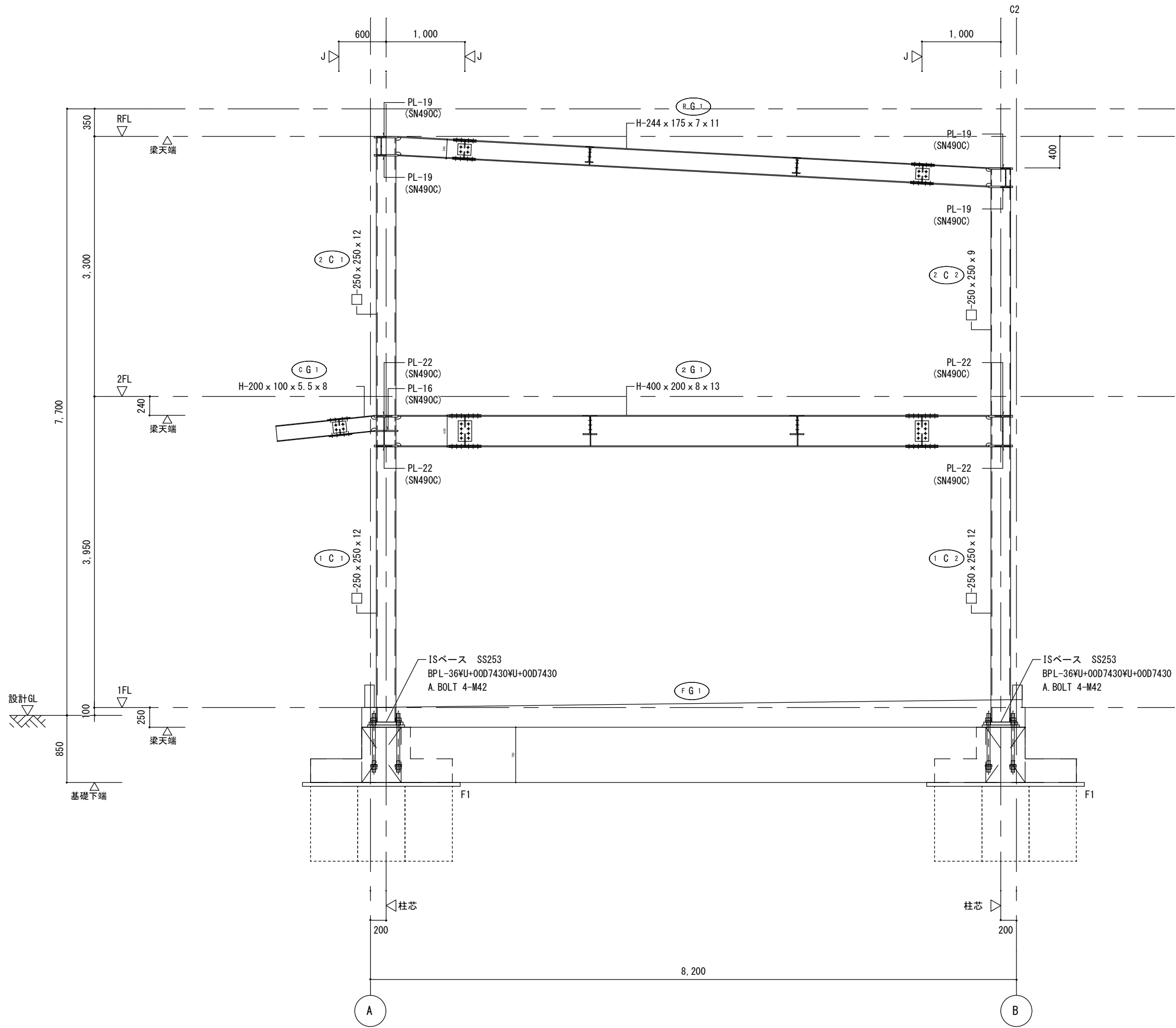
2FL

1FL

設計GL

B

工事名 御所市消防団第8分団消防車庫改築工事		設計図		図面番号 S - 17
図名 継手リスト・雑詳細図		縮尺 1/30	作成日 年 月 日	確認印
			変更日 (最終) 年 月 日	
 総合企画、建築設計、監理 株式会社 中環設計		一級建築士事務所 2020(へ)第1421号 一級建築士権174531号 中谷芳一		



2 通鉄骨詳細図 1:50

● 特記なき限り
1) 鋼材種別は、柱 : BCR295
大梁 : SS400
通しダイアフラム : SN490Cとする。
2) 高力ボルトは、S10TまたはF10Tとする。

[illegible]

●発生材の処理等

○引き渡しを要するもの（ ）
○現場において再利用を要するもの（ ）
●再資源化を図るもの
○資源化方法 ○HIDランプ ●小型二次電池 ○
※再生資源利用(促進)計画(実施)書を提出する。
(建設副産物対策近畿地方連絡協議会編)
※産業廃棄物の処理
関係法に従い、構外搬出適切処理とし搬出書類等提出する。なお、県内の最も粗分地区に搬入することとなる場合は、奈良県産業廃棄物税条例相当額を支払うこと。
※産業廃棄物管理票(マニフェスト)を提出する。(O.県票の写し)
○特定有害廃棄物最終処分場へ該当するものは適法処理する。
○ユニット形エアコンディショナー(4.2.2.1)の品質及び性能を有するもの(ただし、室内ユニットが壁掛け形もしくは床置き形であるセパレート形エアコンディショナーに限る。) ○
(1.1.3.9)<(1.1.9.1)

●機材等

※別途「設備機材」に掲げる設備機材は(一社)公共建築協会発行「建築材料・設備機材等品質性能評価事業設備機材等評価名簿」に記載されたものの(ただし、評価の有効期限内のものに限る)を使用する。この場合、評価書の写しをもって、標準仕様表第1編「エアコンディショナー」の品質及び性能を有することを証明となる資料(製作図、試験成績書等は除く)に替える。ただし、これらと同等のものとする場合は、監督職員の承諾を受ける。
※本工事に使用する設備機材のうち、設備機材等指定表等により特定のものが特記されている場合は、設計図書に規定するもの又はこれらと同等のものを使用する。ただし、前記のとおりとする場合は、監督職員の承諾を受ける。

●機材の試験

機材の品質及び性能を試験により証明する場合は、試験に先立ち試験計画書を作成し提出し、監督職員へ提出し、原則として監督職員の立ち合いを受けて行う。ただし、あらかじめ監督職員の承諾を受けた場合を除く限りでない。
(1.1.4.9)<(1.1.4.6)

○色彩による表示

監督職員の指示による。(1.1.4.2)<(1.1.4.2)

○見本施工の実施

図示(図面番号) (1.1.5.3)<(1.1.6.4)

○化学物質の濃度測定

※実施する(○竣工工程 ※施工完了後 ○) (1.1.5.7)<(1.1.6.8)
測定対象化学物質 キシレン エチルベンゼン ストレン
測定対象室及び測定箇所数

室	箇所数			

測定方法は監督職員の指示による

○化学物質を散放せざることを求める建築材料等の使用制限

※本工事の建築内部に使用する材料等では、設計図書に規定する所要の品質及び性能を有すると共に、次の(1)から(4)を満たすものとする。
(1)金具、木質系フローリング、構造用パネル、集成材、単板積層材、MDF、パーティクルボード、その他の木質建材、ウレタン樹脂板、紙張、接着剤、保温材、断熱材、断熱材、塗装、仕上塗料は、ホルムアルデヒド及びスチレンを発生しない又は発生量が極めて少ない材料で、設計図書に規定する「ホルムアルデヒドの放散量」の区分に応じた材料を使用する。
(2)接着剤及び塗料は、トルエン、キシレン及びエチルベンゼンの含有量が少ない材料を使用する。
(3)接着剤は、可塑剤(フタル酸ジ-n-ブチル及びフタル酸ジ-2-エチルヘキシル等を含有しない難揮発性の可塑剤を除く)が添加されていない材料を使用する。
(4)(1)の材料を使用して作られた家具、書架、実験台、その他の什器等でも、ホルムアルデヒド、アセトアルデヒド、及びスチレンを発生しないか、発生量が極めて少ない材料を使用したものとする。
また、設計図書に規定する「ホルムアルデヒドの放散量」は次のとおりとする。
規制対象外
①建築基準法施行令第20条の7第1項に定める第一種、第二種及び第三種ホルムアルデヒド発散建築物以外の材料
②建築基準法施行令第20条の7第4項の規定により国土交通大臣の認可を受けた材料
第三種
①建築基準法第20条の7第1項に定める第三種ホルムアルデヒド発散建築物
②建築基準法施行令第20条の7第4項の規定により国土交通大臣の認可を受けた材料

○中間技術検査の実施

○県土木環境部建設工事監督及び検査係(奈良県土木マネジメント部)に定める中間検査による。(1.1.6.2)<(1.1.10.2)

●完成時の提出図書

※作成する(機器製図も含む)
※受注者において完成図を作成し、糊装製本「B」部提出する(原図共)
製本サイズ A4 B4 C4 O A3
※完成図は、原則として黒文字製本とし、表紙の書き方は監督職員の指示とする
※完成図A0サイズの提出は、必要に応じてあり
※カラー印刷の費用は、必要に応じてあり
●保全に関する資料
※建築物等の利用に関する説明書、機器取扱い説明書、機能性試験成績書、公害審査書類、主要な機器一覧表を提出する。
※提出部数(※1部「 」部)
●その他引き渡し書類
保証書、施工図(制御システム図、機器配管固定の設計図等)、施工計画書、各種承認図、工事写真等、その他各様検査書類等を整理し、監督職員の指示する部数を提出する。
○既存完成品の新築(多年度継続施工の場合)
既存完成品を含む工事の内容を含んだものに修正し、全体完成内容として提出する。
(1.1.7.1)(1.1.7.2)(1.1.7.3)<(1.1.11.1)(1.1.11.2)(1.1.11.3)

●工事写真・完成写真

※工事写真 「工事写真の撮影マニュアル(奈良県土木マネジメント部監修)」による
※完成写真 「工事写真」準じて作成する。
○下表による。

分類・規格	撮影枚数	部数	原紙の大きさ(mm)	その他
○カラーサービス版	O6 O9 O12	○	24×36以上	
○カラーキャビネット版	監督職員指示箇所	○	100×125以上	

(ただし、上記写真は、アルバム製本とする。)
○完成写真として、全紙パネルを 部提出する。

●耐震施工

設備機器の固定は「日本建築学会設計・施工指針(独立行政法人国土交通省国土技術政策総合研究所・建築防災部監修)2014年版」による。なお設計用水平地震力、次に示す設計用垂直地震力、振動モード数は最上階、7~9階建の場合は上層2階、10~12階建の場合は上層3階、13階以上の場合は上層4階。
(2.2.1.13)(3.2.2.1.1)(4.3.1.1)(5.2.1.1)(5.2.1.2)(6.2.1.1)(6.2.1.2)<(2.1.14)<(3.2.1.2)<(4.2.1.2)<(5.2.1.2)<6.2.1.3><(6.2.1.12)>
重要機器(水槽類は、下記による。(水槽類にはインシュレーション等を含む。))
○電気配線 ○直流電源装置 ●非常用発電装置 ○交換機 ○
○電算機電源 ○中央空調装置 ○防犯設置 ○
○上部屋の変換は、次に示す日本建築学会設計・施工指針(最上階、7~9階建の場合は上層2階、10~12階建の場合は上層3階、13階以上の場合は上層4階)。
(2.2.1.13)(3.2.2.1.1)(4.3.1.1)(5.2.1.1)(5.2.1.2)(6.2.1.1)(6.2.1.2)<(2.1.14)<(3.2.1.2)<(4.2.1.2)<(5.2.1.2)<6.2.1.3><(6.2.1.12)>

●あと施工アンカー

増込み配管等の探査 (○行わない) ○金属探知機により行う
性能確認試験 ○行う(図面番号) ※行わない <1.2.1.3>
確認強度 ○確認強度は、施工アンカー協会によるあと施工アンカー基準規格による。
試験の箇所数 改修標準仕様書(建築2次書)による。 <1.2.1.3>


共通事項

設置場所	○特定の施設		※一般の施設	
	機器	水槽類	一般	水槽類
中層廊、屋上及び塔屋	0(2.0)	2	1.5(2.0)	1.5(2.0)
上層廊	1.5(1.5)	1.5	1.0(0.5)	1.0(0.5)
1階及び地下階	1.0(0.5)	1.0	0.5(0.5)	0.5(0.5)

注、()内の数値は、防振支持の機種の場合へ適用する。
重要機器(水槽類は、下記による。(水槽類にはインシュレーション等を含む。))
○電気配線 ○直流電源装置 ●非常用発電装置 ○交換機 ○
○電算機電源 ○中央空調装置 ○防犯設置 ○
○上部屋の変換は、次に示す日本建築学会設計・施工指針(最上階、7~9階建の場合は上層2階、10~12階建の場合は上層3階、13階以上の場合は上層4階)。
(2.2.1.13)(3.2.2.1.1)(4.3.1.1)(5.2.1.1)(5.2.1.2)(6.2.1.1)(6.2.1.2)<(2.1.14)<(3.2.1.2)<(4.2.1.2)<(5.2.1.2)<6.2.1.3><(6.2.1.12)>

●はつり	既存のコンクリート床、壁等の配管貫通部の穴あけは、原則としてダイヤモンドカッターとし、復旧はモルタル補修とする。緊要適不可。
●風圧力の検討	建築基準法に定めるところによる風圧力(耐風力)検討(計算)書を監督職員に提出する。なお、検討(計算)範囲は、それぞれの取付部分を含むものとする。 ●受留部システム及び引下り導線システム ○太陽光発電装置 ○風力発電装置 ○テレビ共用受信用アンテナ及びアンテナマスト ○ 風圧力に対する性能(建築基準法に定められた風速及び地表面粗度区分) 風速(○30 ○32 ○34) 地表面粗度区分(○Ⅰ ○Ⅱ ○Ⅲ ○Ⅳ)
●電線管	図面に合成樹脂性可とう管(以下PF管という)であっても、露出部分は鋼製電線管で施工する。なお、鋼製電線管を使用する場合は、電線の収容本数を考慮する。また、屋外露出(雨線内・雨線外)部分で明示無き場合は、鋼製電線管とする。 配線室以外で露出電管の場合は、すべて化学処理(エッチングプライマーⅠ種)の後、割合ペイント2回塗りとする。 ○ただし厚鋼電線管は溶融亜鉛めっき(亜鉛付着量300g/㎡以上)を施したものととし、塗装は不要とする。
●ボックス	PF管で配管する場合は、合成樹脂製ボックスを使用する。
●電線	図面に記載なきものはEM-ⅠEとする。
●電線本数、管路等	分電盤、制御盤、端子箱等の2次側以降の配線経路、電線太さ、電線本数、管路等は監督職員の承認を受け変更してもさしつかえない。
●呼び線	長さ1m以上の入線しない管路には、1.2mm以上のビニル被覆鉄線を挿入する。
●フラッシュプレート	※金属製(ステンレス、新金属も含む) ○樹脂製
○フロアプレート	水平高低調整式(空腔防止リング付、OAフロア部分を除く) ※砲金製 ○アルミ製
●壁類塗装色	製造者の標準色とする。ただし、建築を見合いとなる部分については監督職員の指定色とする。 (2.1.7.3) (2.1.12.3) (3.1.1.3) (4.2.1.3) (6.1.4.2) (7.1.2.3)
●寸法	盤その他機器等について図示した寸法は、約寸法とする。建築見合いとなる部分については監督職員の承認を受け変更してもさしつかえない。
○最上階の埋込配管	最上階のすラップでモルタル防水及び樹脂防水の場合、埋込配管は避けるのを原則とする。
●機器の取替及び改造	機器の取替及び改造を行った場合、取替日、読負者名、施工者名及び能力等を記した取替書を取り付ける。
●再使用機器	取替した再使用する機器は、清掃し絶縁抵抗測定の上を取り付ける。なお照明器具等の見えがかり部分は、洗剤を使用するなどして、十分に清掃を行うこと。
●圧着端子	丸型とする。
●壁類仕様	●分電盤 ○突換盤 ○開閉器箱 ○制御盤 ○非接地電源用分電盤 ●製造者標準品とする場合は別図による。(図面番号) ●壁名称、回路名称を別記した樹脂製の板で表示する。 ●盤内配線は原則としてエコ電線とする。(消法法上はHIV) ○キャビネットはステンレス製とする。 ○JIS C 09201に対する保線等試験を行う。 ○精算計器(※無検定) ○検定付 別記による。(図面番号) ●工事番号・工事名称・施工年月・受注者・施工者(受注者と同一でない場合)を銘板等で表示する。
○地中埋設機	※要 埋設箇所数 () 箇所 ○ 不要
○機識シート	全ての地中管路に機識シート(2倍長)を貼ける。(2.2.12.4) (2.2.14.4) 地面(舗装がある場合は舗装下面)と埋設管天端との間に敷設すること
○砂利地業	※再生砂石 ○
○屋外形手形開閉器箱	※SUS製 ○溶融亜鉛めっき ○鋼板製 ○ 塗装○不要 ○要 ○製造者標準品とする場合は別記による。(図面番号)
●屋外形プルボックス等	屋外形のプルボックス及び屋外に使用する配線支持金物等の建材材料は、SUS製又は溶融亜鉛めっき(JIS H 8641に規定するHDZ23相当)とする。 なお、蓋用のネジは屋内外とも六角プラスビスとする。
●コンセントプレート	コンセントプレートの指定箇所(回路名称(回路番号)を付す。
○バスダクト	エキサンピングダクトは別記による。(図面番号) (2.9.2.2) (2.2.10.2)
●環境に配慮した電線(EMケーブル)	以下のケーブルはハロゲン及び鉛を含まない材料で構成されたものとする。 ○EM-UTP JIS X 51501-準じ絶縁材にJCS規格によるEMケーブルの耐熱性架橋ポリエチレンを用いたものとする。 ○EM-MEES JCS3271(MVVS)に準じ、絶縁材及びシースにJCS規格によるEMケーブルの耐熱性ポリエチレンを用いたものとする。 ○FP、FP-C、FP-H シースにJCS規格によるEMケーブルの耐熱性ポリエチレンを用いたものとする。 ビニル電線、ビニルシースケーブル等を使用する旨の記載があるものは、EMケーブルの規格を含むものとする。EMケーブルの電線色別は、原則として「標準仕様書」による。
●設備機能上の協議	図面において機能上疑義を生じた場合は、検討した後、監督職員と協議する。
○天井点検口等	天井点検口の裏側に用途名称を付す。また、大型プルボックスの見やすい部分に、用途名称を付す。
○土工事	○地中埋設管を除き、埋め戻し及び盛土は、※厳切りの土の良質土を使用し、十分な締め固めを行う。 ○山砂の詰めを使用し、十分な締め固めを行い、水締めを行う。 ○残土処分 ●構外搬出適切な処理 ○構内指示の場所に敷きならす (1.2.2.1) (1.2.3.1)
○地中埋設管の埋戻土	○コンクリート管以外での管を地中埋設とする場合は、管及び被覆樹脂を傷めぬよう山砂の類で管の周囲を埋戻した後、掘削土の良質土で埋戻す。
○コンクリート工事	図面に明記なきコンクリート設計基準強度及びスランプは、下記による。 設計基準強度 ※18N/㎡以上 ○ スランプ ※18cm以下 ○
●電線接続	屋外でケーブル相互の接続または端末処理を行う場合は、被覆の伸縮対策を施す (2.2.1.1) (2.2.1.2)

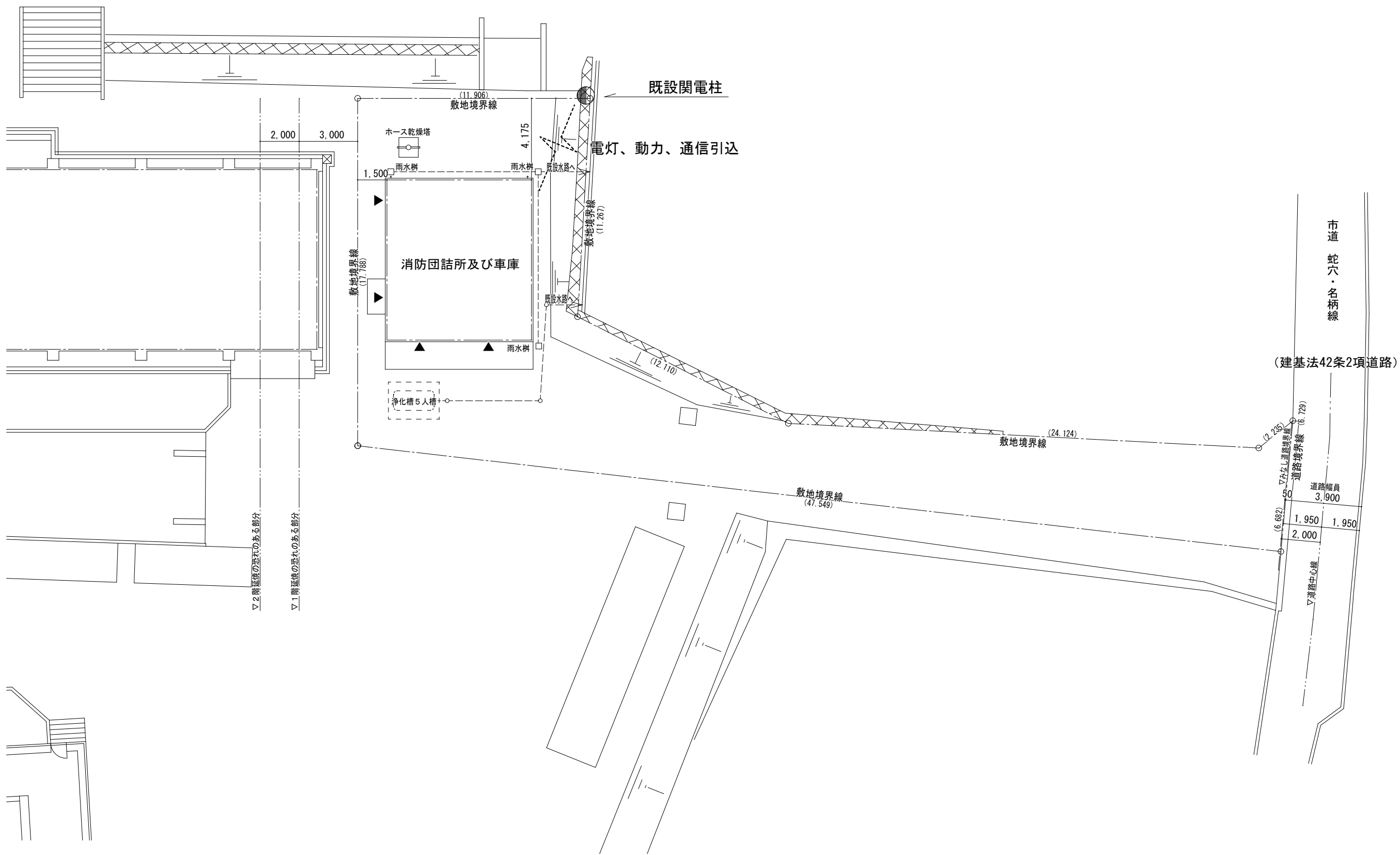
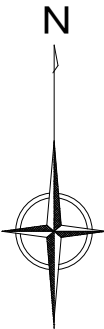
仮 設 工 事	●監督職員事務所 (総合会議室を含む)	※本工事 (規模※10㎡程度 ○20㎡程度 ○30㎡程度 ○65㎡程度 ○100㎡程度 仕上りの程度)	(1.2.1.1)＜1.2.2.7＞																																																				
	●監督職員事務所の 備品等	<table><tr><th>部 位</th><th>仕 様</th><th></th></tr><tr><td>床</td><td>※合板張り又はビニル床シート張り</td><td>○</td></tr><tr><td>内装・天井</td><td>※合板張り又は石膏ボード張り十塗装</td><td></td></tr><tr><td>屋根</td><td>※塗装済屋根あてき鋼板張り又は鉄板張り十塗装</td><td>○</td></tr></table> <table><tr><th>備品の種類</th><th>机・椅子</th><th>書棚</th><th>黒板又は ホワイトボード</th><th>掛時計</th></tr><tr><td>数 量</td><td>紙</td><td>台</td><td>個</td><td>個</td></tr><tr><th>備品の種類</th><th>ゴム長靴</th><th>雨がっぱ</th><th>安全帯</th><th>懐中電灯</th></tr><tr><td>数 量</td><td>足</td><td>着</td><td>個</td><td>個</td></tr><tr><th>備品の種類</th><th>衣類ロッカー</th><th>冷暖房機器</th><th>加入電話機</th><th>湯沸器</th></tr><tr><td>数 量</td><td>人用</td><td>台</td><td>台</td><td>台</td></tr><tr><th>備品の種類</th><th>掃除具</th><th>パソコン</th><th>周辺機器</th><th>ヘルメット</th></tr><tr><td>数 量</td><td>個</td><td>台</td><td></td><td>個</td></tr></table> その他事務所として通常必要な備品を揃えること	部 位	仕 様		床	※合板張り又はビニル床シート張り	○	内装・天井	※合板張り又は石膏ボード張り十塗装		屋根	※塗装済屋根あてき鋼板張り又は鉄板張り十塗装	○	備品の種類	机・椅子	書棚	黒板又は ホワイトボード	掛時計	数 量	紙	台	個	個	備品の種類	ゴム長靴	雨がっぱ	安全帯	懐中電灯	数 量	足	着	個	個	備品の種類	衣類ロッカー	冷暖房機器	加入電話機	湯沸器	数 量	人用	台	台	台	備品の種類	掃除具	パソコン	周辺機器	ヘルメット	数 量	個	台		個	(1.2.1.1)＜1.2.2.7＞
	部 位	仕 様																																																					
	床	※合板張り又はビニル床シート張り	○																																																				
	内装・天井	※合板張り又は石膏ボード張り十塗装																																																					
	屋根	※塗装済屋根あてき鋼板張り又は鉄板張り十塗装	○																																																				
	備品の種類	机・椅子	書棚	黒板又は ホワイトボード	掛時計																																																		
	数 量	紙	台	個	個																																																		
	備品の種類	ゴム長靴	雨がっぱ	安全帯	懐中電灯																																																		
	数 量	足	着	個	個																																																		
備品の種類	衣類ロッカー	冷暖房機器	加入電話機	湯沸器																																																			
数 量	人用	台	台	台																																																			
備品の種類	掃除具	パソコン	周辺機器	ヘルメット																																																			
数 量	個	台		個																																																			
●足場、さん橋類	※関係者が設置したものは無償で使用できる。 ○本工事で設置する。 足場を設ける場合は、「手すり先行工法に関するガイドラインについて」 (厚生労働省 基発第0424001号平成21年4月24日)の「手すり先行工法等に 関するガイドライン」により、「働きやすい安心感のある足場に関する基準」 に適合する手すり、中さん及び幅木機能を有する足場とし、足場と組立て、 解体又は変更の作業は、「手すり先行工法による足場の組立て等に関する基 準」の2の(2)手すり据置方式又は(3)手すり先行専用足場方式により 行うこと。	(1.2.1.1)＜1.2.2.2＞																																																					
●工事用仮設物	構内につくることが ※できる ○できない																																																						
●工事範囲	●配管 ●配線 ●機器取付 ○機器移設・改設 ○取り外し再取付																																																						
●LED照明器具の規格	LED照明器具の定格消費電力等の規定が標準品とJILで異なる場合、JILの規定を 適用する。																																																						
○照明制御装置	調光下限値、感知時間等システム設定は監督職員の指示による。 ○センサー設定器を 個附属すること。 ○人の通り抜けと滞在を識別して制御を行う。 ○調光器 (図面番号) ○照明制御監視装置は次の機能を有する。(図面番号)	(2.1.6.2) (2.1.6.3)																																																					
●防水試験	防漏及び防湿型の照明器具は防水試験を行う。	(2.1.19.1)																																																					
●照度測定	照度測定を行う。 測定結果はJIS Z 9110およびJIS Z 9127の推奨照度の照度範囲内であることを 確認する。	(2.2.18.2)＜2.2.20.2＞																																																					
○傾斜天井	●傾斜天井対応の器具を使用する。 ○別途工事により対応する。																																																						
●非常用照明	●電源内蔵形 ○電源別置形 LED照明器具を用いる非常用照明は、床面において水平面照度で2lx以上を確保 する。																																																						
○フロアコンセント	○引出し形 ○飛び出し形 ○内部固定形 ○外部固定形 ○OAフロア用																																																						
○予備配管	分電盤からの立上り予備配管は、予備の配線用遮断器4個以下の場合(E25)を 1本、5個以上の場合(E25)を2本天井内まで立上り上げる。																																																						
●スイッチ	大角ネーム付とする。換気扇用スイッチは確認表示灯付とする。 ○ワイドスイッチ																																																						
動 力 設 備	●工事範囲	●配管 ●配線 ●機器取付 ○機器移設・改設 ○取り外し再取付																																																					
	○制御盤	単位ユニットの電流計はコンデンサよりも負荷側に接続する。 自動運動回路は、試験運転にした場合運動しないものとする。																																																					
	○監視方法	○警報盤による代表監視 ○中央監視制御装置による監視																																																					
	○インターロック	火災報知設備の受信機、運動制御器及びガス漏れ火災警報受信機と連動して空 調機を停止させる。																																																					
	○制御盤の散水試験	散水試験を行う。 試験個数 ○全数 ○全体の () %																																																					
電 氣 設 備	○工事範囲	○配管 ○配線 ●機器取付 ○機器移設・改設 ○取り外し再取付																																																					
雷 保 護 設 備	●工事範囲	●配管 ●配線 ●機器取付 ○機器移設・改設 ○取り外し再取付																																																					
	●適用 J I S	※ JIS A 4201-2003 ※ JIS A 4201-1997																																																					
	●雷保護	●外部雷保護 ○内部雷保護 ※C種又はD種接地工事の接地線の太さは8mm以上とする	(2.2.13.9)																																																				
	●保護レベル	○Ⅰ ○Ⅱ ●Ⅲ ○Ⅳ																																																					
	●接地	●A型接地極 ○B型接地極 ○構造体利用接地極 (大地抵抗率測定用接地補助棒を構造体下部に設ける。)	(2.2.13.2) (2.2.17.4)																																																				
	○鋼製突計支持管	○一段目の長さは ※4000mm以上 ○ mm以上																																																					
	○鉄骨及び鉄筋との 接続	※圧着、ねじ締め、ボルト締め ○溶接	(2.2.17.3)																																																				

工事名 御所市消防団第8分団消防庫改築工事			図面番号 E - 01
図名 電気設備工事 特記仕様書(1)	縮尺 —	作成日 年 月 日	確認印
		変更日 (最終) 年 月 日	
 総合企画、建築設計、監理 株式会社 中畑設計			一級建築士事務所 奈良県知事登録 2020(ハ)第1421号 一級建築士№174531号 中谷芳一

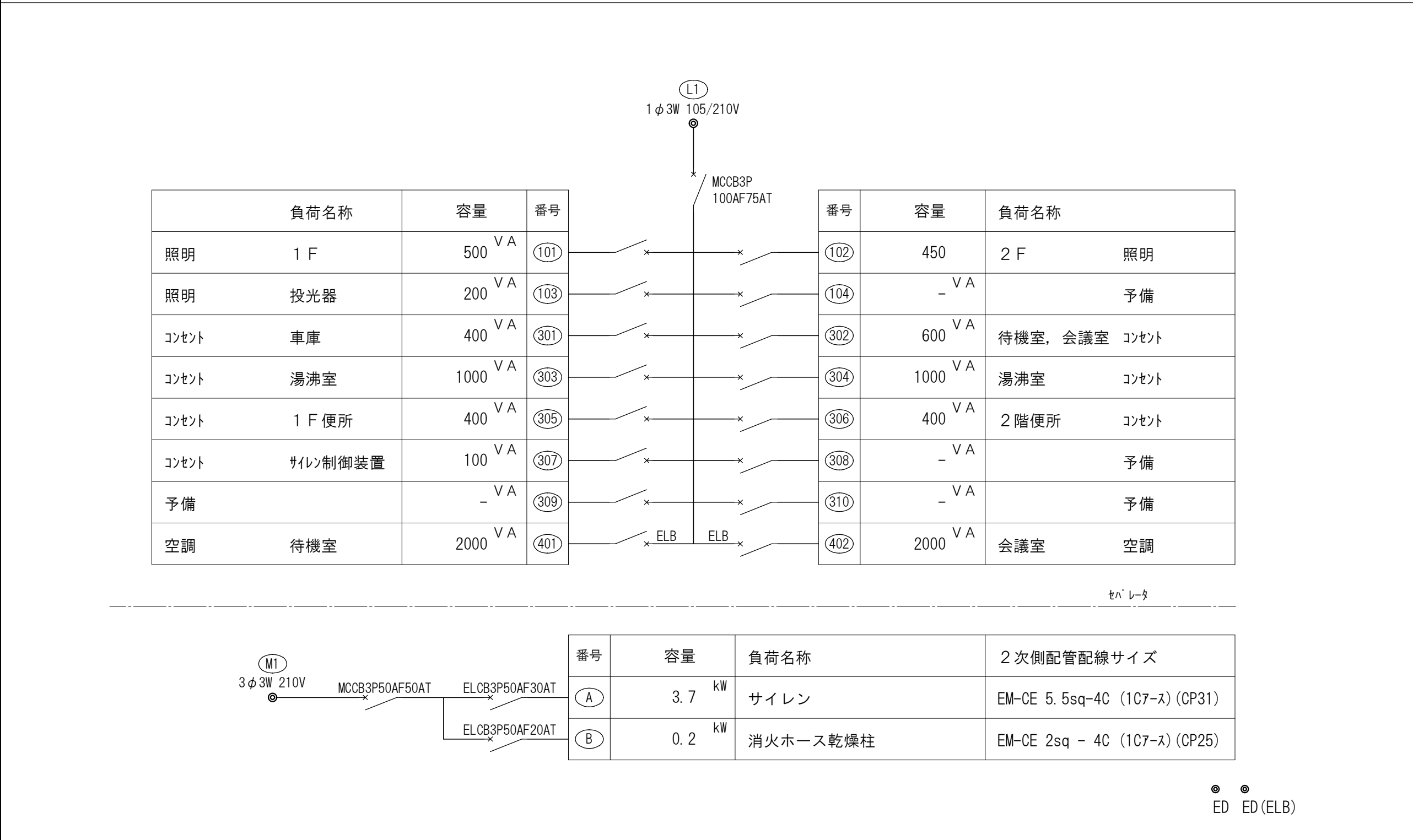
受電設備	○工事範囲	○配管 ○配線 ○機器取付 ○機器移設・改設 ○取り外し再取付
	○受電電圧	※高圧受電(6.6kV) ○特別高圧受電(kV)
	○配電盤形式	○P F ・S 形(変圧器容量300kVA未満) ○O B 形
	○認定キュービクル	消防法に基づく登録認定機関による「キュービクル式非常電源専用受電設備」の認定を受けたものを使用する。
	○設備容量	○変圧器総容量 kVA ○高圧電動機総容量 kW
変圧器	○変圧器	※「トップランナー変圧器2014」選用品を使用すること ※油入 ○モールド ○ガス入 ○防振ゴム付 ○ダイヤル温度計付 ○移動車輪付
	○進相コンデンサ	○高圧側設置 ○低圧側設置 ○A P F C (自動力率調整器) ※設ける ○設けない
	○直列リアクトル	※6% ○13%
	○基礎	※別途工事 ○本工事 ○既設
	○接地の共用	A 種接地、C 種接地及びD 種接地の接地極は共用し、接地抵抗値は10Ω以下とする。
屋内換気扇	○屋内換気扇	公称羽根径は300mmφ(銅製)とし、電源100Vは配電盤内より供給する。 サーモスタット(30℃～40℃可変形とし、(※35℃ ○℃)にセット)及び切替スイッチ(自動・手動・断)を設ける。 ○屋内用配電盤の場合、外部換気扇連動(※端子 ○スイッチ)を設ける。
	○屋内ヒータ	盤内ヒータ及び同用スイッチを設ける
	○付属品等	予備限流ヒューズを収納ケースに入れ、盤内に収納する。
	○その他	○配電盤内部照明用はLED照明器具とし、盤前後の扉ごとに設ける。 ○低圧配電盤の配線用遮断器は取付け板組込形で埋込形とする。 ○低圧配電盤の裏面に負荷側引出し用端子を設ける。 ○低圧配電盤に内部換気空間を設ける。 ○主遮断装置、変圧器、低圧主回路導体にそれぞれヒートラベルを貼付する。 ○接地線の銅導線を設け、接地線の取出しがヶ所に集中するのを避ける。 ○接地抵抗値測定用端子を測定しやすい位置に設ける。 ○キュービネットはステンレス製とする。 ※本工事 ○別途工事 ○キュービクルの内部から回路名称がわかるように表示する。 ○屋外キュービクルのネットフェンス ※本工事 ○別途工事 ○内部の点検用スペースは三方をアクリル板で囲む。 ○停電作業に伴い、電気主任技術者を立ち合わせることを。
	○工事範囲	○配管 ○配線 ○機器取付 ○機器移設・改設 ○取り外し再取付
電力貯蔵設備	○工事種類	○直流電源装置 ○交流無停電源装置(UPS)
	○その他	直流電源装置の過放電防止保護装置(直流不足電圧検知器)の設定電圧は90Vとする。
	○工事範囲	○配管 ○配線 ○機器取付 ○機器移設・改設 ○取り外し再取付
	○工事種類	○ディザーセル発電装置 ○ガスエンジン発電装置 ○ガスタービン発電装置 ○マイクロガスタービン発電装置 ○燃料電池発電装置 ○熱併供給発電装置(コージェネレーション装置) ○太陽光発電装置 ○低圧用SPDの性能 ※標準仕様書による ○(図面番号) (5.1.7.4)
	○用途	○非常用発電設備 ○常用発電設備(※系統連携型 ○独立型)
発電設備	○騒音低減性能	○超低騒音型 ○低騒音型 ○通常型
	○基礎	※別途工事 ○本工事 ○既設
	○燃焼炉槽等	○磁わい式液面検出装置 ○液面指示計器は磁わい式とする。 (5.1.1.6)
	○工事範囲	○配管 ○配線 ○機器取付 ○機器移設・改設 ○取り外し再取付
	○UTM	機能は別図による(図面番号) (6.1.5.6)
構内通信設備	○工事範囲	○配管 ○配線 ○機器取付 ○機器移設・改設 ○取り外し再取付
	○UTM	機能は別図による(図面番号) (6.1.5.6)
	○工事範囲	○配管 ○配線 ○機器取付 ○機器移設・改設 ○取り外し再取付
	○工事種類	○音声誘導装置 ○インターホン ○トイレ等呼出装置 ○通話機能 ○受付け装置 (6.1.10.8) ○エレベーターホン (6.1.10.4)
	○エレベーターホン	視機には、手機カメラ角度調整機能付とする。
テレビ共同受信設備	○工事範囲	○配管 ○配線 ○機器取付 ○機器移設・改設 ○取り外し再取付
	○アンテナ	○UHF(全地域用) ○BS-110° GS ○CS (6.1.11.3)
	○アンテナマスト	○壁面取付形 ○自立形 ※溶融亜鉛めっき ○ステンレス (6.1.11.3)
	○電界強度等	電界強度及び画質は、最上階が打上がったときに、アンテナ取付け予定位置、またはその周辺で測定する。(測定チャンネルは別図による(図面番号)) その測定記録を監督職員に速やかに提出すること。 (6.2.19.3)<6.2.21.3>
	○工事範囲	○配管 ○配線 ○機器取付 ○機器移設・改設 ○取り外し再取付
監視カメラ設備	○工事範囲	○配管 ○配線 ○機器取付 ○機器移設・改設 ○取り外し再取付
	○カメラモニタ	解像度は別図による(図面番号) (6.1.13.3)
	○時刻同期装置	設置する (6.1.13.5)
	○工事範囲	○配管 ○配線 ○機器取付 ○機器移設・改設 ○取り外し再取付
	○工事種類	○機械警備用配管 ○防犯設備 ○入室管理制御装置
火災報知設備	○工事範囲	○配管 ○配線 ○機器取付 ○機器移設・改設 ○取り外し再取付
	○工事種類	○自動火災報知設備 ○自動閉鎖設備 ○非常警報設備 ○ガス漏れ火災警報設備
	○自動閉鎖装置	○単独 ○自動火災報知装置受信機と一体 ○タンパ等(全数)後席用の予備電源容量をもつこと。 (6.1.17.2)
	○非常警報装置	○防火戸用(DC24V 0.6A以下 電磁式またはラッチ式) ○防煙ダンパ用(別途工事 瞬時通電式または電動式DC24V 0.6A以下、遠方復帰機構(電動式)DC24V 0.7A以下) ○防火シャッター(別途工事 DC24V 0.6A以下) (6.1.17.3)
	○非常放送装置	○非常放送装置 ○非常ベル(自動式サイレンを含む。) (6.1.18.1)
ガス漏れ火災警報装置	○単独形	○自動火災報知装置受信機と一体
	○ガス漏れ火災警報装置	○単独形 ○都市ガス用 ○LPガス用 (6.1.19.2)
	○R型受信機	○感知器等の増設や変更に伴う設定は監督員の指示による <6.2.1.16>
	○消火ポンプの始動	○消火栓箱内押ボタン(1号消火栓) ○消火栓箱内押ボタン(1号消火栓) ○発信機と連動(総合盤に始動表示灯を設ける)
	○工事範囲	○配管 ○配線 ○機器取付 ○機器移設・改設 ○取り外し再取付
中央監視制御設備	○機器	○警報盤 ○簡易型監視制御装置 ○監視制御装置
	○工事範囲	○配管 ○配線 ○機器取付 ○機器移設・改設 ○取り外し再取付
	○非接地電源用分電盤	キャビネット(※鋼板製 ○SUS製) (8.2.1.2)
	○ナースコール設備	○基本形ナースコール装置 ○携帯形ナースコール装置 ○情報表示形ナースコール装置 ○病床ユニット (8.3.1.2) (8.3.1.3) (8.3.1.4) (8.3.1.5)
	○工事範囲	○配管 ○配線 ○機器取付 ○機器移設・改設 ○取り外し再取付
構内交換設備	○工事範囲	○配管 ○配線 ○機器取付 ○機器移設・改設 ○取り外し再取付
	○工事種類	○音声誘導装置 ○インターホン ○トイレ等呼出装置 ○通話機能 ○受付け装置 (6.1.10.8) ○エレベーターホン (6.1.10.4)
	○エレベーターホン	視機には、手機カメラ角度調整機能付とする。
	○工事範囲	○配管 ○配線 ○機器取付 ○機器移設・改設 ○取り外し再取付
	○工事種類	○音声誘導装置 ○インターホン ○トイレ等呼出装置 ○通話機能 ○受付け装置 (6.1.10.8) ○エレベーターホン (6.1.10.4)
情報設備	○工事範囲	○配管 ○配線 ○機器取付 ○機器移設・改設 ○取り外し再取付
	○工事種類	○マルチライン装置 ○出退表示設備 ○時刻表示設備 ○時刻同期装置
	○工事範囲	○配管 ○配線 ○機器取付 ○機器移設・改設 ○取り外し再取付
	○工事範囲	○配管 ○配線 ○機器取付 ○機器移設・改設 ○取り外し再取付
	○工事範囲	○配管 ○配線 ○機器取付 ○機器移設・改設 ○取り外し再取付
映像設備	○工事範囲	○配管 ○配線 ○機器取付 ○機器移設・改設 ○取り外し再取付
	○工事範囲	○配管 ○配線 ○機器取付 ○機器移設・改設 ○取り外し再取付
	○工事範囲	○配管 ○配線 ○機器取付 ○機器移設・改設 ○取り外し再取付
	○工事範囲	○配管 ○配線 ○機器取付 ○機器移設・改設 ○取り外し再取付
	○工事範囲	○配管 ○配線 ○機器取付 ○機器移設・改設 ○取り外し再取付
拡張設備	○工事範囲	○配管 ○配線 ○機器取付 ○機器移設・改設 ○取り外し再取付
	○工事範囲	○配管 ○配線 ○機器取付 ○機器移設・改設 ○取り外し再取付
	○工事範囲	○配管 ○配線 ○機器取付 ○機器移設・改設 ○取り外し再取付
	○工事範囲	○配管 ○配線 ○機器取付 ○機器移設・改設 ○取り外し再取付
	○工事範囲	○配管 ○配線 ○機器取付 ○機器移設・改設 ○取り外し再取付

誘導支援設備	○工事範囲	○配管 ○配線 ○機器取付 ○機器移設・改設 ○取り外し再取付
	○工事範囲	○配管 ○配線 ○機器取付 ○機器移設・改設 ○取り外し再取付
	○工事範囲	○配管 ○配線 ○機器取付 ○機器移設・改設 ○取り外し再取付
	○工事範囲	○配管 ○配線 ○機器取付 ○機器移設・改設 ○取り外し再取付
	○工事範囲	○配管 ○配線 ○機器取付 ○機器移設・改設 ○取り外し再取付
テレビ共同受信設備	○工事範囲	○配管 ○配線 ○機器取付 ○機器移設・改設 ○取り外し再取付
	○アンテナ	○UHF(全地域用) ○BS-110° GS ○CS (6.1.11.3)
	○アンテナマスト	○壁面取付形 ○自立形 ※溶融亜鉛めっき ○ステンレス (6.1.11.3)
	○電界強度等	電界強度及び画質は、最上階が打上がったときに、アンテナ取付け予定位置、またはその周辺で測定する。(測定チャンネルは別図による(図面番号)) その測定記録を監督職員に速やかに提出すること。 (6.2.19.3)<6.2.21.3>
	○工事範囲	○配管 ○配線 ○機器取付 ○機器移設・改設 ○取り外し再取付
監視カメラ設備	○工事範囲	○配管 ○配線 ○機器取付 ○機器移設・改設 ○取り外し再取付
	○カメラモニタ	解像度は別図による(図面番号) (6.1.13.3)
	○時刻同期装置	設置する (6.1.13.5)
	○工事範囲	○配管 ○配線 ○機器取付 ○機器移設・改設 ○取り外し再取付
	○工事種類	○機械警備用配管 ○防犯設備 ○入室管理制御装置
火災報知設備	○工事範囲	○配管 ○配線 ○機器取付 ○機器移設・改設 ○取り外し再取付
	○工事種類	○自動火災報知設備 ○自動閉鎖設備 ○非常警報設備 ○ガス漏れ火災警報設備
	○自動閉鎖装置	○単独 ○自動火災報知装置受信機と一体 ○タンパ等(全数)後席用の予備電源容量をもつこと。 (6.1.17.2)
	○非常警報装置	○防火戸用(DC24V 0.6A以下 電磁式またはラッチ式) ○防煙ダンパ用(別途工事 瞬時通電式または電動式DC24V 0.6A以下、遠方復帰機構(電動式)DC24V 0.7A以下) ○防火シャッター(別途工事 DC24V 0.6A以下) (6.1.17.3)
	○非常放送装置	○非常放送装置 ○非常ベル(自動式サイレンを含む。) (6.1.18.1)
ガス漏れ火災警報装置	○単独形	○自動火災報知装置受信機と一体
	○ガス漏れ火災警報装置	○単独形 ○都市ガス用 ○LPガス用 (6.1.19.2)
	○R型受信機	○感知器等の増設や変更に伴う設定は監督員の指示による <6.2.1.16>
	○消火ポンプの始動	○消火栓箱内押ボタン(1号消火栓) ○消火栓箱内押ボタン(1号消火栓) ○発信機と連動(総合盤に始動表示灯を設ける)
	○工事範囲	○配管 ○配線 ○機器取付 ○機器移設・改設 ○取り外し再取付
中央監視制御設備	○機器	○警報盤 ○簡易型監視制御装置 ○監視制御装置
	○工事範囲	○配管 ○配線 ○機器取付 ○機器移設・改設 ○取り外し再取付
	○非接地電源用分電盤	キャビネット(※鋼板製 ○SUS製) (8.2.1.2)
	○ナースコール設備	○基本形ナースコール装置 ○携帯形ナースコール装置 ○情報表示形ナースコール装置 ○病床ユニット (8.3.1.2) (8.3.1.3) (8.3.1.4) (8.3.1.5)
	○工事範囲	○配管 ○配線 ○機器取付 ○機器移設・改設 ○取り外し再取付
構内交換設備	○工事範囲	○配管 ○配線 ○機器取付 ○機器移設・改設 ○取り外し再取付
	○工事範囲	○配管 ○配線 ○機器取付 ○機器移設・改設 ○取り外し再取付
	○工事範囲	○配管 ○配線 ○機器取付 ○機器移設・改設 ○取り外し再取付
	○工事範囲	○配管 ○配線 ○機器取付 ○機器移設・改設 ○取り外し再取付
	○工事範囲	○配管 ○配線 ○機器取付 ○機器移設・改設 ○取り外し再取付
情報設備	○工事範囲	○配管 ○配線 ○機器取付 ○機器移設・改設 ○取り外し再取付
	○工事範囲	○配管 ○配線 ○機器取付 ○機器移設・改設 ○取り外し再取付
	○工事範囲	○配管 ○配線 ○機器取付 ○機器移設・改設 ○取り外し再取付
	○工事範囲	○配管 ○配線 ○機器取付 ○機器移設・改設 ○取り外し再取付
	○工事範囲	○配管 ○配線 ○機器取付 ○機器移設・改設 ○取り外し再取付
映像設備	○工事範囲	○配管 ○配線 ○機器取付 ○機器移設・改設 ○取り外し再取付
	○工事範囲	○配管 ○配線 ○機器取付 ○機器移設・改設 ○取り外し再取付
	○工事範囲	○配管 ○配線 ○機器取付 ○機器移設・改設 ○取り外し再取付
	○工事範囲	○配管 ○配線 ○機器取付 ○機器移設・改設 ○取り外し再取付
	○工事範囲	○配管 ○配線 ○機器取付 ○機器移設・改設 ○取り外し再取付
拡張設備	○工事範囲	○配管 ○配線 ○機器取付 ○機器移設・改設 ○取り外し再取付
	○工事範囲	○配管 ○配線 ○機器取付 ○機器移設・改設 ○取り外し再取付
	○工事範囲	○配管 ○配線 ○機器取付 ○機器移設・改設 ○取り外し再取付
	○工事範囲	○配管 ○配線 ○機器取付 ○機器移設・改設 ○取り外し再取付
	○工事範囲	○配管 ○配線 ○機器取付 ○機器移設・改設 ○取り外し再取付

構内通信設備	○工事範囲	○配管 ○配線 ○機器取付 ○機器移設・改設 ○取り外し再取付
	○工事範囲	○配管 ○配線 ○機器取付 ○機器移設・改設 ○取り外し再取付
	○工事範囲	○配管 ○配線 ○機器取付 ○機器移設・改設 ○取り外し再取付
	○工事範囲	○配管 ○配線 ○機器取付 ○機器移設・改設 ○取り外し再取付
	○工事範囲	○配管 ○配線 ○機器取付 ○機器移設・改設 ○取り外し再取付
テレビ共同受信設備	○工事範囲	○配管 ○配線 ○機器取付 ○機器移設・改設 ○取り外し再取付
	○アンテナ	○UHF(全地域用) ○BS-110° GS ○CS (6.1.11.3)
	○アンテナマスト	○壁面取付形 ○自立形 ※溶融亜鉛めっき ○ステンレス (6.1.11.3)
	○電界強度等	電界強度及び画質は、最上階が打上がったときに、アンテナ取付け予定位置、またはその周辺で測定する。(測定チャンネルは別図による(図面番号)) その測定記録を監督職員に速やかに提出すること。 (6.2.19.3)<6.2.21.3>
	○工事範囲	○配管 ○配線 ○機器取付 ○機器移設・改設 ○取り外し再取付
誘導支援設備	○工事範囲	○配管 ○配線 ○機器取付 ○機器移設・改設 ○取り外し再取付
	○工事範囲	○配管 ○配線 ○機器取付 ○機器移設・改設 ○取り外し再取付
	○工事範囲	○配管 ○配線 ○機器取付 ○機器移設・改設 ○取り外し再取付
	○工事範囲	○配管 ○配線 ○機器取付 ○機器移設・改設 ○取り外し再取付
	○工事範囲	○配管 ○配線 ○機器取付 ○機器移設・改設 ○取り外し再取付
テレビ共同受信設備	○工事範囲	○配管 ○配線 ○機器取付 ○機器移設・改設 ○取り外し再取付
	○アンテナ	○UHF(全地域用) ○BS-110° GS ○CS (6.1.11.3)
	○アンテナマスト	○壁面取付形 ○自立形 ※溶融亜鉛めっき ○ステンレス (6.1.11.3)
	○電界強度等	電界強度及び画質は、最上階が打上がったときに、アンテナ取付け予定位置、またはその周辺で測定する。(測定チャンネルは別図による(図面番号)) その測定記録を監督職員に速やかに提出すること。 (6.2.19.3)<6.2.21.3>
	○工事範囲	○配管 ○配線 ○機器取付 ○機器移設・改設 ○取り外し再取付
誘導支援設備	○工事範囲	○配管 ○配線 ○機器取付 ○機器移設・改設 ○取り外し再取付
	○工事範囲	○配管 ○配線 ○機器取付 ○機器移設・改設 ○取り外し再取付
	○工事範囲	○配管 ○配線 ○機器取付 ○機器移設・改設 ○取り外し再取付
	○工事範囲	○配管 ○配線 ○機器取付 ○機器移設・改設 ○取り外し再取付
	○工事範囲	○配管 ○配線 ○機器取付 ○機器移設・改設 ○取り外し再取付
テレビ共同受信設備	○工事範囲	○配管 ○配線 ○機器取付 ○機器移設・改設 ○取り外し再取付
	○アンテナ	○UHF(全地域用) ○BS-110° GS ○CS (6.1.11.3)
	○アンテナマスト	○壁面取付形 ○自立形 ※溶融亜鉛めっき ○ステンレス (6.1.11.3)
	○電界強度等	電界強度及び画質は、最上階が打上がったときに、アンテナ取付け予定位置、またはその周辺で測定する。(測定チャンネルは別図による(図面番号)) その測定記録を監督職員に速やかに提出すること。 (6.2.19.3)<6.2.21.3>
	○工事範囲	○配管 ○配線 ○機器取付 ○機器移設・改設 ○取り外し再取付
誘導支援設備	○工事範囲	○配管 ○配線 ○機器取付 ○機器移設・改設 ○取り外し再取付
	○工事範囲	○配管 ○配線 ○機器取付 ○機器移設・改設 ○取り外し再取付
	○工事範囲	○配管 ○配線 ○機器取付 ○機器移設・改設 ○取り外し再取付
	○工事範囲	○配管 ○配線 ○機器取付 ○機器移設・改設 ○取り外し再取付
	○工事範囲	○配管 ○配線 ○機器取付 ○機器移設・改設 ○取り外し再取付
テレビ共同受信設備	○工事範囲	○配管 ○配線 ○機器取付 ○機器移設・改設 ○取り外し再取付
	○アンテナ	○UHF(全地域用) ○BS-110° GS ○CS (6.1.11.3)
	○アンテナマスト	○壁面取付形 ○自立形 ※溶融亜鉛めっき ○ステンレス (6.1.11.3)
	○電界強度等	電界強度及び画質は、最上階が打上がったときに、アンテナ取付け予定位置、またはその周辺で測定する。(測定チャンネルは別図による(図面番号)) その測定記録を監督職員に速やかに提出すること。 (6.2.19.3)<6.2.21.3>
	○工事範囲	○配管 ○配線 ○機器取付 ○機器移設・改設 ○取り外し再取付
誘導支援設備	○工事範囲	○配管 ○配線 ○機器取付 ○機器移設・改設 ○取り外し再取付
	○工事範囲	○配管 ○配線 ○機器取付 ○機器移設・改設 ○取り外し再取付
	○工事範囲	○配管 ○配線 ○機器取付 ○機器移設・改設 ○取り外し再取付
	○工事範囲	○配管 ○配線 ○機器取付 ○機器移設・改設 ○取り外し再取付
	○工事範囲	○配管 ○配線 ○機器取付 ○機器移設・改設 ○取り外し再取付
テレビ共同受信設備	○工事範囲	○配管 ○配線 ○機器取付 ○機器移設・改設 ○取り外し再取付
	○アンテナ	○UHF(全地域用) ○BS-110° GS ○CS (6.1.11.3)
	○アンテナマスト	○壁面取付形 ○自立形 ※溶融亜鉛めっき ○ステンレス (6.1.11.3)
	○電界強度等	電界強度及び画質は、最上階が打上がったときに、アンテナ取付け予定位置、またはその周辺で測定する。(測定チャンネルは別図による(図面番号)) その測定記録を監督職員に速やかに提出すること。 (6.2.19.3)<6.2.21.3>
	○工事範囲	○配管 ○配線 ○機器取付 ○機器移設・改設 ○取り外し再取付
誘導支援設備	○工事範囲	○配管 ○配線 ○機器取付 ○機器移設・改設 ○取り外し再取付
	○工事範囲	○配管 ○配線 ○機器取付 ○機器移設・改設 ○取り外し再取付
	○工事範囲	○配管 ○配線 ○機器取付 ○機器移設・改設 ○取り外し再取付
	○工事範囲	○配管 ○配線 ○機器取付 ○機器移設・改設 ○取り外し再取付
	○工事範囲	○配管 ○配線 ○機器取付 ○機器移設・改設 ○取り外し再取付
テレビ共同受信設備	○工事範囲	○配管 ○配線 ○機器取付 ○機器移設・改設 ○取り外し再取付
	○アンテナ	○UHF(全地域用) ○BS-110° GS ○CS (6.1.11.3)
	○アンテナマスト	○壁面取付形 ○自立形 ※溶融亜鉛めっき ○ステンレス (6.1.11.3)
	○電界強度等	電界強度及び画質は、最上階が打上がったときに、アンテナ取付け予定位置、またはその周辺で測定する。(測定チャンネルは別図による(図面番号)) その測定記録を監督職員に速やかに提出すること。 (6.2.19.3)<6.2.21.3>
	○工事範囲	○配管 ○配線 ○機器取付 ○機器移設・改設 ○取り外し再取付
誘導支援設備	○工事範囲	○配管 ○配線 ○機器取付 ○機器移設・改設 ○取り外し再取付
	○工事範囲	○配管 ○配線 ○機器取付 ○機器移設・改設 ○取り外し再取付
	○工事範囲	○配管 ○配線 ○機器取付 ○機器移設・改設 ○取り外し再取付
	○工事範囲	○配管 ○配線 ○機器取付 ○機器移設・改設 ○取り外し再取付
	○工事範囲	○配管 ○配線 ○機器取付 ○機器移設・改設 ○取り外し再取付
テレビ共同受信設備	○工事範囲	○配管 ○配線 ○機器取付 ○機器移設・改設 ○取り外し再取付
	○アンテナ	○UHF(全地域用) ○BS-110° GS ○CS (6.1.11.3)
	○アンテナマスト	○壁面取付形 ○自立形 ※溶融亜鉛めっき ○ステンレス (6.1.11.3)
	○電界強度等	電界強度及び画質は、最上階が打上がったときに、アンテナ取付け予定位置、またはその周辺で測定する。(測定チャンネルは別図による(図面番号)) その測定記録を監督職員に速やかに提出すること。 (6.2.19.3)<6.2.21.3>
	○工事範囲	○配管 ○配線 ○機器取付 ○機器移設・改設 ○取り外し再取付
誘導支援設備	○工事範囲	○配管 ○配線 ○機器取付 ○機器移設・改設 ○取り外し再取付
	○工事範囲	○配管 ○配線 ○機器取付 ○機器移設・改設 ○取り外し再取付
	○工事範囲	○配管 ○配線 ○機器取付 ○機器移設・改設 ○取り外し再取付
	○工事範囲	○配管 ○配線 ○機器取付 ○機器移設・改設 ○取り外し再取付
	○工事範囲	○配管 ○配線 ○機器取付 ○機器移設・改設 ○取り外し再取付
テレビ共同受信設備	○工事範囲	○配管 ○配線 ○機器取付 ○機器移設・改設 ○取り外し再取付
	○アンテナ	○UHF(全地域用) ○BS-110° GS ○CS (6.1.11.3)
	○アンテナマスト	○壁面取付形 ○自立形 ※溶融亜鉛めっき ○ステンレス (6.1.11.3)
	○電界強度等	電界強度及び画質は、最上階が打上がったときに、アンテナ取付け予定位置、またはその周辺で測定する。(測定チャンネルは別図による(図面番号)) その測定記録を監督職員に速やかに提出すること。 (6.2.19.3)<6.2.21.3>
	○工事範囲	○配管 ○配線 ○機器取付 ○機器移設・改設 ○取り外し再取付
誘導支援設備	○工事範囲	○配管 ○配線 ○機器取付 ○機器移設・改設 ○取り外し再取付
	○工事範囲	○配管 ○配線 ○機器取付 ○機器移設・改設 ○取り外し再取付
	○工事範囲	○配管 ○配線 ○機器取付 ○機器移設・改設 ○取り外し再取付
	○工事範囲	○配管 ○配線 ○機器取付 ○機器移設・改設 ○取り外し再取付
	○工事範囲	○配管 ○配線 ○機器取付 ○機器移設・改設 ○取り外し再取付
テレビ共同受信設備	○工事範囲	○配管 ○配線 ○機器取付 ○機器移設・改設 ○取り外し再取付
	○アンテナ	○UHF(全地域用) ○BS-110° GS ○CS (6.1.11.3)
	○アンテナマスト	○壁面取付形 ○自立形 ※溶融亜鉛



工事名 御所市消防団第8分団消防車庫改築工事				設計図		図面番号 E - 03
図名 電気設備 配置図		縮尺 1/200	作成日 年 月 日	確認印		
総合企画、建築設計、監理 株式会社 中谷設計		一般建築士事務所 奈良県知事登録 2020 (へ) 第1421号	年 月 日			
		一般建築士 174531号 中谷芳一				



M1

3 ϕ 3W

210V

MCCB3P50AF50AT

ELCB3P50AF30AT

ELCB3P50AF20AT

番号

容量

負荷名称

2 次側配管配線サイズ

A

3.7 kW

サイレン

EM-CE 5.5sq-4C (1C7-ス) (CP31)

B

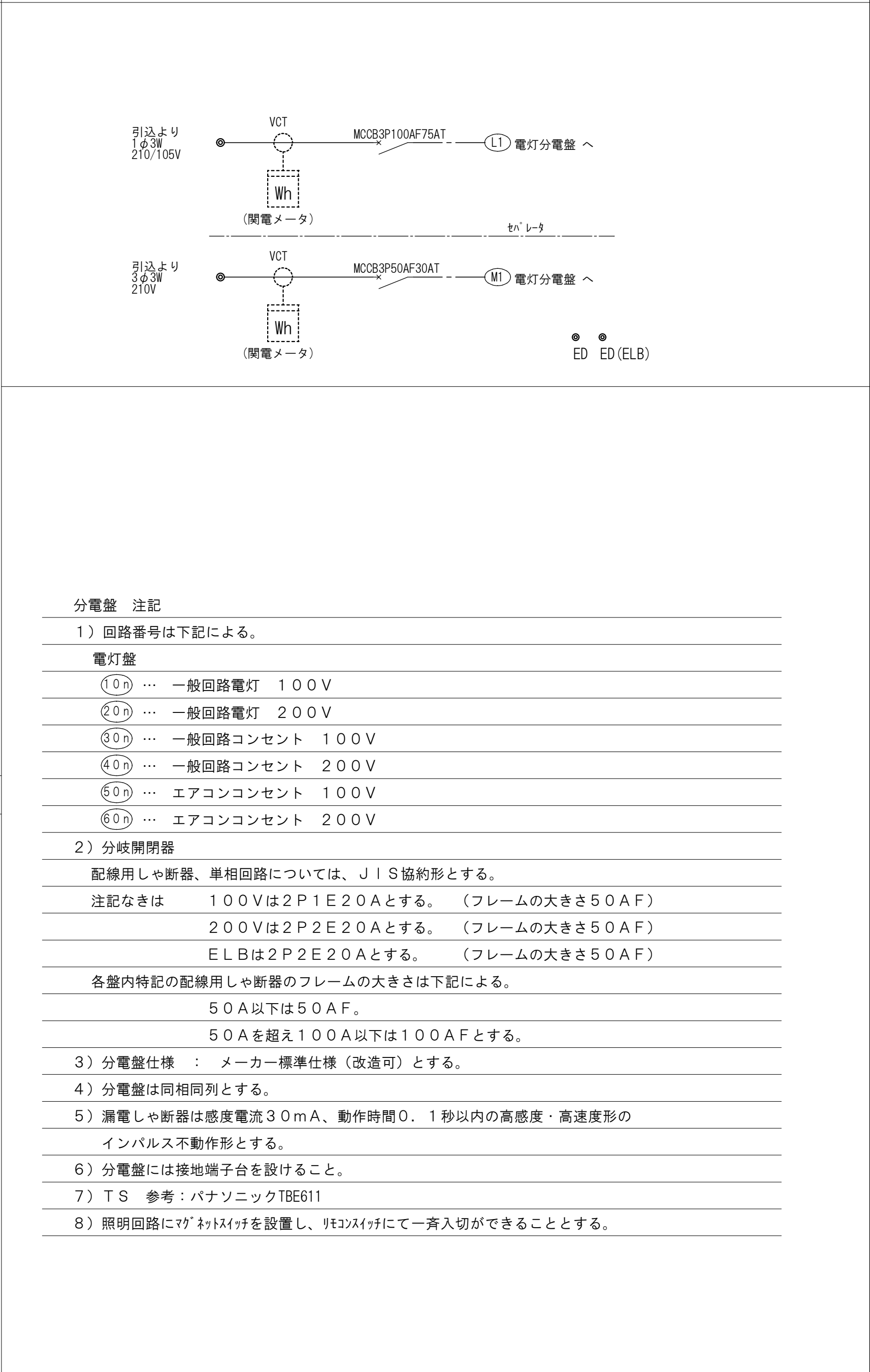
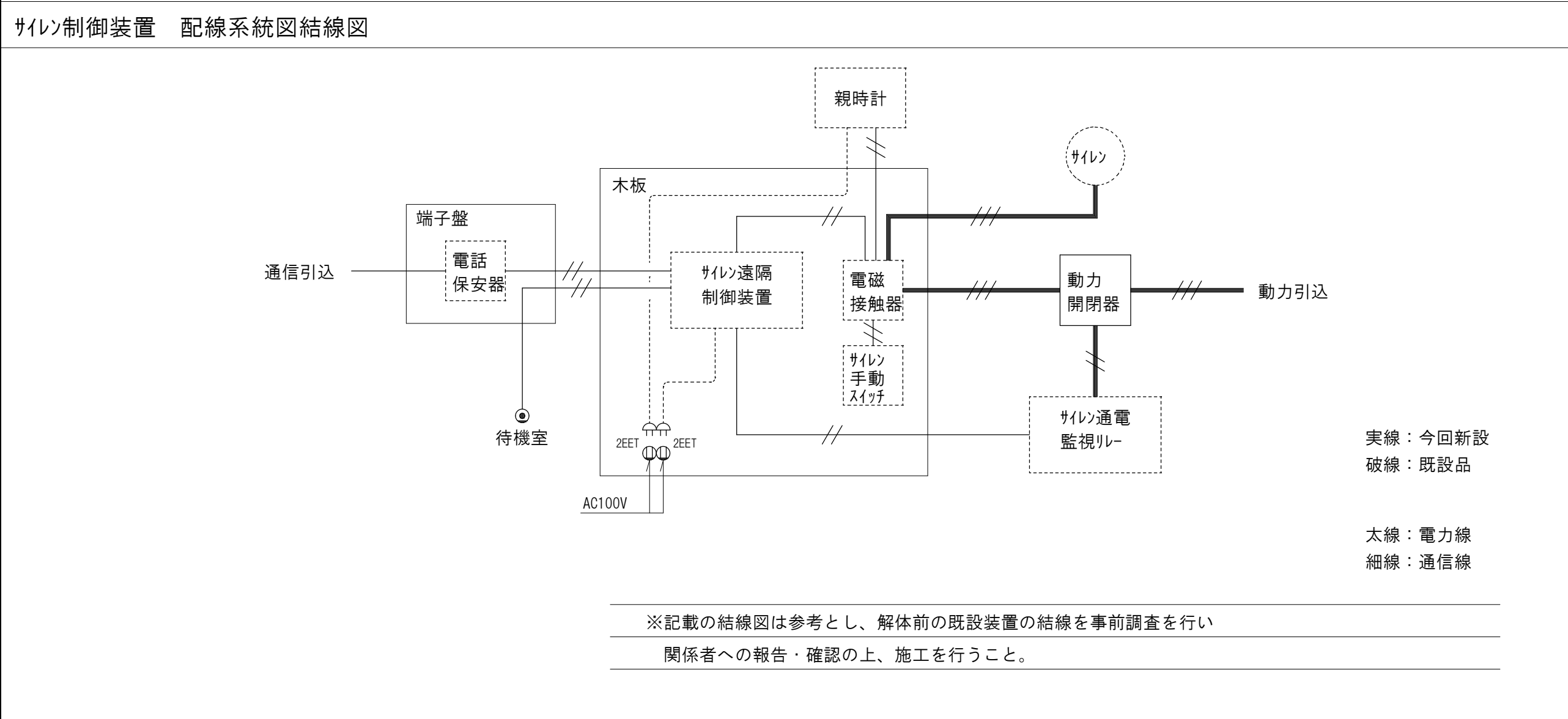
0.2 kW

消火ホース乾燥柱

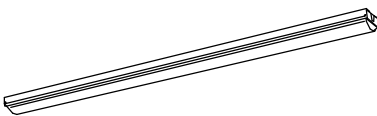
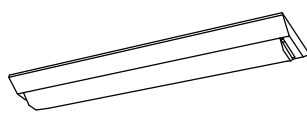
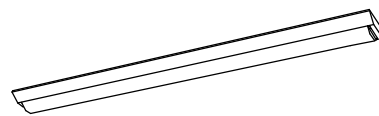

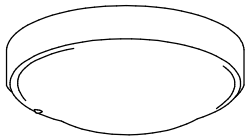
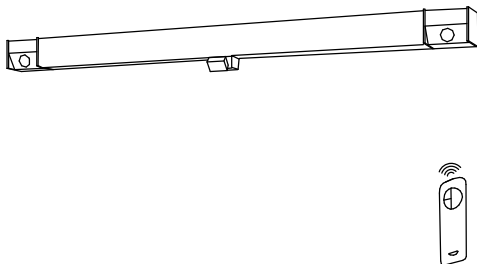
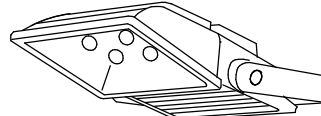
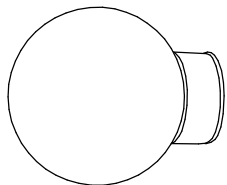
EM-CE 2sq - 4C (1C7-ス) (CP25)


ED

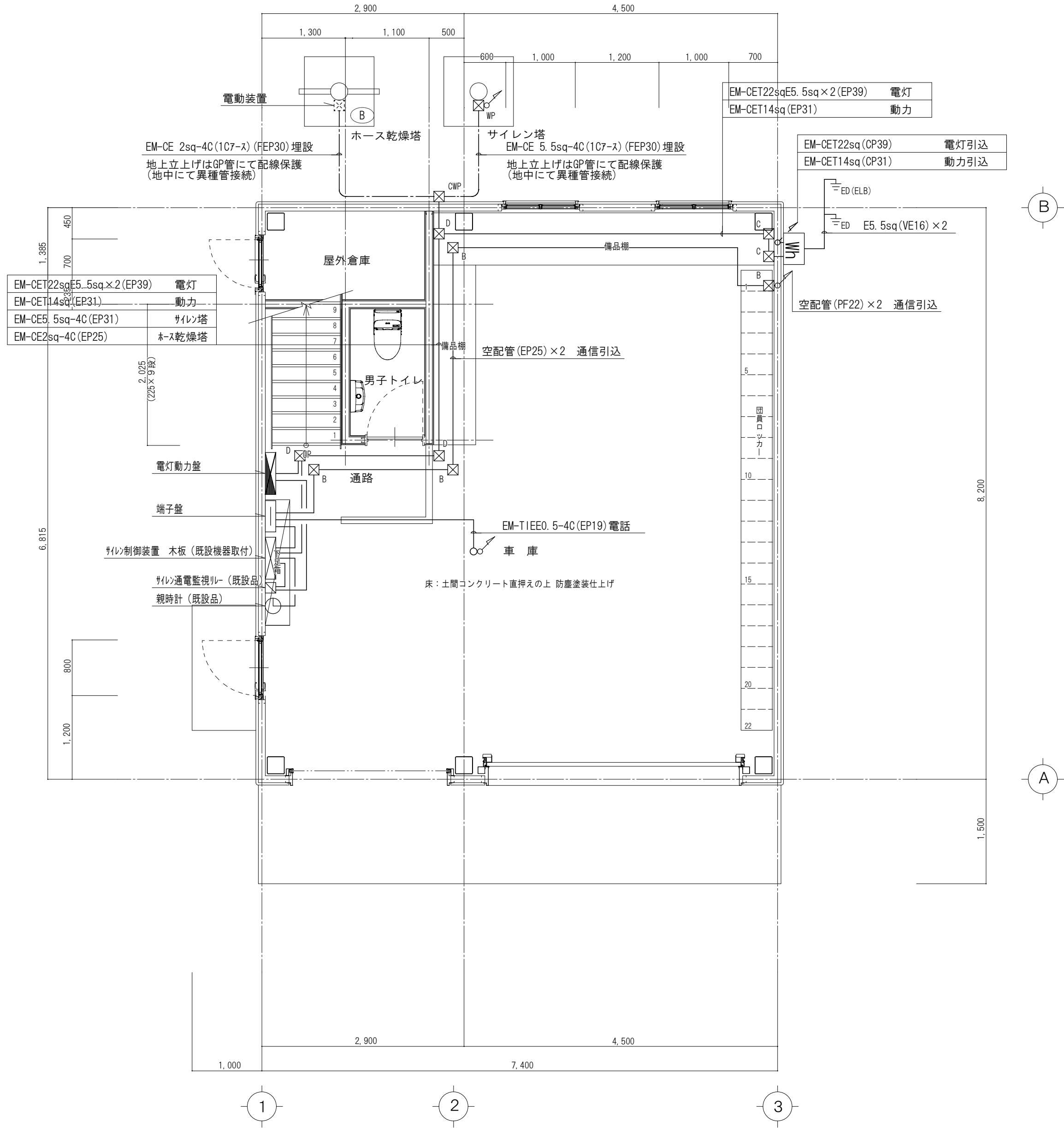
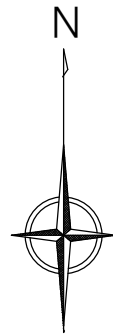
ED (ELB)



照明器具姿図

A	i Dシリーズ直付型40形 i スタイル	B	i Dシリーズ直付型20形 Dスタイル W150	C	i Dシリーズ直付型40形 Dスタイル W150	D	LEDウォールライト 20形 Hf16形×1灯器具相当
 <p>一般タイプ、6900lmタイプ 消費電力43.1W、定格出力型、電圧100～242V 本体：銅板（白色粉末塗装） ライトバー（カバー）：ポリカーボネート（乳白） 光源寿命40000時間（光束維持率85%） 星白色（5000K）、Ra83 電源装置はライトバー側に内蔵</p> <p>LSS1-4-65LE9</p>		 <p>一般タイプ、1600lmタイプ 消費電力11.6W、定格出力型、電圧100～242V 本体：銅板（白色粉末塗装） ライトバー（カバー）：ポリカーボネート（乳白） 光源寿命40000時間（光束維持率85%） 星白色（5000K）、Ra83 電源装置はライトバー側に内蔵</p> <p>LSS9-2-15LE9</p>		 <p>一般タイプ、6900lmタイプ 消費電力43.1W、定格出力型、電圧100～242V 本体：銅板（白色粉末塗装） ライトバー（カバー）：ポリカーボネート（乳白） 光源寿命40000時間（光束維持率85%） 星白色（5000K）、Ra83 電源装置はライトバー側に内蔵</p> <p>LSS9-4-65LE9</p>		 <p>防湿型・防雨型 器具光束1930lm、消費電力19W、電圧100～242V 5000K、Ra83、光源寿命40000時間（光束維持率85%） 本体：スチンレス、カバー：ポリカーボネート（乳白） 天井直付型・壁直付型</p> <p>LBF3MP/RP-2-13LE9</p>	
E	LEDシーリングライト 30形丸形蛍光灯1灯器具相当	F	i Dシリーズ階段灯細型 リモコン自己点検機能付	G	LEDスポットライト 水銀灯400形相当	H	LED赤色表示灯
 <p>星白色（5000K）、Ra83 器具光束965lm、消費電力10.7W、電圧100V 防湿型・防雨型、拡散タイプ、ネジ込み方式 プラスチック（赤ライト） カバー：アクリル（乳白）</p> <p>パナソニック LGW51704WCF1</p>		 <p>ひとセンサON/OFF30分、Hf32形定格出力型器具1灯相当 常時：階段灯専用ライトバー点灯、非常時：階段灯本体組込LED点灯 電圧：100～242V対応、蓄電池：ニッケル水素電池 非常灯許定電号：LALIE-015 非常用LEDレンズ：ガラス、常用ライトバー：ポリカーボネート（乳白） 光源寿命（階段灯専用ライトバー）40000時間、点検スイッチ付 自己点検スイッチ付、充電モニター（緑）付、リモコン：FSK90910K（別売）</p> <p>LDS1-K1-LBF11LE9</p>		 <p>星白色、5000K、Ra85 器具光束10700lm、消費電力98.3W、電圧100～242V ワイド配光、光源寿命6万時間（光束維持率80%） 本体：アルミダイカスト（3ディアルグレアメタリック） パネル：ポリカーボネート（透明つや消し） 調整サージ15kV、耐風速60m 電源線結部具内収納可能、電源内蔵型（5.7kg）</p> <p>パナソニック NNY24935LE9</p>		 <p>電源別置型 防雨型、光源寿命：40000時間、天井取付可能型</p> <p>パナソニック NNF20293C</p>	

工事名	御所市消防団第8分団消防車庫改築工事			設計図	図面番号	E - 05		
図名	照明器具姿図		縮尺	1	作成日	年	月	日
					家賃日 (概算)	年	月	日
 総合企画、建築設計、監理 株式会社 中環設計					一般建築士事務所 2020 (ハ) 第1421号 一般建築士 174531号 中谷芳一			



1 階 平面詳細図 S=1/50

(ブルボックスリスト)

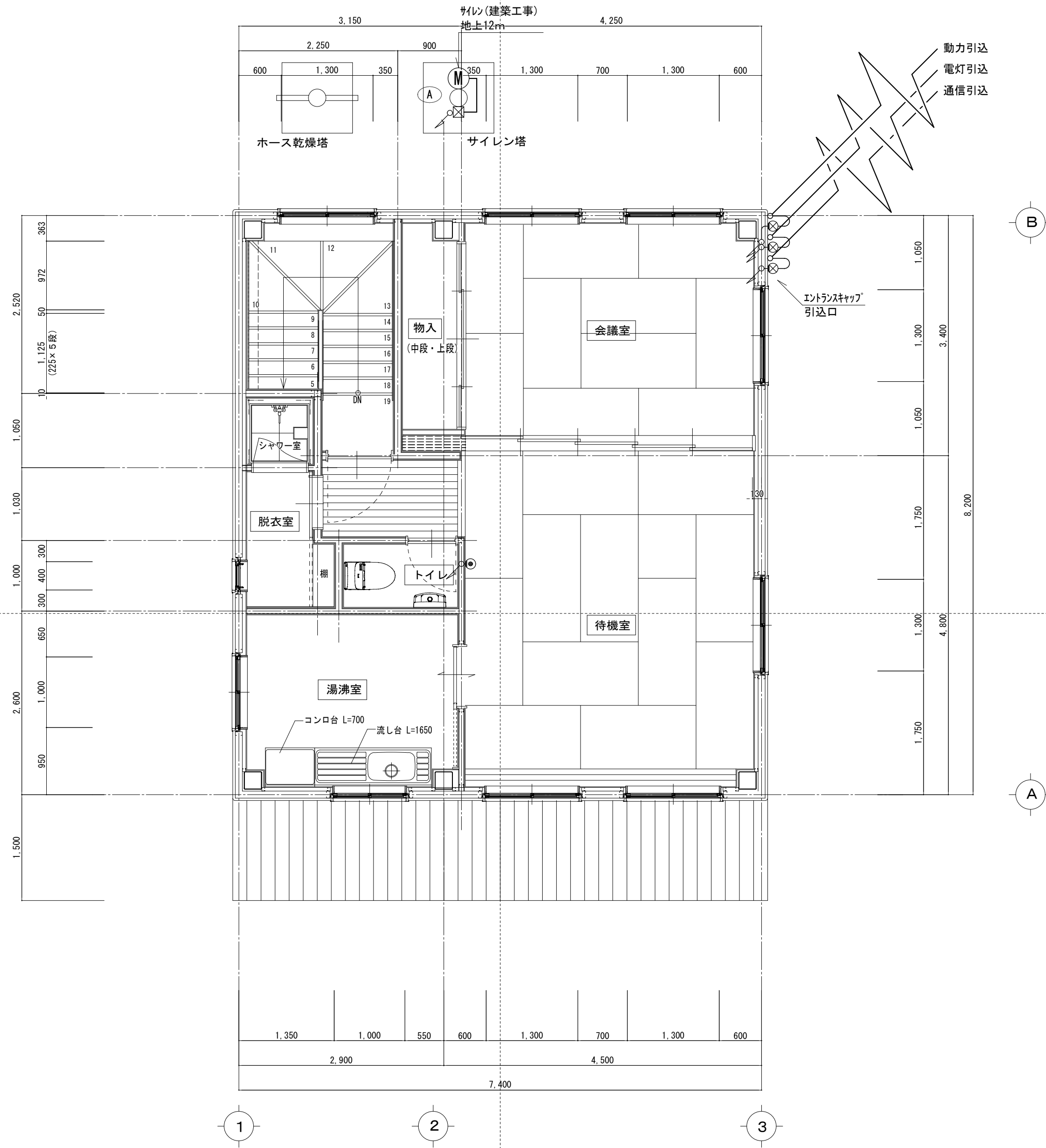
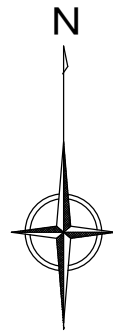
☒	150×150×100
☒ _B	200×200×100
☒ _C	300×300×200
☒ _D	400×400×200

WPは防水形SUS製とする。

(注記)

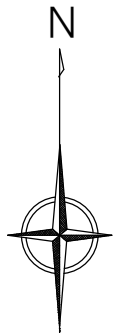
1. 動力配管配線は盤結線図参照とする。
2. サリン制御装置廻りの配管配線は盤結線図参照とする。

工事名 御所市消防団第8分団消防車庫改築工事				設計図		図面番号 E - 06
図 名 幹線・動力・弱電設備 1 階 平面詳細図		縮尺 1/50	作成日 年 月 日	確認印		
総合企画、建築設計、監理 株式会社 中谷設計		一級建築士事務所 奈良県知事登録 2020 (へ) 第1421号 一級建築士 174531号 中谷芳一	実測日 年 月 日			



2階 平面詳細図 S=1/50

工事名 御所市消防団第8分団消防車庫改築工事				設計図		図番 E-07
図名 幹線・動力・弱電設備 2階 平面詳細図				縮尺 1/50	作成日 2024.08.21	確認印
総合企画、建築設計、監理 株式会社 中和設計				設計者 田中 浩一	校核者 田中 浩一	



屋外倉庫
照明器具 B ×1

便所
照明器具 B ×1

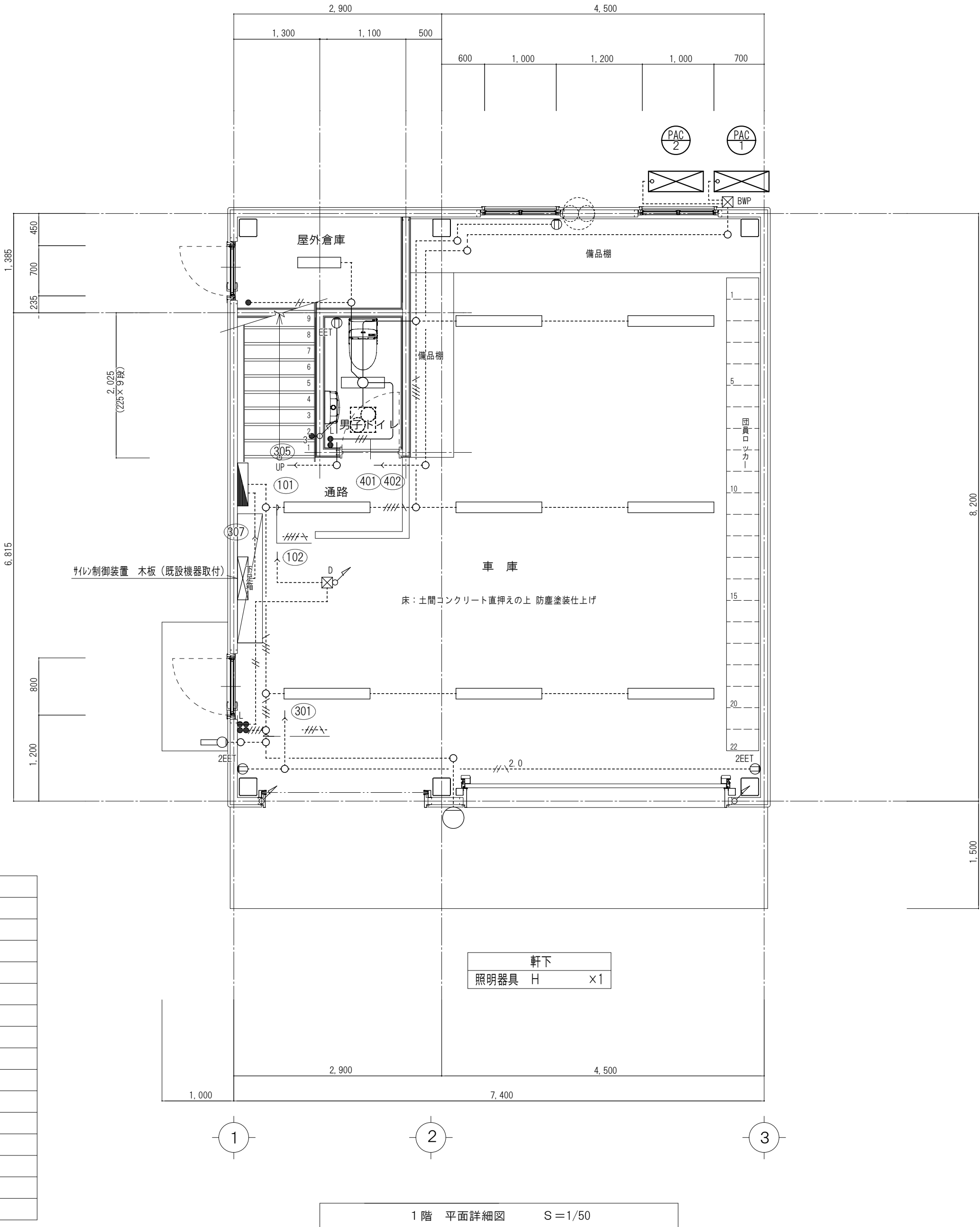
(ブルボックスリスト)

☒	150×150×100
☒ _B	200×200×100
☒ _C	300×300×200
☒ _D	400×400×200
WPは防水形SUS製とする。	

勝手口
照明器具 D ×1

(注記)

1. 特記なき配管配線は下記とする。		
—— ^{2.0} ——	EM-EEF2. 0-2C	保護管 (EP19) (PF16)
—— ^{2.0} ——	EM-EEF2. 0-3C	保護管 (EP25) (PF22)
————	EM-EEF1. 6-3C (107-ス)	保護管 (EP25) (PF22)
—— ^{///} ——	EM-EEF1. 6-2Cx2 (107-ス)	保護管 (EP25) (PF22)
—— ^{///} ——	EM-EEF1. 6-2Cx3C (107-ス)	保護管 (EP25) (PF22)
—— ^{////} ——	EM-EEF1. 6-3Cx2 (107-ス)	保護管 (EP25) (PF22)
—— ^{///} ——	EM-EEF1. 6-2C	保護管 (EP19) (PF16)
—— ^{///} ——	EM-EEF1. 6-3C	保護管 (EP25) (PF22)
—— ^{///} ——	EM-EEF1. 6-2Cx2	保護管 (EP25) (PF22)
—— ⁷ ——	EM-EEF1. 6-2Cx2+3C	保護管 (EP25) (PF22)
.....	EP管にて配線保護	
—— ⁷ ——	天井内配線	
天井内はケーブルころがしとし、壁面露出立上げはCP管、		
壁内立上げはPF管にて配線保護とする。		
外部はGP管にて配線保護とする。		



B

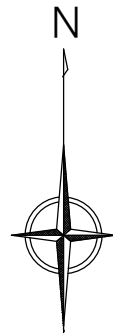
車庫
照明器具 A ×8

A

(凡例)

記 号	名 称	備 考
——	照明器具 直管形	姿図参照
○	照明器具 壁付	姿図参照
◇	照明器具 投光器	姿図参照
●	埋込スイッチ 1P15A×1	
● _L	埋込スイッチ 1PL15A×1	
ⓔ _{EET}	埋込コンセント 2P15A×1, E, ET付	
ⓔ _{2EET}	埋込コンセント 2P15A×2, E, ET付	
ⓔ _{WP}	防雨コンセント 2P15A×2, E, ET付	
⊙	換気扇	機械設備工事
■	分電盤	

工事名 御所市消防団第8分団消防車庫改築工事				設計図		図面番号 E - 08	
図 名 電灯・コンセント設備 1階 平面詳細図				縮尺 1/50	作成日 年 月 日	確認印	
総合企画、建築設計、監理 株式会社 中谷設計				一級建築士事務所 奈良県事務所 2020(元)第1421号 一級建築士 174531号 中谷芳一	年 月 日		



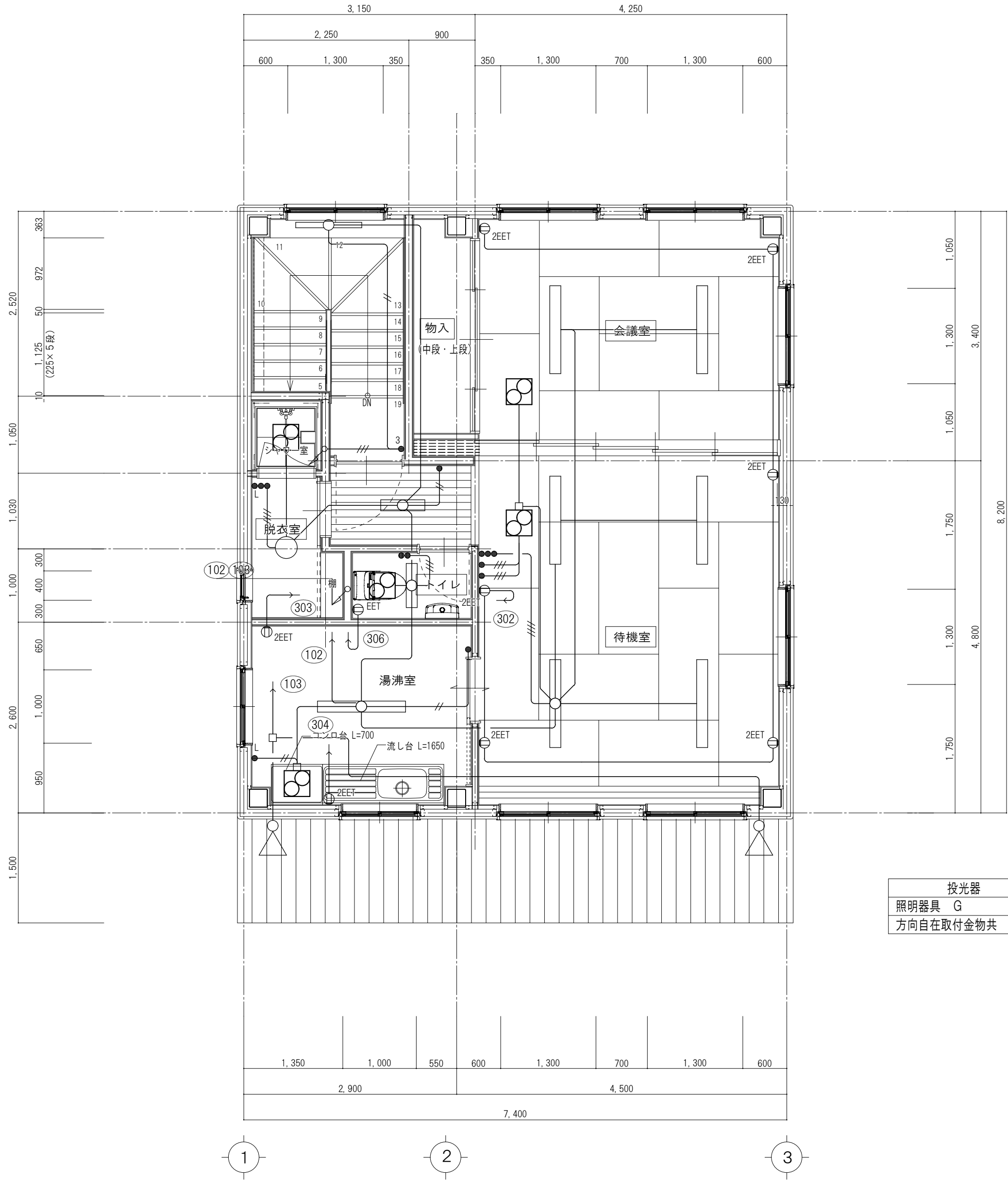
脱衣室
照明器具 E ×1

便所
照明器具 B ×1

湯沸室
照明器具 C ×1

階段室
照明器具 F ×1

廊下
照明器具 B ×1



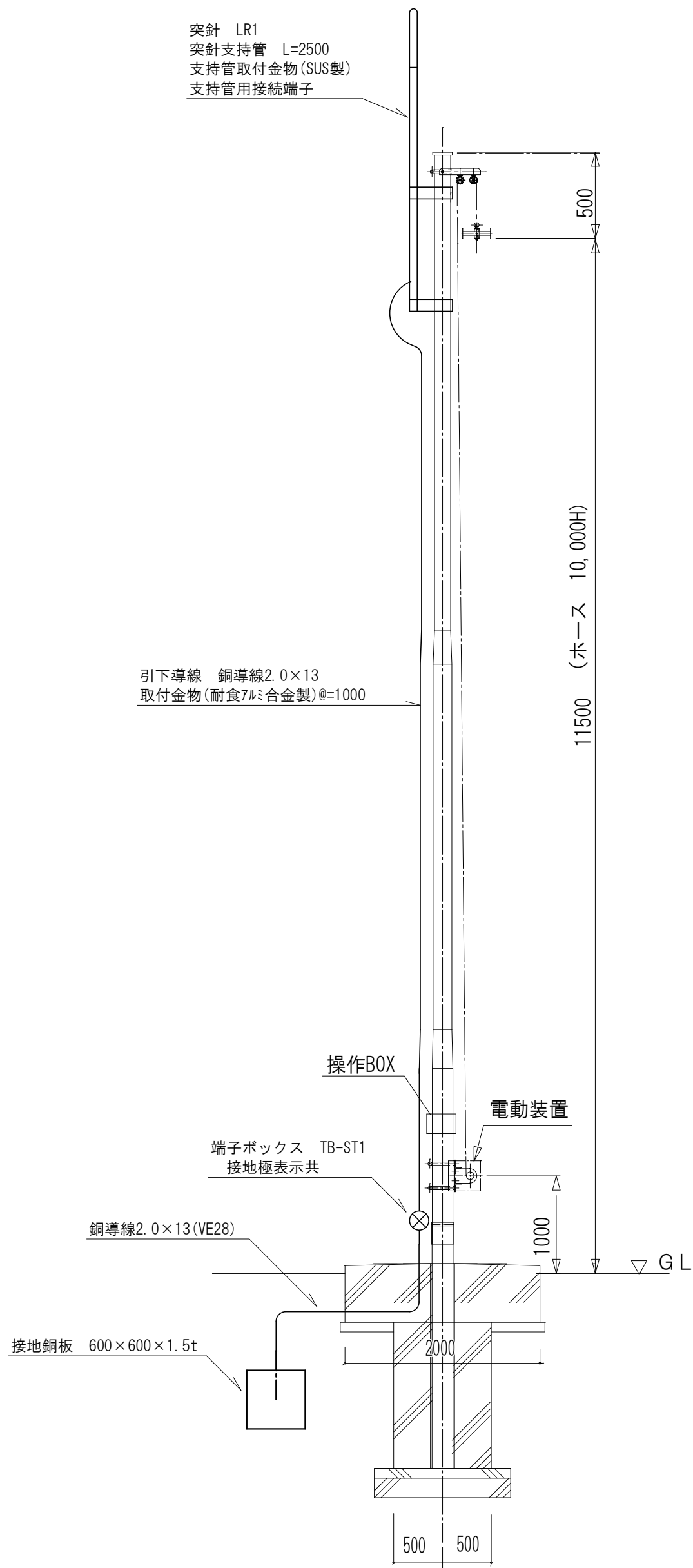
会議室
照明器具 C ×2


待機室
照明器具 C ×4

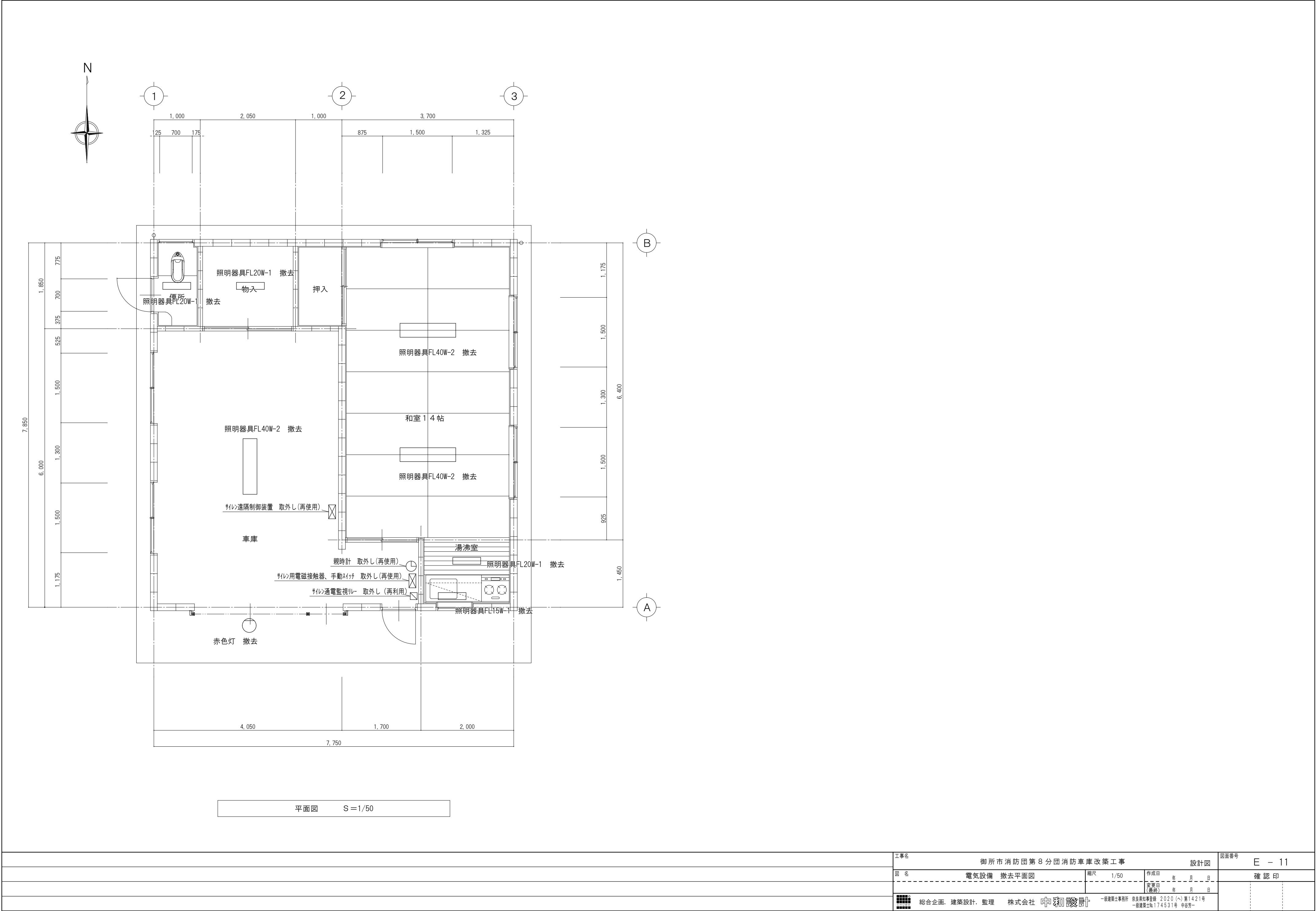
投光器
照明器具 G ×2
方向自在取付金物共

2階 平面詳細図 S=1/50

工事名	御所市消防団第8分団消防車庫改築工事			設計図	図面番号	E - 09
図名	電灯・コンセント設備 2階 平面詳細図	縮尺	1/50	作成日	生 月 日	確認印
				承認日	生 月 日	
	総合企画、建築設計、監理 株式会社 中環設計			一級建築士事務所 奈良県知事登録 2020(ハ)第1421号 一級建築士 174531号 中谷芳一		



工事名				御所市消防団第8分団消防車庫改築工事				設計図		図面番号		E - 10			
図名				雷保護設備 消防ホース乾燥柱 詳細図		縮尺		1/50		作成日		年 月 日		確認印	
										実施日		年 月 日			
										（最終）		年 月 日			
				総合企画、建築設計、監理				株式会社 中和設計				一級建築士事務所 奈良県知事登録 2020(ハ)第1421号 一級建築士 174531号 中谷芳一			



工事名 御所市消防団第8分団消防車庫改築工事				設計図		図面番号 E - 11
図名 電気設備 撤去平面図		縮尺 1/50	作成日 年 月 日	確認印		
総合企画、建築設計、監理 株式会社 中環設計		一級建築士事務所 奈良県知事登録 2020 (へ) 第1421号 一級建築士 174531号 中谷芳一	実施日 年 月 日			

平成31年版 Ver.1.0																													
共通事項	○異種管の接合及絶縁継手	○異種管の接合要領 ※標準図（施工3） ○図示（図面番号） ○機器接続部の金属材料と配管材料のイオン化傾向が大きく異なる場合（銅とステンレス、銅と鋼）は、絶縁継手を使用し、設置箇所及び絶縁継手の仕様は図示による。（図面番号）	(2.2.5.18)<2.2.3.18> (2.2.2.12)<2.2.4.1>	共通事項	(3) 配管の保温外装は、下記による。 【空気調和設備】（断熱材被覆銅管を含む） 屋内：隠蔽部（機械室等の露出配管、暗渠内を含む） ※不要 ○要 露出部 ※合成樹脂カバー1 ○合成樹脂カバー2 保温化粧ケース（塩化ビニル樹脂） 屋外：※ステンレス鋼板 ○溶融7μm-亜鉛鉄板 ○カラー亜鉛鉄板 ○保温化粧ケース（○塩化ビニル樹脂 ○アルミ合金 ○溶融アルミニウム-亜鉛鉄板 ○ステンレス鋼板） 保温化粧ケースの下部カバー ○要 ※不要 【給排水衛生設備】 屋内：隠蔽部（機械室等の露出配管、暗渠内を含む） ※不要 ○要 露出部 ※合成樹脂カバー1 ○合成樹脂カバー2 ○保温化粧ケース（塩化ビニル樹脂） 屋外：※ステンレス鋼板 ○溶融7μm-亜鉛鉄板 ○カラー亜鉛鉄板 ○保温化粧ケース（○塩化ビニル樹脂 ○アルミ合金 ○溶融アルミニウム-亜鉛鉄板 ○ステンレス鋼板） 保温化粧ケースの下部カバー ○要 ※不要 (4) 銅板製タンクの保温は ※行わない ○行う（蓋の部分は行わない） (5) 次のダクト等に保温を行う。 ○換気用ダクト ○外気取入れ用ダクト ○排気用ダクト ○空調している建物内の廻りダクト ○屋内外露出排煙ダクト ○内貼りしたダクト及びチャンパー ○断熱材付フレキシブルダクト及びたわみ継手 ○屋外露出の煙道及び煙突 (6) 次の管、弁、フランジ等に保温を行う。 ○放熱器廻り蒸気配管及び温水管 ○蒸気廻り管 ○蒸気管及び温水管で、屋内及び暗渠内の各種装置廻りの配管 ○蒸気管及び温水管で、屋内及び暗渠内の弁、フランジ、伸縮管継手、防振継手、フレキシブルジョイント等 ○冷凍機の冷却水管 ○ポンプ廻りの防振継手、フレキシブルジョイント ○各種タンク類のオーバーフロー管及びドレン管（冷水、冷水タンクの第1バルブまでを除く） ○エア抜弁以降の配管及び排泥弁以降の配管等 ○油管 ○衛生器具の付属品と見なされる器具及び配管（流し下部の床上排水管を含む） ○給水用配管で、ポンプ廻りの防振継手、フレキシブルジョイント ○給水及び排水の地中又はコンクリート埋設配管 ○給湯管で、屋内及び暗渠内の弁、フランジ、伸縮管継手、防振継手、フレキシブルジョイント等 ○保温付被覆銅管 ○排水管で、暗渠内配管（ピット内を含む）、最下階の床下配管、屋外露出配管及び耐火二層管 ○通気管（排水管の分岐点より100mm以下の部分を除く） ○消火管 ○厨房機器及びガス湯沸器廻りの給水、排水及び給湯管 (7) 寒冷地等での保温厚は、図示による。（図面番号） (8) 高圧（0.1MPa）以上の蒸気管及び蒸気ヘッダーの保温厚は、図示による。（図面番号） (9) ファンコイルユニット等のドレン管の保温は、給排水設備工事の排水管による。 (10) エアー抜き管の保温厚は20mmとし、仕様は当該配管の項に準ずる。 (11) 保温を施す空調用タンクの蓋の保温 ※要 ○不要 (12) 全熱交換形換気扇の給気ダクトの保温 ※要 ○不要 (13) 消火用充水タンクの保温 ※要 ○不要 (2.3.1.4)<2.3.1.5><2.3.1.6>	○耐震施工	設備機器の固定は「建築設備耐震設計・施工指針（独立行政法人建築研究所監修）2014年版」による。なお設計用水平地震力は、次に示す設計用標準水平震度に、機器の重量を乗じたものとする。 また、設計用鉛直地震力は、設計用水平地震力の1/2とする。 設計用標準水平震度																						
	○水量器	○直隼式 ○遠隔式 ○適用する駆動方式 ○電気式 ○機械式	(2.2.2.16) (2.2.2.22)		共通事項	●はつり ●容量等の表示 ●防火区画 ○掲示板 ○マンホール、蓋類 ●取替機器 ○天井点検口 ●機器の据付	○特定の施設 重要 機器 水槽類 一般 機器 水槽類 一般 機器 上層階、屋上及び塔屋 2.0(2.0) 2.0 1.5(2.0) 1.5(2.0) 1.5 1.0(1.5) 中間階 1.5(1.5) 1.5 1.0(1.5) 1.0(1.5) 1.0 0.6(1.0) 1階及び地下階 1.0(1.0) 1.5 0.6(1.0) 0.6(1.0) 1.0 0.4(0.6) 注（ ）の内の数値は、防振支持の機器の場合に適用する。 重要機器（水槽類）は、下記による。（水槽類にはオイルタンク等を含む。） ○消火設備 ○水槽類 ○ 上層階の定義は、次による。 6階建以下の場合は最上階、7～9階建の場合は上層2階、 10～12階建の場合は上層3階、13階建以上の場合は上層4階 建築設備耐震設計・施工指針（2014年版）」により、配管に形鋼振れ止め支持を行う場合はSA種とする。 既存のコンクリート床、壁等配管貫通部の穴明けは、原則として「グイェバト」を使用する。 なお、復旧はモルタル又はコンクリートを充てんする。（建築基準法令に適合させること） 機器類の能力、容量等は表示された数値以上とする。 ただし、電動機の出力、燃料消費量及び圧力損失は表示された数値以下とする。 ○平面階 ○図示（図面番号） ○ 機械室に操作順序、注意事項、連絡先及び系統図等を描いた掲示板を設ける。 ○用途名入りとする。 ○県名入りとする。 機器を取り替えた場合、取替日、請負者名、施工者名及び能力を記した銘板を取付ける。 天井点検口の裏側に用途名称を付す。 共通仕様に記載しないものに関しては、メーカー据付要領を参照として、施工計画書にもりこむこと。																						
	○緊急遮断弁装置							○監督職員事務所（総合会議室を含む） ○監督員事務所の備品 ○工事用仮設物 ●足場・さん橋類	○本工事（規模 ※10㎡程度 ○20㎡程度 ○30㎡程度 ○65㎡程度 ○100㎡程度） 仕上げる程度 (2.4.1.1)<2.2.3.1> 部 位 仕 様 床 ※合板張り又はビニルシート張り ○ 内壁・天井 ※合板張り又は石膏ボード張り＋塗装 ○ 屋根 ※塗装溶融亜鉛めっき鋼板張り又は鉄板張り＋塗装 ○ (2.4.1.1) 備品の種類 机・椅子 書 棚 黒板又はホワイトボード 掛時計 数 量 組 台 個 個 備品の種類 ゴム長靴 雨がっぱ 安全帯 ヘルメット 数 量 足 着 個 個 備品の種類 懐中電灯 衣類ロッカー 冷暖房機器 加入電話機 数 量 個 人用 台 台 備品の種類 湯沸器 掃除具 パソコン 周辺機器 数 量 台 個 台 台 その他事務所として通常必要な備品を備えること。 構内につくることが ※できる ○できない ※関係者が設置したものは、無償で使用できる。 ○本工事で設置する。 足場を設ける場合は、「手すり先行工法に関するガイドライン」について」（厚生労働省基発第0424001号平成21年4月24日）の「手すり先行工法等に関するガイドライン」により、「動きやすい安心感のある足場に関する基準」に適合する手すり、中さん及び幅木の機能を有する足場とし、足場の組立て、解体又は変更の作業は、「手すり先行工法による足場の組立て等に関する基準」の2の(2)手すり据置方式又は(3)手すり先行専用足場方式により行うこと。なお単管足場、枠組足場を用いる場合の設置場所については図示による。 (2.4.1.1)<2.2.2.1> 内部足場 ※A種、B種、C種、D種 ○E種（単管足場） ○F種（くさび式緊結足場） 外部足場 ○A種（枠組足場） ○B種（くさび式緊結足場） ※C種、D種 ○E種（高所作業車）																				
	●水栓柱	※合成樹脂製 ○7μm合金製 ○ステン製 ○人造石とぎ出し製 寸法 ※約70mm×約70mm×約1,300mmH ○	(2.2.2.23)							○コンクリート工事 ●鋼材工事	○監督員事務所（総合会議室を含む） ○監督員事務所の備品 ○工事用仮設物 ●足場・さん橋類	○本工事（規模 ※10㎡程度 ○20㎡程度 ○30㎡程度 ○65㎡程度 ○100㎡程度） 仕上げる程度 (2.4.1.1)<2.2.3.1> 部 位 仕 様 床 ※合板張り又はビニルシート張り ○ 内壁・天井 ※合板張り又は石膏ボード張り＋塗装 ○ 屋根 ※塗装溶融亜鉛めっき鋼板張り又は鉄板張り＋塗装 ○ (2.4.1.1) 備品の種類 机・椅子 書 棚 黒板又はホワイトボード 掛時計 数 量 組 台 個 個 備品の種類 ゴム長靴 雨がっぱ 安全帯 ヘルメット 数 量 足 着 個 個 備品の種類 懐中電灯 衣類ロッカー 冷暖房機器 加入電話機 数 量 個 人用 台 台 備品の種類 湯沸器 掃除具 パソコン 周辺機器 数 量 台 個 台 台 その他事務所として通常必要な備品を備えること。 構内につくることが ※できる ○できない ※関係者が設置したものは、無償で使用できる。 ○本工事で設置する。 足場を設ける場合は、「手すり先行工法に関するガイドライン」について」（厚生労働省基発第0424001号平成21年4月24日）の「手すり先行工法等に関するガイドライン」により、「動きやすい安心感のある足場に関する基準」に適合する手すり、中さん及び幅木の機能を有する足場とし、足場の組立て、解体又は変更の作業は、「手すり先行工法による足場の組立て等に関する基準」の2の(2)手すり据置方式又は(3)手すり先行専用足場方式により行うこと。なお単管足場、枠組足場を用いる場合の設置場所については図示による。 (2.4.1.1)<2.2.2.1> 内部足場 ※A種、B種、C種、D種 ○E種（単管足場） ○F種（くさび式緊結足場） 外部足場 ○A種（枠組足場） ○B種（くさび式緊結足場） ※C種、D種 ○E種（高所作業車）																	
	○不凍水栓柱の寸法	※全長約1,500mm ○	(2.2.2.24)										○コンクリート工事 ●鋼材工事	○監督員事務所（総合会議室を含む） ○監督員事務所の備品 ○工事用仮設物 ●足場・さん橋類	○本工事（規模 ※10㎡程度 ○20㎡程度 ○30㎡程度 ○65㎡程度 ○100㎡程度） 仕上げる程度 (2.4.1.1)<2.2.3.1> 部 位 仕 様 床 ※合板張り又はビニルシート張り ○ 内壁・天井 ※合板張り又は石膏ボード張り＋塗装 ○ 屋根 ※塗装溶融亜鉛めっき鋼板張り又は鉄板張り＋塗装 ○ (2.4.1.1) 備品の種類 机・椅子 書 棚 黒板又はホワイトボード 掛時計 数 量 組 台 個 個 備品の種類 ゴム長靴 雨がっぱ 安全帯 ヘルメット 数 量 足 着 個 個 備品の種類 懐中電灯 衣類ロッカー 冷暖房機器 加入電話機 数 量 個 人用 台 台 備品の種類 湯沸器 掃除具 パソコン 周辺機器 数 量 台 個 台 台 その他事務所として通常必要な備品を備えること。 構内につくることが ※できる ○できない ※関係者が設置したものは、無償で使用できる。 ○本工事で設置する。 足場を設ける場合は、「手すり先行工法に関するガイドライン」について」（厚生労働省基発第0424001号平成21年4月24日）の「手すり先行工法等に関するガイドライン」により、「動きやすい安心感のある足場に関する基準」に適合する手すり、中さん及び幅木の機能を有する足場とし、足場の組立て、解体又は変更の作業は、「手すり先行工法による足場の組立て等に関する基準」の2の(2)手すり据置方式又は(3)手すり先行専用足場方式により行うこと。なお単管足場、枠組足場を用いる場合の設置場所については図示による。 (2.4.1.1)<2.2.2.1> 内部足場 ※A種、B種、C種、D種 ○E種（単管足場） ○F種（くさび式緊結足場） 外部足場 ○A種（枠組足場） ○B種（くさび式緊結足場） ※C種、D種 ○E種（高所作業車）														
	●スリーブ	(1) 外壁の地中部分等水密を要する部分のスリーブ ※つば付銅管 ○ (2) 地中部分で水密を要しない部分のスリーブ ※ビニル管（VU） ○ (3) 柱及び梁以外の箇所、開口補強が不要であり、かつ、スリーブ径200mm以下の部分は ※紙製仮柱 (4) 上記以外の銅管製スリーブ ※白管 ○	(2.2.2.27)<2.2.6.1>													○コンクリート工事 ●鋼材工事	○監督員事務所（総合会議室を含む） ○監督員事務所の備品 ○工事用仮設物 ●足場・さん橋類	○本工事（規模 ※10㎡程度 ○20㎡程度 ○30㎡程度 ○65㎡程度 ○100㎡程度） 仕上げる程度 (2.4.1.1)<2.2.3.1> 部 位 仕 様 床 ※合板張り又はビニルシート張り ○ 内壁・天井 ※合板張り又は石膏ボード張り＋塗装 ○ 屋根 ※塗装溶融亜鉛めっき鋼板張り又は鉄板張り＋塗装 ○ (2.4.1.1) 備品の種類 机・椅子 書 棚 黒板又はホワイトボード 掛時計 数 量 組 台 個 個 備品の種類 ゴム長靴 雨がっぱ 安全帯 ヘルメット 数 量 足 着 個 個 備品の種類 懐中電灯 衣類ロッカー 冷暖房機器 加入電話機 数 量 個 人用 台 台 備品の種類 湯沸器 掃除具 パソコン 周辺機器 数 量 台 個 台 台 その他事務所として通常必要な備品を備えること。 構内につくることが ※できる ○できない ※関係者が設置したものは、無償で使用できる。 ○本工事で設置する。 足場を設ける場合は、「手すり先行工法に関するガイドライン」について」（厚生労働省基発第0424001号平成21年4月24日）の「手すり先行工法等に関するガイドライン」により、「動きやすい安心感のある足場に関する基準」に適合する手すり、中さん及び幅木の機能を有する足場とし、足場の組立て、解体又は変更の作業は、「手すり先行工法による足場の組立て等に関する基準」の2の(2)手すり据置方式又は(3)手すり先行専用足場方式により行うこと。なお単管足場、枠組足場を用いる場合の設置場所については図示による。 (2.4.1.1)<2.2.2.1> 内部足場 ※A種、B種、C種、D種 ○E種（単管足場） ○F種（くさび式緊結足場） 外部足場 ○A種（枠組足場） ○B種（くさび式緊結足場） ※C種、D種 ○E種（高所作業車）											
	○瞬間流量計	○固定形 個 ○着脱可能形（測定用タイプ） 個、本体 個	(2.2.3.8)																○コンクリート工事 ●鋼材工事	○監督員事務所（総合会議室を含む） ○監督員事務所の備品 ○工事用仮設物 ●足場・さん橋類	○本工事（規模 ※10㎡程度 ○20㎡程度 ○30㎡程度 ○65㎡程度 ○100㎡程度） 仕上げる程度 (2.4.1.1)<2.2.3.1> 部 位 仕 様 床 ※合板張り又はビニルシート張り ○ 内壁・天井 ※合板張り又は石膏ボード張り＋塗装 ○ 屋根 ※塗装溶融亜鉛めっき鋼板張り又は鉄板張り＋塗装 ○ (2.4.1.1) 備品の種類 机・椅子 書 棚 黒板又はホワイトボード 掛時計 数 量 組 台 個 個 備品の種類 ゴム長靴 雨がっぱ 安全帯 ヘルメット 数 量 足 着 個 個 備品の種類 懐中電灯 衣類ロッカー 冷暖房機器 加入電話機 数 量 個 人用 台 台 備品の種類 湯沸器 掃除具 パソコン 周辺機器 数 量 台 個 台 台 その他事務所として通常必要な備品を備えること。 構内につくることが ※できる ○できない ※関係者が設置したものは、無償で使用できる。 ○本工事で設置する。 足場を設ける場合は、「手すり先行工法に関するガイドライン」について」（厚生労働省基発第0424001号平成21年4月24日）の「手すり先行工法等に関するガイドライン」により、「動きやすい安心感のある足場に関する基準」に適合する手すり、中さん及び幅木の機能を有する足場とし、足場の組立て、解体又は変更の作業は、「手すり先行工法による足場の組立て等に関する基準」の2の(2)手すり据置方式又は(3)手すり先行専用足場方式により行うこと。なお単管足場、枠組足場を用いる場合の設置場所については図示による。 (2.4.1.1)<2.2.2.1> 内部足場 ※A種、B種、C種、D種 ○E種（単管足場） ○F種（くさび式緊結足場） 外部足場 ○A種（枠組足場） ○B種（くさび式緊結足場） ※C種、D種 ○E種（高所作業車）								
	●建物導入部配管	※不同沈下の恐れがない ○不同沈下の恐れがある 標準図（施工4）のフレキシブルジョイントを使用した方法で施工する。ただし、排水及び通気管を除く。	(2.2.4.1)																			○コンクリート工事 ●鋼材工事	○監督員事務所（総合会議室を含む） ○監督員事務所の備品 ○工事用仮設物 ●足場・さん橋類	○本工事（規模 ※10㎡程度 ○20㎡程度 ○30㎡程度 ○65㎡程度 ○100㎡程度） 仕上げる程度 (2.4.1.1)<2.2.3.1> 部 位 仕 様 床 ※合板張り又はビニルシート張り ○ 内壁・天井 ※合板張り又は石膏ボード張り＋塗装 ○ 屋根 ※塗装溶融亜鉛めっき鋼板張り又は鉄板張り＋塗装 ○ (2.4.1.1) 備品の種類 机・椅子 書 棚 黒板又はホワイトボード 掛時計 数 量 組 台 個 個 備品の種類 ゴム長靴 雨がっぱ 安全帯 ヘルメット 数 量 足 着 個 個 備品の種類 懐中電灯 衣類ロッカー 冷暖房機器 加入電話機 数 量 個 人用 台 台 備品の種類 湯沸器 掃除具 パソコン 周辺機器 数 量 台 個 台 台 その他事務所として通常必要な備品を備えること。 構内につくることが ※できる ○できない ※関係者が設置したものは、無償で使用できる。 ○本工事で設置する。 足場を設ける場合は、「手すり先行工法に関するガイドライン」について」（厚生労働省基発第0424001号平成21年4月24日）の「手すり先行工法等に関するガイドライン」により、「動きやすい安心感のある足場に関する基準」に適合する手すり、中さん及び幅木の機能を有する足場とし、足場の組立て、解体又は変更の作業は、「手すり先行工法による足場の組立て等に関する基準」の2の(2)手すり据置方式又は(3)手すり先行専用足場方式により行うこと。なお単管足場、枠組足場を用いる場合の設置場所については図示による。 (2.4.1.1)<2.2.2.1> 内部足場 ※A種、B種、C種、D種 ○E種（単管足場） ○F種（くさび式緊結足場） 外部足場 ○A種（枠組足場） ○B種（くさび式緊結足場） ※C種、D種 ○E種（高所作業車）					
	○空調機用トップの形式	図示による。（図面番号）	(2.2.4.3)																						○コンクリート工事 ●鋼材工事	○監督員事務所（総合会議室を含む） ○監督員事務所の備品 ○工事用仮設物 ●足場・さん橋類	○本工事（規模 ※10㎡程度 ○20㎡程度 ○30㎡程度 ○65㎡程度 ○100㎡程度） 仕上げる程度 (2.4.1.1)<2.2.3.1> 部 位 仕 様 床 ※合板張り又はビニルシート張り ○ 内壁・天井 ※合板張り又は石膏ボード張り＋塗装 ○ 屋根 ※塗装溶融亜鉛めっき鋼板張り又は鉄板張り＋塗装 ○ (2.4.1.1) 備品の種類 机・椅子 書 棚 黒板又はホワイトボード 掛時計 数 量 組 台 個 個 備品の種類 ゴム長靴 雨がっぱ 安全帯 ヘルメット 数 量 足 着 個 個 備品の種類 懐中電灯 衣類ロッカー 冷暖房機器 加入電話機 数 量 個 人用 台 台 備品の種類 湯沸器 掃除具 パソコン 周辺機器 数 量 台 個 台 台 その他事務所として通常必要な備品を備えること。 構内につくることが ※できる ○できない ※関係者が設置したものは、無償で使用できる。 ○本工事で設置する。 足場を設ける場合は、「手すり先行工法に関するガイドライン」について」（厚生労働省基発第0424001号平成21年4月24日）の「手すり先行工法等に関するガイドライン」により、「動きやすい安心感のある足場に関する基準」に適合する手すり、中さん及び幅木の機能を有する足場とし、足場の組立て、解体又は変更の作業は、「手すり先行工法による足場の組立て等に関する基準」の2の(2)手すり据置方式又は(3)手すり先行専用足場方式により行うこと。なお単管足場、枠組足場を用いる場合の設置場所については図示による。 (2.4.1.1)<2.2.2.1> 内部足場 ※A種、B種、C種、D種 ○E種（単管足場） ○F種（くさび式緊結足場） 外部足場 ○A種（枠組足場） ○B種（くさび式緊結足場） ※C種、D種 ○E種（高所作業車）		
	○ファンコイルの流量弁	○流量調整弁（図面番号） ○定流量弁（図面番号）	(2.2.4.2)																									○コンクリート工事 ●鋼材工事	○監督員事務所（総合会議室を含む） ○監督員事務所の備品 ○工事用仮設物 ●足場・さん橋類
●管の接合	●ビニル管（※接着接合 ○ゴム輪接合） ○ポリエチレン管（○電気融着接合 ○カニカ接合） ○建物導入部において異種管との接続がある接続部の点検柵の構造（○TC-1 ○TC-2） ○架橋ポリエチレン管（○電気融着接合 ○カニカ接合） ○ポリブチレン管（○熱融着接合 ○電気融着接合 ○カニカ接合） ○耐火二層管（※接着接合 ○ゴム輪接合） （伸縮継手の設置箇所は図示による（図示番号）） ※適用しない ○適用する（○放射線透過検査 ○浸透探傷検査又は磁粉探傷検査） 判定基準（ ） 抜取率は下記による。	(2.2.5.11)<2.2.3.11> (2.2.5.12)<2.2.3.12> (2.2.5.13)<2.2.3.13> (2.2.5.14)<2.2.3.14> (2.2.5.16)<2.2.3.16> (2.2.5.17)<2.2.3.17>	○コンクリート工事 ●鋼材工事	○監督員事務所（総合会議室を含む） ○監督員事務所の備品 ○工事用仮設物 ●足場・さん橋類																									
○溶接部の非破壊検査	図示による。（図面番号）	(2.2.4.3)			○コンクリート工事 ●鋼材工事	○監督員事務所（総合会議室を含む） ○監督員事務所の備品 ○工事用仮設物 ●足場・さん橋類	○本工事（規模 ※10㎡程度 ○20㎡程度 ○30㎡程度 ○65㎡程度 ○100㎡程度） 仕上げる程度 (2.4.1.1)<2.2.3.1> 部 位 仕 様 床 ※合板張り又はビニルシート張り ○ 内壁・天井 ※合板張り又は石膏ボード張り＋塗装 ○ 屋根 ※塗装溶融亜鉛めっき鋼板張り又は鉄板張り＋塗装 ○ (2.4.1.1) 備品の種類 机・椅子 書 棚 黒板又はホワイトボード 掛時計 数 量 組 台 個 個 備品の種類 ゴム長靴 雨がっぱ 安全帯 ヘルメット 数 量 足 着 個 個 備品の種類 懐中電灯 衣類ロッカー 冷暖房機器 加入電話機 数 量 個 人用 台 台 備品の種類 湯沸器 掃除具 パソコン 周辺機器 数 量 台 個 台 台 その他事務所として通常必要な備品を備えること。 構内につくることが ※できる ○できない ※関係者が設置したものは、無償で使用できる。 ○本工事で設置する。 足場を設ける場合は、「手すり先行工法に関するガイドライン」について」（厚生労働省基発第0424001号平成21年4月24日）の「手すり先行工法等に関するガイドライン」により、「動きやすい安心感のある足場に関する基準」に適合する手すり、中さん及び幅木の機能を有する足場とし、足場の組立て、解体又は変更の作業は、「手すり先行工法による足場の組立て等に関する基準」の2の(2)手すり据置方式又は(3)手すり先行専用足場方式により行うこと。なお単管足場、枠組足場を用いる場合の設置場所については図示による。 (2.4.1.1)<2.2.2.1> 内部足場 ※A種、B種、C種、D種 ○E種（単管足場） ○F種（くさび式緊結足場） 外部足場 ○A種（枠組足場） ○B種（くさび式緊結足場） ※C種、D種 ○E種（高所作業車）																						
●配管・ダクトの吊り及び支持	工場溶接部については適用された抜取率の1/5としてもよい。 (1) 土間埋設配管の吊りはピット内（材質はステンレス鋼製）に準じる。 (2) 鋼管、鉄鋼管及びステンレス鋼管の配管呼び径40以下、ビニル管、ポリエチレン管、ポリブチレン管及び銅管の呼び径20以下の管の形鋼振止め支持は、 ※不要 ○要（支持間隔は図示による。（図面番号）） (3) 吊り及び支持は、標準図（施工13～17）による。	(2.2.5.11)<2.2.3.11> (2.2.5.12)<2.2.3.12> (2.2.5.13)<2.2.3.13> (2.2.5.14)<2.2.3.14> (2.2.5.16)<2.2.3.16> (2.2.5.17)<2.2.3.17>						○コンクリート工事 ●鋼材工事	○監督員事務所（総合会議室を含む） ○監督員事務所の備品 ○工事用仮設物 ●足場・さん橋類																				
●地中埋設管の埋戻土	コンクリート管以外の管を地中埋設とする場合は、管及び被覆樹脂を傷めぬよう山砂の類で管の周囲を埋戻した後、掘削土の良質土で埋戻す。	(2.2.7.1)<2.2.5.1>								○コンクリート工事 ●鋼材工事	○監督員事務所（総合会議室を含む） ○監督員事務所の備品 ○工事用仮設物 ●足場・さん橋類	○本工事（規模 ※10㎡程度 ○20㎡程度 ○30㎡程度 ○65㎡程度 ○100㎡程度） 仕上げる程度 (2.4.1.1)<2.2.3.1> 部 位 仕 様 床 ※合板張り又はビニルシート張り ○ 内壁・天井 ※合板張り又は石膏ボード張り＋塗装 ○ 屋根 ※塗装溶融亜鉛めっき鋼板張り又は鉄板張り＋塗装 ○ (2.4.1.1) 備品の種類 机・椅子 書 棚 黒板又はホワイトボード 掛時計 数 量 組 台 個 個 備品の種類 ゴム長靴 雨がっぱ 安全帯 ヘルメット 数 量 足 着 個 個 備品の種類 懐中電灯 衣類ロッカー 冷暖房機器 加入電話機 数 量 個 人用 台 台 備品の種類 湯沸器 掃除具 パソコン 周辺機器 数 量 台 個 台 台 その他事務所として通常必要な備品を備えること。 構内につくることが ※できる ○できない ※関係者が設置したものは、無償で使用できる。 ○本工事で設置する。 足場を設ける場合は、「手すり先行工法に関するガイドライン」について」（厚生労働省基発第0424001号平成21年4月24日）の「手すり先行工法等に関するガイドライン」により、「動きやすい安心感のある足場に関する基準」に適合する手すり、中さん及び幅木の機能を有する足場とし、足場の組立て、解体又は変更の作業は、「手すり先行工法による足場の組立て等に関する基準」の2の(2)手すり据置方式又は(3)手すり先行専用足場方式により行うこと。なお単管足場、枠組足場を用いる場合の設置場所については図示による。 (2.4.1.1)<2.2.2.1> 内部足場 ※A種、B種、C種、D種 ○E種（単管足場） ○F種（くさび式緊結足場） 外部足場 ○A種（枠組足場） ○B種（くさび式緊結足場） ※C種、D種 ○E種（高所作業車）																	
●管の埋設深さ	(1) 一般敷地 ※300mm ○ (2) 構内車両通路 ※600mm ○	(2.2.7.2)<2.2.5.2>											○コンクリート工事 ●鋼材工事	○監督員事務所（総合会議室を含む） ○監督員事務所の備品 ○工事用仮設物 ●足場・さん橋類	○本工事（規模 ※10㎡程度 ○20㎡程度 ○30㎡程度 ○65㎡程度 ○100㎡程度） 仕上げる程度 (2.4.1.1)<2.2.3.1> 部 位 仕 様 床 ※合板張り又はビニルシート張り ○ 内壁・天井 ※合板張り又は石膏ボード張り＋塗装 ○ 屋根 ※塗装溶融亜鉛めっき鋼板張り又は鉄板張り＋塗装 ○ (2.4.1.1) 備品の種類 机・椅子 書 棚 黒板又はホワイトボード 掛時計 数 量 組 台 個 個 備品の種類 ゴム長靴 雨がっぱ 安全帯 ヘルメット 数 量 足 着 個 個 備品の種類 懐中電灯 衣類ロッカー 冷暖房機器 加入電話機 数 量 個 人用 台 台 備品の種類 湯沸器 掃除具 パソコン 周辺機器 数 量 台 個 台 台 その他事務所として通常必要な備品を備えること。 構内につくることが ※できる ○できない ※関係者が設置したものは、無償で使用できる。 ○本工事で設置する。 足場を設ける場合は、「手すり先行工法に関するガイドライン」について」（厚生労働省基発第0424001号平成21年4月24日）の「手すり先行工法等に関するガイドライン」により、「動きやすい安心感のある足場に関する基準」に適合する手すり、中さん及び幅木の機能を有する足場とし、足場の組立て、解体又は変更の作業は、「手すり先行工法による足場の組立て等に関する基準」の2の(2)手すり据置方式又は(3)手すり先行専用足場方式により行うこと。なお単管足場、枠組足場を用いる場合の設置場所については図示による。 (2.4.1.1)<2.2.2.1> 内部足場 ※A種、B種、C種、D種 ○E種（単管足場） ○F種（くさび式緊結足場） 外部足場 ○A種（枠組足場） ○B種（くさび式緊結足場） ※C種、D種 ○E種（高所作業車）														
●地中埋設標及び埋設表示用テープ	(1) 給水管 地中埋設標（※要 ○不要） 埋設表示テープ（※要 ○不要） (2) 消火管 地中埋設標（※要 ○不要） 埋設表示テープ（※要 ○不要） (3) ガス管 地中埋設標（※要 ○不要） 埋設表示テープ（※要 ○不要） (4) 油 管 地中埋設標（※要 ○不要） 埋設表示テープ（※要 ○不要） (5) 地中埋設標の設置箇所は図示による。（図面番号） (6) 埋設給水本管の分岐、曲り部等の衝撃防護措置は図示による。（図面番号） (7) 埋設表示テープの土被りは150mm程度とする。	(2.2.7.1)<2.2.5.1><2.2.2.3> (2.2.7.2)<2.2.5.2>														○コンクリート工事 ●鋼材工事	○監督員事務所（総合会議室を含む） ○監督員事務所の備品 ○工事用仮設物 ●足場・さん橋類	○本工事（規模 ※10㎡程度 ○20㎡程度 ○30㎡程度 ○65㎡程度 ○100㎡程度） 仕上げる											

●方式

●主要熱源機器

●設計時の温湿度条件

○ダクトの種別

○ダクトの工法

○チャンバー等

●吹出口及び吸込口
ボックスの材料

○風量測定口の取付
位置

●配管材料

○定風量ユニット
変風量ユニット

○地下オイルタンク

※新設

●空調調和

○既設

○空調調和

○ボイラー

○遠心冷凍機

○冷却塔

○直達き吸収冷水機

○水蓄熱ユニット

●パッケージ形空調調和機

○ファンコイルユニット

○改修

○ダクト方式 (○中央 ○各階ユニット)

○ファンコイル・ダクト併用方式

●個別方式

○ダクト方式 (○中央 ○各階ユニット)

○ファンコイル・ダクト併用方式

○個別方式

○温風暖房機

○温水発生機

○スクリーユ冷凍機

○吸収冷凍機

○チリングユニット

○空気熱源ヒートポンプユニット

○小型吸収冷水機ユニット

○コージェネレーション装置

○コンパクト形空調調和機

○ガスエンジン式パッケージ形空調調和機

○空気清浄装置

○全熱交換器

○放熱器

場所 時期	屋 外		屋 内 (調整目標値)			
			一般事務室			
	温度 (DB)	湿度 (RH)	温度 (DB)	湿度 (RH)	温度 (DB)	湿度 (RH)
冬 期	0.4℃	68.0%	22℃	40%	℃	%
夏 期	35.1℃	52.3%	26℃	50%	℃	%

※低圧ダクト

○高圧1ダクト

○高圧2ダクト

○アングルフランジ工法

○スパイラルダクト

○フレキシブルダクト

○コーナーボルト工法 (○共板フランジ工法

○スライドオンフランジ工法)

(長辺の長さが1500mm以下の部分)

※屋外に設置するダクト類にはシール等で水密を確保する。

製作及び取付は、標準仕様書第3編2.2.2「アングルフランジ工法ダクト」の当該事項による。

消音内貼

※要 (標準仕様書第2編表2.3.2及び表2.3.4による。)

○不要

※亜鉛鉄板製

○ガラスウール製

ボックスの吊りは3点支持を標準とし、これによれない場合は監督職員との協議による。

図示による。(図面番号)

図面に明記なき配管材料は、下記による。

(1) 冷温水管・膨張管・エア抜管・膨張タンクよりボイラー等への補給水管

※配管用炭素鋼鋼管(白管)

○耐熱性ライニング鋼管 (SGP-HVA, SGP-H-FVA, SGP-H-FCA)

○ステンレス鋼管 (SUS304) (継手)

○架橋ポリエチレン管

○ポリブテン管

(2) 冷却水管

※配管用炭素鋼鋼管(白管)

○硬質塩化ビニルライニング鋼管 (SGP-VA, SGP-FVA)

○ポリエチレン粉体ライニング鋼管 (SGP-PA, SGP-FPA)

○ステンレス鋼管 (SUS304) (継手)

(3) 蒸気給気管

※配管用炭素鋼鋼管(黒管)

○圧力配管用炭素鋼鋼管 (STPG370黒管Sch40)

(4) 蒸気還管

※圧力配管用炭素鋼鋼管 (STPG370黒管Sch40)

○一般配管用ステンレス鋼管 (SUS304) (継手)

○

(5) 高温水管

※圧力配管用炭素鋼鋼管 (STPG370黒管)

○Sch40

○Sch80

○

(6) 油管

※配管用炭素鋼鋼管(黒管) (トラフ内共)

(※一般

○

)

※硬質塩化ビニル外面被覆鋼管 (SGP-VS)

(※地中(屋内及び屋外)

○

○

(7) 空調用給水管

○硬質塩化ビニルライニング鋼管 (SGP-VA, SGP-FVA)

○ポリエチレン粉体ライニング鋼管 (SGP-PA, SGP-FPA)

○水道用硬質塩化ビニル管 (HIVP)

○

(8) 空調用排水管

●硬質塩化ビニル管 (VP)

○排水用硬質塩化ビニルライニング鋼管 (D-VA)

○結露防止層付硬質塩化ビニル管 (屋内)

○

(9) 冷媒管

※断熱材被覆鋼管

○鋼管

○圧力配管用炭素鋼鋼管 (STPG370黒管Sch40)

○メカニカルタイプ

○風速センサータイプ

(1) 本体

※地下オイルタンク 記号 T0-

○鋼製強化プラスチック製二重殻タンク 記号 T0SF-

(2) 蓋

※WPM-AW800

○WPM-AW700

○WPM-A450

○

(3) タンク室

○設けない(コックタンク形)

○

(4) コンクリート工事

※本工事

○別途建築工事

(5) コンクリート躯体工事

※本工事

○別途建築工事

(6) 内部充填砂

※本工事

○別途建築工事

(7) タンク外面防護処理

※施工しない

○施工する

(○アスファルト被覆

○エポキシ樹脂被覆

○

)

		(8) 基礎杭 ※不要 ○要 (9) 遠隔油量指示計 ※設ける ○設けない	
	○バーナーの制御方式	○オン・オフ制御 ○ハイ・ロー制御 ○比例制御 ○() (3.1.1.1) (3.1.2.1) (3.1.2.2) (3.1.2.3) (3.1.2.4)	
	○鋼板製煙道	図面に明記なき鋼板製煙道の厚さ ※3.2mm ○4.5mm (3.1.1.3) 煤煙濃度計取付座及び煤塵量測定口(80φ以上)の箇所は図示による。(3.2.1.4) (図面番号)	
	○ばい煙濃度計	○設けない (3.1.1.4) ○設ける(電源制御盤より取り出し配管配線は本工事に含む。) () ※送風機付き ○送風機なし	
	○給水軟化装置	(1) 運転方式 ※自動式 ○手動式 (3.1.1.6) (2) イオン交換樹脂筒 ※1筒式 ○ () (3) 処理水硬度測定器 ※設ける ○設けない	
	○無圧式温水発生器の本体内面防錆処理	ステンレスを除く鋼製の場合の内面防錆処理は (3.1.2.2) ○溶融亜鉛めっき2種55 ○溶融アルミニウムめっき2種 ○熱媒水に腐食抑制剤を添加する方法	
	○フリングユニット 空気熱源ヒートポンプ ユニット 遠心冷凍機 スクリーン冷凍機	○圧縮機インバーター制御(図面番号) (3.1.3.1)～(3.1.3.4) ○モジュール型の適用(図面番号) ○水蓄熱用に使用する場合の適用(図面番号) ○始動方式(図面番号) ○	
空	●冷媒	図示による。(図面番号) (3.1.3.1)～(3.1.7.7)	
	●成績係数	図示による。(図面番号) (3.1.3.1)～(3.1.7.7) ●グリーン購入法で定める数値以上とする。	
	○スクリーン冷凍機	○熱回収型の適用(図面番号) (3.1.3.4)	
	○直置き吸収式冷温水機	排熱熱交換器 ○設ける ○設けない (3.1.3.6) 排熱投入型再生器 ○設ける ○設けない 排熱を回収又は投入している運転状態における燃料削減率は図示による。 (図面番号)	
気	○小型吸収式冷温水機ユニット	冷却塔、ポンプの補機類の組み込みの有無等図示による。(図面番号) (3.1.3.7)	
	○コージェネレーション装置	仕様、システム等は図示による。(図面番号) (3.1.4.1)～(3.1.4.16)	
	○水蓄熱ユニット	冷媒は図示による。(図面番号) (3.1.5.1)～(3.1.5.11) 水生成装置 ○スタティック形 (○内融式 ○外融式 ○カプセル式) ○ダイナミック形 タンク本体の材質は図示による。(図面番号) 基礎等は図示による。(図面番号) (3.2.1.12)	
調	●空調調和機	○ユニット形空調調和機 加湿器、許容騒音レベル、吐出風速等図示による。 (図面番号) ○コンパクト形空調調和機 加湿器、フィルター、制御盤等図示による。 (図面番号) ○ファンコイルユニット サブドレンパンの適用は図示による。 (図面番号) ○カセット形ファンコイルユニット 図示による。(図面番号) ●パッケージ形空調調和機 加熱器、加湿器、フィルター、冷媒等図示による。 ○ガスエンジンヒートポンプ式空調調和機 加湿器、冷媒、成績係数等図示による。 (図面番号)	
		基礎 ※標準基礎 ○防振基礎 (3.1.7.1)～(3.1.7.7)	
	○空気清浄装置	フィルターの形式等図示による。(図面番号) (3.1.8.1)～(3.1.8.5)	
	○回転形全熱交換器	回転数制御装置は図示による。(図面番号) (3.1.9.1)～(3.1.9.4)	
設	○全熱交換ユニット	運転表示灯及び操作スイッチ等は図示による。(図面番号) (3.1.9.1)～(3.1.9.4)	
	○放熱器及び放熱器付属品	ファンコンベクターの吹出口、吸込口、エアフィルター等図示による。 (図面番号) コンベクター、パネルラジエーターの寸法、放熱能力等図示による。 (図面番号) (3.1.10.1)～(3.1.10.11)	
	○送風機	電動機の仕様等は図示による。(図面番号) (3.1.11.1)～(3.1.11.4) 水抜き穴(※設けない ○設ける) 基礎 ※標準基礎 ○防振基礎(振動絶縁効率 %) (3.2.1.19)	
備	○ポンプ類	本体及びベースの材質、構成、形式、フットの口径、電動機等図示による。 (図面番号) (3.1.12.1)～(3.1.12.6) 基礎 ※標準基礎 ○防振基礎(振動絶縁効率 %) (3.2.1.20)	
	○還水タンク	※SUS鋼板溶接加工 (○SUS304 ○SUS316 ○SUS444) 配管接続は図示による。(図面番号) (3.1.13.2)	
	○膨張タンク	○開放形膨張タンク (○鋼板製 ○ステンレス鋼板製(SUS304)) (3.1.13.5) ○密閉形隔膜式膨張タンク(溶接部 ○あり ○なし) (3.1.13.6)	
	○ヘッダー	○接続口を設ける (○還水管 ○排水管) (3.1.13.9)	

換 <
--

衛生器具設備	○小便器用節水装置	○小便器一体型 ○小便器分離型	(5.1.1.2)
	●温水洗浄式便座	加熱方式 (●貯湯式 ○瞬間式) 温風乾燥機能 (○あり ●なし) 脱臭機能 (●あり ○なし)	(5.1.1.2)
	●大便器ユニット	大便器の種類及び給水装置の組合せ、ケーシングの化粧前板・甲板の仕様、配管は図示による。 (図面番号)	(5.1.1.3)
	○小便器ユニット	小便器の種類及び節水装置の組合せ、配管、ケーシングの化粧前板・甲板の仕様は図示による。 (図面番号)	(5.1.1.3)
	●洗面器ユニット	洗面器の種類及び給湯管の要否、配管、ケーシングの化粧前板・甲板の仕様は図示による。 (図面番号)	(5.1.1.3)
	○壁掛型汚物流しユニット	汚物流しの種類、シャワー付水栓、給湯方式、配管材料は図示による。 (図面番号)	(5.1.1.3)
	○浴室ユニット	JIS A 5532(浴槽)、プラスチック浴槽ふた、照明の種類、給水・給湯管の要否、管材、壁・床・天井、付属品の仕様は図示による。 (図面番号)	(5.1.1.4)
	○複合浴室ユニット	JIS A 5532(浴槽)、JIS A 5207(衛生陶器)、照明の種類、給水・給湯管の要否、管材、壁・床・天井、付属品の仕様は図示による。 (図面番号)	(5.1.1.5)
	○洗浄弁	操作方式 ○手動式 (※レバー式) ○ ○電気開閉式 (○センサー式 ○タッチスイッチ式)	(5.1.1.8)
	○化粧棚	陶器製又は金属製の縁付きとし、大きさは図示による。 (図面番号)	(5.1.1.10)
給水設備	○水石鉢入れ	○手洗器一体型 ○手洗器分離型 ○自動供給式 ○	(5.1.1.11)
	○自動水栓	電源供給方式 (○AC電源式 ○乾電池式 ○発電式) 手動スイッチ (○あり ○なし)	(5.1.1.7)
	○大便器耐火カバー	※設ける (ビット内は除く) ○設けない	
	○多目的トイレの器具配置	紙巻器、便器洗浄ボタン、呼出ボタンの配置は J I S S 0 0 2 6 による。	
	●給水方式	●水道直結方式 ○高置タンク方式 ○増圧ポンプ方式 (水道用直結加圧形ポンプユニット) ○ポンプ直送方式 (小型給水ポンプユニット)	(2.2.1.2)
	●配管材料	図面に明記なき配管材料は、下記による。 (1) 一般配管 ○硬質塩化ビニルライニング鋼管 (SGP-VA, SGP-FVA) ○ポリエチレン粉末ライニング鋼管 (SGP-PA, SGP-FPA) ○ステンレス鋼管 (SUS304) (継手) ●水道用硬質塩化ビニル管 (HIVP) ○架橋ポリエチレン管 ○ポリブデン管 (2) 地中配管 ○硬質塩化ビニルライニング鋼管 (内外面ライニング) (SGP-VD, SGP-FVD) (○屋内 ○屋外) ○ポリエチレン粉末ライニング鋼管 (内外面ライニング) (SGP-PD, SGP-FPD) (○屋内 ○屋外) ●水道用硬質塩化ビニル管 (HIVP) (●屋内 ●屋外) ○水道配水用ポリエチレン管 (※屋外) ○	
	○ポンプ類	○揚水用ポンプ 共通ベースの材質、フート弁の呼び径等図示による。 (図面番号) ○小型給水ポンプユニット 運転方式、制御方式、24時間強制リターン機能、フート弁の呼び径等図示による。 (図面番号) ○深井戸用水中モーターポンプ 揚水管の材質、水中ケーブル及び電極の長さ等図示による。 (図面番号)	(5.1.2.1) (5.1.2.2) (5.1.2.3) (5.1.2.5)
	○加入金等	※不要 ○要 (○本工事 ○別途工事) 名称:	
	○タンク	○FRP製パネルタンク (※複合板形 ○単板形) ○ステンレス鋼板製パネルタンク (外部保温 ○あり ○なし) ○鋼板製一体形タンク タンク本体給水栓用配管接続口 ○設ける ○設けない	(5.1.4.2)
	排水設備	●排水方式	汚水と雑排水 屋内 ※分流式 ○合流式 汚水・雑排水と雨水 屋外 ※分流式 ○合流式 ポンプ排水 ○あり (○汚水 ○雑排水 ○雨水 ○湧水 ○浄化槽二次側) ※なし
●放流先		(1) 汚水 ○直放流下水管 ●浄化槽 (2) 雑排水 ○直放流下水管 ●浄化槽 ○別途樹 (工事)	
排水設備	●配管材料	図面に明記なき配管材料は、下記による。 (1) 汚水・雑排水管 ●水道用硬質塩化ビニル管 (VP) (●屋内 ●屋外) ○水道用硬質塩化ビニル管 (VU) (※屋外埋設) ○建物排水用リサイクル発泡三層硬質塩化ビニル (RF-VP) (○屋内 ○屋外) ○排水用硬質塩化ビニルライニング鋼管 (D-VA) (○屋内 ○屋外) ○耐火二層管 (国土交通大臣認定品) (○屋内 ○屋外) ○ (2) 通気管 ○水道用硬質塩化ビニル管 (VP) ○建物排水用リサイクル発泡三層硬質塩化ビニル管 (RF-VP) ○排水用硬質塩化ビニルライニング鋼管 (D-VA) ○配管用炭素鋼鋼管 (白管) ○耐火二層管 (国土交通大臣認定品) ○ (3) 流し等の床上露出部分の配管は、硬質塩化ビニル管 (VP) でもよい。 (保温不要)	(2.2.1.2)
	○汚水、雑排水、汚物用水中モーターポンプ	汚物用の場合の電動機の極数は図示による。 (図面番号) 水中ケーブルの長さは図示による。 (図面番号) ケーシング、羽根車等の材質、着脱装置等は図示による。 (図面番号)	(5.1.2.7) (5.1.2.7) (5.1.2.7)

給湯設備	○グリース阻集器	※ステンレス鋼板製 (SUS304) 板厚 3mm以上	○強化プラスチック製 (FRP) 板厚 3mm以上	(5.1.7.8)	
	○満水試験継手	※要 (取付箇所は図示による。(図面番号)	○不要	
	○負担金	※不要	○要 (○本工事	○別途工事) 名称:	
	●給湯方式	○中央式	●局所式		
	●配管材料	図面に明記なき配管材料は、下記による。(2.2.1.2)			
		●鋼管 (壁又は床埋設をする場合は、保温付被覆鋼管を使用してもよい。)			
		○耐熱性ライニング鋼管 (SGP-HVA, SGP-H-FVA, SGP-H-FCA)			
		○ポリブデン管			
		○ステンレス鋼管 (SUS304) (継手)			
		○架橋ポリエチレン管			
給湯設備	●ガス湯沸器	○貯湯式	●瞬間式 (図面番号) (5.1.3.6)	
	○潜熱回収型給湯器	給湯熱効率 (※90%以上	○	%以上) (図面番号	
	○貯湯式電気温水器	週間タイマーの有無等図示による。(図面番号			
	○ヒートポンプ給湯器	タンク容量等図示による。(図面番号			
	○ガス給湯器用排気筒	排気筒を外気に開放する場合の頂部形状は図示による。(図面番号			
	○貯湯タンク	材質、電気防食の方式等図示による。(図面番号			
	消火設備	●消火設備の種類	○屋内消火栓		
			○連結送水管		
			○屋外消火栓		
			○スプリンクラー		
		○泡消火			
		○粉末消火			
		○不活性ガス消火			
		○連結散水			
		○フード等用簡易自動消火			
		●消火器 (5.1.5.10)~(5.1.5.12)			
消火設備	○配管材料	図面に明記なき配管材料は、下記による。(2.2.1.2)			
		(1) 一般配管			
		○配管用炭素鋼鋼管 (白管)			
		○圧力配管用炭素鋼鋼管 (STPG370白管) (○Sch40			
		○Sch80)			
		○ステンレス鋼管 (○一般配管用			
		○配管用) (継手)			
		(2) 地中配管			
		※消火用硬質塩化ビニル外面被覆鋼管 (SGP-VS) (○屋内			
		○屋外)			
消火設備	○消火ポンプ	フート弁の呼び径等図示による。(図面番号			
	○連結送水管	送水口の型式及び放水口の口径、材質は図示による。(図面番号			
	○屋外消火栓	屋外消火栓箱 ※鋼板製 (1.6mm以上)			
		○ステンレス鋼板製 (1.5mm以上) (5.1.5.4)			
		消火栓開閉弁の材質			
		○地上式 (○鉄製 (要部青銅製)			
		○ステンレス鋼物製)			
		○組込式 (青銅製又はステンレス鋼物製)			
	○スプリンクラー	閉鎖型スプリンクラーヘッド (○湿式			
		○乾式			
消火設備	○泡消火	○予作動式) (5.1.5.5)			
		消火薬剤 (※水性膜泡消火薬剤			
		○合成界面活性剤泡消火薬剤			
		(5.1.5.8)			
		感知用ヘッドの形状は図示による。(図面番号			
	○連結散水	散水ヘッドの形状は図示による。(図面番号			
	厨房機器設備	○機器の固定	燃焼機器、加熱調理機器、高さが1.0mを超える機器及び図示による機器には、床又は壁にアンカーボルトで固定できるよう補強及び固定金具を備える。(図面番号		
		○流し	化粧板の有無、流しトラップの材質等図示による。(図面番号		
		○作業台 (調理台、脇台、盛付台等)	すのこ、引出し、戸棚等の有無等図示による。(図面番号		
		○ガスレンジ	甲板の厚さ、材質及びすのこの有無等図示による。(図面番号		
○電気レンジ		すのこの有無等図示による。(図面番号			
○ガス及び電気フライヤー・焼物器・煮炊釜		加熱方式は、図示による (図面番号			
ガス設備		●ガスの種類	○都市ガス 発熱量 MJ/Nm ³ ガス事業者名:		
			配管材料、施工要領は、ガス事業者が定めるものに準じる。		
		●配管材料	●液化石油ガス (○50kg ●20kg)		
			図面に明記なき配管材料は、下記による。(6.2.1.1)~(6.3.1.1)		
		(1) 一般配管			
		※配管用炭素鋼鋼管 (白管)			
		○圧力配管用炭素鋼鋼管			
		(2) 地中配管			
		※ガス用ポリエチレン管 (○屋内			
		○屋外)			
ガス設備	●ガス漏れ警報器	※別途工事 ()			
	○防食処置	○本工事 (外部出力端子 ※なし			
		○あり) (6.2.1.3)			
	○液化石油ガス用鋼管の溶接接合	地中埋設管に電気防食を施す場合は図示による。(図面番号			
		(6.2.2.5)			
		溶接部の非破壊検査			
		(6.3.2.2)			
		※適用しない			
		○適用する (○放射線透過検査			
		○浸透探傷検査又は粉体探傷検査)			
ガス設備	○地中埋設管の接合方法	※PE管工法			
		○SGM工法			
		○ネジ工法			
	○ビット内施工方法	※合成樹脂被覆鋼管による			
	○負担金	※不要			
		○要 (○本工事			
		○別途工事) 名称:			

浄化槽設備	●形式 ●処理種別 ○汚泥引抜き清掃消毒 ○現場施工形	※ユニット形 ○現場施工形 ●小規模合併処理 ○合併処理 ※別途工事 ○本工事 送風機室 (○本工事 ○別途工事) (8.1.1.2)~(8.2.2.2) 防護さく (○本工事 ○別途工事) コンクリート躯体工事 (土工を含む) (○本工事 ○別途工事) 換気用送風機 ○遠心送風機 ○軸流及び斜流送風機 ○壁掛式有圧換気扇 (フード付) ○天井式有圧換気扇 制御盤 ○漏電、過負荷、満水警報等の一括故障表示用無電圧接点及び端子を設ける。 消泡装置 (○ノズル式 ○消泡剤式) 消毒装置 (○固形塩素剤消毒装置 ○次亜塩素酸ソーダ消毒装置 ○) () マンホール ※標準図 (機材1)によるマンホールふた (水封式) (錠又は回転ロック付) 管材及び弁類は図示による。 (図面番号) 土留め等は図示による。 (図面番号) 基礎等の厚さ等図示による。 (図面番号) (8.3.2.1)
	○ユニット形	○一台の機器につき一面を設ける ○ (10.2.2.4) 号機選択スイッチ (○設ける ○設けない) 設計用水平震度、設計用標準水平震度に地域係数を乗じて求める。 (10.2.2.7) ○地域係数 ()
	○耐震措置	
	●撤去工事	(1) 引き渡しを要する配管、ダクト等の保温材は分離する。 (2) ダクト及び配管等の支持金物、吊りボルト等は本工事にて撤去する。 (3) 撤去後の補修は、原則として現状復旧とする。
	○さく井設備工事の事前調査 ○井水等配管材料 ○井水等配管の保温 ●機器及び配管の文字書き	○既設井分布調査 ○法的規制調査 (7.1.2.1) ○地表探査 (イ) 探査方法は、電気探査の比抵抗法による。 (ロ) 測定方式は、直流型方式とする。 (ハ) 解析は、標準曲線法によるものとする。 ○周辺環境調査 (騒音・振動測定) 図面に明記なき配管材料は、下記による。 (2.2.1.2) ○水道用硬質塩化ビニル管 (HIVP) ○水道用硬質塩化ビニルライニング鋼管 (○SGP-VA ○SGP-VD) ○フッビ付硬質塩化ビニルライニング鋼管 (○SGP-FVA ○SGP-FVD) ○水配管用亜鉛めっき鋼管 図面に明記なき保温仕様は、下記による。 (2.3.1.5) ○不要 ○要 (保温種別は、標準仕様書第2編表2.3.5の給水管の当該事項による。) 屋外の文字書きは、カギカッコで囲い等耐久性のあるもので記入する。

(設備機材)

- ・ボイラー (鋼製簡易ボイラー、鑄鉄製ボイラー、鋼製小型ボイラー、鋼製ボイラー)
- ・温水発生機 (真空式温水発生機 (鋼製・鑄鉄製)、無圧式温水発生機 (鋼製・鑄鉄製))
- ・冷凍機 (チリングユニット (水冷式、空冷式、空気熱源ヒートポンプ)、吸収冷温水機、吸収冷温水機ユニット、遠心冷凍機)
- ・冷却塔 (冷却塔)
- ・空調機 (ユニット形空調機、ファンコイルユニット及びパケット形ファンコイルユニット、パケット形空調機、ファンコイルユニット式空調機)
- ・空気清浄装置 (エアフィル (パケット形、折込形)、自動巻取形エアフィル、電気集塵器)
- ・全熱交換器 (全熱交換器 (回転形、静止形)、全熱交換ユニット)
- ・送風機類 (遠心送風機 (多翼形送風機)、斜流送風機、軸流送風機、消音ボックス付送風機)
- ・ポンプ類 (横形遠心ポンプ (小形渦巻、小形多段遠心、両吸込渦巻)、水中モーターポンプ (汚水用、雑排水用、汚物用)、立形遠心ポンプ)
- ・ダクト付属品 (吹出口・吸出口、風量ユニット (定風量・変風量))
- ・自動制御 (自動制御システム)
- ・衛生器具ユニット (衛生器具ユニット)
- ・タンク (FRP製パネルタンク、密閉形隔膜式膨張タンク (空調用・給湯用)、ステンレス鋼板製パネルタンク (溶接組立形)、ステンレス鋼板製パネルタンク (ボルト組立形))
- ・消火装置 (スプリンクラー消火システム、不活性ガス消火システム (窒素、IG/55、IG/541)、泡消火システム)
- ・厨房機器 (厨房システム)
- ・鑄鉄製ふた (マンホールふた、弁掛ふた)


設備機材等指定表

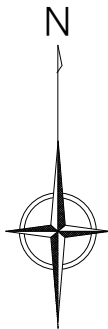
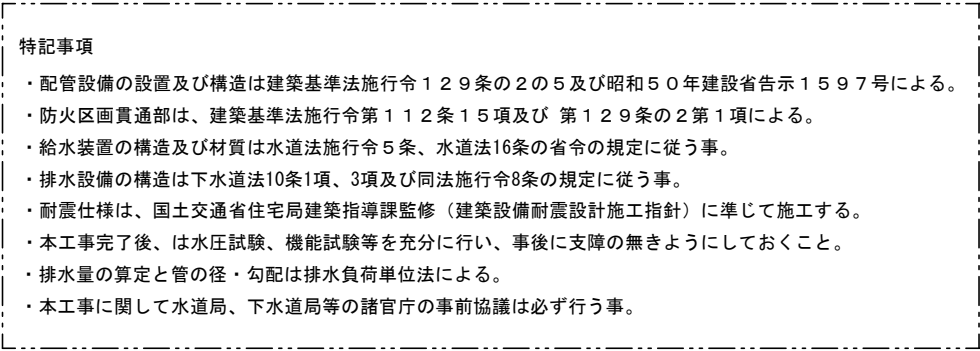
機	材	製造者名	製造者名	製造者名

工事名 御所市消防団第8分団消防車庫改築工事 設計図 図面番号 M - 04			
図名 機械設備 特記仕様書 (4)		縮尺	作成日 年 月 日 確認印
		校閲日 (実印)	年 月 日
総合企画、建築設計、監理 株式会社 中和設計		一般建築士事務所 奈良県知事登録 2020 (へ) 第1421号 一般建築士 174531号 中谷芳一	

Ⅲ. 機械設備解体工事仕様		
1. 共通仕様		
1) 本仕様書及び図面に記載されていない事項は、国土交通省大臣官房官庁営繕部監修「建築物解体工事共通仕様書・同解説(平成24年版)」(以下「解体共通仕様書」という。)による。ただし、解体共通仕様書に規定されている項目以外は国土交通省大臣官房官庁営繕部監修「公共建築改修工事標準仕様書(建築工事編)平成31年版」(以下改修標準仕様書」という。)による。		
2) 工事種目に電気設備工事及び建築工事を含む場合、その仕様は当該図面による。		
2. 特記仕様		
1) 項目及び特記事項は、●印のついたものを本工事に適用する。ただし●印のない場合は※印を適用する。		
2) 特記事項に記載の[]内表示番号は、解体共通仕様書の編・章・節・項を示す。また、【 】内表示番号は、改修標準仕様書の編・章・節・項を示す。		
章	項 目	特 記 事 項
一般事項	●石綿作業主任者	※適用する [9.1.2]
	○特別管理産業廃棄物管理責任者	※適用する [9.1.2]
特別管理産業廃棄物等の処分等	○調査	※調査を行う (適用範囲:) [5.1.3] 使用状況調査 (製造所名、製造年、型式、種類、数量等) 処分条件調査 (収集運搬業者、処分業者、回収業者、産業廃棄物処理施設等) 調査結果報告書の提出 ○微量PCBの測定を行う (対象機器:)
	○特別管理産業廃棄物処分の処分等	[5.4.1] 種 類 処 分 方 法 ○廃石綿等 ※アスベスト含有建材の除去等による ※PCBを含む機器類 ※保管 (保管場所:) ○PCB含有シーリング ※保管 (保管場所:) ○廃油 ○中間処理施設再生処理 ○焼却処分 ○廃酸/廃アルカリ ○製造業者又は専門業者 (回収委託) — ○再生処理
		○特殊な建設副産物の回収及び処分 [5.5.1] 種 類 処 分 方 法 ○フロン ※登録回収業者 (回収委託) — ○破壊 ○再利用 ○ハロン ※設備設置業者 (回収委託) — ○再利用 ○保管 ○イオン化式感知器 ※製造業者又は販売業者 (回収委託) ○六フッ化硫黄 (SF6) ガス ※製造業者又はガス回収業者 (回収委託) — ○破壊 ○再資源化 ○再使用 ○特定化学物質 ○回収 ○処分
	○特別管理産業廃棄物廃棄物リスト	※別図による。 (図面番号)
	●施工調査等	施工調査 (アスベスト含有建材の有無) [9.1.1] ※監督員、工事監理者、請負者立会のもと調査を行う。 目視及び設計図書等による製造年等の確認 ○アスベスト含有建材の分析調査 分析方法 ○JIS A1481「建材製品中のアスベスト含有測定方法」による。 ※「建材中の石綿含有率の分析方法」(平成18年8月21日基発第0821002号、基安化発第0821001号及び平成20年2月6日基安化発第0206003号)による。 分析結果報告書の提出
	○アスベスト含有保温材等の除去及び処分	除去工法 [9.1.1] [9.1.4] ※手ばらし (湿潤化) ○ () 一時保管場所 () 除去物及び汚染物等の処理 ※密封処理 ○セメント固化 処分 ○埋立処分 ○溶解固化
	●アスベスト含有成形板等の除去及び処分	除去工法 [9.1.1] [9.1.5] ※手ばらし (湿潤化) (アスベスト含有物の前後でダクト等を切断して除去する) 一時保管場所 (厨房) 処分 ●埋立処分 ○
	●処分場	※石膏ボード・化粧石膏ボード・エルボ保温材・煙道断熱材は管理型処分場、岩綿吸音板・珪酸カルシウム板は安定型処分場に廃棄すること
	●手続き等	※所轄の労働基準監督署及び奈良県景観・環境総合センター (奈良市内においては、奈良市保健・環境検査課) に必要な書類の届出を行うこと。また、その内容を周辺住民の見やすい場所に掲示すること。
	○除去後の仕上げ	○仕上げ表による
	●アスベスト含有材リスト	● (フッド フランジ パッキン 配管フランジ パッキン (M-06))

工 事 区 分	記号	項 目	細 目	建築	電気設備	機械設備	備 考
2	基礎	(1) 屋外基礎	(1) 屋外基礎	●			
			(2) 脚部足場	●		●	
			(3) 墨出し、養生、清掃	●		●	
			(4) 既存部分の養生				
			(5) 工事用電力、電話、水道引込工事				
			(6) 上記料金				
			(7) 監督員事務所				
			(8) 現場事務所	●			
			(9) 仮設便所	●			
			(10) 仮囲い、ゲート	●			
			(11) 道路清掃	●			
			(12) 洗車員	●			
3	躯体の開口補強	(1) 貫通孔材	(1) 貫通孔材			●	
			(2) 貫通孔材の補強筋			●	
			(3) 床、壁開口部の箱入れ及び補強筋			●	
			(4) 貫通孔、箱入れ穴埋め			●	
			(5) 上記の墨出し及び集計 (梁、床、壁)			●	
4	仕上材の開口補強	(1) 天井、軽鉄間仕切りの開口 (ボード等の切込み及び補強共)	(1) 天井、軽鉄間仕切りの開口 (ボード等の切込み及び補強共)	●			
			(2) アウトレッドボックス類				
			(3) 上記の墨出し及び集計				
5	衛生設備工事関係	(1) 雨水排水 (配管、ます、ふた)	(1) 雨水排水 (配管、ます、ふた)	●			
			(2) 汚水、雑排水 (配管、ます、ふた)			●	
			(3) 敷地内合流 (雨水、汚水、雑排水) の場合				
			(4) 下水本管への接続				
			(5) 機械室、ます、ふた				
			(6) 屋外くつ洗い流し				
			(7) 便器、洗面器			●	
			(8) 洗面カウンター				
			(9) ステンレスL型手摺				
			(10) ステンレス手摺 (小便器用)				
			(11) ステンレス跳ね上げ手摺				
			(12) 背もたれ (多目的便所 大便器用)				
			(13) スタイルボード				
			(14) オムツ交換ベッド				
			(15) ダストボックス				
			(16) ベビーチェアー				
			(17) 黄銅製 フック				
			(18) 化粧鏡 (多目的便所共)			●	
6	空調設備工事関係	(1) 外部ガラリ (ダクト接続の場合取付枠共)	(1) 外部ガラリ (ダクト接続の場合取付枠共)				
			(2) 内部ガラリ (ドアガラリ)				
			(3) 内部ガラリ (レターンガラリ)				
			(4) 厨房フード (幕板、吊りボルト共)				
			(5) 換気扇用取付枠			●	
			(6) ウエザークカバー			●	
			(7) 防火区画、ダクト貫通部鋼枠				
7	電気設備工事関係	(1) 電柱 (新設、移設共)	(1) 電柱 (新設、移設共)				
			(2) 煙感知器連動防火戸のラッチ受座取付用切込補強				
			(3) 煙感知器連動防火戸の磁石式吸着板、電磁式ラッチ受座取付				
			(4) 自動ドア電源供給 (1 次配線)				
			(5) 自動ドア電源供給 (2 次配線及びアウトレットボックス)				
			(6) 電動シャッター電源供給 (1 次配線)				
			(7) 電動シャッター電源供給 (2 次配線)				
			(8) ユニット機器等電源供給 (1 次配線)				
			(9) ユニット機器等電源供給 (2 次配線)				
			(10) パッケージ形空調機電源供給 (1 次配線)		●		
8	設備間の取合	(1) 機器付属の制御盤以降の配管配線 (接地共)	(1) 機器付属の制御盤以降の配管配線 (接地共)				
			(2) 機器付属の制御盤への電源供給配管配線				
			(3) 自動制御盤と動力制御盤への電源供給及び操作回路の渡り配管配線				
			(4) 空冷パッケージ及び全熱交換形換気扇と操作スイッチとの配管配線及び接地			●	
			(5) 煙感知器から連動制御盤を経て防火ダンパーに至る配管配線				
			(6) 小便器用節水装置への電源供給配管配線				
			(7) 電極棒及び電極帯				
			(8) パッケージ形空調機 (ルームエアコン等を含む) の 2 次側配管配線及び接地			●	
9	その他	(1) 配管、配線トラフ (ふた、セパレーター共)	(1) 配管、配線トラフ (ふた、セパレーター共)				
			(2) 点検口 (床、天井、壁、補強共)				
			(3) 屋外貯油槽				
			(4) ガス漏れ警報器 (単独)			●	
			(5) 引き渡しまでの電力・水道料金	●			

工事名				御所市消防団第8分団消防車庫改築工事				設計図		図面番号		M - 05					
図 名				機械設備 特記仕様書（5）		縮尺		作成日		年		月		日		確認印	
								変更日		年		月		日			
								承認日		年		月		日			
				総合企画、建築設計、監理				株式会社 中和設計				一級建築士事務所 奈良県知事登録 2020 (へ) 第1421号 一級建築士 174531号 中谷芳一					



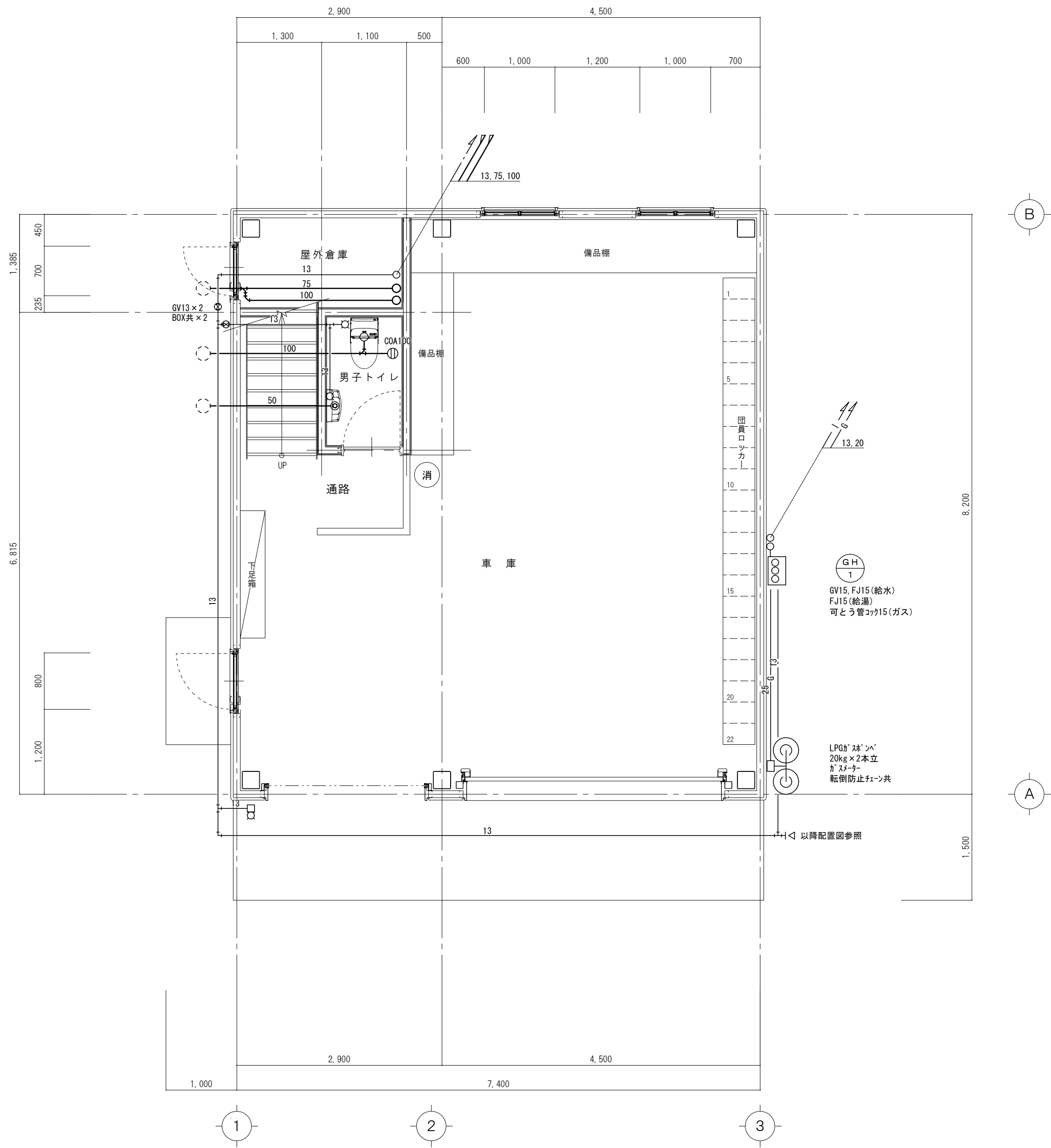
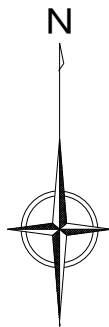
樹リスト				
記号	名 称	大 き さ	深 さ	マンホール蓋
①	小口径樹	200φ	400H	防臭型樹脂製 200φ
②	小口径樹	200φ	410H	防臭型樹脂製 200φ
③	小口径樹	200φ	420H	防臭型樹脂製 200φ
④	小口径樹	200φ	510H	防護ハットT-14 200φ
⑤	小口径樹	200φ	690H	防護ハットT-14 200φ
⑥	小口径樹	200φ	740H	防臭型樹脂製 200φ

注) 樹深さは管底を示し参考深さとする。

※同等品とする

[illegible]

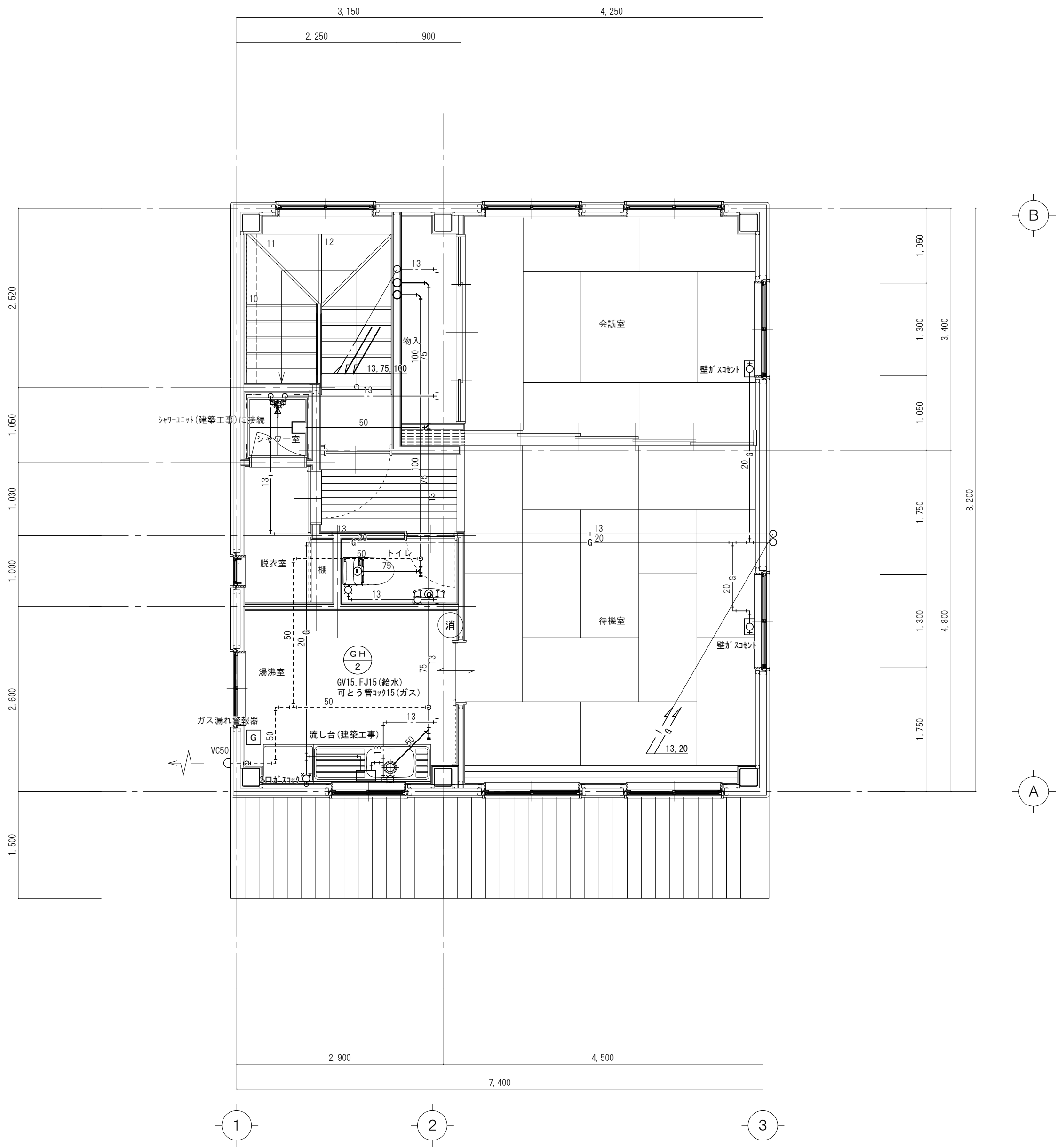
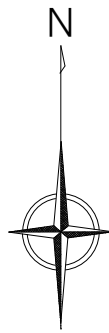
工事名 御所市消防団第8分団消防車庫改築工事			設計図		図面番号 M - 07	
図名 衛生設備 器具表			縮尺		作成日 年 月 日	
					確認印	
			実測日 (最終) 年 月 日			
総合企画、建築設計、監理 株式会社 中和設計			一級建築士事務所 奈良県知事登録 2020 (ハ) 第1421号 一級建築士 174531号 中谷芳一			



消 : 消火器 (ABC10型 据置台・表示板共) 設置箇所
※消火器は歩行距離20m以内とし、物品があっても歩行距離が補えるように設置とする。

1 階 平面詳細図 S = 1/50

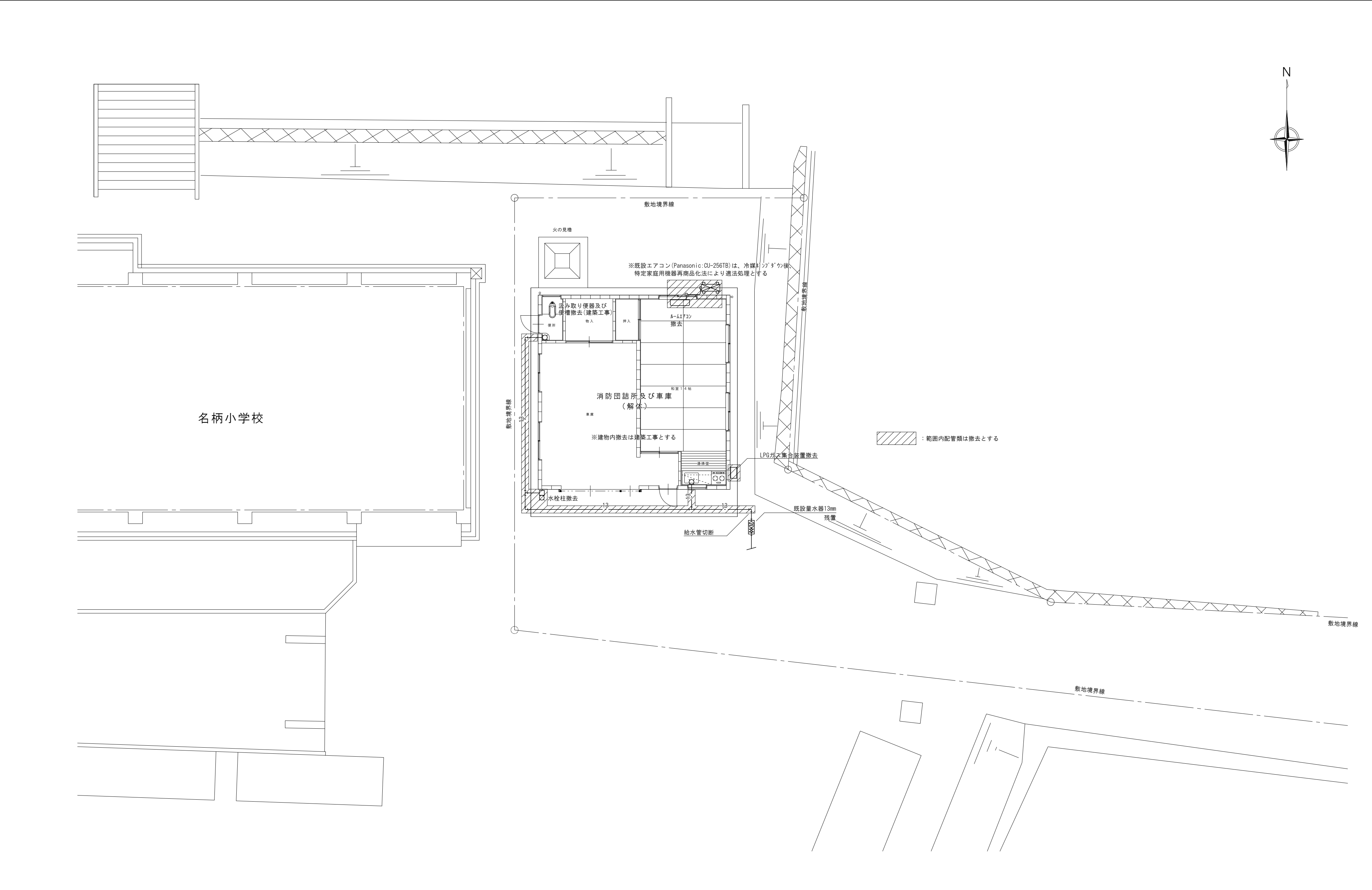
工事名 御所市消防団第8分団消防車庫改築工事				設計図		図面番号 M - 08
図名 衛生設備 1階平面詳細図			縮尺 1/50	作成日 年 月 日	確認印	
総合企画、建築設計、監理 株式会社 中和設計			一般建築士事務所 奈良県知事登録 2020 (へ) 第1421号 一般建築士 174531号 中谷芳一	変更日 (最終) 年 月 日		




消 : 消火器 (ABC10型 据置台・表示板共) 設置箇所
※消火器は歩行距離20m以内とし、物品があっても歩行距離が補えるように設置とする。

2 階 平面詳細図 S = 1/50

工事名			御所市消防団第8分団消防車庫改築工事			設計図		図面番号		
図名			衛生設備 2階平面詳細図		縮尺		1/50		作成日	
							年		月	
							日		確認印	
							変更日			
							(最終)		年	
							月			
							日			
			総合企画、建築設計、監理		株式会社		中和設計		一級建築士事務所 奈良県知事登録 2020 (へ) 第1421号	
									一級建築士 174531号 中谷芳一	



				工事名 御所市消防団第8分団消防車庫改築工事		設計図		図面番号 M - 10			
				図 名 衛生設備 配置図(現況・撤去)		縮尺 1/100		作成日 年 月 日		確認印	
						変更日 (最終)		年 月 日			
				総合企画、建築設計、監理 株式会社 中和設計		一般建築士事務所 奈良県知事登録 2020(ハ)第1421号 一般建築士証 174531号 中谷芳一					

空調機器リスト


[illegible]

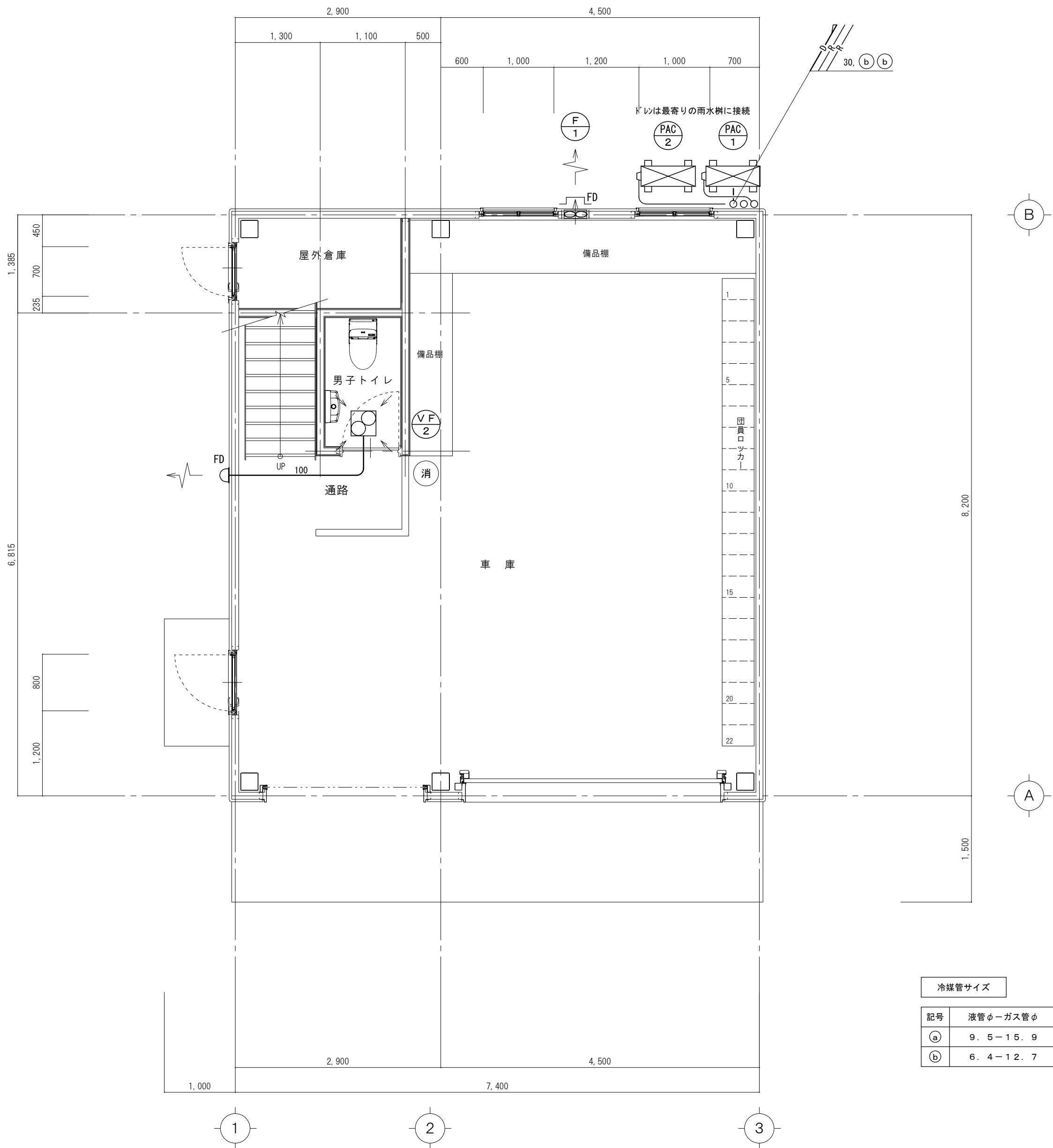
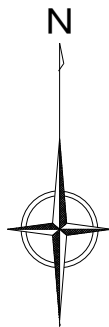
注記：1. 空調機の室外機と室内機との二次側連絡配管配線工事（冷媒管共巻）は、本工事とする。

換気機器リスト

[illegible]

()内数値は24時間換気風量とする
FD付深形フットは図示による

工事名 御所市消防団第8分団消防車庫改築工事			設計図		図面番号 M - 11	
図名 空調・換気設備 機器表			縮尺	作成日 年 月 日	確認印	
				変更日 (最終) 年 月 日		
 総合企画、建築設計、監理 株式会社 中柳設計			一級建築士事務所 奈良県知事登録 2020 (へ) 第1421号 一級建築士№174531号 中谷芳一			

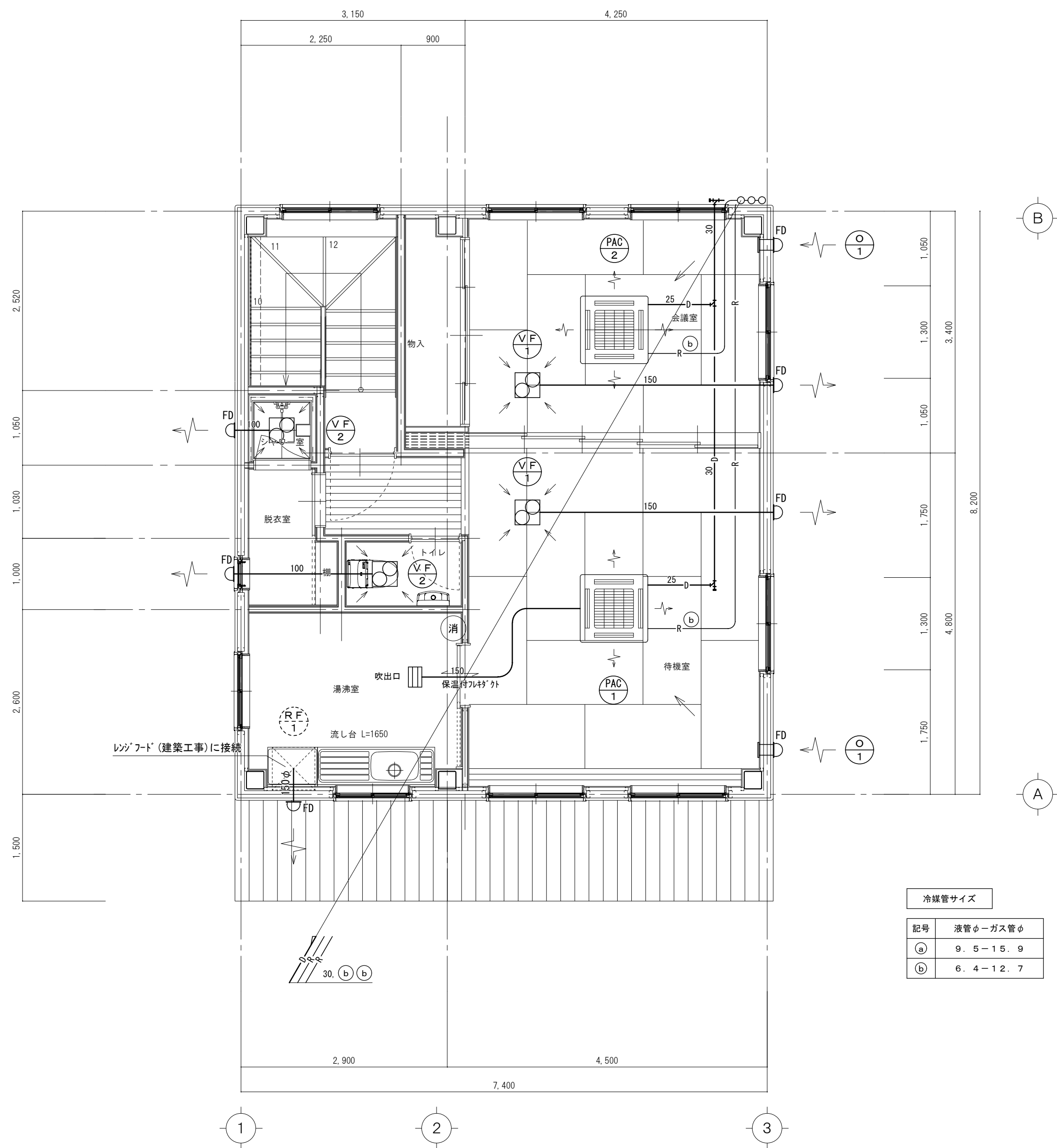


消 : 消火器 (ABC10型 据置台・表示板共) 設置箇所
※消火器は歩行距離20m以内とし、物品があっても歩行距離が補えるように設置とする。

1 階 平面詳細図 S = 1/50

冷媒管サイズ	
記号	液管φーガス管φ
a	9. 5ー15. 9
b	6. 4ー12. 7

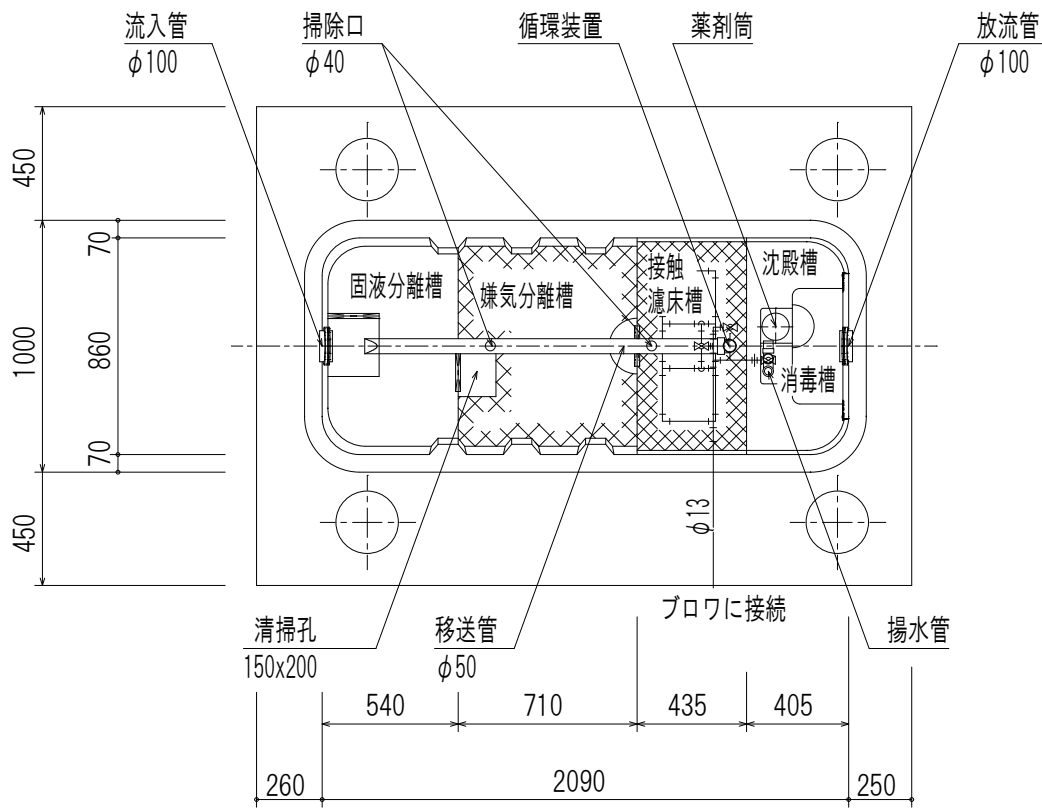
工事名 御所市消防団第8分団消防車庫改築工事				図面番号 M - 12	
図 名 空調・換気設備 1階平面詳細図			縮尺 1/50	作成日 年 月 日	確認印
				年 月 日	
総合企画、建築設計、監理 株式会社 中和設計			一級建築士事務所 奈良県知事登録 2020 (ハ) 第1421号 一級建築士 174531号 中谷芳一		



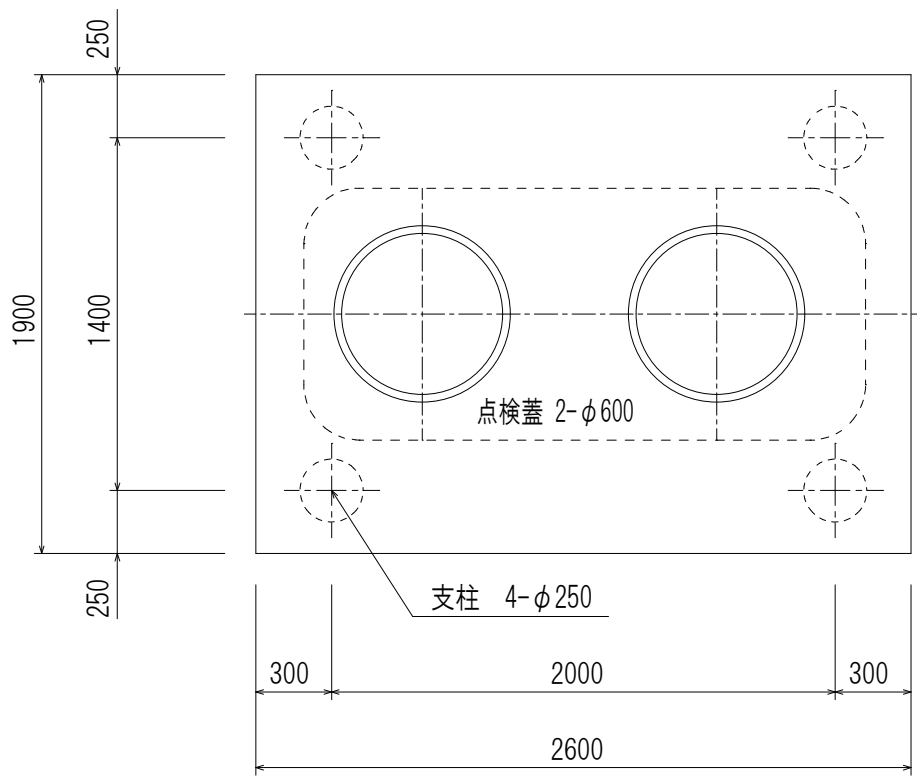
2階 平面詳細図 S = 1/50

冷媒管サイズ	
記号	液管φ-ガス管φ
Ⓐ	9.5 - 15.9
Ⓑ	6.4 - 12.7

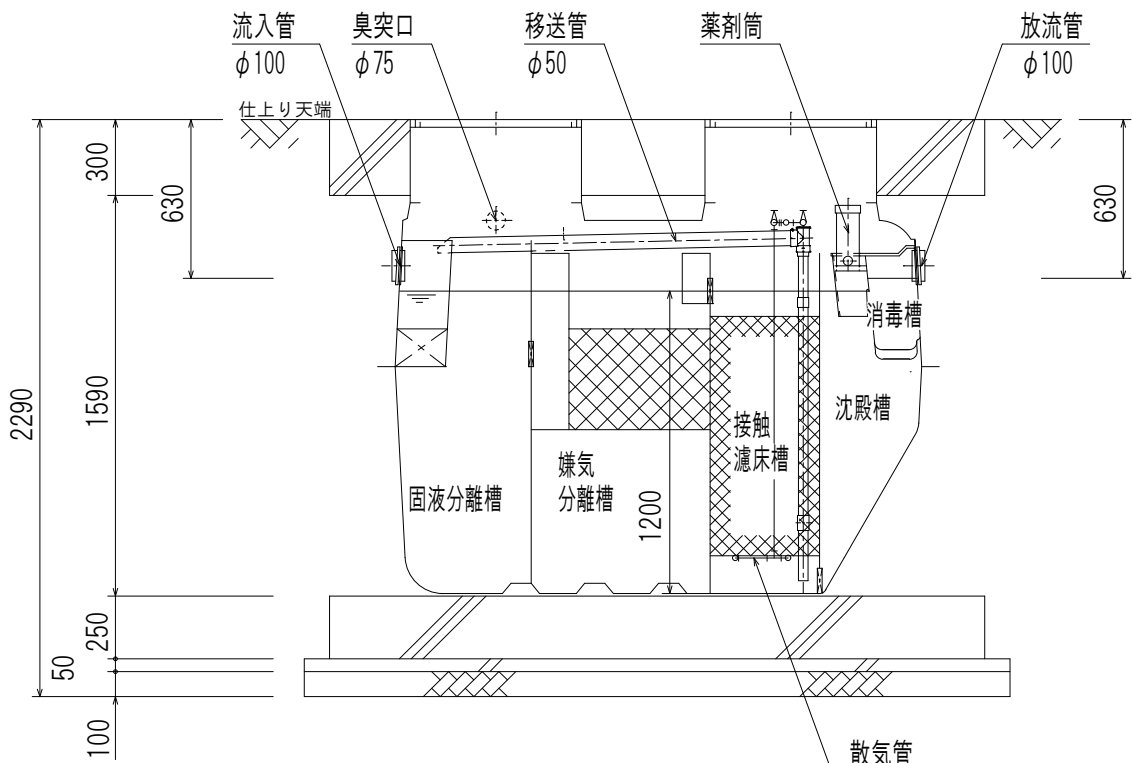
工事名		御所市消防団第8分団消防車庫改築工事				設計図		図面番号		M - 13	
図名		空調・換気設備 2階平面詳細図		縮尺		1/50		作成日		<div> <div> <div>生</div> <div>月</div> <div>日</div> </div> <div> <div>年</div> <div>月</div> <div>日</div> </div> </div>	
								変更日 (素姓)		<div> <div>生</div> <div>月</div> <div>日</div> </div> <div> <div>年</div> <div>月</div> <div>日</div> </div>	
		総合企画、建築設計、監理		株式会社 中畑設計		一級建築士事務所 奈良県知事登録 2020(ハ)第1421号 一級建築士№174531号 中谷芳一					



平面図 S=1/30

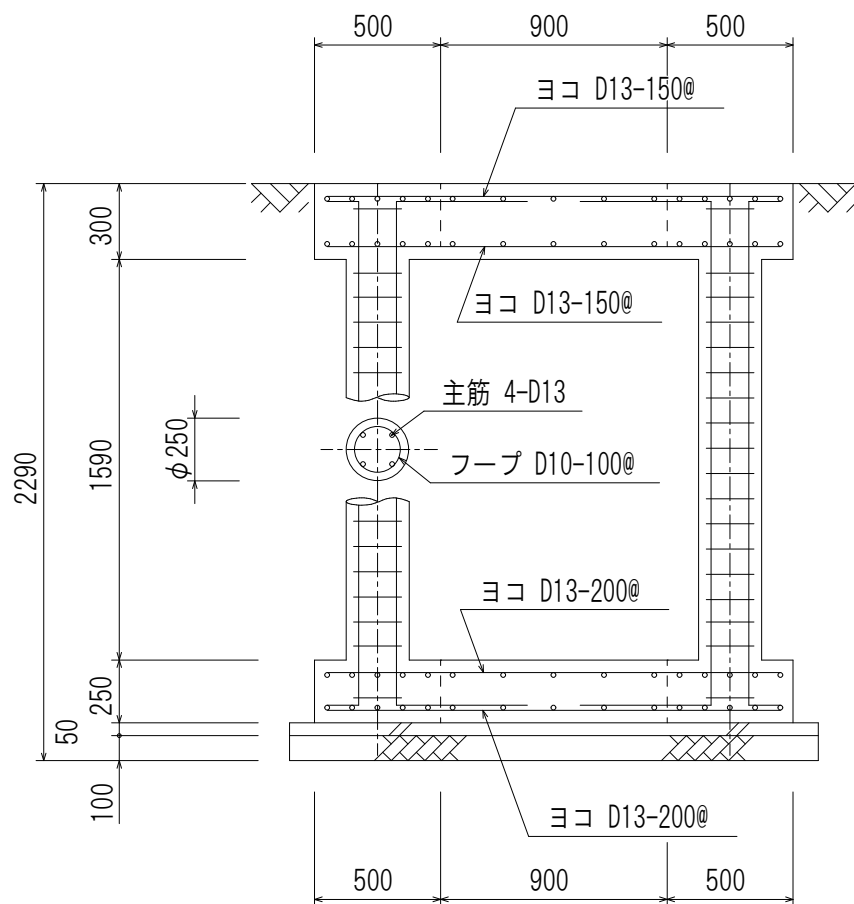


スラブ平面図 S=1/30



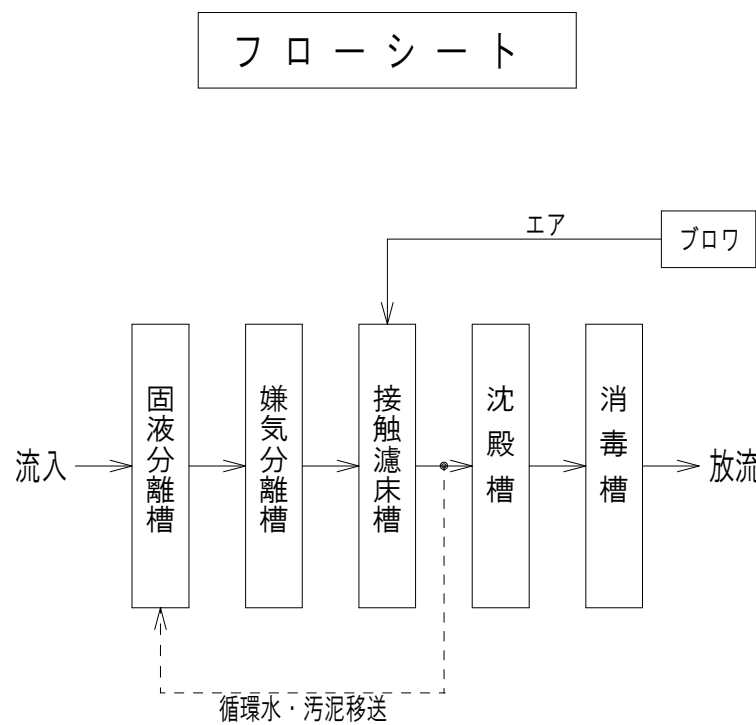
断面図 S=1/30

タテ 上端筋	5-D16	D13-200@	5-D16
タテ 下端筋	5-D16	D13-200@	5-D16



タテ 上端筋	5-D16	D13-200@	5-D16
タテ 下端筋	5-D16	D13-200@	5-D16

配筋断面図（短辺） S=1/30



設計仕様

型式	CXN2-5
認定番号	4-18K-H-004
適合認定番号	型01CadOa0054315
処理対象人員	5 人
日平均汚水量	1.00 m3/日
流入水水质	BOD 200 mg/L T-N 50 mg/L
流出水水质	BOD 20 mg/L T-N 20 mg/L SS 15 mg/L

槽 名	有効容量(m3)
固液分離槽	0.475
嫌気分離槽	0.664
接触濾床槽	0.405
沈 殿 槽	0.238
消 毒 槽	0.022

種 類	点検蓋（丸型）
蓋	25000Kg荷重用
枠	FCD500
備 考	FC 200
	SUS製ボルトロック付

品 名	台数	仕 様
プロウ	1	13 A x 60 L/分 x 14.7 kPa x 35 W

JDK-60

- [注 記] ・開口の表示は内径寸法とし、全高は外寸とします。
- ・本図面の流入管底は浄化槽天端－630（標準＋300H嵩上げ）の寸法となります。
 - ・浄化槽用コンセントは1ヶ所必要となります。
 - ・本浄化槽流入管底は仕上がり天端－550～－630までとなります、これ以上深くなる場合は別途原水ポンプ槽が必要となります。
 - ・浄化槽用放流ポンプ槽が必要な場合は、別途工事となります。
 - ・本浄化槽上部積載荷重は重荷重T－25仕様（支柱構造）となります。
 - ・浄化槽用臭突管（頂部仕上り共）工事は機械設備工事となります。
 - ・上部開口蓋は鋳鉄製マンホール（6250K仕様）となります。
 - ・地質調査及び地盤改良、補強杭等特殊工事は建築工事となります。
 - ・重機及び資材搬入路の養生費は建築工事となります。

入札時積算数量書

○入札時積算数量書について

入札時積算数量書とは、発注者が入札時において積算数量として、公共建築工事内訳書標準書式に基づき作成した種目別内訳、科目別内訳、中科目別内訳及び細目別内訳の名称、数量及び単位を取りまとめて示す書面をいう。入札時積算数量書は、入札説明書等の添付資料として、交付し公開するものである。

○入札時積算数量書活用方式の適用

① 本工事は、入札時積算数量書活用方式の対象工事である。本方式では、入札時において発注者が入札時積算数量書を示し、入札参加者が入札時積算数量書に記載された積算数量を活用して入札に参加することを通じ、工事請負契約の締結後において、当該積算数量に疑義が生じた場合に、発注者及び受注者は、入札時積算数量書に基づき、積算数量に関する協議を行うことができる。なお、入札時積算数量書に記載された積算数量については、当該積算数量に基づく工事費内訳書の提出や契約締結後における工事の施工を求めるものではない。

② 受注者は、入札時積算数量書に記載された積算数量に疑義が生じた場合は、直ちに協議を求めるものとする。ただし、当該疑義に係る積算数量の部分の工事が完了した場合、協議を求めることができないものとする。

③ 受注者からの請求による①の協議は、入札時積算数量書における当該疑義に係る積算数量と、これに対応する工事費内訳書における当該数量とが同一であると確認できた場合にのみ行うことができるものとする。

④ ①の協議（発注者が請求する場合も含む。）は、入札時積算数量書に基づき行うものとする。ただし、入札時積算数量書の細目別内訳において数量を一式としている細目（設計図書において施工条件が明示された項目を除く。）を除く。

⑤ ①の協議の結果、入札時積算数量書に記載された積算数量に訂正が必要となった場合は、契約書、設計図書及び数量基準に定めるところによるものとする。

御所市消防団第8分団消防車庫改築工事

金 円

(工事価格 金 円)

(種目別内訳)

名 称	摘 要	数 量	単 位	金 額	備 考
直接工事費					
I 建築工事		1	式		
II 電気設備工事		1	式		
III 機械設備工事		1	式		
IV 昇降機設備工事					
V その他工事		1	式		
VI 発生材処分費		1	式		
直接工事費計					
共通費					
I 共通仮設費		1	式		
II 現場管理費		1	式		
III 一般管理費等		1	式		
共通費計					
合計 (工事価格)					
消費税等相当額	10.0%	1	式		
総合計 (工事費)					

	名 称	内 容		数 量	単位	単 価	計 金	摘 要
	積み上げ共通仮設費							
	測定	物質測定		3.00	か所			代価表A-1
	仮囲い	ガードフェンス	1800	23.40				代価表A-2
	仮囲い 養生シート張り			21.10	m ²			代価表A-3
	キャスターゲート	6000	1800	1.00	か所			刊行物比較表
	ガードマン	交通誘導員		130.00	人			AKF-6
	I 計							

	名 称	内 容	数 量	単位	単 価	計 金	摘 要
	直接工事費						
I	建築工事 鉄 工事除く		1.00	式			
	鉄 工事		1.00	式			
II	電気設備工事		1.00	式			
III	機械設備工事	浄化槽含む	1.00	式			
IV	小学校改修工事	経費は建築工事へ計上	1.00	式			
	その他工事		1.00	式			
	計						
VI	発生材処分費		1.00	式			
	計						

	名 称	内 容	数 量	単位	単 価	計 金	摘 要
I	建築工事 鉄 工事除く						
1	直接仮設工事		1.00	式			
2	土工事		1.00	式			
3	コンクリート・型枠工事		1.00	式			
4	鉄筋工事		1.00	式			
6	防水工事		1.00	式			
7	木工事		1.00	式			
8	屋根及び樋工事		1.00	式			
9	金属工事		1.00	式			
10	左官工事		1.00	式			
11	金属製建具工事		1.00	式			
12	木製建具工事		1.00	式			
13	塗装工事		1.00	式			
14	内装工事		1.00	式			
15	雑工事		1.00	式			
16	屋外附帯工事		1.00	式			
	I 計						

	名 称	内 容		数 量	単位	単 価	計 金	摘 要
1	直接仮設工事							
	やり方			60. 70	m ²			AK-4
	墨出し			121. 00	m ²			AK-4
	養生費			121. 00	m ²			AK-5
	後片付け			121. 00	m ²			AK-5
	外部くさび緊結式足場	先行手摺型	安全手摺共	339. 00	m ²			刊行物比較表
	垂直養生	メッシュシート		339. 00	m ²			代価表A-4
	基礎地足場			60. 70	m ²			代価表A-5
	内部仕上げ足場	脚立		105. 00	m ²			代価表A-6
	内部仕上げ足場	階段足場		8. 00	m ²			代価表A-7
	鉄 工事安全仮設			1. 00	式			見積比較表
	1 計							

	名 称	内 容		数 量	単位	単 価	計 金	摘 要
2	土工事							
	根切り	機械		118. 00	m ³			AK-37
	すきとり	機械		2. 60	m ³			AK-38
	床付け	機械		104. 00	m ²			AK-37
	埋戻し	機械		74. 40	m ³			AK-37
	発生土積込み	浄化槽残土含む		70. 30	m ³			AK-38
	発生土運搬費	浄化槽残土含む		70. 30	m ³			産廃比較表
	土工機械運搬			1. 00	往復			AK-38
	割石地業	基礎下	t=60	1. 60	m ³			AK-39
	割石地業	土間下	t=60 100	5. 00	m ³			AK-39
	防湿シート敷き	重敷	t=0. 15	60. 70	m ²			AK-39
	改良杭	固化材含む		249. 00				見積比較表
	重機及びプラント回送費			1. 00	式			見積比較表
	バックホウ及び回送費			1. 00	式			見積比較表
	杭頭処理費			1. 00	式			見積比較表

	名 称	内 容		数 量	単位	単 価	計 金	摘 要
	土質サンプル採取			1.00	式			見積比較表
	配合試 費			1.00	式			見積比較表
	六価クロム試			1.00	式			見積比較表
	全長コアボーリング			1.00	か所			見積比較表
	一軸圧縮試 費			1.00	式			見積比較表
	施工管理費			1.00	式			見積比較表
	建込み簡易土留め	17.6	深さ3.0 以下	1.00	式			代価表A-34
	2 計							

	名 称	内 容		数 量	単位	単 価	計 金	摘 要
3	コンクリート・型枠工事							
	基礎コンクリート	Fc-27-20-15	4地区	33.70	m ³			AKF-3
	土間コンクリート	Fc-21-20-15	4地区	2.00	m ³			AKF-1
	スラブコンクリート	Fc-27-20-18	4地区	11.70	m ³			AKF-3
	デッキコンクリート	Fc-27-20-18	4地区	5.80	m ³			AKF-3
	捨てコンクリート	Fc-18-20-15	4地区	5.60	m ³			AKF-1
	基礎コンクリート打設	ポンプ打ち		33.70	m ³			AK-40
	土間コンクリート打設	ポンプ打ち		2.00	m ³			AK-40
	スラブコンクリート打設	ポンプ打ち		11.70	m ³			AK-40
	デッキコンクリート打設	ポンプ打ち		5.80	m ³			AK-40
	捨てコンクリート打設	人力		5.60	m ³			AK-40
	ポンプ圧送費	圧送料金		53.20	m ³			AK-41
	ポンプ圧送費	基本料金		4.00	回			AK-41
	普通型枠			115.00	m ²			AK-42
	打ち放し型枠		種	9.20	m ²			AK-42
	打ち放し補修費			9.20	m ²			AK-41
	型枠運搬費		4t車	124.00	m ²			AK-42
	3 計							

	名 称	内 容		数 量	単位	単 価	計 金	摘 要
4	鉄筋工事							
	異形鉄筋	10	SD295A	1. 10				AK-1
	異形鉄筋	13	SD295A	2. 20				AK-1
	異形鉄筋	19	SD345	0. 30				AK-1
	異形鉄筋	22	SD345	1. 50				AK-1
	鉄筋組立・加工費			4. 90				AK-198
	鉄筋運搬費		4t車	4. 90				AK-40
	鉄筋圧接	22+ 22		50. 00	か所			AK-40
	ワイヤーメッシュ	6φ	150×150	55. 00	m ²			AK-54
	地中梁開口補強		100φ程度	2. 00	か所			刊行物比較表
	スクラップ			0. 20				刊行物比較表
	4 計							

	名 称	内 容		数 量	単位	単 価	計 金	摘 要
5	鉄 工事							
	鋼材	□-250*250*12	295	3.00				刊行物比較表
	鋼材	□-250*250*9	295	0.70				刊行物比較表
	鋼材	-400*200	400	2.70				刊行物比較表
	鋼材	-200*100	400	0.80				刊行物比較表
	鋼材	-244*175	400	1.50				刊行物比較表
	鋼材	-250*125	400	0.80				刊行物比較表
	鋼材	[-100*50	400	0.10				刊行物比較表
	鋼材	-100*100	400	2.00				刊行物比較表
	鋼材	-100*50	400	0.03				刊行物比較表
	鋼材	-65*65*6	400	0.20				刊行物比較表
	鋼材	-22	490	0.20				刊行物比較表
	鋼材	-19	490	0.20				刊行物比較表
	鋼材	-16	490	0.03				刊行物比較表
	鋼材	-16	400	0.02				刊行物比較表
	鋼材	-12	400	0.10				刊行物比較表
	鋼材	-9	400	0.60				刊行物比較表
	鋼材	-6	400	0.30				刊行物比較表

	名 称	内 容	数 量	単位	単 価	計 金	摘 要
	工場加工費		12. 60				見積比較表
	錆止め塗装費		12. 60				AK-44
	運送費	小型車	12. 60				見積比較表
	揚重機費	13t車	12. 60				見積比較表
	建て方費		12. 60				AK-43
	現場鉄工費		12. 60				見積比較表
	消耗品費		12. 60				見積比較表
	検査費		12. 60				見積比較表
		20	243. 00	kg			見積比較表
		16	109. 00	kg			見積比較表
	中ボルト	12	86. 60	kg			見積比較表
	ブレース	16	218. 00	kg			見積比較表
	デッキ	99-50-12	0. 70				見積比較表
	小口塞ぎ		14. 80				見積比較表
	コンクリート止め		31. 20				見積比較表

	名 称	内 容	数 量	単位	単 価	計 金	摘 要
	屋根母屋	-100*50*20*2.3	0.50				見積比較表
	壁胴縁	-100*50*20*2.3	1.40				見積比較表
	鉄 階段		1.00	式			見積比較表
	ベース	SS253	6.00	セット			見積比較表
	ベース施工費		6.00	セット			見積比較表
	頭付スタッド		300.00	本			見積比較表
	頭付スタッド 施工費		1.00	式			見積比較表
	溶融亜鉛メッキ	50	0.40				見積比較表
	同上回送費		1.00	往復			見積比較表
	アンカーボルト	16 320	32.00	本			刊行物比較表
	アンカーボルト埋め込み		32.00	本			AK-44
	柱脚ベース下モルタル	500×500	6.00	か所			AK-44
	スクラップ		0.60				刊行物比較表
	5 計						

	名 称	内 容	数 量	単位	単 価	計 金	摘 要
7	木工事						
	額縁	スプルス	145×25	43.60			刊行物比較表
	額縁	スプルス	90×25	9.70			刊行物比較表
	木製建具三方枠	スプルス	130×25	5.00			刊行物比較表
	木製建具三方枠	スプルス	110×25	5.40			刊行物比較表
	居	杉	120×35	2.60			刊行物比較表
	敷居	杉	120×45	2.60			刊行物比較表
	居	杉	220×35	4.10			刊行物比較表
	敷居	杉	220×45	4.10			刊行物比較表
	竪枠	杉	120×25	4.00			刊行物比較表
	竪枠	杉	220×25	2.00			刊行物比較表
	面台	積層材	300×30	2.30			代価表A-8
	階段笠木	積層材	150×30	1.70			代価表A-9
	笠木	スプルス	95×25	3.60			刊行物比較表
	床下地 際根太	米母	40×45	16.00			刊行物比較表
	脱衣室 棚		1.00	か所			刊行物比較表
	物入 中段・枕棚		1.00	か所			刊行物比較表
	7 計						

	名 称	内 容		数 量	単位	単 価	計 金	摘 要
8	屋根及び樋工事							
	【大屋根】							
	屋根 ルーフデッキ葺き			62.20	m ²			見積比較表
	屋根裏 ペフ			62.20	m ²			見積比較表
	タイトフレーム			29.60				見積比較表
	妻側タイトフレーム			18.00	か所			見積比較表
	軒先見切面戸			7.40				見積比較表
	軒先水切			7.40				見積比較表
	止面戸			7.40				見積比較表
	水上取合い水切			7.40				見積比較表
	妻側登り取合い水切			16.80				見積比較表
	塩ビ軒樋	前	120	7.40				刊行物比較表
	落とし口			2.00	か所			刊行物比較表
	豎樋	エルボ共	カラー 75φ	14.00				AK-52

	名 称	内 容		数 量	単位	単 価	計 金	摘 要
	【庇】							
	屋根 ルーフデッキ葺き			11.90	m ²			見積比較表
	屋根裏 ベフ			11.90	m ²			見積比較表
	タイトフレーム			14.80				見積比較表
	妻側タイトフレーム			6.00	か所			見積比較表
	軒先見切面戸			7.40				見積比較表
	軒先水切			7.40				見積比較表
	止面戸			7.40				見積比較表
	水上取合い水切			7.40				見積比較表
	妻側包み			3.20				見積比較表
	塩ビ軒樋	前	120	7.40				刊行物比較表
	落とし口			1.00	か所			刊行物比較表
	豎樋	エルボ共	カラー 75φ	5.50				AK-52
	8 計							

	名 称	内 容		数 量	単位	単 価	計 金	摘 要
9	金属工事							
	【外部】							
	外壁 サイディング			229.00	m ²			見積比較表
	透湿シート			229.00	m ²			見積比較表
	腰水切			23.80				見積比較表
	外壁下端面戸			23.80				見積比較表
	出隅仕舞			28.40				見積比較表
	開口部廻り上端水切			23.40				見積比較表
	開口部廻り横水切			41.00				見積比較表
	開口部廻り下端水切			16.10				見積比較表
	同上下端面戸			16.10				見積比較表
	梁型貫通部雨仕舞			3.00	か所			見積比較表
	外壁上端面戸			54.30				見積比較表
	アルミ笠木	カラー	200	23.80				刊行物比較表
	アルミ笠木コーナー	カラー	200	2.00	か所			刊行物比較表
	アルミ製庇	1800	出巾1000	1.00	か所			代価表A-10
	アルミ製庇	1400	出巾300	9.00	か所			代価表A-11
	アルミ製庇	1100	出巾300	2.00	か所			代価表A-12

	名 称	内 容		数 量	単位	単 価	計 金	摘 要
	【内部】							
	壁軽鉄下地	90形		60. 10	m ²			AK-62
	壁軽鉄下地	65形		63. 40	m ²			AK-62
	壁軽鉄下地	50形		41. 40	m ²			AK-62
	天井軽鉄下地	19形		61. 90	m ²			AK-63
	壁軽鉄下地 開口補強	90形	900×2000程度	3. 00	か所			AK-64
	壁軽鉄下地 開口補強	65形	900×2000程度	3. 00	か所			AK-64
	壁軽鉄下地 開口補強	65形	1200×2000程度	1. 00	か所			AK-64
	壁軽鉄下地 開口補強	50形	1300×1100程度	7. 00	か所			刊行物比較表
	壁軽鉄下地 開口補強	50形	1000×600程度	1. 00	か所			刊行物比較表
	壁軽鉄下地 開口補強	50形	1000×1100程度	1. 00	か所			刊行物比較表
	壁軽鉄下地 開口補強	50形	400×900程度	1. 00	か所			刊行物比較表
	天井軽鉄下地 開口補強	19形	450×450程度	9. 00	か所			AK-64
	天井軽鉄下地 開口補強	19形	900×900程度	2. 00	か所			AK-64
	階段段 ノンスリップ	ステンレス製	40	19. 40				AK-99
	ステンレス沓摺	40	t=2. 0	3. 30				AK-99
	流し前壁水切	ステンレス製	t=0. 4	2. 20				P-264

	名 称	内 容		数 量	単位	単 価	計 金	摘 要
	天井点検口	アルミ製	450×450	4. 00	か所			AK-61
	カーテンレール	ステンレス製		9. 00				AK-100
	階段ビニル手摺	木目調	ブラケット共	5. 60				刊行物比較表
	9 計							

	名 称	内 容		数 量	単位	単 価	計 金	摘 要
10	左官工事							
	【外部】							
	土間コンクリート直押え			13. 10	m ²			AK-65
	巾木 モルタル塗り			23. 90				AK-65
	【内部】							
	床 コンクリート直押え			52. 70	m ²			AK-65
	床 防水モルタルこて押え			4. 10	m ²			刊行物比較表
	床 モルタルこて押え			3. 30	m ²			AK-65
	階段 モルタルこて押え	床シート下		5. 70	m ²			AK-65
	セルフレベリング	セメント系	t=10	10. 80	m ²			刊行物比較表
	セルフレベリング	セメント系	t=15	36. 00	m ²			刊行物比較表
	セルフレベリング	セメント系	t=20	7. 10	m ²			刊行物比較表
	サッシウトロ詰め	防水剤入り		6. 80				AK-67
	10 計							

	名 称	内 容	数 量	単位	単 価	計 金	摘 要
11	金属製建具工事						
	-1 アルミ 窓		2.00	か所			見積比較表
	-2 アルミ製引違い窓		7.00	か所			見積比較表
	-3 アルミ製引違い窓		1.00	か所			見積比較表
	-4 アルミ製引違い窓		1.00	か所			見積比較表
	-5 アルミ製ルーバー窓		1.00	か所			見積比較表
	-1 アルミ製ガラリ		2.00	か所			見積比較表
	-1 アルミ製片開き戸		1.00	か所			見積比較表
	-2 アルミ製片開き戸		1.00	か所			見積比較表
	-3 アルミ製片開き戸		1.00	か所			見積比較表
	-4 アルミ製片開き戸	防火設備	1.00	か所			見積比較表
	-1 オーバースライディングシャッター		1.00	か所			見積比較表
	軽量バランスシャッター		1.00	か所			見積比較表

	名 称	内 容	数 量	単位	単 価	計 金	摘 要
12	木製建具工事						
	木製片開き戸	650×2000	1.00	か所			代価表A-13
	木製上吊り片引き戸	850×2000	1.00	か所			代価表A-14
	木製上吊り片引き戸	730×2000	1.00	か所			代価表A-15
	木製引違い戸		1.00	か所			代価表A-16
	木製引込み戸		1.00	か所			代価表A-17
	12 計						

	名 称	内 容		数 量	単位	単 価	計 金	摘 要
13	塗装工事							
	【外部】							
	庇下 鉄 塗装	種		9. 20	m ²			AK-75
	庇下 ブレース 塗装	種		15. 60				AK-79
	【内部】							
	壁 鉄 塗装	種	細幅	199. 00				AK-75
	壁 鉄 塗装	種		55. 50	m ²			AK-79
	壁 ボード面 塗装	種		26. 50	m ²			AK-76
	天井 鉄 ・ デッキ 塗装	種		83. 50	m ²			AK-75
	笠木 木面 塗装	種	細幅	3. 60				AK-79
	面台 木面 塗装	種	細幅	2. 30				AK-79
	階段手摺笠木 木面 塗装	種	細幅	1. 70				AK-79
	三方枠 木面 塗装	種	細幅	10. 40				AK-79
	額縁 木面 塗装	種	細幅	53. 30				AK-79
	13 計							

	名 称	内 容		数 量	単位	単 価	計 金	摘 要
14	内装工事							
	床 防塵塗床仕上げ			52.70	m ²			刊行物比較表
	床 塗床仕上げ	エポキシ樹脂系	防滑仕様	4.10	m ²			刊行物比較表
	床 畳敷き	種 1畳	t=55	22.00	枚			AK-90
	床 畳敷き	種 半畳	t=55	1.00	枚			AK-90
	床 フローリング	なら 種	t=12	4.00	m ²			AK-90
	床 ラワン合板		t=12	16.50	m ²			刊行物比較表
	床 ラワン合板		t=5.5	13.50	m ²			刊行物比較表
	床 クッションフロア		t 2.3	10.80	m ²			刊行物比較表
	床 超防汚性床シート		t=2.0	1.70	m ²			代価表A-18
	床 長尺塩ビシート	無地	t=2.0	1.00	m ²			AK-92
	床 長尺塩ビシート	階段	t=2.0	5.70	m ²			AK-93
	床下地 ネダフォーム	和室用	t=40	33.30	m ²			刊行物比較表
	床下地 ネダフォーム	洋室用	t=78	20.50	m ²			刊行物比較表
	巾木 畳寄せ			16.00				刊行物比較表
	巾木 雑巾摺り			10.60				刊行物比較表
	巾木 ソフト巾木		60	26.70				AK-93

	名 称	内 容	数 量	単位	単 価	計 金	摘 要
	壁 シーリング石膏ボード	継目処理	12.5 9.5	12.10	m ²		AK-95
	壁 石膏ボード	継目処理	12.5 9.5	131.00	m ²		AK-94
	壁 石膏ボード	継目処理	12.5	61.00	m ²		AK-94
	壁 壁紙			158.00	m ²		代価表A-19
	壁 ケイ酸カルシウム板	下地張り	6	13.00	m ²		AK-96
	壁 化粧ケイ酸カルシウム板	アルミジョイナー共	6	13.00	m ²		刊行物比較表
	壁 ラワン合板		t=12	12.30	m ²		P-526
	天井 化粧石膏ボード		9.5	65.50	m ²		AK-97
	廻り縁	塩ビ		91.80			AK-62
	壁見切り	アルミ製		5.00			AK-62
	壁 断熱材 グラスウール		t=50	41.40	m ²		刊行物比較表
	天井 断熱材 グラスウール		t=50	60.70	m ²		刊行物比較表
	14 計						

	名 称	内 容	数 量	単位	単 価	計 金	摘 要
15	雑工事						
	流し台	認定品	1500	1.00	台		AK-100
	ガス台	認定品	700	1.00	台		AK-100
	吊戸棚	認定品	1200	1.00	台		AK-100
	吊戸棚	認定品	300	1.00	台		代価表A-20
	水切り棚	1段	1200	1.00	台		AK-100
	レンジフードファン		750	1.00	台		代価表A-21
	煙式住宅用防災警報器	消防認定品		3.00	か所		WEB
	誘導標識	消防認定品		2.00	枚		
	下足箱		900×330×1264	1.00	台		
	木製棚			1.00	式		代価表A-22
	15 計						

	名 称	内 容		数 量	単位	単 価	計 金	摘 要
16	屋外附帯工事							
	ホース乾燥柱			1.00	基			見積比較表
	サイレン設置柱			1.00	基			代価表A-23
	所作業車		作業 さ16	1.00	台			代価表A-24
	レッカー車	10	オペ付	1.00	台			AK-3
	サイレン雨除け屋根			1.00	か所			代価表A-25
	メッシュフェンス	1500	基礎共	11.30				刊行物比較表
	メッシュフェンス扉			1.00	か所			代価表A-26
	縁石	地先境界ブロック	120×120×600	33.80				AK-103
	既製コンクリート雨水桝	種		2.00	か所			刊行物比較表
	既製コンクリート雨水桝	種		1.00	か所			刊行物比較表
	雨水排水管	地中	75φ	18.40				MK-40
	雨水排水管	屋外架空	100φ	2.00				MK-40
	16 計							

	名 称	内 容	数 量	単位	単 価	計 金	摘 要
Ⅱ	電気設備工事						
1	電灯設備	1 電灯幹線	1.00	式			
		2 電灯分岐	1.00	式			
		3 コンセント分岐	1.00	式			
2	動力設備	1 動力幹線	1.00	式			
		2 動力分岐	1.00	式			
3	雷保護設備		1.00	式			
4	構内交換設備		1.00	式			
	Ⅱ 計						

	名 称	内 容		数 量	単位	単 価	計 金	摘 要
1-1	電灯幹線							
	電線	EM-IE 5.5sq	管内	35.00				EK-90
	ケーブル	EM-CET 22sq	管内	19.00				EK-25
	電線管	CP39	露出(塗装有)	4.00				EK-7
	電線管	EP39	露出(塗装有)	15.00				EK-7
	電線管	VE16	露出	4.00				EK-8
	電線管	VE16	地中	1.00				EK-130
	プルボックス	300×300×200	塗装共	2.00	個			EK-197
	プルボックス	400×400×200	塗装共	3.00	個			EK-197
		CP39		1.00	個			EK-189
	分電盤			1.00	個			代価 E- 1
	引込開閉器盤			1.00	個			代価 E- 2
	接地極	14φ×1.5m		2.00	箇所			EK-93
	接地極埋設標			2.00	枚			EK-93
	1-1 計							

	名 称	内 容		数 量	単位	単 価	計 金	摘 要
1-2	電灯分岐							
	ケーブル	EM-EEF1. 6-2C	管内	29. 00				EK-92
	ケーブル	EM-EEF1. 6-3C	管内	35. 00				EK-92
	ケーブル	EM-EEF1. 6-2C		15. 00				EK-92
	ケーブル	EM-EEF1. 6-3C		51. 00				EK-92
	ケーブル	EM-EEF1. 6-2C	PF管内	12. 00				EK-92
	ケーブル	EM-EEF1. 6-3C	PF管内	10. 00				EK-92
	電線管	EP19	露出(塗装有)	13. 00				EK-7
	電線管	EP25	露出(塗装有)	40. 00				EK-7
	電線管	PF16		6. 00				EK-8
	電線管	PF22		13. 00				EK-8
	合成樹脂製	四角中浅		10. 00	個			EK-11
	合成樹脂製	四角中深		9. 00	個			EK-11
	露出	1ヶ用	塗装共	2. 00	個			EK-11
	露出	2ヶ用	塗装共	1. 00	個			EK-11
	丸形露出	1方出	塗装共	2. 00	個			EK-10
	丸形露出	2方出	塗装共	2. 00	個			EK-10
	丸形露出	3方出	塗装共	6. 00	個			EK-10
	埋込	1P15A×1		3. 00	個			EK-100

	名 称	内 容	数 量	単位	単 価	計 金	摘 要
	埋込	1P15A×3	1.00	個			EK-100
	埋込	3W15A×1	2.00	個			EK-100
	埋込	1PL15A×1	1.00	個			EK-100
	埋込	1P15A×1, 1PL15A×1	2.00	個			代価 E- 11
	埋込	1P15A×2, 1PL15A×1	1.00	個			代価 E- 12
	埋込	1P15A×3, 1PL15A×1	1.00	個			代価 E- 13
	24h換気	機械設備支給品	2.00	個			代価 E- 14
	埋込	2P15A×1	1.00	個			EK-212
	照明器具	A LSS1-4-65	8.00	個			代価 E- 21
	照明器具	B LSS9-2-15	4.00	個			代価 E- 22
	照明器具	C LSS9-4-65	7.00	個			代価 E- 23
	照明器具	D LSS3MP/RP-2-13	1.00	個			代価 E- 24
	照明器具	E	1.00	個			代価 E- 25
	照明器具	F LDS1-K1-LBF11	1.00	個			代価 E- 26
	照明器具	G	2.00	個			代価 E- 27
	照明器具	H	1.00	個			代価 E- 28
	撤去工事		1.00	式			代価 E- 31
	1-2 計						

	名 称	内 容		数 量	単位	単 価	計 金	摘 要
1-3	コンセント分岐							
	ケーブル	EM-EEF 2. 0-3C	管内	52. 00				EK-92
	ケーブル	EM-EEF 2. 0-3C		25. 00				EK-92
	ケーブル	EM-EEF 2. 0-3C	PF管内	40. 00				EK-92
	ケーブル	EM-EEF 2. 6-3C	管内	35. 00				EK-92
	電線管	GP28	露出(塗装有)	2. 00				EK-7
	電線管	EP25	露出(塗装有)	52. 00				EK-7
	電線管	EP31	露出(塗装有)	17. 00				EK-7
	電線管	PF22		40. 00				EK-8
	電動機接続	ㄷ 24	防水	2. 00	箇所			EK-116
		400×400×100	塗装共	1. 00	個			EK-197
		200×200×100	WPSUS	1. 00	個			EK-198
	合成樹脂製	四角中浅		10. 00	個			EK-11
	露出	1ヶ用	塗装共	2. 00	個			EK-11
	丸形露出	1方出	塗装共	2. 00	個			EK-10
	丸形露出	2方出	塗装共	2. 00	個			EK-10
	丸形露出	3方出	塗装共	1. 00	個			EK-10

	名 称	内 容	数 量	単位	単 価	計 金	摘 要
		連用形2P15A×1接地極, 接地端子付	2. 00	個			EK-212
		連用形2P15A×2接地極, 接地端子付	10. 00	個			EK-212
	1-3 計						

	名 称	内 容		数 量	単位	単 価	計 金	摘 要
2-1	動力幹線							
	ケーブル	EM-CET 14sq	管内	19.00				EK-25
	電線管	CP31	露出(塗装有)	4.00				EK-7
	電線管	EP31	露出(塗装有)	15.00				EK-7
		CP31		1.00	個			EK-189
	2-1 計							

	名 称	内 容		数 量	単位	単 価	計 金	摘 要
2-2	動力分岐							
	ケーブル	EM-CE2sq-4C	管内	11.00				EK-22
	ケーブル	EM-CE5.5sq-4C	管内	22.00				EK-22
	ケーブル	EM-CE2sq-4C	FEP管内	3.00				EK-24
	ケーブル	EM-CE5.5sq-4C	FEP管内	2.00				EK-24
	電線管	GP22	露出(塗装有)	3.00				EK-7
	電線管	GP28	露出(塗装有)	14.00				EK-7
	電線管	EP25	露出(塗装有)	8.00				EK-7
	電線管	EP31	露出(塗装有)	8.00				EK-7
	電線管	FEP30	地中	5.00				EK-132
		200×200×100	WPSUS	2.00	個			EK-198
		300×300×200	WPSUS	1.00	個			EK-198
	電動機接続	ㄟ 24	防水	1.00	箇所			EK-116
	電動機接続	ㄟ 30	防水	1.00	箇所			EK-116
	2-2 計							

	名 称	内 容	数 量	単位	単 価	計 金	摘 要
3	雷保護設備						
	突針	LR1 SUS-4	1.00	個			EK-117
	端子ボックス	TB-ST1	1.00	個			EK-119
	銅導線	2.0×13	15.00				積算 P. 176
	導線取付金具		12.00	個			EKF-110
	電線管	VE28	3.00				EK-8
	接地銅板	600×600×1.5t	1.00	個			EK-93
	接地極埋設標		1.00	枚			EK-93
	3 計						

	名 称	内 容		数 量	単位	単 価	計 金	摘 要
4	構内交換設備							
	ケーブル	EM-TIEF0. 65-2C	管内	27. 00				EK-51
	ケーブル	EM-TIEF0. 65-2C	PF管内	8. 00				EK-51
	導入線		管内	6. 00				EK-87
	導入線		PF管内	1. 00				EK-87
	電線管	EP19	露出(塗装有)	6. 00				EK-7
	電線管	EP25	露出(塗装有)	27. 00				EK-7
	電線管	PF16		1. 00				EK-8
	電線管	PF22		8. 00				EK-8
		CP31		1. 00	個			EK-189
	合成樹脂製	四角中浅		1. 00	個			EK-11
	丸形露出	1方出	塗装共	1. 00	個			EK-10
				1. 00	個			EK-137
	端子盤	保安器収容箱	400×300×120	1. 00	個			積算 P. 191
	4 計							

	名 称	内 容	数 量	単位	単 価	計 金	摘 要
Ⅲ	機械設備工事						
1	空調設備		1.00	式			
2	換気設備		1.00	式			
3	衛生器具設備		1.00	式			
4	給水設備		1.00	式			
5	排水設備		1.00	式			
6	給湯設備		1.00	式			
7	消火設備		1.00	式			
8	ガス設備		1.00	式			
9	撤去工事		1.00	式			
10	浄化槽設置		1.00	式			
	Ⅲ 計						

	名 称	内 容		数 量	単位	単 価	計 金	摘 要
1	空調設備							
	空冷	PAC-1		1.00	組			見積比較表
	空冷	PAC-2		1.00	組			見積比較表
	室外機据付	56		1.00	台			MK-89
	室外機据付	40		1.00	台			MK-89
	室内機据付	56		1.00	台			MK-89
	室内機据付	40		1.00	台			MK-89
	断熱材被覆銅管	ガス管	12.7φ	25.00				MK-224
	断熱材被覆銅管	液管	6.4φ	25.00				MK-224
	ドレン管	VP25	屋内一般	2.00				MK-219
	ドレン管	VP30	屋内一般	6.00				MK-219
	ドレン管	VP30	架空	7.00				MK-219
	冷媒保温工事	SUSラッキング	80A	14.00				MK-39
	ドレン保温工事	VP25	GW屋内隠蔽	2.00				MK-41
	ドレン保温工事	VP30	GW屋内隠蔽	6.00				MK-41

	名 称	内 容		数 量	単位	単 価	計 金	摘 要
2	換気設備							
	有圧扇	F-1		1.00	組			
	天井扇	VF-1		2.00	組			
	天井扇	VF-2		3.00	組			
	給気グリル	0-1		2.00	組			
	有圧扇据付	圧力扇	300φ	1.00	組			MK-97
	天井扇 グリル据付			7.00	組			MK-97
	丸形フード	150φ		5.00	個			MK-120
	丸形フード	100φ		3.00	個			MK-120
	スパイラルダクト	150φ		8.00				MK-109
	スパイラルダクト	100φ		6.00				MK-109
	2 計							

	名 称	内 容	数 量	単位	単 価	計 金	摘 要
3	衛生器具設備						
	洋風大便器		2.00	組			見積比較表
	手洗器		2.00	組			見積比較表
	化粧鏡		2.00	組			見積比較表
	混合水栓		1.00	組			見積比較表
	ホーム水栓		1.00	組			見積比較表
	洋風大便器据付		2.00	組			MK-384
	手洗器据付		2.00	組			MK-132
	化粧鏡据付		2.00	組			MK-132
	混合水栓据付		1.00	組			MK-136
	水栓据付		1.00	組			MK-134
	水栓柱	合成樹脂製	1.00	組			MK-138
	3 計						

	名 称	内 容		数 量	単位	単 価	計 金	摘 要
4	給水設備							
	給水管	HIVP 13A	埋設	21.00				MK-218
	給水管	HIVP 13A	一般	30.00				MK-218
	給水管保温	GW13A	屋内露出	23.00				MK-37
	仕切弁	13A	10K	4.00	個			MK-4
		13A		2.00	個			MK-24
	配管切断	樹脂管13A	保温無し	1.00	か所			MK-226
	弁柵	13A		2.00	か所			MK-168
	4 計							

	名 称	内 容		数 量	単位	単 価	計 金	摘 要
5	排水設備							
	排水管	VP 40A	一般	1.00				MK-220
	排水管	VP 50A	一般	5.00				MK-220
	排水管	VP 75A	一般	13.00				MK-220
	排水管	VP 100A	一般	15.00				MK-220
	排水管	VP 100A	埋設	29.00				MK-220
	排水管保温	40A	屋内露出	1.00				MK-40
	排水管保温	50A	屋内露出	3.00				MK-40
	排水管保温	75A	屋内露出	9.00				MK-40
	排水管保温	100A	屋内露出	9.00				MK-40
	土工事	根切り	機械0.13	9.00	m2			MK-71
	土工事	砂		4.00	m2			MK-71
	土工事	残土処分		4.00	m2			MK-71
	土工事	埋戻し	機械0.13	4.00	m2			MK-71
	機械はつり	150φ	200	1.00	箇所			MK-229
	小口径柵	200φ	90L 500H	1.00	箇所			MK-158
	小口径柵	200φ	90Y 500H	2.00	箇所			MK-158
	小口径柵	200φ	90L 800H	3.00	箇所			MK-158
	防護	200φ	T-14 式	2.00	箇所			MK-167

	名 称	内 容		数 量	単位	単 価	計 金	摘 要
	床上掃除口	C0A100φ		1. 00	個			MK-147
	通気管	VP 50A	一般	11. 00				MK-220
	通気金物	50A	アルミ	1. 00	個			MK-146
	臭突管	VP 75A	埋設	4. 00				MK-220
	臭突管	VP 75A	架空	8. 00				MK-220
	通気金物	露出	75A	1. 00	個			MK-146
	5 計							

	名 称	内 容		数 量	単位	単 価	計 金	摘 要
6	給湯設備							
	給湯器	20号壁掛		1.00	組			
	湯沸器	5号壁掛		1.00	組			
	給湯器据付	20号壁掛		1.00	組			MK-170
	湯沸器据付	5号壁掛		1.00	組			MK-170
		13A		1.00	個			MK-24
	被覆銅管	13A	一般	11.00				MK-217
	給湯管保温	GW13A	屋内露出	3.00				MK-43
	給湯管保温	GW13A	屋外露出	11.00				MK-45
	6 計							

	名 称	内 容		数 量	単位	単 価	計 金	摘 要
7	消火設備							
	消火器	ABC10型	スタンド共	2.00	組			
	消火器取付			2.00	組			MK-176
	7 計							

	名 称	内 容		数 量	単位	単 価	計 金	摘 要
8	ガス設備							
	配管用炭素鋼鋼管	SGP25	架空	4.00				MK-201
	配管用炭素鋼鋼管	SGP20	架空	3.00				MK-201
	配管用炭素鋼鋼管	SGP20	屋内一般	19.00				MK-201
	2口ガスコック			1.00	個			
	壁ガスコンセント			2.00	個			
	取付	水栓同等		2.00	組			MK-134
	可とう管コック	I型		2.00	個			MK-179
	ガス漏れ警報器			1.00	個			
	集合装置			1.00	組			MK-386
	8 計							

	名 称	内 容	数 量	単位	単 価	計 金	摘 要
9	撤去工事						
	配管工			人工			MK-5
	設備機械工			人工			MK-6
	リサイクル回収費		1.00	台			リサイクル料
	9 計						

	名 称	内 容		数 量	単位	単 価	計 金	摘 要
10	浄化槽設置							
	やり方			4. 90	m ²			AK-4
	墨出し			4. 90	m ²			AK-4
	養生費			4. 90	m ²			AK-5
	根切り	機械		24. 00	m ³			AK-37
	床付け			5. 90	m ²			AK-37
	埋戻し	機械	種	24. 00	m ²			AK-37
	残土処分			24. 00	m ²		土工事へ計上	
	スラブ下砂利地業			0. 60	m ³			AK-39
	捨てコンクリート	Fc-18-20-15	4地区	0. 30	m ³			AKF-1
	同上打設費	人力		0. 30	m ³			AK-40
	基礎コンクリート	Fc-27-20-18	4地区	3. 50	m ³			AKF-3
	同上打設費	カート打ち		3. 50	m ³			P-121
	異形鉄筋	13		0. 30				AK-1
	異形鉄筋	16		0. 30				AK-1
	鉄筋加工組立費			0. 50				AK-198
	鉄筋運搬費			0. 50				AK-40
	型枠	普通		5. 40	m ²			AK-42
	型枠運搬費		4t車	5. 40	m ²			AK-42

	名 称	内 容		数 量	単位	単 価	計 金	摘 要
	支柱ボイド型枠		250φ用	7.00				見積比較表
	ベースこて押え			4.90	m ²			AK-65
	スラブ金こて押え			4.90	m ²			AK-65
	製合併浄化槽	人槽	フローアー共	1.00	槽			見積比較表
	同上 設置費			1.00	槽			見積比較表
	運搬費		種	1.00	式			見積比較表
	二次側配管費			1.00	式			見積比較表
	マンホール嵩上げ調整費			1.00	式			見積比較表
	機器試運転調整費			1.00	式			見積比較表
	消耗品費			1.00	式			見積比較表
	10 計							

	名 称	内 容		数 量	単位	単 価	計 金	摘 要
IV	名柄小学校改修工事							
	養生			36.00	m ²			AK-112
	整理清掃・後片付け			36.00	m ²			AK-112
	網入り型板ガラス	シーリング・清掃共	t=6.8	3.40	m ²			AK-71
	網入り透明板ガラス	シーリング・清掃共	t=6.8	18.10	m ²			AK-72
	既設ガラス清掃			1.90	m ²			AK-71
	ガラス撤去			21.50	m ²			AK-117
	発生材積込み	人力		0.10	m ³			AK-117
	発生材運搬費 ガラスくず	人力 DID区間無	6.5km以下 2t車	0.10	m ³			産廃比較表
	IV 計							

	名 称	内 容		数 量	単位	単 価	計 金	摘 要
2	造園工事							
	高木伐採	機械併用		7.00	本			AK-110
	2 計							

	名 称	内 容	数 量	単位	単 価	計 金	摘 要
3	舗装工事						
	構内舗装工事用直接仮設		169.00	m ²			代価表A-28
	アスファルト舗装	A-8-25	96.80	m ²			刊行物比較表
	アスファルト舗装	A-5-10 人力	71.80	m ²			AK-102
	3 計						

	名 称	内 容	数 量	単位	単 価	計 金	摘 要
4	既設建築物除却工事						
	解体用外部足場	単管足場	150.00	m ²			代価表A-29
	垂直養生	防音シート	150.00	m ²			代価表A-30
	解体重機回送費		1.00	往復			AK-38
	レッカー車	10 t オペ付	1.00	台			AK-3
	建物基礎解体	土間コン含む	10.40	m ³			刊行物比較表
	建物上部躯体解体	C B 造	15.40	m ³			刊行物比較表
	屋根 折版撤去		76.40	m ²			P-K40
	竖樋 撤去		8.40	m			AK-117
	内部造作撤去		39.90	m ²			刊行物比較表
	床 畳撤去		14.00	枚			AK-115
	床 合板撤去	フリーリング	4.70	m ²			AK-115
	床 合板撤去	床下地板	23.70	m ²			AK-115
	床組撤去		28.40	m ²			AK-115
	天井 合板撤去		1.90	m ²			AK-116
	天井 ボード撤去	アスベスト含有	28.40	m ²			AK-116
	天井下地撤去		30.30	m ²			AK-116
	木製建具撤去		9.10	m ²			AK-117

	名 称	内 容	数 量	単位	単 価	計 金	摘 要
	金属製建具撤去		19. 10	m ²			AK-117
	火の見櫓解体 上屋		1. 00	式			代価表A-31
	火の見櫓 基礎解体		6. 20	m ³			刊行物比較表
	アスファルト舗装 撤去		8. 60	m ²			代価表A-32
	フェンス撤去		7. 60	m			代価表A-33
	フェンス基礎撤去		0. 10	m ³			AK-113
	4 計						

	名 称	内 容		数 量	単位	単 価	計 金	摘 要
5	発生材運搬費							
	発生材積込み	人力	CON類	40.60	m ³			AK-117
	発生材積込み	人力	仕上げ	40.60	m ³			AK-117
	発生材運搬費 CONガラ	人力 DID区間有	8.0km以下 2t車	32.00	m ³			産廃比較表
	発生材運搬費 アスファルトガラ	人力 DID区間有	8.0km以下 2t車	8.60	m ³			産廃比較表
	発生材運搬費 木系廃材	人力 DID区間有	10.5km以下 2t車	11.20	m ³			産廃比較表
	発生材運搬費 廃プラ	人力 DID区間無	6.5km以下 2t車	0.20	m ³			産廃比較表
	発生材運搬費 金属くず	人力 DID区間有	6.0km以下 2t車	17.40	m ³			産廃比較表
	発生材運搬費 ガラスくず	人力 DID区間無	6.5km以下 2t車	0.20	m ³			産廃比較表
	発生材運搬費 繊維くず	人力 DID区間有	10.5km以下 2t車	1.30	m ³			産廃比較表
	発生材運搬費 アスベスト含有材	人力 DID区間無	11.0km以下 2t車	0.30	m ³			産廃比較表
	発生材運搬費 剪定・伐採木	人力 DID区間無	8.5km以下 2t車	10.10	m ³			産廃比較表
	スクラップ			0.60	t			刊行物比較表
	5 計							

	名 称	内 容	数 量	単 位	単 価	計 金	摘 要
VI	発生材処分費						
	発生材処分費 CONガラ		32.00	m ³			産廃比較表
	発生材処分費 アスファルトガラ		8.60	m ³			産廃比較表
	発生材処分費 木くず		11.20	m ³			産廃比較表
	発生材処分費 廃プラ		0.20	m ³			産廃比較表
	発生材処分費 金属くず		8.60	m ³			産廃比較表
	発生材処分費 ガラスくず		0.20	m ³			産廃比較表
	発生材処分費 繊維くず		1.30	m ³			産廃比較表
	発生材処分費 アスベスト含有材		0.30	m ³			産廃比較表
	発生材処分費 樹木		10.10	m ³			産廃比較表
	発生土処分費	浄化槽残土含む	70.30	m ³			産廃比較表
	VI 計						